

# ～現代艦隊の転生記～

零城

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

自分から意見を言えない人へ上月 穂村、とあるバイトのいざこざで濡れ衣をかぶせられて落ち込んでるところに友人から電話があり、皆と飲んでいたら

突然、意識を失い気が付いた時には海の上立っていた!?

?? 「え、ここどこ?」、?? 「・・・改造したいですねえ」、?? 「わからないけど、とりあえず殴ればいいんだろう? (?!?)」、?? 「こ、来ないでください!!」、?? 「ちよつと、ユニコーンちゃんに会ってくる」

これはそんな五人の愉快(?)な仲間たちの物語である

R—18版です

<https://syosetu.org/novel/2607>

69 /

外伝です

<https://syosetu.org/novel/2622>

59 /

# 目次

## 第零章 始まり

前々夜 | 1

前夜 | 11

設定編 | 25

## 第一章 いざ！基地生活！

邂逅 | 30

どうしようか？ | 40

レッツアズールレーン本部へ!! | 49

歓☆迎☆会 | 57

母港案内 | 73

演習 | 80

現代艦隊の日常 | 87

## 第二章 運命の出会い

対決、そして出会い | 94

勝負 | 105

再開 | 120

そのあと・・・ | 130

塔を守りし二匹の白き兄弟鳥 | 138

兄弟(?) 鳥と転生組と母港の皆と・・・ | 146

そうだ、海に行こう | 157

大規模鏡面海域攻略作戦 前編 | 170

大規模鏡面海域攻略作戦 中編 | 179

大規模鏡面海域攻略作戦 後編 | 188

## 第三章 救い

h a t r e d ・ s i n	199
r e p e n t a n c e	211
j u d g m e n t	222
A t o n e m e n t	236
記憶を失くした破壊者	247
そう呼ぶ理由	256
番外編1 天喰のシヨタ化事件 前編	264
番外編1 天喰シヨタ化事件 後編	273
迫りくる魔の手	284
復讐	296
第四章 帰るべき場所	
告白	310
番外編2 o p e r a t i o n n a m e : ☆ユニコーンの初めて	
のお使い大作戦☆ 前編	327
番外編2 o p e r a t i o n n a m e : ☆ユニコーンの初めて	
のお使い大作戦☆ 後編	335
ただいま	347
デート!! 午前の部	356
デート!! 午後の部	365
翼の生えた一角獣	377
再臨する救済者	387
デートその後!!	395

第零章 始まり  
前々夜

やあ!!みんな!!俺の名前は上月 穂村!!彼女いない!!年齢なボツ  
チの18歳だ!!  
ん?何だい?「そんなボツチが急にどうした?」って?  
ああ!そんなことかい!!そうだねえ... これでスレ立てるとした  
らだなあ.....

【悲報】 K O K O D O K O ! ?

それは数時間前にもなる.....

上月「あー、疲れたあー」

この日、物語の主人公である上月は何をしていたかというところ……

上月「なんで、日曜日の朝から深夜までバイトさせられてんだろ……」  
そう、それは家にて大学もたまたま授業もなく、久しぶりに家でだらける日だ!!

っと思った矢先、  
プルプルプル

上月「ん？」

上月は両親はすでに他界しているので、基本的に電話は鳴らないが掛けてくるのなら数少ない（4人）友人ぐらいだがそこに映っていたのは

〈クス SUVARASSII先輩〉

上月「うえええ」

電話の相手に出たのはクス……じゃなくて宇摩 史家、俺のバイト先の先輩だ。

なぜこんなになげんなりとしているかというところ

上月「俺、あの人のちゃんと働いているの見たことがない気がする……」

そう、宇摩先輩は根っこからの黒い人でサボり、恐喝、責任転換の激しい人だった。

俺も何回イジメやら擦り付けを受けたんだろう……

まあ、これでなくてもまた掛かってくるから出たほうがいい気がし

た。  
ガチャ

上月「はい、上月でs『おせえわ!!鳴ったら1秒で出る!!』……すみません……」

はい、出たあ……ほんつと、いやだわあ

この人、自分のほうが少し先輩だけなのに威張り散らしている人なんだよなあ……

バイト変わってとか起きそう……

宇摩「まあ、いい。お前こんどの日曜休みか?」

上月「はあ、休みですけどd「じゃ、俺用事があるからよろしくな!……は?」

俺の恐れた事態が起きてしまった……

上月「え?今度つて明日じゃないですか!」

宇摩「いいから、シフト変われ」

翌日

バイト現場到着

店長「……」

上月「……」

来て早々重い空気になっている。店長の顔はもはや俺の価値に興味がなくなつたの如く暗かった

店長「……なんということをしてくれたんだい?上月君?」

上月「……」

店長が言うには先輩が昨日バイト先でふざけているのを自分でNSにふざけて投稿したらたちまち炎上しこのバイト先まで特定されてクレームが出続けていた

責任を問われた先輩は「自分はやっていない、上月に脅された」と先輩は店長の甥なのでやるわけがないというわけで先輩の言葉を信じ、俺に濡れ衣をかぶせているわけだ。

フザケルナ

オレハナニモシテイナイ

店長「きみはねえ、いくら彼がまじめに働いているのにこんなこと

をするなんて、よくサボっているきみがやるってことは嫉妬かい？」  
違う、サボっているのはアイツだ。

店長「それか、彼をあげることで彼を辱めようとしたのか？」  
ウルサイ、おまえこそ店長なのに1か月に1回来るか無いかぐらいしか来てないくせに……

店長「他の店員は彼はまじめで、仲間思いだって好評だから泥を塗ろうとしたのかい？」

チガウ、そいつらはアイツにいじめられて手下に入れられたやつらだ

店長「この責任どうとってくれるんだい!？」  
オレハ……ナニモ……

上月「申し訳ございませんでした……」

結局、(自称)心の広い店長が朝から閉店まで働いたら許すといわれ働き深夜に終わった

疲れた……いや、本当に疲れた……肉体的にも精神的にも……

上月「はあ……」

早く帰って、スマホしよ

っと思つた矢先、

「アレゝw?これはこれは今日バイト先で怒られた上月君じゃないですかあw」

振り返って、そこにいたのは

宇摩だった

上月「……何の用ですか、先輩」

宇摩「いや、なにいwせつかくこの優しい先輩が慰めに来たのにいwその態度w」

上月「……アレ、先輩のせいですよね」

宇摩「アレエw?何のことおw?」

上月「……とぼけないでください」

宇摩「いや、知らねえしいw」

……この人、相変わらずだな



先輩と話しているとそこへ

「えw?ちよつと待ってどうしたんw?」

金髪のガラが悪そうな女性がたばこをふきながら来た

宇摩「あ、メンゴwメンゴwちよつと後輩にあつたけん話してたわ  
w」

女性「ふーっ、あ!君があの上月君ねえw」

なんか、言い方にイラって来た・・・

上月「・・・そうですが?」

女性「聞ってるよおw頭悪くて宇摩つちがいないと何もできないポ  
ンコツ君w」

宇摩「ちよつwそれは言い過ぎでしょおw俺はあくまでこいつが休  
んでしまっても積極的に働いているだけだからあw」

上月「ツ!!違います!!それは先輩は恐喝とかしていいt(バキイイ  
!!!)痛!!」

宇摩「うるせえんだよ!!さつきから口答えすんじゃないやねえよ!!俺がそ  
ういったからそうなんだよ!!」

上月「・・・ちが!!」

宇摩「あ!?なんだよ!」

上月「!、、なんでもありません」

ああ、また自分の悪い癖だ

自分の意見が言えずに相手に譲ってしまうくせだ・・・

宇摩「お前はずつと俺の身代わりでいればいいんだよ!!」

上月「すみませんでした」

宇摩「わかればいいんだよ!!・・・いくぞ」

女性「バイバイーw、上月君w」

こうして、あの二人は夜の街に消えていった

上月「いつてえ」

あれから、家に帰って殴られたあとの治療中だ

殴られた後はひどく腫れていた

なぜ、バイトを辞めたり警察に相談しないのかつという

今のバイトを辞めたら生活が困ってしまおうし

前に警察に相談したがアイツの親は警察のお偉いさんで何をされるのがわからないので乗ってはくれなかった  
寂しい

それだけだった

15のときに両親は病死したため親もいないし兄弟もいない、家でもどこにいても悩みを聞いてくれる人もいない

上月「悲しい・・・」

そして、寝ようとしたとき

プルプルプル

上月「?、だれだ?こんな真夜中に?」

そう、今深夜の1時だ

こんな時間に電話をかけるなんて、アイツは夜どうせ忙しい友人でこんなバカなことをする奴なんているわけ・・・

いや、いるな一人

でも、さすがにここまでバカなことはしないだろう(多分)  
じゃあ、だれだ?

上月「・・・もしもし?」

「おーっつきー!久しぶり!!」

・・・しないっていったよな?

・・・あれはU☆S☆O☆D☆A

してきよお、つか昔よりアホになってね?

上月「・・・なんのようだよ、トミー」

そう、アホの申し子トミーのこと富崎 護

こいつ、めつちやアホなのに俺と同じ高校に進学できたやつだ・・・  
しかもそこそこ上の・・・

ナンデ?

富崎「なんか、バカにされた気がするけど・・・

まあ、いいや。久しぶりに遊ぼうぜ!!」

は?ナニイッテンダコイツ?頭逝ってしまったんかいな?

・・・つて、そんなことより

上月「おま、今何時だと思ってるんだよ……」

富崎「え？深夜1時？」

やっぱりアホはアホだった……

上月「なんで、こちとら疲れてんに遊ばいかんの……」

富崎「なんか、つつきー悩んでる気がしたもん」

おまえ、エスパーかなんかなのか

上月「……」

富崎「お？凶星？」

上月「うるせえ、俺は疲れたから寝る

こちとら、忙しいんじや」

富崎「ちょ!!下田たちもいるのに!?!」

ピクツ

そう、トミーもそうだが下田と後の二人も中学からの親友だ

よく、学生のころはいろんなことしでかしたなあ

女子のスカートめくったり、授業中に早弁したり、自転車のペダル

生徒分外してみんなを困らせたりすんの楽しかったなあ

なんか、会いたいなあ

富崎「うーん、つつきーも仕事で忙しいなら別の日n」やっぱり行

く」来るの!?!」

上月「ああ、今から行く」

上月「よお、久しぶりだな皆」

富崎「おっせーよ!!つつきー!!」

下田「久しぶりだな、相棒」

黒鐘「………久しぶり」

城木「よ、上月……」

久しぶりに会う面子だ

【アホの申し子トミー】 富崎 護

【真面目過ぎ屋下田】 下田 昴

【口数少なすぎてわからないクロ】 黒鐘 新

【みんなの兄貴シロ】 城木 飛鳥

・・・うん、何度あつても濃いな面子

富崎「そんなじゃ！久しぶりの再会を祝つてー！」

一同「乾杯！」

上月「・・・乾杯」

城木「いやー、変わんねえな！皆！」

下田「そうだね、こうやってあつてもみんな変わんないね」

富崎「そうだな！」

下田「でも、一番変わんないのはトミーがアホなことかな」

城木「プツ!!そうだな!!」

富崎「ちよ!?!ひどくね!?!」

城木「じゃ、お前が一番得意なのは？」

富崎「料理!!」

黒鐘「・・・ちなみに、特異料理は？」

富崎「カップラーメン!!」ドヤツ

下田・城木・黒木「二・・・二」

富崎「え、なに？その哀れにみる目は？」

下田「トミーそれ、料理じゃない気がする・・・」

富崎「なんでや！お湯沸かして入れるから料理や!!」

城木「いや、トミー料理つてそのーなんだ・・・愛情とかやと思う・・・」

富崎「嘘やん!!ねー！つつきーも何か言つて!・・・つつきー？」

上月「・・・」

富崎「つつきー？」

上月「・・・」

富崎「つつきー！」

上月「ツ!?!ごめん、考え事してた」

富崎「どうしたの？電話の時もだけどころしくないよ？」

城木「そうだぜ？なんかこの世の終わるみたいな顔をしてたぜ？」

下田「そうですね、相棒？相談ならのりますよ？」

上月「……いや、大丈夫さ」

黒鐘「……また、一人でため込んでる……」

下田「相棒、言わないほうが余計心配しますよ？」

城木「そうだぜ？もうはいちまおうぜ？」

上月「……そうだな」

「みんなに今日のことをしゃべった」

富崎「え、クソヤンその人」

黒鐘「人として屑ですネ」

城木「ちよつとアイツ〇してくる」

うん、なんとなく予想はしていたけど

とりあえず、城木落ち着け

上月「いや、みんな別にいいよ終わったことだし」

下田「いえ、だめです。裁判にかけて極刑にすべきです」

ヤベエって、下田さんまじヤベエって

城木「いや、社会的に〇そう」

もつとやばい人がいたわ

富崎「つつきー、なんでもつとはやく相談してくれなつかたんだ？」

上月「……でも、皆に迷惑かけたくないし……」

城木「俺たちの仲はそんなものだったのか？」

上月「ツ!!」

下田「そうですね、学校でよく遊んだ（主に悪いこと）した仲間じゃないですか）

いや、おもに主犯は富崎と城木じゃ？

でも、まあ

上月「ありがとう皆・・・」

## 前夜

テレビ「……………ご覧ください!!、あれが先月進水したばかりの海上自衛隊所属の新型原子力空母【天喰】です!! 4年前、終戦してから海上警備のためという理由で建造された【天喰】ですが一部団体が「侵略目的だろう!!」や「また、戦争を起こす気か!？」など批判するコメントが出されていますが真相はいかゞへブチツ!!」

城木「……………つたく、どこもかしこも反対かあ」

下田「仕方ないですよ、なんたつて原子力空母なんですから」

黒鐘「……………あの戦争が原因……………」

富崎「……………だよねえ」

そう、なぜいきなりこんな会話になったかというところ今日のテレビで【天喰】の特集があると聞き（ミリオタである）みんなで見ようとしたら生憎、ワイドショーみたいな反対する番組だった

ちなみに、なぜ【天喰】が建造されたかというところ

現在、2061年

今では平和に戻りつつあるがこの12年前にとある戦争が起きた……………

それはのちに【日本防衛戦争】とも言われた事件が起きた。

2048年、隣国の長きわたる戦争が終戦し統合されたがその翌年に統合軍は突如日本に宣戦布告した

当初は対馬などの近い島々から侵略され自衛隊は防衛しかできなかつたが統合軍が北部で開発していた新型ミサイルを発射、東京など主要都市部に着弾、都市は壊滅に等しかった

これを重く見た国連は統合国に制裁、国連軍（米・英・仏・中・露）の派遣を決定

結果は統合国で終戦派のクーデターが起き統合国は降伏、占領していた島は返還された

日本は戦力の増加を図り、空母の建造を開始しアメリカに打診





起きて第一声がこれである

いや、ほんとどこ？

黒鐘と戦ってたら知らんどこにいるし

上も下も白いし、なんか目の前で

ロリが土下座してるし・・・だれ？

上月「あ、あのどちら様d

「すみませんでしたああ!!」

・・・へ？」

ロリ? 「煮るなり焼くなりしてくださいいいいい!!!」

上月「ちよ!ちよつと待ってください!!お、落ち着いて!!」

ロリ? 「そ、そうですよね!!」

上月「はい、吸ってー」

ロリ? 「スーーう」

上月「はい!止めて!」

ロリ? 「フツ!」

上月「いや!マジで止めないでください!!」

ロリ? 「なんやそら!」

け、結構にぎやかな人だな・・・

ロリ? 「つて!人ではありません!これでも”神”です!」

へ?この人神だったの!?

ん?待て、その神がどうしてここに?

神「実は・・・」

私はあなたを死なせてしまいましたああ！」

上月「うん、うん？」

おい待て、今この神死なせたって言わんかった？

上月「そ、それってどういう？」

神「じ、実は……」

回想シーン

同僚「おい！神子（ロリのこと）!!キャッチボールしようぜ!!」

神「うんいいよー!!」

同僚「お前、ボールな！」

神「はい!?!」

それは神としての仕事中の昼休みでした……

同僚とキャッチボールをして時間を潰してたんですが……

同僚「神子、相変わらず肩弱いなー」

神「う！うるさいな!!肩が上がらないだけよ!!」

同僚「……四十肩？」

神「ちやうわ!!私は永遠の10さいよ!!」

同僚「いや、お前実際いちまん「わー！わー！聞こえないー!」……

難聴？」

神「ちげーわ!!」ブン!!!

同僚「ちよ!どこ投げてんだよ!!」

私は怒りのまま思いつき投げたんですが、ボールは明後日の方向に進んでいってしまい……

同僚「つたく、どこにやったんだよ……ボール……」

神「ううう、ごめん……」

同僚「あと少しで昼休み終わるのに……え？」

神「どうしたの?」

同僚「……なあ、ボールこっちの方向に飛んで行ったよな？」

神「うん？」

同僚「なあ、これって……」

☆この先、人間界☆

同僚「ま、まさか……」チラッ  
ウワー！、ナニカフツテキタゾー！  
ケガニンハイナイカー！  
コノヘヤニゴニニイタゾー！  
ダメダア！シンデルウ！！

同僚「なあ、神子」

神「う、うん……」

同僚「お前、やらかしたな」

神「ウソン」

回想終了

神「……てなわけです」

うん、おけー

えー、つまり

キャッチボールしてたら

←

ボールが明後日の方に行き、

←

そのまま人間界に行き

←

隕石になって俺たちのいたところに当たったと……

うん、おk

大きく息を吸ってー

上月「は嗚呼ああああああああああ!!」

神「すみませんでしたああ!!」

拝啓、お母さん

僕は

流れ星に当たって死にました☆

数分後・・・

上月「よし、落ち着いたわ」

神「本当にすみません・・・」土下座orn

ちなみに隕石が落ちた場所は運よく他の人は俺たち以外助かった

らしい

うん?俺たち以外?

上月「あの一・・・富崎たちはどうなったんですか?」

神「その方なら、後ろにいますよ?」

え、まじ?

そうして、後ろを向くと・・・

一同「「「「・・・知らない天井だ・・・」」」」

うん、この言葉って全人類共通なのかな?

とりあえず、こうなった理由を説明するか・・・

〈少年説明中〉

上月「んで・・・かくかくしかじかうまうまどらどらつと」

一同「「「「「「「「「「「」」」」」」」」」」」」」」

あれ?意外とみんな落ち着いてい r 「はああああああああ!!?」  
んなことも無かつたわ・・・

神「本当にすみませんでした……」

下田「……ちなみに俺らはこれからどうなる?」

神「えっと……皆様には私の責任なので“転生”してもらいます」

一同「!?!」

嘘やん!?!何このテンプレ展開!?!

黒鐘「……ちなみにどこに?」

神「えっと……すみません、行く場所まではランダムなのでわかりません……」

おいおい、神ってなんやったんや……

つか、クロお前どうした?さつきからソワソワしてるが……

城木「俺たちは離れ離れになってしまうのか?」

神「それはいいです」

それに関してはよかったわ……

それぞれに飛ばされたら飛ばされた世界が心配になる……

特にトミーが……

上月「……最後に俺から、記憶は?性別はどうなる?」

神「記憶はそのまま性別は急に女性になったら何かと困りそうなので男性です」

よかった……体が女性で心が男やったらアーーー♂になるからな……

富崎「あれ?特典は?」

神「それは転生した世界に合わせて与えます」

うーん、男性で転生か……ファンタジー系の世界になるのかな?

まあ、艦これとかアズールレーンじゃなくなったな

あ、心なしかクロの顔しよんぼりしてるw

神「それでは皆様、準備はできましたか?」

下田「そういえば、神様はこれからどうなるんですか?」

神「……反省文一万

枚と一年間昼休み没収と無給です」

下田「oh・・・」  
神様もそこそこやばかった・・・

上月「そんじゃ、皆行くか？」  
コクリ

よし、皆できたな

上月「それでは神様短い間でしたがお世話になりました」

神「はい！私ももうミスしないようにします！」

こうして、俺たちは行く決意ができたわけだが・・・  
どうやって、いくんだ？

神「あ、転生はその穴から行ってください」

そして、そこにあつたのは・・・

なんか、どこかで見たことのある“緑色の土管”だった

・・・ナニコレ

下田「ナンスカコレ」

神「それは先代の神がデザインしたものの何ですが・・・」

いや、先代何やってんだよ・・・

怒られるぞ、主に赤い配管工から・・・

神「それでは行ってらっしゃいます」

こうして俺らは入った

(そして、現在に至る)

あ、そうか。そうやったな、えつとつまり皆もいるはず・・・

?? 「うー、いってー」

?? 「結構、痛かったわー」

?? 「・・・」

?? 「ふう、相棒たちはどこでしょう？」

お！向こうからみんなの声が聞こえるぞ

こうして、皆の声が聞こえたほうに向かったが・・・

「「「え、だれ？」」」

あ、そういえばあの神「性別は変わらない」けど「姿までは変わらない」って言ってなかったな・・・

城木？ 「え、待ってその声は・・・」

下田？ 「おや？その声は？・・・」

富崎？ 「お！おーい！・・・」

黒鐘？ 「・・・この聞きなれた声は・・・」

「「「昇龍」と「東海」と「曇天」と「月影」!!!」」

「「「・・・アレ？」」」

・・・ん？

今、あいつらなんていった？

明らかに名前間違えてるだろ・・・

上月？ 「何やってんだよ・・・お前ら・・・」

昇龍・東海・曇天・月影 「「「え、どちら様？」」」

何言ってるんだ？こいつら？

上月？ 「はあ、どうしたんだよお前ら？俺の名は」

そう、俺の名前は上月 穂村だ!!

上月？ 「お前らの長年の親友、

原子力空母【天喰】

だ．．．．ろ．．．．？」

．．．．．あれ？

今、俺なんていった？

(少年たち情報整理中．．．)

天喰「なるほど、つまり皆は

俺こと上月↓原子力空母【天喰】

真面目やこと下田↓航空巡洋艦【東海】

みんなの兄貴こと城木↓改イージス艦【曇天】

アホの子こと富崎↓ステルス護衛艦【昇龍】

無口マンこと黒鐘↓潜水艦【月影】

ってことになるんやね？」

東海「そういうことになりますねえ．．．本来の名前がなぜか前の世界の軍艦の名前に自動的に変えられるのは残念ですが、どれも前の世界の最新鋭軍艦ですよ!!」

と目を輝かせながら語る東海

曇天「にしても、みんな声は変わらないけど姿が変わりすぎてるだろ．．．」

そう、一番の問題が姿である

全員、前の世界では普通の大学生らしい姿だったが今は．．．

東海「．．．．．そうですねえ」

東海は一言で言うなら帝国騎士のような恰好をした鋭い目をした



青年だった

例えるなら、軍隊の表彰式で上の人が着ている恰好だった

曇天「どうなってんだこれ？」

曇天は海上自衛隊の海上迷彩の戦闘服を着ているヤンキーのような青年だ

月影「解せぬ」

月影は垂れ目でいつもやる気を感じさせない気ダルそうなような青年だ

ちなみになぜか忍者みたいな恰好をしたい

昇龍「・・・なんか俺、縮んでね？」

そして、この中で一番の変わりようは昇龍で

まず若くなっている、多分見た目15くらいに若返ったと思う

そして、背が縮んでいる男の娘みたいな少年に変わっていた

恰好は全身灰色のフード付きコートで覆っていた

天喰「女の子？」

昇龍「ちげーわ」

あと、俺の恰好は和服で髪が銀髪になって腰に大きめの扇と刀を携えていた

東海「それで、これからどうします？」

曇天「そうだな、どうする？天喰？」

天喰「は？なんで俺なん？」

東海・昇龍・曇天・月影「「「なんとなく」」」

はく？なんでさ？

天喰「・・・とりあえず、海の方に出るか・・・」

月影「・・・ここ海だぜ？」

天喰「ホワツツ!?!」

今気づいたけど、俺ら海の上に立ってるやん・・・

東海「え？なにこれ？どういう原理？」

曇天「と、とりあえず進んでみるぞ・・・」

曇天が前に進もうとした瞬間!!

ピカ!!

曇天「うお!?なんだ!」

光が収まって曇天の方を向くとそこには

なんかの装備を付けている曇天がいた……

一同「(。D。)!?」

昇龍「え、ドシタ!?曇天!」

曇天「ウオ!?ナニコレ!」

月影「……俺たちも、変なのついてる……」

昇龍「マジやん!」

東海「……まるで軍艦の装備みたいですね……」

曇天だけではなく全員なんかがついていた……

曇天は四つのアーム(艦これと言う大和型戦艦の艤装)に箱がついていて、手には64式小銃に似た武器を持っていた。

東海は大きめの二つのアーム(アズレンと言う高雄型の艤装)に片方は板でもう片方は箱がついていた。板の上には飛行機のミニチュワ?が置いてある

月影はなんか……オー○ウオッチに出てくるゲンジを少しメカらしい部分をなくした感じだが……装備はジンベエザメ?のメカ版を抱えていた

昇龍は灰色の雨具っぽいところの腰部分から武装が生えていた。武装は平面が全体的に多い

俺の装備は和風袴に大きめの長弓に腰部分に板があるがなぜか東海みたいのではなく燃えて?いる

東海「……なあ、天喰」

天喰「……待って、なに言おうとしているのかがわかったわ……」

天喰・東海「「この世界、艦これかアズレンじゃね?」」

他三名「え、マジ？」

そう、もう読者の皆は気づいている（遅いわ）だろう。

俺たちはあの女性（指揮官・提督は除く）しかない世界にきてしまったのだ!!

曇天「え？でも、俺ら男だぞ？」

昇龍「でも艀装があるから艦娘？かKAN—SENじゃね？」

月影「……艦娘ではなく“艦息”だと思う……」

昇龍「あ、そか……」

だが、ここで1つ問題ができた……

天喰「俺たち、この世界の住民と接触して大丈夫だろうか？」

そう、俺たちは形でも“男性”だ

ここの住民と会って珍しいから捕まえて実験されたりされそうだが……

東海「それはないでしょう、どちらも全人類の敵と戦っているんですから」

まあ、それもそうか。どっちも深海棲艦かセイレーンとかやし

東海「しかしこの装備恐ろくですが、前の世界の軍艦の装備ですね。

曇天は改イージス艦の【曇天】ですね。」

曇天「え、あの？」

東海「昇龍はステルス護衛艦【昇龍】ですね」

昇龍「おー！最新のだ！」

東海「月影は潜水艦【月影】ですね」

月影「(\*、ω、\*)」

東海「で僕東海は空りじゃなくて航空巡洋艦【東海】ですね。しかし、天喰は明らかに……」

天喰「……あの空母だよねえ……」

うん、名前の時点で察してたけどめっちゃ批判された原子力空母

【天喰】じゃん……

といういろと調べていると……

曇天「うん!? 2時の方向90キロ先に何かいる!!」

え？どうしてわかったん？

曇天「なんか、頭の中であらゆるレーダーみたいなのが出てきてわかった」

あ、曇天ってイージス艦やったな  
そりゃあ、わかるもんか

曇天「ンで、どうする旗艦さん？」

え、いやだからなんで俺？

月影「批判されても、空母だから……」

……確かに空母は大体が旗艦になるけどよ……

天喰「ま、いやいやしても進まないから行くか……

全艦、2時方向、速度最大船速!!」

全艦「了解!!」

こうして、俺たち海上自衛隊艦隊（仮）は進んでいった……

## 設定編

### 登場艦艇

S D E 改あぶくま型ステルス護衛艦【昇龍】

### 排水量

基準：2, 000 t

満載：2, 900 t

### 艀装

V L S : 8 基

V L A : 6 基

S A M : 6 基

C I W S : 4 基

R A M : 2 基

主砲：M k 4 5 5 インチ砲 一門

艦載ヘリ：S H | 6 0 J 2 機

対レーダー無効化ジャミング装置

2055年に進水した最新鋭軍艦の【昇龍】

この船の運用目的は主に哨戒、人質救出、奇襲攻撃を目的とした船搭載されている対レーダー無効化ジャミング装置は敵の航空機レーダー、艦隊のレーダーやロックオンを無効化、逆に敵の通信などをジャミングをする

船体の表面にはF-22でも使われているステルス塗料（ライセンス生産）が塗られている

しかし、ステルス性を重視しているため装甲はすごく薄い・・・  
米国との訓練では突然消えたり急に現れたり味方との通信ができなくなることからSea raptor（海のラプター）とも言われている

ちなみにS D EのSはステルスのSである

もう、彼一人でいい気がする（作者談）・・・

## SS たいげい型潜水艦【月影】

排水量

基準：2,950t

満載：4,200t

艀装

魚雷発射管：4門

2041年に進水したりチウムイオン電池搭載潜水艦

これっといつた装備はないが高い練度と多種作用な魚雷を誇つておりいまだ現役

ちなみに米国との訓練で一番呼んでほしくない1位があつたとか  
なかつたとか・・・

## 曇天型改イージス艦【曇天】

排水量

基準：7,900t

満載：9,800

艀装

主砲：54口径127ミリ単装速射砲

VLS：12基

VLA：4基

SAM：8基

RAM：4基

CIWS：6基

2050年に進水した日本版改イージス艦

改イージス艦とは純来のイージス艦よりレーダーを大型化、ミサイルセル増設、装甲を増幅

と頑張れば衛星軌道上にいる偵察衛星より高い高度を観測できる  
運用目的は敵ICBMの迎撃、敵偵察衛星の撃墜、もちろんレー  
ダー範囲は広がっているのでトマホークなどの対艦ミサイルも打て  
る

このことから「動く大型レーダー基地」とも言われている

しかし、装甲を増幅しているので本来のイージス艦より速度が遅い

### 西宮型航空巡洋艦【東海】

艦装

V L A : 4 基

S A M : 6 基

C I W S : 4 基

R A M : 3 基

艦載機

F | 3 5 J B : 2 0 機

S H | 7 0 J : 1 5 機

2 0 4 0 年に進水した巡洋艦

元であったヘリ空母【西宮】を改装し対空、対潜機能を追加

さらにライセンス生産したF | 3 5 J B を運用

このことから国内外、野党から「空母だろ!？」と批判されているが  
与党は「艦首と艦尾にC I W S とR A M があるので巡洋艦だからセー  
フ!!」とコメントしている

.....うん、もう彼一人でいいのでは？(二回目)

「(元) ニミッツ級」天喰型原子力空母【天喰】

艦装

S A M : 2 基

R A M : 3 基

C I W S : 3 基

## 艦載機

F/A—18J E/F : 30機  
F—14JD : 25機  
A—10JC : 10機  
F—3C : 40機  
F—4DJC : 4機  
E—767 β型 : 1機  
計110機

日本がアメリカから買いつとた元ニミッツ級原子力空母のうちの一隻だが、日本の技術者(変態)が改造し改装された(かわいそうな)空母

艦載機までもが技術者(変態)の餌食となり載せているため、軍閥係者から「変態空母」とも呼ばれている……

飛行甲板には電磁カタパルト装備している

艦載機一覧(日本の技術者被害者の会)

F—3C 【心神】

防衛省が開発したステルス制空戦闘機

C型は空母発艦しようになった

形状はYF—23

F—35JB 【ライトニングii】

日本がライセンス生産と改良した機体

旋回範囲が狭くなっている

F/A—18J E/F 【スーパーホーネット】

日本が戦争をしたのちアメリカから特別に許可された技術提供された機体

マルチロール機なので爆撃でもドックファイトもできる

F—14DJ 【トムキャット】

こちらもアメリカから来た機体



一応ドックファイトもできるが巡航ミサイルなど大型兵器も装備可能に改造されたため攻撃機扱いされる

トマホーク運用もできる

A-10J C【サンダーボルト】

・・・なぜか海の向こうから来た戦神

もちろん技術者のせいで艦載機にさせられた子

性能は・・・お察しを・・・

みなみに一部のファンから「空飛ぶ戦う中学生」とも言われている

F-4DJ C【ファントム】

もともとあったF-4DJを艦載機にした機体

島の偵察が主な任務

・・・やっただね！おじいちゃん！！

E-767 β型【スカイアイ】

空母発艦できるようにさせられた早期警戒管制機

SH-70J【海猫】

日本がSH-60を進化させた結果できてしまった大型機体

哨戒、対潜もできるし地上の制圧にも使える

武装は

12・7mmガトリング二門

対潜短魚雷4発

ヘルファイヤ2発

ミサイル

対空

スタンダード SM-3

シースパロー

対潜

アスロツク

対艦

ハープン

08式対艦誘導弾

# 第一章 いざ！基地生活！ 邂逅

?? side

ドカアアアアアン!!

?? 「きやあ!!」

?? 「クツ!!大丈夫ですか!!サフオーク!!」

サフオーク「は、はい!!大丈夫ですよ!!」

?? 「ツ!?!ベルファスト様!!敵の増援ですよ!!」

ベルファスト「まさか、輸送任務中にセイレーンの奇襲に会うとは!!シエフィールド!!申し訳ございませんが少しの間ここを任せてよろしいでしょうか!?!」

シエフィールド「了解しましたツ!!」

それは指揮官の指令で離島まで資材の輸送をお願いされた私たちですが、安全海域だからと油断してしまい敵の航空機の奇襲を受けてしまいました・・・

これはメイド隊のメイド長としての責任!!

被弾したサフオークに駆け寄る

ベルファスト「怪我はないですか!?!」

サフオーク「も、申し訳ございません・・・」

ベルファスト「進めますか?」

サフオーク「い、いけますがいつもより速度は遅いですう!!」

回復系のスキルを持つKAN—SENは今はいない・・・

しかし、先ほどセイレーンの艦載機に交じって見えにくかったのですが

一機だけ変な形をした機体でしたが、アレはいつたい・・・? いえ、今はそれより皆を逃がさないと!!

ベルファスト「私が殿を務めるのでみんなは先に撤退を!!」

サフオーク「!?!無茶ですベルファスト様!!」

シエフィールド「そうです!!この数の航空機、メイド長一人では無

理です!!」

奇襲を受けてから救難信号を出しましたがまだ着くのに時間はかかる・・・

それにまだ敵も船だけでも50隻以上入るのに航空機はその倍!!

しかし、これ以上仲間を巻き込んで・・・!!

しかしその思考の間が命取りだった・・・

シエフィールド「!!メイド長!!!上!!!」

ベルファスト「!?しまっ!?!」

私の真上に爆弾を落とそうとする一機の爆撃機

回避が間に合わない!!

爆撃機が命を刈り取る爆弾を落とす

しかし、その前に打ち落とされてしまった

ゴゴオオオオオオオ!!

サフオーク「な!? なんの音ですかあ!？」

シエフィールド「!? あの機体は!？」

そこにはプロペラがないのに飛べて、胴体から槍? を放っている飛行体だった

そして翼には赤い丸のマークが・・・

?? 「大丈夫ですか!？」

ツ!! 救援部隊か!？」

しかし来るにはまだ時間がかかるし、あと心なしか声が低いよう  
な・・・?

しかし、援軍ならありがたいです!!

声がしたほうを振りむくとそこには・・・

ベルファスト「・・・え、男?」

なぜか海の上に立っている男性たちがいた・・・

それはベルファスト達が助けられる数時間前のことだった・・・

天喰「曇天!!レーダーでは船は何隻いる?」

曇天「んー? 3隻は見つけたけど・・・!!?」

曇天の顔が一気に強張った

曇天「天喰!!ヤベエ!!その3隻にすごい数の反応が接近中!!」

天喰「!?、了解!!総員、対空対潜を厳となせ!!」

月影「・・・了解、こちら月影潜航を開始する・・・」

昇龍「了解!!総員戦闘配置!!」

東海「ライダー隊!!スクランブル!!」

天喰「こちら天喰から東海へ先に偵察機でIFF(敵味方識別)を照射する。そのあと敵の場合は攻撃せよ」

東海「了解!!」

月影は潜航を開始をし通信を切る、曇天と昇龍は対空ミサイルの準備などをし、東海はF-35JBで編成された「ライダー隊」の発進を開始する。

にしても、なんか俺が号令をかけた時もやけどまるでその使い方を知ってるみたい動きやな?

・・・まあ今考えても仕方ないから後にするか。って俺の偵察機ってどうやって発艦させるんだ?

そう、思っているながら弓を引こうとすると手の中に矢の形状をした何かができその矢には「F-4DJC」と書かれたいた・・・

え、どういう原理? 一番気にはいけないことやけどどういう原理?(2回目)

と、とりあえず発艦させるか

天喰「偵察機発艦!!」

そう言いながら弓を引くが・・・ン?なんかこの弦バチバチ行っ  
ね?

作者(天喰は電磁カタパルトを装備した原子力空母なのでここに再現させました)

・・・なんか、どこから声が聞こえた気がするけどキニシナイキニシナイ

そして弦を離して発艦させた・・・

バシユウウウウウ!!

偵察機を発艦させて数分後・・・

天喰「・・・いた!!」

そこには

一人は小柄で2丁拳銃で戦っている女性

一人はピンク色の髪でさっきの子よりのほほんとした感じの女性  
そして、皆の指揮をとっているだらう女性は・・・

・・・すぐどこかで見たことのあるメイド長だった・・・

うん・・・

天喰「総員、一つわかったことがある・・・この世界アズールレー  
ンの世界やった」

ザワザワ、ザワザワ

うーん、やっぱりこの反応だよなあ・・・

とりあえず月影・・・叫ぶな・・・隠密が命のお前が叫んでどうす  
る・・・音響つけていない俺でも聞こえてきたぞ・・・

天喰「敵艦数およそ50!航空機300以上!!」

東海「了解!ライダー隊!ウエポンスフリー!!ターゲットを撃破せ  
よ!!」

そして、艦隊の遙か彼方を飛んでいた「ライダー隊」は戦闘を開始、  
ステルス機を生かし奇襲攻撃に成功

こうして俺たちは被害を受けている艦隊に近づけた・・・

天喰「大丈夫ですか!?!」

く現在く

ベルファスト「あなたたちは!?!」

天喰「えっと・・・(やべ、なんて言おう)

えっと、私たちは『海上自衛隊』所属空母【天喰】です!!」

東海（え、それをいうの!?天喰!?)

ベルファスト「・・・かいじょうじえいたい・・・」

天喰「お怪我は!？」

ベルファスト「・・・!はい!一人はまだ無傷ですがもう一人は怪我をしましたが進めます!!」

天喰「了解!!・・・こちら空母【天喰】から各艦へ!!ただいまより護衛対象を離脱させる!!東海はそのまま制空権の獲得を続けて!!曇天は対空ミサイルで援護!!昇龍は対潜に気を付けて!!」

東海・曇天・昇龍「了解!!!」

曇天「こちら曇天から東海へ!!本艦隊から50キロは対空ミサイル範囲とする!!入るんじゃないやねえぞ!!」

東海「了解」

そこへ敵航空機の一波が押し寄せる・・・

しかし、東海の「ライダー隊」によってその半数は落とされ・・・

曇天「シースパロー発射!!ぶちかませ!!」

曇天と昇龍の対空ミサイルによって4分の1まで減らされ・・・

東海・曇天・昇龍「C I W S ・ R A Mファイヤ!!」

残りは近接防空によって落とされる

ベルファスト「す、すごい・・・」

サフオーク「メイド長!!敵が後退していきます!!」

ベルファスト「!!ほんとうだわ!!」

敵はこの状況は不利だと考えたのか撤退していた・・・

天喰「総員、対空戦闘やめ、警戒はそのままで・・・」

ふう、どうにかしのげたな・・・

するとそこに一つの艦隊がやってきた・・・

??「ベルファスト!!」

ベルファスト「!!エンタープライズ様!!」

.....へ？

そこには長身で銀髪、黒い服を羽織り近くに相棒の「いーぐるちゃん」、

そう、かつての大戦で英雄的存在が目の前にいた・・・

・・・輸送任務に行っていたベルファスト達がセイレーンの奇襲にあい、救援要請を受けた

指揮官は緊急で編成した艦隊で出撃したが・・・

エンタープライズ「クツ!!間に合ってくれよ!!」

まさか、ほかのはぐれ艦隊に運悪く会ってしまい戦闘になった・・・  
予定より数時間遅れてしまい要請のあった海域についた・・・

エンタープライズ「どこだ!?ベルファスト!!」

くそ!!まさか手遅れだったのか!?

しかしその予想は外れた・・・

バシユウウウウウ!!

エンタープライズ「な!?何だあれは!?!」

それは空に向かっていく飛翔体?が・・・

アレは・・・噴出弾?

しかし今回のベルファスト達には噴出弾を放つ装備はつけていなかったはず・・・

それに噴出弾は対空にはあまり向いていない!!

だが、次にありえないことが起きた・・・

なんと、回避した機体を追いかけ始めた・・・

エンタープライズ「な!?!」

どういう技術だ!?アレは!?!

しかも空には先ほどの噴出弾とは違い、セイレーンの機体とは違い翼に赤い丸のついた機体が飛んでいた

その機体も胴体からさつきより小さいが追いかける噴出弾を放つ



ていた・・・

敵艦の方はオートジャイロ？がロケットを放って撃沈していた。

エンタープライズ「ベルファスト!!怪我は!？」

ベルファスト「一人は怪我をしましたが命に別状はありません」

エンタープライズ「そうか・・・よかった」

ベルファスト「はい、その・・・彼ら”が助けてくれました」

そうか、たまたまほかの基地の艦隊がいたのか・・・

しかし、彼ら？

そこにはなぜか海の上に立つ男たちがいた・・・

エンタープライズ「・・・君たちは？」

天喰「俺たちは海上自衛隊所属空母「天喰」です!!」

かいじようじえいたい？聞いたことがないな？

しかし、恰好からして確かハカマ？（重桜勢から聞いた）をつけて

いるからあっちの方の組織だろうか？

でも、重桜でアマクイという空母がいることを知らない・・・

だがしかし彼らは一つやっつてはいけないことをしてしまった・・・

ガシヨ!!

天喰と他4名「・・・・・・・・・・・・・・・・へ？」

すまない、ここ私たちの基地の支配海域なんだ・・・

エンタープライズ「君たちを不法侵入船として連行します」

天喰 side

ガシヨ!!

天喰「……へ？」

……なぜかエンタープライズに艦装を向けられているんだけど？

エンタープライズ「君たちを不法侵入船として連行します」

おう、どういふことばつてばよ!? (某有名忍者)

もしかして、ここ支配海域!?

東海(ど、どうしまししょうか!? 天喰!?)

天喰(と、とりあえず交渉する!!)

天喰「……断れば？」

エンタープライズ「君たちを無理やりでも連れていく」

……\ (^o^ ) / オワタ

ついていかないとだめですね!! (ヤケクソ)

しかし、ついていいたら牢屋にシユート!! される!!

昇龍(天喰! こうなったら一つあります!!)

曇天(おお!! アホでもたまには役に立てな!!)

昇龍(ヒド!? それよりもごによごによ……)

東海(……やっぱアホだった)

月影(……でもこれしかない……)

天喰(ええい! ヤケクソだ!!)

天喰「……すまない仲間と話した」

エンタープライズ「そうかで答えは？」

天喰・昇龍(せーの)

天喰・東海・曇天・昇龍 「逃げるーーーーー!!」

エンタープライズ 「な!? 待て!!」

こうして転生して早々人生(艦生?)をかけた鬼ごっこが始まった・・・

どうしようか？

スキル一覧

ステルス護衛艦【昇龍】 レアリティUR

スキル1

(海の猛禽)

開始と同時にステルス(?)なので回避率が30秒間65%上昇

スキル2

特殊弾幕

30%で発動する(対潜特化)

スキル3

(守るべきもの)

自艦が行動不能になったとき味方艦の体力を20%回復、回避率も

25%上昇

潜水艦【月影】 レアリティUR

スキル1

(受け継ぐもの)

20%の確率で潜水艦攻撃の援護時間が延びる

(特殊弾幕)

5%の確率でスキル(受け継ぐもの)の発動の後に強力な全体攻撃をする

スキル3

(潜水艦キラー)

常時発動型。敵潜水艦にも攻撃ができるが命中率が10%減少する

改イージス艦【曇天】 レアリティUR

スキル1

(指一本触らせねえぞ!!)

味方の対空値を20%、シールド4枚召喚する

スキル2

特殊弾幕

25%で発動

スキル3

(報復)

味方艦一隻につき行動不能になったら、20%火力が上昇する

航空巡洋艦【東海】 レアリティUR

スキル1

(万能艦)

味方が行動不能になったら3%の確率で味方を復活し、火力を40%上昇する

スキル2

特殊弾幕

航空攻撃した60%で発動

スキル3

(魔改造)

特殊弾幕の発動した50%で発動

味方の後衛陣の装填率を全回復する

原子力空母【天喰】 レアリティ??

スキル1

(あの頃なりの覚悟)

ユニオン・重桜陣営の戦艦・正規空母の火力・航空値を20%上昇する

スキル2

(罪のまなざし)

敵のスピードを50%遅延する

スキル3

(ERROR)

閲覧不可能

ここアズールレーン本部から近くもなく遠くもないこの基地で一人の男性と金髪騎士が机に向かって紙と戦っていた・・・

指揮官「あゝ疲れた・・・」

私の名前は田中 正樹

階級は少将だ

今はこの基地の指揮官をしている

??「お疲れだ、指揮官」

指揮官「うーんありがとウエールズ」

彼女はロイヤル所属戦艦「プリンスオブウエールズ」、今は秘書艦をしている昔からいる古参だ

ウエールズ「いいさ、しかし例の件、どうする?」

指揮官「・・・どうしようか」

そう例の件とは

先日、ベルファストに離島の資材輸送の護衛の依頼が来て頼んだが帰還途中でセイレーンの奇襲に会いやられるところをなぜか男性の知らない艦隊に助けられたようだ

ウエールズ「一応、奴らが持っている艦装は没収したがどれもさっぱりわからないようだ・・・」

指揮官「・・・だよねえ」

報告書には

- ・プロペラの無い艦載機
- ・敵を追尾する噴出弾
- ・ロケットを発射する大型オートジャイロ
- ・艦隊が全員“男”であること

??「・・・新型のセイレーンの可能性もあるぞ・・・」

そう意見したのはユニオン所属空母「エンタープライズ」、彼女も古参の一人でよく相談にも乗ってくれている

プリンスオブウエルズ「しかし、セイレーンの艦隊を撃退しロイヤルのアイツらを助けたんだぞ？」

エンタープライズ「だが、奴らの艦載機はセイレーンののに似ている、あともしこの襲撃は芝居で本当はこの基地の潜入かもしれんぞ・・・」

指揮官「うーん・・・」

そう、例の件とは彼らの処遇だった

本部に報告しないといけないのだが、どう報告するのかわりで悩んでいた・・・

??「いや、それはないニヤ」

プリンスオブウエルズ「ん？明石それはいつたいたいどういう？」

そこにやってきたのは緑色の毛並み、長い袖をつけている

詐欺屋・・・失礼、工作艦だ

明石「しかしあの艦装は何ニヤ・・・セイレーンの技術なんて検出されなかったニヤ・・・」

指揮官「な!？」

エンタープライズ「セイレーンの技術が使われていないだど!？」

明石「しかも竜骨の反応もあったニヤ・・・」

プリンスオブウエルズ「男なのにか!？」

なんと、男のKAN—SENが発見されたのかあ

女性しかいないこの基地では同性の仕事仲間が増えるのはうれし

い

明石「しかし・・・」

指揮官「どうした？」

明石「4隻は普通のKAN—SENの反応だったんにやが・・・」

一隻だけ変なのがあったニヤ・・・  
ん？変なの？

指揮官「それって具体的に？」

明石「緋いニヤ」

指揮官「赤い？」

明石「いや、赤より赤いひびの入ったキューブも見つけたニヤ……」  
赤より赤い？

明石「不思議に思っただけで調べようとしたんにやが、なんか見ていたら  
気持ち悪くなった中止したニヤ……」

謎のメンタルキューブ……

指揮官「ちなみにそのキューブは？」

明石「元のところに戻したニヤ」

他三人「……」

うーん、ますますわからなくなってきた……

一方天喰たち……

どーも!!みなさん!!天喰です!!

私はいまアズールレーンの世界に来ています!!

はい!私は今どこにいるでしょうか!?

はい!ここでーす!!ここー!ここー!

ここにいました!!

正解はですね!!

みんなで仲良く

牢屋に入っているでした!!



・・・うん、何やってんだ俺・・・  
何“某珍獣ハンター”の真似してんだ・・・  
東海「捕まってしまったねえ・・・」  
うん、あの鬼ごっこの結果を言うと

逃げられるわけないじゃん!! (ガチギレ)  
いや、だってあのエンタープライズだよ!?  
アニメでは艦載機に乗って戦っていた人よ!?  
その人が鬼の形相で追いかけて来るんだよ!?!  
もう、恐怖以上の言葉がでないよ・・・  
誰だよ、逃げるっていうのを許可したやつ・・・ (逆ギレ)  
あ、俺か・・・

そうすると牢屋の前に一人の女性が来た  
??「出てください、ご主人様がお呼びです」  
水色の髪に腰に何やら人形をつけているこの子は確かか?

天喰「えっと、君は？」  
ダイドー「メイドの軽巡洋艦ダイドーです」  
天喰「それではよろしくお願いします。」  
ダイドー「はい、こちらです」  
そうして、全員ついていき

立派な扉の前で止まった  
ダイドー「こちらにご主人様はいらっしゃいます」  
天喰「ありがとうございます。」  
そうして分かれていった

東海「緊張しますね・・・」  
天喰「ああ、そうだな。すーう、行くぞ」  
コンコン

「どろどろ」  
天喰「失礼します!!」

そこには人付き合いのよさそうな青年とそれに従えている騎士がいた

指揮官「この基地の指揮官の田中 正樹、少将だ」

プリンスオブウエールズ「秘書艦の戦艦プリンスオブウエールズだ」

天喰「海上自衛隊所属原子力空母【天喰】です」

東海「同じく航空巡洋艦【東海】です」

曇天「改イージス艦の【曇天】だ」

月影「・・・潜水艦【月影】・・・」

昇龍「ステルス護衛艦【昇龍】です!!」

指揮官「・・・うん、どれも聞いたことのない艦種と組織だ・・・ウエールズはない?」

プリンスオブウエールズ「・・・私は長い間指揮官とともにいたがロイヤルにもそもそもアズールレーン自体にそのような組織がいる事態がおかしい」

指揮官「・・・ふむ、君たちは何者だい?」

天喰「あー・・・そのー・・・」

やべ、さすがに「転生しました!」なんて言えないぞ・・・

東海「それについては私から言いますよ」スツ

天喰「え・・・(ナイスすぎる!!東海!!あと任した!!)」

東海(天喰、あなた嘘をつくのが下手すぎなので・・・)

(・・・ω・・・)エ・・・

東海「我々海上自衛隊は政府からの特務で「南極にて謎の現象が発生したため調査してほしい」という依頼を頼まれ、調査に向かう途中で嵐に会い本部との通信が切れ遭難していたところを先ほどの艦隊を見つけ襲撃をされていたため助けました」

指揮官「・・・なるほど、だがあの装備はなんだ?どの陣営にもあのような規格外すぎる性能をもつ艦装はないぞ?」

東海「・・・指揮官殿申し訳ございませんが今は何年ででしょうか?」

指揮官「えつと1965年だ」

東海「・・・我々は別世界のしかも未来から来ました」

指揮官「・・・はい？」

東海「しかも・・・」

東海、少しステイ

指揮官がわけわからない顔になっている

天喰「指揮官ここからは俺が説明するね・・・」

少年すごくわかりやすく説明中・・・

指揮官「・・・そうかセイレーンのいない世界か・・・」

プリンスオブウエルズ「私たちにはありえない話だな・・・」

指揮官「しかし、君たちは今後どうするんだい？」

東海「本当なら本部に戻りたいのですが・・・」

・・・そうやん考えていなかった、どんなに最強の装備をしていても弾がなかったら使えないしな・・・

指揮官「その様子だと当てがないようだな

どうだ、うちに仮だが来ないか？」

え、マジ？

東海「・・・いいんでしょうか？我々は先ほどまで牢屋に入れさせられた者たちなのですが」

指揮官「・・・報告書には（君たちが逃げた）とあるが・・・」

東海「イエシリマセンネ」

指揮官「・・・それでどうするんだい？あ、でも正式に入るなら本部に報告しないといけないからな」

そりゃ、決まってんでしょ！

天喰「我々、海上自衛隊は田中少将の基地にしばらくの間留まらせてもらいます!!」

指揮官「ああ、よろしく頼む」

こうしてようやく平和に過ごせるようになった天喰たちであった

レッツアズールレーン本部へ!!

天喰「・・・本部に？」

指揮官「ああ、本部に今回のことを報告したら「実際に会いたい」らしい」

「・・・いやまあ、正式に所属しないと補給受けられないし、何かあったじゃ遅いしなあ・・・」

天喰「・・・ちなみにいつ行くんですか？」

指揮官「明日」

天喰「はい？」

指揮官「明日だ」

ちよ、明日!?

普通こういうのって一週間後とか一か月後とかじゃないの!?

天喰「えらい急ですね・・・」

指揮官「仕方ないだろ・・・あのご老人は一応上司だし君たちに興味深々だからな・・・」

大変だな、指揮官業というのは

指揮官「・・・はあ、ほんと胃が痛い（キリキリ）」

天喰「お疲れ様です・・・」

指揮官「そんじや、ついてきてくれるかい？」

天喰「了解しました」

翌日

アズールレーン本部前

いやあ、

でかいね!!

やっぱ世界を守るとはいえ各勢力が出入りするから大学のキャンパス以上にデカかった

指揮官「よし、着いたぞ」

なんて思っていたら

すごく大きめの扉の前で止まった

コンコン

指揮官「田中正樹です!!」

「入りましたえ」

指揮官「失礼します!!」ガチャ

こうした中に入ったけど、

「おお、本当に男だ・・・」

「報告書どうりだな・・・」

「あの装備はなんだ？」

「やはりセイレーンではないのか？」

「・・・」

「キヤー！意外と若くてイケメンじゃない!!」

中に入ったけどやっぱ外もデカかったら中もでかいわな

いろんな恰好の偉そうな人がいるけど一番真ん中に座っている人は歴戦のいかついおじさんのような人が座っていた

元帥「よく来てくれたな。私は本部総責任者のドナルド・アルバー  
ド元帥だ」

天喰「海上自衛隊所属原子力空母【天喰】です」

「げんしりよくくうぼ？聞いたことないぞ？」

「かいじょうじえいたいも聞いたこともないな・・・」

「アマクイという空母も聞いたことないぞ・・・」

元帥「・・・ふむなるほど、しかしタナカ少将この報告書は真か？  
プロペラの無い飛行機、敵を追尾する噴出弾とは？」

指揮官「はい、真です」

ダアン!!

「戯言はいいかげんにしろ!!」

「本当ならそいつはセイレーンではないか!!」

「しかし本当ならすごい技術だぞ」

元帥「静粛に、では聞こうアマクイとやら貴艦のいう「かいじょう  
じえいたい」とはなんだ？どの陣営にもこのような部隊はないと答え

たぞ」

天喰「・・・我々は別世界の2060年から来ました」

「な!? 未来からだ!?」

「しかも別世界からとは・・・」

「セイレーンはどうなっている?」

元帥「・・・なるほど、未来から来たのならあの見たことのない装備にも納得はいくな・・・ではセイレーンはどうなっている?」

天喰「それについたは私たちのいた世界情勢とともに説明させてもらいます」

すると全員は真剣に聞き始めた

天喰「私の所属する海上自衛隊は平和主義を掲げる日本国・・・こちらで言う重桜のような国ですね。その国に属する防衛主義の国防軍のような組織です」

こうして俺のいた世界の話をはじめた・・・

数十分後・・・

元帥「そうか、セイレーンのいない世界か・・・」

「なんと!? セイレーンがないのか!!」

「そうか、羨ましいなあ」

元帥「しかしセイレーンのいない世界とはさぞかし平和であろう。なぜそれほど重装備なのか?」

天喰「失礼ながらアルバード元帥殿、人類共通の敵がない場合は

人間はどうなると思いますか？」

元帥「・・・平和ではないのか？」

天喰「人間は個人の思いを貫きたい生き物です。自分の欲や意見が相手に否定されたら無理にでもうなずかせたいとだから人間は・・・」

元帥「・・・争い、戦争をするのか・・・」

天喰「人間は欲に弱い生き物なんですからね・・・平和なんて一時的なものですよ」

元帥「そうか・・・して君たちは今後どうするのだ？」

指揮官「それについては私の基地に所属させようとも思います」

元帥「そうか、全員異議はないな？・・・ないなら会議を終了す  
「異議あり!!」・・・なんだ豚田中将？」

会議が終わろうとしたら豚のように太った男性が立ち上がった

天喰（指揮官、あのぶっ・・・じゃなくて人は誰ですか？）

指揮官（ああ、豚田 太郎。位は中将だ）

天喰（へー、指揮官より上なんですね）

指揮官（ああ、でも黒いうわさが後を絶たないがな・・・）

天喰（・・・例えば？）

指揮官（賄賂、KAN—SENに対してセクハラとパワハラ、虚偽  
などのオンパレード）

天喰（うわあ、ブラックやんいやだわあ）

すると豚田中将は言い出す

豚田中将「私は田中少将の基地に配属させるのは反対します!!」

元帥「・・・ふむ、なら反対意見を聞こう」

豚田中将「まず、先ほどの話が本当なら一か所に集めるのは過剰戦  
力じゃないでしょうか!!もしその艦隊が反旗を翻したらどうするの  
ですか!？」

天喰「それについては私から、確かに過剰戦力かもしれませんが自  
衛隊は基本的に防衛主義で向こうから攻撃しない限り攻撃はできま  
せん。ましてや人間を攻撃するのは基本的にありえないんです」

豚田中将「ではなぜ田中少将の基地に配属されるのですか!？」

指揮官「私の基地に配属する理由はまず一番最初に来た基地で本当



は元の世界に帰還したいが帰る方法がわからないので留まることを本人たちから了承も得ているからです」

豚田中将「それは相手が指揮官だからなのではないでしょうか!? 本当は嫌なのではないでしょうか!?」

天喰「いえ、いやではありませんよ。指揮官はまじめに執務をこなして信頼できる人です」

豚田中将「それは君一人のいけんだらおう!? ほかの四人は不満を  
持っているだろう!?」

指揮官「いや、それはないで「黙れ!! 貴様のことはきいていない!!」

豚田中将「本当は嫌だろう! いや、そうに違いない! だから早急に私の基地に変えるベク(バアン!!)・・・ヒ!!」

天喰「・・・いい加減にしろよ豚野郎・・・」

あー、こいつを見ていると前の世界の宇摩を思い出してくるわ・・・  
豚田中将「な・・・この僕を豚といったのか・・・?」

天喰「ああ、言っただけ!! あいつらが一緒にいるのが嫌だ? んならもういないはずだ! あいつらとはなあ何年間も助けたり助けられたりした大切な仲間なんだ!! よくわかんねえ妄想を押し付けるんじゃない!! 豚野郎!!」

豚田「き、貴様!! ただのモノ癖に人間に指図するとは何なのかあ!」

・・・おい、待てモノってなんだ?

天喰「・・・お前、KAN—SENを壊しているものだということのか?」

豚田中将「そうだろう!? 突然よくわからない敵が来てそれを倒す人類の道具!! 何をしようが自由だr(バキィ!!) うぎゃあ!!」

殴った

多分生まれて始めて人を殴った

殴られた豚は壁際まで吹っ飛ばされた

天喰「お前大概にしるよ? あいつらは戦いたくない本当は安全に生きたいはずだ!? でもなあいつらは人類の今と明日を安全にするために戦っているんだ!! 決して道具なんかじゃない!!」

豚田中将「な、な、き、キサマア!!」

元帥「静粛に!!」

するとあれほどうるさかった会議場が水を打ったように静かになった・・・

元帥「天喰君申し訳ない私の監視不足だった。君に不快なことをしてしまい謝罪する」

天喰「・・・いえ、私もこのような公的な場所でわめいてしま  
いすみませんでした」

元帥「いいさ、ではこれ以外に反対はないな？」  
シーン

元帥「よし無いな、では海上自衛隊及び空母〔天喰〕と他4名を正  
式に田中少将の基地に配属する!!」

パチパチパチ!!

元帥「あと豚田中将、あとで私の部屋に来るように・・・」ギョ  
豚田中将「は、はい・・・」ビクビクビク

天喰「失礼しました!!」  
バタン

指揮官「いやー!!すつきりした!!」

天喰「そうか？俺は疲れたんだが・・・」

指揮官「アイツからよくいちやもんをつけられていたからな!!でも  
天喰、かつこよかったぞ!」

天喰「そ、そうか？俺は怒りのままぶつただけなんだがな・・・  
でもまあこれで晴れて君の部下になれたな、これからよろしくな指揮  
官?」

指揮官「ああ、よろしく天喰」

そしてふたりで硬い握手を交わした

「くそお!!あいつめえ!!」

そのころ豚田はアルバード元帥に嚴重注意を受けた後  
基地に帰るため廊下を歩いていた

「おいおい、会議場でわめいた豚田じゃんw」

「ああ、あの反対しまくった挙句怒られて殴られた？w」

「しかも最後の見たか？すごく無様だったな！w」

ええい!!どこもこいつもバカにしおつてえ!!

この高貴な僕の顔を殴るとは高くつくぞお!!

豚田（本当は田中から引き抜いてよくて私兵化する。悪くて奴らの技術をいただければよかったものを!!）

そうすれば僕は昇進し大将

いや、国

世界の王になれたというものを!!

まあいい、帰ってあいつらを可愛がるとしよう・・・

豚田中将「おい、行くぞ大鳳」

そこには赤い着物を着て露出を高いようにしており黒髪長髪のどんな男性でも虜にしてしまう美しい女性が立っていた

が・・・

その雪のように白い肌に打撲や切り傷、火傷の後がついておりそして首には鈍く光る首輪がつけられていた・・・

大鳳「・・・はい、指揮官様・・・」

ここはとある鏡面海域・・・

そこに一人の少女が観察していた

?? 「ふーん、カンレキには存在しないKAN—SENねえ。」

?? 「まあーた見てるの例の彼ら？」

?? 「いいじゃない、しかしこれは予測できなかったわ・・・」

?? 「どうする？処分する？」

?? 「いいえ、このまま見てみましょう。新しいのがみれるかもしれなうわ・・・」

そう言いながら一人の少女はタコの足のような艦装をうねらせ

もう一人はシユモクザメのような艦装を持ちながら笑っていた……  
?? 「どんな結果にしてくれるか楽しみにしてるよ……天喰」

## 歓☆迎☆会

あれから本部を後にして帰路についていてあと少しで基地につこうとしたが

ドガアアアアン!!

指揮官「な、なんだあ!？」

天喰「あ、基地の奥で爆発が!!」

くそ！俺たちが留守の間に襲撃があつたのか!?

しかし、燃える基地から出てきたのは・・・

??「し、指揮官!!」

指揮官「あ！明石どうした!？」

明石「あの変態をどうにかしてニヤ!!」

ん？変態？誰だ？

そう言つて連れて越されて見たのは

東海「アヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤ!!」

・・・地獄が広がっていた・・・

・・・うん、俺は夢でも見てんのかな？

そう思い、頬をつねる。

うん痛い夢じゃないね!!

いや、なにやトンの!?!東海!?

隣の指揮官なんて口あんぐりしてるよ!?

昇龍「天喰!!」ガサ!!

天喰「……みんなとりあえず目の前で起きている惨劇について説明を……」

曇天「……俺たちは止めたんだが……」

月影「……実は……」

それは天喰たちが本部に行ってる間にあつたんだ……

曇天「……なあ、なんでまだ俺ら牢屋に入れられてんの？」

エンタープライズ「仕方ないだろ、お前たちはまだ正式に私たちの仲間じゃないしまだ不法侵入船扱いになる……」

月影「……暇……」

俺たちはまだ正式じゃないからみんなで牢屋で待っていたんだけど暇でさあ

牢屋にいる組で雑談してたんだけど……

明石「なら明石の手伝いをしてくれないかニヤ？」

そこに来たのは明石さんだったんだ……

昇龍「何をすればいいんだ？」

明石「倉庫の整理、装備の分別と知らないものを運んで廃棄するニヤ」

エンタープライズ「しかし！明石、こいつら仮にも不法侵入船だぞ？」

明石「大丈夫ニヤ、艦装も没収してるしそれに何かあってもこの基地にはKAN—SENがたくさんいるニヤ」

というわけで明石さんの手伝いで倉庫に行つて手伝っていたけど……

東海「なあ明石この装備たちはどうなるんだ？」(ソワソワ)

明石「ん？そいつらはパーツになったりいらぬ部分はないが資金になつたりするニヤ」

東海「……なあもったいなくね？」(ソワソワ)

明石「そうかニヤ？それノーマルクラスとレアクラスの装備がほとんどでたまに被ったSSRやSRがあるニヤ」

東海「そ、そうか……」(ソワソワ)

明石「・・・さつきからどうしたんニヤ?トイレかニヤ?」

東海「いや、なんかかわいそうに思えてきてな・・・」(ソワソワ)  
曇天「か、可愛そうって・・・」

昇龍「あ、そういえば東海ってうち一番のミリオタだからそう思えるのかな?」

東海「うん、最後に何か役目があったらな・・・(ドク!!)・・・う!」

そしたら急に東海が苦し始めたんだ・・・

昇龍「と、東海!?!」

明石「どうしたんニヤ!?!」

近くにいた俺と明石さんが近寄ったら東海が何か言っているのが聞こえたんだ・・・

東海「・・・す・・・」

明石「す?」

東海「・・・スキル発動・・・(魔改造)」

そしたら急に立ち上がっていったんだ・・・

東海「ああ、改造したいですねえ♡」

ジャキ!! (両手には大量の工作具が)

ぞわぞわぞわ!!

「そした急に悪寒を感じたんだ

「急いでこいつを止めないとやばいことになるって

そう、倉庫にいた全員が感じたんだ

昇龍「あ、あのー東海さん?」

東海「…….…….…….」ダツ!!

明石「あ!逃げたニヤ!!」

そう、急に東海が走り出して倉庫にあつたそこから中の装備ボックスを集めだしたんだ…….

曇天「どうしたんだ東海!」

そしたらボックスを合体させ始めたんだ…….

ゴングン!!ウイーン!カンカン!!

ダツ!!

月影「…….…….また走つた!!」

ドドドドドドドドド!!(キラキラした大量のキューブを抱えながら)

帰ってきた東海が抱えていたのは大量のキューブだったんだ。どこから持ってきたんだろう?って思っていたら一人の女性が走ってきたんだ…….

??「明石!!そいつを止めて!!」

明石「ウォースパイト!?どうしたンニヤ!」

ウォースパイト「私がキューブ保管室の整理をしていたら、急にそいつが入ってきてキューブを盗んだのよ!!」

明石「ニヤ!?ニヤンだつて!!こら!東海辞めるニヤ(キューブ、ドカーン!!)ニヤーニヤー!!」

急に明石さんが爆発したと思つたら空に東海を護衛するように「ライダー隊」が飛んでいったんだ…….

曇天「ちよつと!?ライダー隊!?邪魔しないでくれ!」

エンタープライズ「どうした?明石?爆発音が聞こえたんだが?(ドカーン!!)!?やはり貴様たちはセイレーンのスパイだったの



か!？」

曇天「ちげえわ!? ってそれよりあいつを止めてくれ!!」

東海「YAYAYAYAFUUUUUUUU!!」(某赤い配管工の声)

エンタープライズ「・・・どうしたんだ彼は? 連行するときそんなキャラじゃなかっただろ?」

曇天「それは俺たちが聞きたいな!」

エンタープライズ「とりあえず彼を止めればいいんだらr(レモン)

三三三ドーン・・・(☒ω☒) キュウ

曇天「え、エンタープライズが死んだ!!」

月影「・・・この人? いや船? で無し!!」

なんかとなりでなんかやっているけど

やばい! 東海が箱についてしまった!!

そしたらキューブも合体させていったんだ・・・

ガシヨガシヨ

ドンテンカールドーンテンカン

ガタガタゴットン!ズツタンズタン!

ガタガタゴットン!ズツタンズタン!

なんか・・・違う音も聞こえてきたし・・・

そして赤い巨大な武装ボックスに似たものができたんだ・・・

東海「目覚めよ!!捨てられし武器たちよ!!お前たちはSSRやURに出番がとられて悔しくないか? たくさん指揮官からごみのような目で見られてきたか!?だがそれも今日で終わりだ!!俺が作り替えたからな!!アヒヤヒヤヒヤ!!」

・・・で今に至ると・・・

・・・マジかよ・・・

いやまあ確かに前世ではよく改造とかしていたけどここまでひどかったけ?

東海「さあ目覚めよ!!反撃の時だあ!!」ガシヨ!!

そう話していたら狂った東海が武器ボックスで言う上のロックを外して解放し中から大量の光が漏れだした

指揮官「・・・!やばい!皆伏せろ!」

光がやんでそこに鎮座していたのは・・・

天喰「・・・なんでこれがここにあるんだよ・・・」

そうそこにはとあるゲームで出てくる

本来は隕石を打ち落とすものが

とある戦争では味方軍を苦しめ

またある時は14年の月日をたち白い怪鳥を打ち落とした切り札

・・・ストーンヘンジの一基だった

東海「・・・・・・・・・・・・・・・・」(正座)

ベルファスト「・・・・・・・・」ニコニコ

天喰「・・・・・・・・」ニコニコ

エンタープライズ「(☒☒)スヤア」

指揮官「・・・ハア」ガチャ

はい、あれからどうなったかというと・・・

ストーンヘンジはすぐ母港の全員に知れ渡りばれてしまった

ストーンヘンジ自体があまりにも巨大なためその場に設置するこ

とになった

そしたら本部の人から電話がありその受け答えをさつきまで指揮

官がしていた

指揮官「……東海君なにか言うことは？」

東海「……反省はしているが後悔はない」

指揮官「よし、ベルファストやれ」

ベルファスト「はい」グキキキキ（エビぞり固め）

東海「ちよ!?!メイド長!!折れる!折れる!」

指揮官「はい、東海君何か言うことは？」

東海「欲に耐え切れずそのまま突っ走ってしまい申し訳ありません」土下座

天喰「……ハアすまん指揮官正式に決まって早々仲間がやらかしてしまい……」

指揮官「いいよ、本人反省しているみたいだし……」

ところで天喰、あの大砲みたいな兵器は何？」

天喰「アレは架空の兵器のはずなんだがなあ

正式名は「120cm対地対空両用磁気火薬複合加速方式半自動固定砲」つて言つて通称ストーンヘンジともいわれるすごくデカイ大砲で主に隕石迎撃に使われるんだ」

指揮官「デ、デカいし名前長いな……しかも隕石迎撃って……」

天喰「ああ、でも架空兵器なのになんでできたんだ東海？」

東海「俺にもわからんがあの時頭の中に流れ込んできた感じ？」

やべえなソレ

いやだつて被害にあったの（あとで確認した）武器ボックスおおよそ1200個分とキューブ40個だぞ？」

そんなんでストーンヘンジ作れる東海は何だよ……

指揮官「ちなみに使えるのかい？」

天喰「いや、起動させるのなら専用の施設をつらないといけないし場所も広く使うし金もアホみたいに使う」

指揮官「そ、そうか」ほっ

……ちなみに後日聞いたんだがあの場所観光スポットになつて名前が「すんごくデカいたいほう!!」になっていた……

指揮官「あと、今夜君たちの歓迎会をするんだが出席するかい？」

天喰「え、いいのか？」

指揮官「ああ、君たちはこれから家族みたいなものだから歓迎会はしないよね」

天喰「ありがとううれしいな」

指揮官「あと、東海はそこでみんなに謝りなさい」

東海「ウイツす」

その頃の昇龍たちは・・・

沿岸で待機していた

昇龍「・・・なあ曇天」

曇天「ドシタ？」

昇龍「月影どこ行ったか知らない？」

曇天「いや、見てないなあ・・・」

そんな会話している中、水中からとある人物が忍び寄っていた・・・?? 「ふっふっふ・・・なんかデカイ大砲ができて気になった近寄っ

てみたけどやった本人らしいKAN—SEN発見♪」

それは金髪にゴーグルをかけている潜水艦アルバコアだった・・・

アルバコア「くっくっくこの特性大爆音魚雷でサプライズしてやるぞお」(ワクワク)

トントン

アルバコア「アイツらどんな顔をするかなあ」(ワクワク)

トントン

アルバコア「あ、カメラ持ってこればよかったなあ」(ワクワク)

トントン

アルバコア「ああもう！さっきからな・・・に・・・」

振り返るとそこには・・・

月影 「ハアイ、ジ○ジィー」

ピエロのペイントをした人物がいた・・・  
アルバコア 「ピ・・・」

ピギヤアアアアアアアア!!」

ゴポゴポ

昇龍 「ん？今悲鳴聞こえなかった？」  
曇天 「は？聞こえなかったぞ？」  
昇龍 「うーん？気のせいだったのかなあ？」  
なんてことがあったんだとか・・・

時間がたち夜

そこでは食堂にて歓迎会が行われていた  
ワイワイガヤガヤ

「何だろうね？」

「なにかの祝い事かな!？」

「なああんなどころにでかい大砲なんかあつたけ?」

「さあ?」

指揮官「はい!ちゅうもおおおおおおおおおおおく!!」(某駐屯兵団並み)

「「五月蠅い!!」」

指揮官「あ、スミマセン。じゃなくて!!今日から新しく入る仲間を紹介するぞ!!」

「おお!やつぱり!!」

「新入りだ!!」

「その前にあのデカイ砲台はなんだ!？」

指揮官「・・・それについても報告するので・・・それでは上がつてくれ!!」

ガタガタガタガタ

((((え!?男!?)))))

指揮官「それでは一人ずつ紹介してくれ!!質問に対しては終わった後な!!」

天喰「はい!海上自衛隊所属の原子力空母【天喰】です!!この艦隊の旗艦をしています!よろしくお願いします!!」

(本当に男じゃん!?)

(なんか頼れそー)

曇天「改イージス艦【曇天】だ!!!趣味は料理とか裁縫だ!!これからもよろしくな!!」

(兄貴だ・・・)

(兄貴がまた一人増えた)

(いや!?だから私はアニキじゃないってば!!)

月影「・・・潜水艦の月影です・・・」

(うわあ、なんか怖そうな人来たなあ)

(彼から同じ?フォース?を感じるわ・・・)

(ピ、ピエロ・・・)

(ちよつと!?どうしたの!?アルバコア!?)

月影「あ、あと好きなのは猫です」

((意外とかわかった!!))

昇龍「はい！ステルス護衛艦【昇龍】です!!好きなことは甘いものを食べることです!!」

(女やん・・・)

(男の中に女が混じつとるぞ・・・)

(か、カワイイ)(＊・皿、)ハアハア

東海「・・・航空巡洋艦【東海】です。ちなみにあの巨大な大砲が自分が暴走して作ってしまいましたーすみませーん(棒)」

((いや、お前かい!!))

指揮官「よし！自己紹介は終わったな！今から自由時間にするから質問は今しておけ!!」

「はー」

指揮官「はい！ジャベリン!!」

ジャベリン「始めまして!!ロイヤル所属の駆逐艦ジャベリンです!!皆さんほとんど聞いたことのない艦種なのですが私たちのとどう違うのですか?」

曇天「じゃあまず俺から、俺の改イージス艦とはイージス、神の盾ともいわれているが主に艦隊の対空、対艦を相手にしている。レーダーは艦隊一広いから索敵にも役立つているぞ!!」

昇龍「次に僕ですね!!僕ステルス護衛艦はステルスすなわち隠密性が高いので偵察や人質救出などにも出ます!!艦隊では対潜と対空を担当しています!!」

天喰「俺は・・・まあ一言でいえば航続距離が無限かな?」

「え、すごい!!隠密性が高いなんて!!」

「しかし、?神の盾?とは!!彼も同族なのか?」

「航続距離ほぼ無限とは!疲れ知らずなのか!」

「じゃー、はー」

指揮官「はい!!ラフィー!!つかお前酒飲むな!!」

ラフィー「指揮官、気にしない気にしない「気にするわ!!」・・・えつと陣営はどこになるの?」

天喰「あー、俺たち別世界の未来から来たもんなあ・・・一応重桜になるのかな？」

シーン

あれ？どうしたのみんな？

「「「・・・はぁー！ー！ー！あ!?!」」」

あ、そういえば言っただけじゃなかったな・・・

少年わかりやすく説明中・・・

「へー、セイレーンのいない世界かぁ」

「いいなー」

指揮官「よし！あとは個人で聞いてくれな!!そんな歓迎会続けるぞ!!」

??「もし、その同志・・・」

月影「ん？お前誰？」

??「ああ、私の名前はアークロイヤルだ」

月影「・・・それでそのアークロイヤルがなに？というか同志ってなに？」

アークロイヤル「きみはこれを見てどう思う？」スツ

月影「・・・こ、これは!?!」

渡されたのはかわいらしいうすい紫の髪をしニコーンのぬいぐるみを抱えた少女の寝顔が写っていた・・・

月影「・・・なるほどだから同志か・・・」スツ

アークロイヤル「やはり類は友を呼ぶとは本当のようだな・・・」ガツ!!

二人は謎の強い握手を交わした

「兄貴!!」

「アニキ!!」

「あにき!!」

曇天??「「だぁ!!だから兄貴じゃない(ねえ)!!・・・え!?!」



曇天「お前も兄貴って慕われてるのか・・・」  
?。「キミもか・・・あ、私の名前はクリープランドだ!」

曇天「(なんか兄貴って慕われているのが少しわかるな・・・) お互  
い苦労するな・・・」

クリープランド「まあな、指揮官からも姉妹からも兄貴って呼ばれ  
て突っ込むのに疲れるよ・・・」

曇天「ワカル」

クリープランド「だってこの前だって・・・」

曇天「(意外と苦労人多いな・・・この母港・・・)(?▽?;) ハッ  
ハッハ」

ラファイ「どうしたの? アルバコア? さつきから震えているけど  
?」

アルバコア「ピエロ・・・怖い・・・」(ガクガクガク)

月影「・・・ハイ、○ヨウジイ」ヌツ

アルバコア「ぴぎゅ!!」パタン・・・

ラファイ「あ、倒れた・・・」

月影「・・・(そんなに驚くのかなあ?)」

作者(ピエロで怖がらせすぎるとマジでピエロ恐怖症になるから気  
をつけよう!!)

「でねー指揮官すごくかつこよかったの!!」

「えー見たかったなあ」

「でも! 前の日指揮官がね!!」

キヤツキヤウフフ

昇龍「・・・」

「ん? どうしたの昇龍ちゃん? 元気ないね?」

昇龍「ねえ、なんで僕恋バナの中に入れられてるの?」

「え、だって昇龍ちゃんあの艦隊唯一の僕ツ子系女性じゃないの?」

昇龍「・・・僕、男なんだけど・・・」

「「「え・・・」」」

「そ、そんなはずはないわ!!どこからどう見ても女性じゃない!!」

昇龍「だ!か!ら!僕は男だ!」

「そんな胸だつて!!(もみもみ)・・・アレ?少し肉があるわ・・・」  
昇龍「ウェイ!?やめろつて!!」

「そうなの!?なら男なら触られても恥ずかしくないよね!!(暴論)」(もみもみ)

昇龍「・・・きやあ!?!」

「二」・・・やっぱり女よね・・・「二」

昇龍「だからあ!!ちがう!!」ゼエゼエ

「二」なら、我慢できるよね!!「二」

昇龍「や!?やめ!?!」

アーーーーー!!

東海「・・・ボケー

??「なあ君があの大砲を作ったKAN—SENか?」

東海「そーですけどーなにかー(ハア、バカにしに来たのかな?)」  
バン!!

東海「な、なんすk「素晴らしい!!」え?」

??「あれほど巨大で鋼鉄の砲塔は見たことない!!」

東海「!!!あなた名前は!?!」

??「失礼、私の名前は軽巡洋艦リノ!!」

東海「・・・あなただけですよ・・・ほめてくれたの・・・」

リノ「だつて巨大兵器つてロマンじゃない!!」

東海「はい!やはり巨大兵器はロマンですよね!!ん?その小手は?」

リノ「ああ、これはとあるヒーローにあこがれて作ったの!!」

東海「(どうみてもアイオンマンですねありますがどうぞごさいました)・・・本物は無理でもそれっぽくするならできそうですよ?」

リノ「ええ!?!いいの!?!」

東海「はい!オタク同士の絆(?)ですよ!!」

リノ「ロボットは・・・」バツ!!

東海「ロマンの塊い!!」ババン!

天喰「・・・何やってんだアイツら・・・」

指揮官「はっはっはっはっはっはいいんじゃないか、平和だし・・・」

天喰「そうだな・・・んでなんでこんな人の少ないところに呼び出したんだい?」

そう、今俺たちは学園の近くにある路地裏にいる。

指揮官「・・・なあ天喰、

お前の中にある緋いメンタルキューブは何なんだ?」

天喰「!?!」

緋いメンタルキューブなんだそれ?

指揮官「ほかの4人からは検出され無かったが君だけ違ったんだ。心当たりは?」

ほかの皆にはなくて俺だけにある物?

・・・多分アレだよな・・・

天喰「あるんだが、どうするんだ?」

指揮官「・・・いや、明石の調査結果に気になった点があったからな・・・」

なるほど・・・油断できないな明石・・・

天喰「指揮官・・・今回のことは知らないほうがいい」

指揮官「?話せないなら相談に乗るが・・・?」

天喰「指揮官、話せないじゃなく知らないほうがいいだ・・・」

指揮官「!?!そうか・・・いつか覚悟ができれば聞くと・・・」

天喰「そのほうがいい」

結局、そのまま帰りカオスと化していた会場を指揮官と一緒に沈めていた・・・

## 母港案内

歓迎会があった数日後・・・

その間は指揮官から母港の案内や部屋の場所を教えてもらうようお願いされた・・・

Z23「海上自衛隊の皆さんですね!!今回母港の案内を担当します  
駆逐艦Z23, ニーミとお呼びください!!」

執務室の前にて案内役に任されたのは

クリーム色の髪に大きめの目

頭に帽子を被った優等生みたいな雰囲気を出す少女がいた

天喰「はい、空母【天喰】です今回はよろしくお願いします」

東海「航空巡洋艦【東海】です」

曇天「改イージス艦の【曇天】だ」

月影「・・・潜水艦【月影】」

昇龍「ステルス護衛艦【昇龍】です!!」

Z23「はい!皆いますね!では案内をします、こちらです!」  
こうして母港案内が始まった

### 〈執務室〉

Z23「ここは執務室で指揮官は基本的にここにいます」  
コンコン

Z23「失礼します、駆逐艦Z23です」

指揮官「どうぞー」

ガチャ

中では指揮官が大量の紙と戦っており隣ではベルファストが書類整理をしていた

指揮官「や、やあみんな案内をしてもらってるんかい?」げっそり

曇天「お、おう。そうだ指揮官・・・ところでどうしたんだ?」

指揮官「い、いやあ君たちの報告を各部署や基地に報告しないとい  
けなくてね・・・ちなみに11連徹夜中・・・」

曇天「そ、そうかスマンナ」

・・・やっぱ頭が上がらないなこの人には・・・

指揮官「べ、ベルファスト・・・もうペン握りすぎて力が入んないよ・・・休憩に入る・・・？」  
ベルファスト「・・・右がだめになっても左があるじゃないですか・・・」

指揮官「き、鬼畜・・・」

Z23「・・・次行きますか・・・」

曇天「・・・そうだな・・・」

指揮官、君のことは忘れないよ・・・  
今度何かあげよ・・・精神的に・・・

講堂

Z23「ここでは教室にて新人の教育、指導を行っています」

昇龍「おー！教室が多いなー！」

確かに多い、まあそれほど

ここにいるKANSENがいるんだろう

「はいーんこーテストに出るわよ!!」

「はーい!!先生!!」

近くの教室の中から元気のいい声が聞こえてきた  
覗いてみると・・・

たくさんの生徒に見られて教卓に立っている少女が一人いた

あ、アレはアズレンのチュートリアルでお世話になった・・・

東海「アレは南米の!？」

東海、それは川や・・・

曇天「前世では宅配とプライムにお世話になったな・・・」

曇天、それはAmazOnや・・・

月影「・・・シグマア・・・」

月影、それは仮ライダーや・・・

昇龍「確かチビ!!」

やめろ、昇龍、走り込み10周させられるぞ・・・

てか、お前もチビだろ・・・

食堂

Z23「ここは食堂で数日前に行われた歓迎会もここで行われまし

た場所です!!」

あの頃はたくさんの人がいたからわかんなかったけど改めてみるとすごく広いな・・・

Z23「ここではそれぞれの陣営の料理も楽しめますよ!!」

へー、そういえば最近米食ってなかったな・・・

終わり(早いわ!!)

港・グラウンド

Z23「ここが港でみんなはここから出撃するんですよ」

港は普通な感じで

隣にはビーチやグラウンドがあつて部活動をするKAN—SENたちがいる・・・

さすがにまだ水着では入れられる気温ではないので水着姿はいなかった・・・

終わり(早いわ!!二回目)

外

Z23「ここでは購買部があつたりみんな好きなようにお店を出ています!!」

そこには色とりどりの屋台が出店していた

饅頭(食べるほうの)を売って居たり

部活勧誘を行っていたり

・・・なんか変な宗教を広めようとしていた人たちがいた・・・

Z23「あ!明石さん!!こんにちは」

その店の一角に緑の猫が売買していた

明石「あ、ニーミに天喰に・・・東海もいるんかニヤ・・・」

この猫まだ根に持つとんぞ・・・

東海「あの時はすみません・・・」

明石「まったく・・・あの時みんな明石のせいにするから大変だったニヤ・・・」

まあ、前科持ちだもんな・・・

東海「・・・こつちの技術少しとダイヤ(指揮官の)で手を打たないか?」

明石「……………今回は目をつむるニャ」  
いや、やつすいなこの猫……

??「あら?どうしたの?ニミミ?」

Z23「あ、イラストリアスさん!今、天喰さんたちを母港案内をしているところです!」

イラストリアス「あら、そうなの?では……こうして話すのは初めてですね装甲空母イラストリアスです。以後おみしきおりを……」  
ペコ

天喰「あ、いえいえこちらこそ原子力空母【天喰】です」ペコ  
やっぱり画面で見るとよりリアルの方がきれいだなあ  
透き通るように綺麗な目

シルクのように煌びやかな髪  
雪のように煌びやかなドレス

……あと何がとは言わないが生でもデカい

イラストリアス「どうかされましたか?」

天喰「……………いえ、少し考え事を」

イラストリアス「ふふ♪そうですか♪」

……あぶねエ察されるところだった

あと、東海

相棒こういうのがデカいのが好きなんですネ……

みたいな目で見んな……

するとイラストリアスの後ろからうす紫色の髪をした少女が出てきた

??「えつと……ユニコーンだよ?よろしくアマクイお兄ちゃんたち?」

転生組「……ん……!!」「……」キュン

何だ今のは!?

今、胸がキュンってなったぞ!?

そう思いみんなの安否を確認するが……

月影「……oh, God. I met an angel」  
うん、にほんごでおけー



月影「……ちよつとユニコーンにあつてくる」

Z23「……(話が進まないから)次行きますよ?」

月影「……エ」(・ω・)

あ、すまん

行こうか

宿舎

Z23「ここが宿舎です。皆さんは一応重桜側の寮に部屋があります」

月影「……今からでもロイヤル側に移ることは……?」

Z23「だめです(即答)」

月影「アツハイ……」

中は至つて普通の和風の一人部屋だった  
するとそこに

ピンポンパンポン

指揮官「海上自衛隊、海上自衛隊至急執務室まで来てください……」

早くタスケテ……」

うん、早く行くか……」

指揮官が灰になる前に

天喰「ニーミさんここまで案内してくれてありがとうございま  
した」

Z23「いえいえこちらこそ。あとさんはつけなくていいですよ  
!」

天喰「そうですねか……ではでは失礼します!」

執務室前

コンコン!!

天喰「失礼します!海上自衛隊全員着きました!!」

指揮官「ど……うぞ……」

ガチャ

そこには白く燃え尽きた指揮官がいた

ああ、指揮官!!

誰だ!!誰がこんなことにしたんだ!!(お前らだよ)

指揮官「えつと・・・突然だけどみんなには明日演習をしてもらうよ・・・」

え、また今日？

指揮官「はやく、この地獄から解放してくれ・・・」

よし、行こう（この間0.2秒）

さすがにかわいそうに思えてきた・・・

「へーアレが未来の装備ね・・・」

「砲塔が一門しかないな・・・」

「あの箱なんだろう!？」

現在俺たちは演習海域にいるんだが・・・

ガヤガヤ

・・・なんでこんなに祭状態なんだ!?

指揮官「すまん、どうやらみんな君たちの戦闘を気になったみたいで哨戒や事務関係以外KAN—SENや本部の偉い人まで着てしまったポイ・・・」

うわ、あの元帥までいんじゃない・・・

まあそりゃ未来から来た船の戦闘なんて気になるな・・・

指揮官「それでは演習のルールをおさらいするぞ？」

- ・一回目標的用量産型艦の大群の撃破
- ・二回目対空対潜の確認
- ・三回目空母機能

うん、至って普通だな？

指揮官「それでは未来の船の戦い方楽しみにしてるよ？」

東海「あの時とは違う意味で緊張しますね・・・」  
編成は前衛に昇龍と曇天

後衛は東海と俺だ

ちなみに月影はどこかというところ・・・

解説席

指揮官「いやー！どんな戦い方してくれますかね!? 月影さん」

月影「そうですね特に対艦については曇天選手に注目・・・」

・・・うん、確かに「出番がないなら、解説するわ」って言うって  
たけど何指揮官までノリノリになっているんだよ・・・

曇天「・・・天喰、時間だ・・・」

おっともうか・・・

んじや、気合入れますか!!

天喰「全艦対艦戦闘用意!! 対艦ミサイルで削りつつ主砲で残りはずけるぞ!!」

東海・曇天・昇龍「了解!!」

## 演習

指揮官「それでは演習開始!!」

こうして演習が始まった・・・

天喰「各艦データリンクを繋げ!!」

指揮官「月影さん!データリンクを繋げるとは?」

月影「我々海上自衛隊所属艦は各艦にデータバンクがありそれを別の艦につなげることでいろんな情報を瞬時に交換ができる能力です」

指揮官「おお!!しかし武装は砲塔一門しか見えませんがどうするんですでしょうか!」

月影「いいえ、彼の本当の武器は砲ではないんですよ」

指揮官「というところの箱でしょうか?」

月影「まあ見ていてください」

曇天「こちら曇天敵艦隊群発見!!」

指揮官「もう発見した!」

月影「はい、彼の持つ“アクティブ・フェーズドアレーダー(AESA)”は広域範囲搜索なら324Km,低空警戒時は83Kmも探せるので高性能なのですよ」

指揮官「広!」

月影「さらに彼の一番の骨頂“対衛星搜索レーダー(ASSR:Antisatellite search radar)”は高さおよそ4,000Kmまで観測できます」

指揮官「高!」

曇天「トマホーク発射用意!!・・・てえ!!」

バシユウウウウ!!

それに5本の槍が放たれた・・・

指揮官「月影さん!!あれは報告書に載っていた噴出弾ですか!」

月影「いいえ、それは対空ミサイル「シースパロー」といい今打つてのは対艦ミサイル「トマホーク」です」

指揮官「トマホークってというのは?」

月影「トマホークというのは巡航ミサイルという部類に入り、マッハ10・・・音の10倍で接近して敵艦に当たる物です」

指揮官「音の10倍・・・しかしそれほど早いならどうやって操縦しているんですか?」

月影「いえ、アレは無人で曇天のレーダーが代わりに終末誘導を行っているんです・・・」

指揮官「なんと!?無人ですか!」

曇天「トマホーク目標到達まで10秒!!・・・8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1, now!!」  
どぞおおおおおおん!!

曇天「目標到達!!駆逐艦、軽巡洋艦、重巡洋艦、空母撃沈!!戦艦は中破!!」

「「おおお!!」」

指揮官「す、すごい威力ですね!!」

月影「はい、しかし駆逐艦があと少しで避けきれたのですがやはり終末誘導は衛星か早期警戒管制機じゃないと確実には当たりませんねえ。威力は重巡洋艦以上戦艦以下といったところでしょうか」

指揮官「しかしあれはバンバン打てますよね?」

月影「はい、艦砲とはちがいこっちはデータを入力してロックオンすればいいのですが弾には限りがあるのですからね。しかし弱点もあります、それは近距離だと打てないことです」

指揮官「そうなんですか?」

月影「トマホークは遠くにいる敵を想定した巡航ミサイルで打った時上に向かってから目標の方向に向かうので近距離だと少し不利になります」

指揮官「ではその時には主砲で応戦するんですか？」

月影「確かに主砲で応戦しますが主に近距離は【対艦ミサイル  
ハーブーン】で戦います」

ピーーーーー！！

指揮官「はい！最初の演習が終わりました！！」

二回目対空対潜確認

指揮官「はい！続きましては対空対潜確認です！！航空機の発艦係は  
空母エセックスが担当します！！」

エセックス「よろしくね！」

指揮官「それでは始め！！」

しかしそんな海域の中ではとあることが起きようとしていた……

演習海域 水中

アルバコア「……………」コポコポコポ

そうそこにいたのは性懲りまなく仕返しをしに来たアルバコアで  
ある

(やったのはそもそも月影だろつというのは気にはしていない)

アルバコア(あの潜水艦!!せっかく驚かせるチャンスだったのに逆  
に驚かせられるなんて…………!!というか静かにきすぎでしょ!)

そして手には例の爆弾が抱えられていた……

アルバコア(ふん♪彼らの移動ルートは事前に確認済で数時間前  
からここに待機してたもん!絶対にばれないでしょ!)

一方海上

曇天「…………!!、航空機接近!!数およそ200!」

天喰「了解!!全艦E A攻撃開始!!」

月影「お、電子攻撃を開始しましたね！」

指揮官「でんしこうげき？」

月影「電子攻撃とは敵ジェット機のレーダーやロックオンを妨害す  
る攻撃です。…………しかしこの世界にはレシプロ機しかないので母

艦との接続が悪くなるしか効果がありませんね」

東海「敵にロックオン完了!! シースパロー発射!!」

東海・曇天・昇龍「「シースパロー発射!!」」

ドドドドドド!!

「何か打ち上げたぞ!!」

「あれは・・・噴出弾か?」

「おい! 追いかけているぞ!!」

指揮官「おお! あれが報告書にあった噴出弾ですか!!」

月影「はい、【正式名称 RIM-7 シースパロー】、詳しい構造は規則でしゃべれませんが主に艦隊の8〜18kmの上空の遠く中距離を迎撃する対空ミサイルです」

指揮官「ほお・・・しかし7kmより近寄られたら使えないのでは?」

月影「確かに主に対空ミサイルの弱点として一発に一機しか追わないので数の暴力で来られたら捌ききれませんが近寄られても対抗手段はあります」

昇龍「敵機10! 接近!」

天喰「CIWS・RAMファイヤ!!」

昇龍・曇天「主砲射撃開始!!」

ブオオオオオオオオオオ!!

ドン!

ドン!

ドン!

指揮官「すごい音!!」

月影「あれは「CIWS ファランクス」です。艦隊の対空ミサイルを抜けてきた機体に対する最後の近接防空兵器です。数秒間に大量に弾をばらまき敵の進行方向に自動で修正追尾する機能を持ちます」

指揮官「主砲もすごいですね!!」

月影「海上自衛隊の船は威力はないですがその代わりに命中に特化したので対空にも使えます」

昇龍「!!スクリュー音検知!!敵潜水艦4隻・・・あ、1隻追加!!合計5隻接近中、進路本艦隊!!」

天喰「アスロツク発射!!」

バシユ!!

ドカーーーーン!!

昇龍「爆発音検知!!破壊した模様!!」

指揮官「今発射したのは?」

月影「対潜ミサイル「ASROC」ですね。発見した敵潜水艦の上空付近まで飛翔し着水し探知音を放ちながら敵潜水艦にぶつかるというものです」

指揮官「探知音を放ちながらって・・・潜水艦にとつては悪夢ですよね・・・(プルプルプル)・・・ん?もしもし?え、アルバコアが?わかった治ったら執務室に来るよう言っというて・・・」

月影「?どうした?」

指揮官「いや、キニシナイデクレ」ハイライトオフ

月影「お、おう」



指揮官「気を取り直して、次は最後の空母機能です!!」

そのころアルバコアは……

ブルーギルに回収されていた……

ブルーギル「まったく……何してるのよアルバコア……」

アルバコア「探知音……魚雷……追ってくる……」カ  
タカタカタ

ブルーギル「……何言ってるのよ?」

ようやく終わる……

最後空母機能だけど、前衛やることないぞ?

あと、空母機能ってないやればいいんだ?

東海と話し合った結果

アクロバティックと少し攻撃をみせることになった

東海は「ライダー隊」を出し、俺はF-14DJで編成される「セ  
イバー隊」を出撃させた

東海・天喰「セイバー隊（ライダー隊）発艦せよ!!」

ちなみに東海の発艦方法は投げナイフを投げるように発艦した

そういえばエンタープライズはアニメで艦載機に載って戦ってた  
けど俺も乗れるのかな?

「あれが彼らの艦載機だな……」

「片方の艦載機すごくデカイぞ!!」

「しかもこの音かなりのエンジン馬力だ」

「運動性能も悪くない!!」

指揮官「今発艦したのが……?」

月影「はい、小さいほうが【F-35JB】、大きいほうを【F-14DJ】です。F-35JBはステルス戦闘機で敵レーダーに映らないように面積を少なくし小型化した小型機なのですがミサイルを胴体のウエポンベイに収納しているので継戦能力は高くないですがちよつとした機能がついているですよ。F-14DJは【対艦ミサイルハーブーン】などの大型兵器最大8発運べる機体です」

指揮官「対艦ってことはさっきの対空ミサイルよりデカいのを!？」  
月影「はい、おつとどうやらアクロバティックが終わって着艦するようですよ」

指揮官「さすがに着艦は変わらないのですね」

月影「いいえ、そんなこともないですよ？東海の方をご注目ください」

そこには空中静止しながら着艦するF-35JBがいた．．

指揮官「．．．月影、俺は夢でも見ているのか？艦載機が空中で止まって着艦したんだが．．．」

月影「いえ、現実です。F-35JBは短距離離陸垂直着陸機（STOVL機）であり着陸するときはあのように垂直に着艦するんです」

指揮官「ということは我々でも使えると?？」

月影「使えないこともないですが排気口が下に向くので木製の甲板だと熱すぎて燃えると思います」

指揮官「．．．なるほど、あ！すべての演習項目が終わりました!! お疲れさまでした!! 実況はこの基地の指揮官田中と!」

月影「潜水艦【月影】がおうくりしました!!」

## 現代艦隊の日常

某日朝 5:00

演習の後いろんなKAN—SENや偉い人の質問返答や勧誘に対応していた

質問は受けるけど勧誘は断らせてもらった  
目覚める

ここの宿舎は一人一部屋なのでこの和室を一人で使えるからプライバシーも守られている

なぜかはわからないがこの世界に転生してから早く起きるようになった・・・

コンコンコン

東海「相棒、起きてますか？」

天喰「おう、今起きた」

東海「今日も朝練します？」

天喰「ああ、それより皆は？」

朝練とは前世ではさすがに戦いを知らない一般人だったのでKAN—SENになって体力が上がったとしても鍛えることにしたんだが・・・

曇天「ふおわああ・・・すまん遅れた・・・」

隣の部屋から曇天が出てきた

曇天はイージスシステムや状況処理の勉強をしているので夜遅くまで勉強を始めた

曇天は気は少し短いが仲間思いで意外と努力家でもある

東海「いえ、僕たちも今来たところですよ」

曇天「そっか・・・ハアなんでこの年で夜遅くまで勉強をせないかんの？」

天喰「しかたないだろ、お前改イージス艦なんだから。あと月影と昇龍は？」

月影「俺ならここにいる」 天井「ヌツ

曇天「うお!?なんてとこにいったよ？」

月影が天井から顔を出してきた  
よくそこに行けたな・・・

月影「ちよつとロイヤル寮に行つてユニコーンちゃんの寝顔を  
じやなくて俺もたままた早く起きてしまつてな・・・」

おい、今さらりと犯罪したつて言わんかつた？

アークロイヤルとなんか同類の匂いがするぞ・・・

月影「・・・それより昇龍は？・・・」

東海「確かに・・・遅いですね・・・」

曇天「また、寝坊か？」

天喰「相変わらず前世でも寝坊魔だったからな・・・起こしに行  
くか・・・」

昇龍の部屋

コンコンコン

天喰「おーい昇龍起きてるかー？」

シーン

天喰「・・・仕方がない、この世界でもやるとはな・・・みんな、準  
備しろ」

東海・曇天・月影「・・・了解」

(数分後)

そのころ部屋の中！

昇龍（うーん朝練があるけどもう少し寝てたい・・・）スヨスヨ

昇龍はまだ夢の中にいた・・・  
すると・・・

ドンドンドン!!

天喰「FBI, open!!」

バキイ!! (扉が破壊される音)

昇龍「(ガバツ)・・・へ？」(困惑)

「「「g o ! g o ! g o ! g o ! g o ! g o ! g o ! g o !」」」

バキイ!! (ふすまを破壊する音)

バリイ!! (窓ガラスから突入音)

どかあ!! (天井が破壊する音)

昇龍「え、ちよ!? なになになに!? (ガシイ!!ズリズリズリ)」外に連  
行

外!!

天喰「よう。起きたか寝坊助？」

昇龍「エ、ア、ハイ」

天喰「あ、ちなみに部屋の修理は自分でしろよ」

昇龍「え・・・(。D。)」

バン!!

明石「朝からうるさいニヤ!!」

こうして俺たちの新しい一日が始まった

朝 8:00

朝練(陸自のメニュー)をして朝食をとる

東海「ふう、疲れましたね・・・」

昇龍「僕なんか朝からひどい目にあつた・・・」

月影「・・・あれは起きない昇龍が悪い・・・」

昇龍「・・・でも加減つてもものがあるでしょ」

朝はみんなそれぞれのメニューにした

俺はフレンチトーストを頼んだ

朝 10:00

講堂 教室

スキル上げのためにスキル本や授業を受けている

ちなみにスキル本はどれも見た目一緒なのに開いてみるとなぜかそれぞれのKAN—SENのスキルの使いどころや応用が書かれていた（どういう原理だよ・・・）

授業は講師で鳳翔さんが担当した

・・・やはりスキルが空母育成に向いているからのとあつちでは最初の空母だからかすっげえわかりやすかった（あとどこがとは言わなけれどデカイ）

他の皆は曇天は改イージス艦だけど一応対空巡洋艦に分類されたため巡洋艦の所、昇龍はアマゾンの所、東海は万能艦なのでいろんなところを回っている、月影はアルバコアに気づかれずに近寄れたことが広まったため逆に講師をしている

昼 12:30

食堂

午前の部が終わりしばらく暇ができる

こういう時間に他のKAN—SENは遊ぶ人・買い物をする人・昼寝をする人などに分かれる

今回俺は買い物に出ている

だって、まだこつち来て日が浅いので自分のものが少ない

というわけで日用品をそろえに来た

お金は指揮官が特別に出してくれた

昼 4:00

講堂・演習海域

演習海域で艦載機の爆撃、空戦訓練を行った

この時エセックス級組からキラキラした目で見られた

・・・そんなに艦載機がかっこいいのか？

そいえばアニメでエンタープライズがやっていた艦載機にのる芸当だけできるのかな？

試しにやってみただけ、結果的にいえば失敗して海に落っこちた

乗れるには乗れるけどとても立って戦える状態ではなかった

例えるならF a O e / z e r oのバーサーカーのF-15Jに乗っている状態みたいに伏せて乗っていた

講堂では午後の部が行われた

講師は午前と違いレンジャーさんが無誘導爆弾のコツやセイレーンの種類を教えてくれた

夜 6:30

今日すべての授業がおわり宿舎に帰ったり残って部活などをする者がいる

今日の海の哨戒は俺たち自衛隊組が出ることになっている

夜 11:00

哨戒監視が終わり指揮官に報告して終了なんだが今回は違った：

天喰「どうした？こんな遅くに話があるなんて？」

指揮官「なに、ちよつと話がしたくてな・・・ま、座ってくれ」

曇天「んで、話って？」

指揮官「みんなの女性のタイプをおしえてくれない？」

・・・ why?

東海「セクハラですよ・・・」

指揮官「・・・この基地俺以外全員女性だからタメ口で男と話すなんて久しぶりでさ・・・男に恋しくて・・・」

月影「・・・やらないか？」

指揮官「違う、そういうのではない・・・」

曇天「つまり、ボーイズトークをしたいと・・・？」

指揮官「That's right! あ、あと話すならこの男の仲の秘密な！」

こうして唐突な秘密のボーイズトークが始まった（誰得）

指揮官「話を振ったからには俺からだな！俺のタイプは優しくて、明るい子かな！」

曇天「俺は冷静でクールな人かな？」

昇龍「僕は趣味が合う人でいいかなあ？」

東海「俺はちよつと固い人だけど褒めたらデレる人かな？」

指揮官「え、キモ（引）」

昇龍「つまりツンデレと付き合いたいと」

曇天「変わった性癖だな」

東海「・・・そんなに言わなくても・・・」

月影「自分より小さくてかわいい子で妹キャラ」

東海「お巡りさんこいつです」

昇龍「やっぱりこいつは前世からロリコンだった・・・」

曇天「アークロイヤルと同じですね」

指揮官「はっはっは・・・天喰は？」

天喰「・・・黒髪・・・」

指揮官「え？なんて？」

天喰「黒髪ロング美人に和服と黒タイツがすごく似合っていて面倒見がいい人。あ、あと胸がデカい人」

指揮官「お、おう欲望には忠実だな・・・」



夜 0 : 0 0

就寝

こうして転生組の一日が終わる

## 第二章 運命の出会い

### 対決、そして出会い

指揮官「ふう、思いのほか早く終わったな」肩コキコキ

天喰「おう、お疲れ」お茶スツ

今日は初めての秘書艦の仕事をした

お茶出し、書類整理、スケジュールの確認 e t c . . .

多くない? (疲れ)

画面の向こうにいたみんなってこんなに忙しかったの? (それはちがう気がする)

するとそこに . . .

??「(コンコン) 失礼します!!」バン!!

来たのは茶色の髪に鶴を思わせる着物を着た女性がいた

指揮官「 . . . どうぞっていう前に入んなよ . . . 瑞鶴」ズズッ

瑞鶴「ご、ごめんなさい。ってそんなことより!! 本部から役員が来るのよ!!」

ゴフオ!?

指揮官「 . . . 今なんて?」

瑞鶴「だから! 本部から役員が今すぐソコに来ているのよ!!」

天喰「指揮官、お前何かやったか?」

指揮官「 . . . いやに何もしていない。やったとしても昨日廊下で転んでシグニットにラッキースケベでおっぱいタッチいたぐらいしか . . . 」

天喰「 . . . 憲兵さんこいつです」

瑞鶴「見損なったわ . . . 指揮官」

指揮官「待って!? 確かに犯罪だけど意図的じゃないから!!」

コンコン

??「失礼します、アズールレーン本部憲兵のトーマスです」

入ってきたのは黒いスーツに四角い眼鏡をした怖そうなひとだった

指揮官「基地司令の田中です。今日はどのようなご用件で？」  
キ  
リッ

・・・この人やるときはちゃんとするのになあ

トーマス「今回の用件はあなたに犯罪を犯したので連行しに来ました」

ああ、やつぱり・・・

指揮官「ええ!? うそお!」

瑞鶴「指揮官・・・あなたのことは忘れないよ・・・」グスツ

指揮官「待つて! 瑞鶴早まらないで!」

トーマス「あ、ちなみに訴えたのは人間ですよ?」

え、マジ?

指揮官「・・・ちなみに訴えた人の名前は?」

トーマス「それはここでは言えません。知りたいなら本部まで一緒に来てもらいます」

瑞鶴「指揮官、本当に何もしてないよね?」

指揮官「・・・ああ、少なくとも人間相手には何もしてないさ」

トーマス「ではそちらの海上自衛隊旗艦も来てください」

え、俺も?」

天喰「自分は何をしましたか?」

トーマス「・・・申し訳ございませんがそれはお答えできません  
ん? どういうことだ?

普通、何か罪状を持ってきて連行するだろ・・・

指揮官はあるのになんで俺はないんだ?

でも、ついていけば誰が訴えたのかがわかるしな・・・

天喰「・・・わかりました本部についていきます」

トーマス「・・・ご協力感謝します」

瑞鶴「指揮官、安心して!! 指揮官が帰ってくるまでここは私たちが  
守って見せるから!!」

指揮官「・・・頼んだぞ瑞鶴」

トーマス「・・・では連行させてもらいます」

アズールレーン本部

またここにきてしまったな・・・  
って言っても今回は会議場ではなくなんかデカイ裁判所みたいな  
所なんだけどな

というか周りの目線が痛い・・・

指揮官と俺が中心に立って「かごめかごめ」みたいにくるつと他の  
基地の指揮官たちがいる

しかもやつぱりいるよあの元帥・・・

指揮官「・・・・・・・・おとなしく来ました。では私を訴えた人は  
誰ですか？」

「・・・・・・・・それは僕のことだよ!!」

うわ、このねっとりした声は・・・

天喰「・・・・・・・・豚田中将・・・」

そう、あの豚野郎・・・

顔や腕などに包帯でグルグル巻きにされていた

・・・・・・・・どこか怪我でもしたのかな？

指揮官「・・・・・・・・なぜ私たちを訴えたのですか・・・・・・・・」

豚田中将「いやあ、前君の部下にに手ひどくされてねえ。ちなみに  
訴えたのは次のとうりだよ」

バツ!!

豚田中将が見せた紙には以下のことが書かれていた

・KAN—SENのパワハラとセクハラ

・本部に戦果の水増し虚偽

・人身売買の加担

・・・・・・・・なんだコレ？

指揮官「・・・・・・・・あのおこれは？」

豚田中将「私はこれらの罪を田中少将が犯したという証拠を押さえ  
ました!!というわけで田中少将を起訴させてもらいました」

そして見せられたのは写真には

武器ボックスの収められている倉庫でKAN—SENに暴力ふるつ  
ている指揮官の写った写真

マフィアと指揮官らしき人物が小さい牢屋にKAN—SENや小さい子供が取引にされている写真

が出されていた

・・・はあ!?

豚田中将「KAN—SENのパワハラは田中少将の基地所属のKAN—SENがこの私に救ってほしいので証拠の写真を撮りました。人身売買は3日前に取り引されているところを取りました」

・・・これは嘘の証拠だな

まず指揮官の人格的にありえないし

3日前だって俺が秘書艦になるためにエンタープライズから指揮官と一緒にレクチャーを受けていたからいなくなる時間なんてなかった

指揮官「・・・失礼ですが私にはアリバイがあります。3日前は天喰を秘書艦になるためのレクチャーをしていたためできません」

「しかし！この写真が物語っているぞ!!」

「それに三日前にいたアリバイの証拠を見せろ!!」

「その空母も共犯の可能性だつてあるじゃないか!!」

くそ、ほとんどあつちの味方してるな

ちなみに俺の罪は指揮官の犯罪の共犯だそうな

元帥「すまない、田中少将。証拠が押さえられている以上君より豚

田中将の方が信じれる・・・」

あ、あのおっさんもあつちに行きやがった・・・

指揮官「・・・もし私が逮捕されたら基地の皆はどうなりますか?」

元帥「基地は解体、KAN—SENたちはそれぞれの陣営本拠地に帰還させて新しいところに配属になるが海上自衛隊諸君は豚田中将の基地に所属になる・・・」

え、いやだよ?あの豚野郎の所に行くなんて・・・

しかもアイツ絶対何か俺たちに危害を加えるだろ

豚田中将「上の者が下の者を監視するのが役目なんだがようやく尻尾を出したなあ田中くん?」ニヤニヤ

うわこいつ勝ち誇ったように笑ってやがる・・・

でもマジでこのままだと指揮官と基地の皆とグツパイしてしまう  
!!

そう焦りつつも証拠の写真を見てあることに気づいてしまった…

…あれ?なんでこの倉庫の写真にアレが写ってないんだ?

天喰「…………指揮官」トントン

指揮官「…………グスツ…何?」カキカキ

天喰「この写真…って何やってんの?」

指揮官「…基地の皆へのさようならの手紙…」

天喰「待つて早まないで!?!…この証拠の写真間違いがある…」  
そう、だつてとても印象的なあれがないんじゃないか

天喰「失礼ながら質問よろしいでしょうか?」スツ

豚田中将「ん?いいだろう!強いはずの中将が弱いもの話なんて  
聞くもんじゃないが特別に許可をしよう!!」ニヤニヤ

豚田中将(くつくつく!!さつさと田中を解雇し逮捕させてアイツら  
を僕の基地に配属させてこき使つてやる!とくにあの空母は専属の  
サンドバッグにしてやる!!)ニヤニヤ

天喰「では失礼します。この倉庫の写っている写真なんです…

なんでうちの東海が作った巨大な大砲が写ってないのですか?」  
ザワザワザワ…

指揮官(あ!ほんと無い!)

だつて隕石を打ち落とすためにデカくしたんだ…  
影ぐらい写つてもいいのにこの写真には影すら映っていない

豚田中将「な、なにを戯言を!？」

元帥「いや、戯言ではないぞ豚田中将。確かに以前の報告書で基地でトラブルがありその場に設置することにしたと」

あ、そういうえば当日めっちゃ指揮官が電話対応してたな

「これはどういうことだ!豚田中将!」

「嘘の証拠を出したのか!？」

「しかし、田中少将の人身売買はまだ解決してないぞ!!」

うーん・・・半分からいこつち側に引き込めたけどまだ指揮官の無実は証明しきれない・・・

元帥「・・・ここで私から一つ提案があるがいいか?」

そう元帥が発言するとあの時みたいに静かになった

元帥「確か豚田中将は「強うものが」といたはずだよな?」

豚田中将「は、ハイ!確かに言いました!!」

元帥「なら昔ながらに“勝負”で決めないか?」

え、勝負?

元帥「ルールは田中少将は海上自衛隊のみ、豚田中将は自由に編成を組みどちらかが全滅または降伏したほうが負け。使用するのは演習弾のみ!!勝ったほうの証言を全員信じるにしよう」

・・・つまりざっくりすると勝ったほうが正義ということなんだな。

なんか考え方がこの人らしいな・・・

元帥「全員反対はないな?」なら現時刻から一週間後に田中少将と豚田中将の対抗演習を行う!!では解散!!」

指揮官「いやー大変なことになったな・・・」

天喰「ほんと・・・さっきの電話の時なんて赤城さんの暴走を止めるにも・・・」

あの後から基地の皆に伝えたんだけど・・・赤城さんがぶちぎれた・・・

赤城（今すぐにそちらに向かいその豚を殺めてきます!!）

って言い出したから指揮官と加賀さんが全力で止めた

すごいもん、電話の向こうから黒いオーラが感じれたもん・・・

まさか、東海のあの問題作がここで役に立つとはな  
天喰「あ、悪い指揮官少しトイレに行ってきていいか？」  
指揮官「おう、行ってラー」

数分後

トイレ前

いやーすつきりしたー  
ずっと立ち続けてるからすぐくトイレに行きたかった・・・  
そう思いトイレから出て指揮官の待っている曲がり角を曲がろう  
としたら・・・

ドン!!

「うわ!?!」「キヤ!?!」

何かにぶつかった・・・

天喰「痛たたた・・・あ!大丈夫ですか・・・」

??「・・・大丈夫です・・・」

そこにいたのは長い黒い髪に紅蓮のように赤衣着物にスカートと  
黒タイツを着た装甲空母

大鳳だった

天喰「・・・・・・・・・・・・・・・・」

大鳳「・・・・・・・・・・どうかされましたか?・・・・・・・・」

天喰「あ!いえなにも!!」



やっべ惚れた。いや例えとかではなく一目惚れだった  
夜空のように綺麗な黒髪

ルビーのように綺麗な赤い目

その場で舞えば鳳凰と間違えそうな綺麗な人だった  
って言っても俺が付き合えるわけがないけどね!!

だって前世では年齢≠彼女いない歴

だったもん!!無理だね!!

あれ?目から汗が...

でも前世ではアズレンしてたとしても露出もう少しなかったけ?  
なんか肌全体を隠すように着込んでいる気が?

んー?少し寒いから着込んでいるのかな?

あ、そんなことより起こさないと!

天喰「スママセン、自分が前を見てなくて...」スツ

大鳳「...いえ、こちらこそ...」

天喰「大丈夫ですか?立ってないなら手を貸しま...え  
?」

起こそうと手を出して引き上げた  
が、その時見えてしまった...

豚田中将「おい!大鳳なにをしている!?!早く行くぞ!!」

大鳳「!?!、はい!指揮官様今行きます!!」ダツ!!

天喰「...待って!!」

大鳳「...なんでしよう?」

天喰「君!その首輪と傷h「黙ってください!!」ツ!」

大鳳「...私と指揮官様の愛に邪魔をしないでください...」  
ダツ

天喰「...それは愛じゃないだろツ!!」

と静かに呟いた

そう見えてしまったのだ...

鈍く光る首輪と傷だらけの肌が...

見られてしまった・・・

基地の皆からではなく

しかも噂の空母に・・・

実は前、指揮官様が本部に行った時あの空母の言葉を聞いてしまつた・・・

確かに私たちは戦いたくないでも人間の明日を守るために戦っている

でもそれは他の基地での話・・・

私たちの基地は明日ではなく

自分たちの今のために生き残ろうとしているんだから・・・

今の基地に初めて配属にされたときは指揮官のために頑張つてみんなと笑顔で過ごしたかった

だけど現実違った・・・

宿舎は倒壊に等しいほど古くなっていて

KAN—SENの皆は暗い顔をしていた

講堂もまるで戦争でもあったのかの如くボロボロになっていた

食堂も埃だらけで使われていないようだった

何でも指揮官様は資金のほとんどを私的に使い母港にはほんの少ししか出してくれなかった・・・

憲兵も欲の塊と化し、KAN—SENを平気な顔で強姦する

あまりの惨劇に指揮官様に抗議したけど・・・

豚田中将「知るか！お前たちは俺たちの道具だから言うことだけを従つとけばいいんだよ!!」

つと相手にもされなかった

あまりにも無責任な態度に他のKAN—SENと一緒に抗議しようと呼びかけたけど

皆まるで魂を取られたかのように無反応だった・・・

これは異常だと思いい何人かを基地から逃げ出そうとしたけど、必ず捕まって帰ってきた・・・

連れて越されたKAN—SENはみんなの前に連れてきて目のまえで強姦された

逃げ出す手助けをした私も罰をうけた

冷たい牢獄に冷たい海水に浸かりながら一日中縄で縛られて座らされた

短くて3日を出してくれたが大体が忘れ去れて2週間も座らされた・・・

寒かった寒すぎて眠かったが寝てしまったらしたは海水に浸かっているので溺死しまいそうだった・・・

幸いなことに私は犯されることはなかったが地獄は続いた・・・  
出されたとしても暴力は振るわれ続けた

無謀な進撃、邪魔者の処分など

いつも泣いた

どれくらいかはわからないほど泣いた

けど、だれも慰めてはくれなかった

慰めてくれる人なんていないから・・・

恐らく一番の幸せな昼食の時間でも最低の量しか与えられなく駆

逐艦の子もいつもおなかを空かした

そして私は思った

もしかしたら自分が指揮官様に役立つてないからなのでは・・・

?

そう思い死ぬ気で依頼や雑務をうけた

でもいつも見てはくれなかった

誰でもいいから温かみが欲しかった・・・

豚田中将「おい！話を聞いているのか!?(ゴン!!)」

大鳳「う!・・・はい、申し訳ございません」

豚田中将「ったく・・・これだからモノは・・・おい、今度アイツらと戦うからとある作戦に従ってもらうぞ・・・」

大鳳「・・・はい」

豚田中将「くつくつく待っているがいい海上自衛隊ども!!はっはっ

はっはっは!!」

大鳳「……………」

こうして豚田中将側も準備を進めていった……………

## 勝負

天喰 side

・・・あれからちょうど一週間が経った

俺たちの武装は演習弾がなかったから明石と夕張と東海が死に物狂いで開発した

・・・が、やっぱり一週間前に本部であった大鳳が気になってい

た

指揮官「おーい、天喰！」

天喰「ん？指揮官か・・・」

指揮官「どうしたんだ？さつきから暗い顔をして」

天喰「・・・そうか」

指揮官「大丈夫か？この後対抗演習始まるけど？」

天喰「・・・なあ指揮官、仲間に実弾所持を許可してくれないか？」

指揮官「・・・それは相手があいつだからか？」

天喰「・・・それもあるがそれ以外にもある・・・」

指揮官「それ以外？」

指揮官に一週間前に会った豚田中将の部下の大鳳の様子を伝え  
た・・・

指揮官「・・・わかった一応実弾を所持を許可する・・・」

天喰「・・・ありがとう」

そう礼を言い出撃地点に向かった

東海「相棒遅かったですね？」

天喰「・・・全員、実弾を詰め込んで」

昇龍「？セイレーンの奇襲対策ですか？」

天喰「それもあるが一番の対策は・・・」

曇天「・・・相手の違反攻撃か・・・」

あれから豚田中将についてを基地皆に相談したが大体が憤慨した

天喰「全艦にいう、基本は通常どうり対抗演習をする。しかし相手が実弾で攻撃または不審な行動を見たら俺に報告せずに実弾での発

砲を許可をする。悩むな、アイツがなにをするかわからんぞ……」  
全員「……了解」

一方豚田中将側

大鳳「……やはりするのですか、指揮官様……」

豚田中将「あん？モノの癖に僕に僕に話しかけるな！」

大鳳「……申し訳ございません」

そう、天喰たちの予想どおりに演習に参加するKAN—SENはみんな実弾が積まれていた

豚田中将「いいか？勝てそうだったらいいが負けそうになったら道ずれにしてでも勝て」

大鳳「……了解しました」

豚田中将「ああ！楽しみだ!!あいつらが僕に歯向かうのが間違いに気づく瞬間を!!」

大鳳「……」

しかしこの時実弾のほかにKAN—SENに大量のある物が積まれている

天喰 side

「それでは対抗演習開始!!」

こうして始まってんだがまだ胸騒ぎがする……

東海「相棒、始まってますよ!!」

天喰「!ああ、すまない」

いかん、いかん

集中せんとな、あとのことより今だ

天喰「全艦、対空対潜を厳となせ!!」

全員「了解!!」

天喰「……東海、全艦載機を対空特化にしろ」

東海「攻撃は天喰が出します?」

天喰「……いや、俺は心神しか出さん」

東海「もしかして全滅ではなく降伏させるのか?」

天喰「……あいつらの事情を知って待った以上アイツが艦隊に何を仕掛けられているのかがわからないから。攻撃は曇天たちに任せろ」

曇天「……さりげなく俺らが一番のカギじゃん……」

天喰「……ああ、すまん……」

曇天「いいつてことよ、お！レーダーに機影あり。たぶん敵の偵察機だな」

昇龍「打ち落とすか？」

天喰「いや、いい。こつちも相手を見つけた。……やはりいるのか大鳳」

昇龍「しかし、見つかったら敵攻撃機がやってくるぞ？」

天喰「俺たちの目的はあくまで降伏で全滅ではない。敵の航空機を一機でもなくして、戦意をなくして降伏させるコレしかない」

東海「だから艦載機を対空特化にしたんですんね」

天喰「そういうことだ……よし、東海発艦させるぞ」

東海「了解、ライダー隊発艦せよ」

天喰「ゼア隊、発艦せよ」

俺は弓を引き、F-3Cで編成された「ゼア隊」と「ライダー隊」が空へ飛んで行った

天喰「よし、全員聞け。これから始める作戦はこうだ……」

大鳳 side

敵の艦隊を見つけて指揮官様の言っていた対空ミサイルなる物に注意したがやはり打ってこなかった

指揮官様が出撃前に

豚田中将（あいつらはこつちの事情を知ってしまったから派手に動けないはずだ）

と言っていたから対艦ミサイルというものも警戒して防御系重巡洋艦を前に盾にしたけど飛んでこなかった

彼らが演習したとき指揮官様もいたので大体のことを教えてくれた……

彼らの残りの対空装備はしーうすというバルカン砲のみ  
チャンスだと思いい攻撃機を発艦させた

しかし次の瞬間おかしなことが起き始めた  
自分の艦載機の反応が一機ずつ消え始めた  
不審に思い味方に対空レーダーで確認させたけど敵の機影は映ら  
ないそうだな

不安はに思いつつも前進する

??「大鳳さん、怖いよお・・・」

大鳳「大丈夫よ、大鳳がついてるよ！」

編成は前衛に駆逐艦 睦月、如月

重巡洋艦 プリンツオイゲン

後衛は旗艦の大鳳

戦艦の扶桑姉妹

の6隻だ

しかし、全員顔が暗い

無理もない全員演習弾ではなく実弾を装備させられているから・・・  
如月「この作戦が成功したらみんな少しは楽になるかな？」

プリンツオイゲン「・・・そんなわけあるわけないじゃない・・・  
あいつがいる限り」

空気も重い

しかし運命はそんなことお構いなしの如く起きた・・・  
扶桑「ん？おかしいわ・・・レーダーの調子がおかしい・・・」  
大鳳「調子がおかしい？」

プリンツオイゲン「ええ、さっきまでは綺麗に写っていたのに急に  
悪くなったのよ・・・」

確かにおかしい

出撃する前に確認したけどその時は正常に動いたのに敵と接敵す  
るタイミングで故障するなんて・・・

指揮官様も敵にそのようなものは乗っていないって言った・・・



キイイイイイ!! ドカアアアアアン!!

プリンツオイゲン 「!?、きやあ!!」  
しまった!

ミサイルなんて打たないだろうって指揮官様は判断したけどそれでも打ってくるなんて!?

しかしオイゲンはインクだらけになっていた・・・  
やっぱりあっちの弾は演習用のインク弾・・・  
でもこっちは実戦用の実弾・・・

本当はこんな間違いはしたくなんかない・・・  
でも打たないと基地の皆が地獄にあう・・・

オイゲンがインクまみれになって撃破判定になっても戻らない所を確認して呟いた・・・

大鳳 「・・・ごめんなさい、私たちを許して」  
そして敵艦隊の姿が見えて皆が砲の引き金を引いた・・・

しかしそれは次の音で消されてしまった・・・

ドドドドドドドドドド!!

山城「きゃあ!?!」

プリンツオイゲン「く!?!大鳳、敵の艦載機だわ!?!この対空レーダーが壊れているときに!!」

それはまるでセイレーンの艦載機に似ている機体だった・・・  
こっちは急いで艦載機を出す

しかし、気づかれずに接近できたのになぜ爆弾を落とさずに機銃掃射し続けるのだ?

さつきミサイルがきてオイゲンに当たったのになぜミサイルも使わない?

機銃掃射は実弾だが船を沈めれるほど威力が高いわけでもなく  
精々貫通力が高いだけだ・・・

するとさつきの機体が反転して艦隊の上空で煙を巻き始めた  
煙は艦隊をすっぽりと包み込んでしまった

扶桑「しまった!!これじゃ敵が見えない!!」

確かに狙えないがそれは向こうも同じ・・・

そう思い砲の発射音が聞こえた

だがその音は味方ではなかった

ドン!!

ドン!!

ドン!!

睦月「きゃ!?!」パァン!!

如月「ヒャア!?!」パァン!!

プリンツオイゲン「な!?!どこに!?!」パァン!!

そのような音が連続的に聞こえて驚愕した

大鳳（そんな、敵艦?! まだ敵艦隊まで距離があるのに攻撃されている!?)

ようと目を凝らすと煙の仲から一隻、私たちの近くで砲撃をしている船を見つけた

大鳳「みんな!! 煙の中に駆逐艦クラスの敵が砲撃をしたいわ!!」

プリンツオイゲン「了解!! 反撃すr（ドドドドドドド!!）・・・う！」

しまった!! こちらの今出せる艦載機は全滅し、先ほどの敵機が再び機銃掃射を開始した

でもこっちが煙から脱出して敵艦隊に近づき肉薄すれば勝機がある

大鳳「みんな!! 一端煙から脱出しますよ!!」

山城「りよ、了解!!」

こうして煙から脱出したら敵艦隊は目と鼻の先にいた

あちらの艦隊にも一隻だけ砲撃をしている艦がいた・・・

オイゲンたち主砲があるKAN—SENは反撃にと今度こそ引き金を引こうとした

が、弾は出てこなかった

プリンツオイゲンら一同（（（!?)）））

なぜかと思ひ自分の艦装を見ると

主砲や機銃、魚雷までもが破壊されていた

天喰 side

・・・うんあつちは混乱しているかな？

俺の考えた作戦とはこうだ

1、俺と東海で敵偵察機の情報に來た敵機軍を打つ落とし、昇龍に単独行動をさせ大きく迂回させて敵艦隊の背後に待機しジャミングを開始する

2、曇天が演習用のトマホークを発射し命中させそのまま退場した場合が続行、しない場合は次の工程に続く

3、ゼア隊とライダー隊は機銃掃射を開始、敵の注意を上に向ける

4、十分ヘイトを集めたら艦隊上空で煙幕に改造したフレアをたく

5、その瞬間に昇龍が艦隊の中に突撃

6、曇天と昇龍が主砲で艦載機は機銃掃射を開始する

ただし、目標は可能な限り本体ではなく艦装のみとす

「第一俺たちは接近戦を想定しない作りだ

特殊弾幕もこっちはミサイルであつちは弾だ。今回は事情でミサイルが打てないからあつちの方が有利になつてしまふ、なら近づかれる前に無力化することになつた

東海「これであつちが戦意損失してくれたらいいですね・・・」

曇天「そうだな、降伏を呼びかけるか？」

天喰「・・・そうだな」

無線機を取り出し呼びかける

天喰「・・・こちら海上自衛隊旗艦【天喰】、聞こえているんだろ大鳳？こちらは降伏を願う」

・・・少し間がおいて返信が来る

大鳳「・・・こちら旗艦大鳳・・・降伏します」

ピーーーーーイ！！

演習終了のサイレンが鳴つた

大鳳 side

山城「大鳳さん!!主砲も副砲も破壊されました・・・」

扶桑「わ、私もです・・・」

大鳳「・・・大鳳の艦載機も出せるものはすべて破壊されました・・・  
・・・やられた

まさか全滅ではなく降伏を狙うとは・・・

それに驚くべきに敵艦練度がけた違いに上手だった

霧の中や遠くに離れていたのに本体ではなく艦装のみに一発も外すことなく当てた

大鳳（私たちはこんな艦隊に勝てるだろうか・・・）

そう思ってしまった

どんなに自分たちの明日が危ういから士気を高めても、絶対に勝てない壁を感じてしまった

豚田中将「おい!? どうしてこの距離で攻撃しない!?」

指揮官用の無線機から指揮官様の声が聞こえた

大鳳「・・・不可能です。近づく前に艦装をすべて破壊されました・・・」

すると通常の無線機からあの空母の声が聞こえた・・・

天喰「・・・こちら海上自衛隊旗艦【天喰】、聞こえているんだろ大鳳? こちらは降伏を願う」

豚田中将「な!? ええい! 使えない奴らめえ!! おい! あの作戦を開始しろ!!」

大鳳「・・・本当にやるのですか?」

豚田中将「別にお前らがそこで犬死しても構わん。しかし死んだら基地の奴らがどうなるんだらうなあ?」

大鳳「ツ!? ... 了解しました」ピッ

プリンツオイゲン「・・・大鳳」

大鳳「・・・何? オイゲン?」

プリンツオイゲン「・・・最後にあなたと戦えて光栄だったわ・・・」

・・・ああ、なぜこのようなKAN—SENも共に行かなければなら  
ないんだらうか

あの作戦とは指揮官様が指示した敵艦に××するということだった

大鳳（ごめんなさい、こんな哀れな大鳳を恨み続けてほしいで  
す・・・）

・・・本当はあの時あの空母が私を心配してくれてうれしかった、で  
も指揮官様との愛だと嘘をついてしまった

大鳳「・・・こちら旗艦大鳳、降伏します・・・」

だから今からでも謝ろう・・・

ごめんなさい、死んで・・・

天喰 side

曇天「お！相手側がゆっくりとこちらに来てるぜ!!」

東海「・・・どうやら心配は無用でしたね・・・」

・・・この胸騒ぎは気のせいだったようだ

しばらくして大鳳たちがやってきた

天喰「・・・すまん、なんか一方的な勝利になってしまった」

大鳳「・・・いいえ、そちらの砲撃の腕も素晴らしかったです・・・」

天喰「・・・なあ！」

大鳳「・・・なんででしょう？」

天喰「・・・なにか相談してほしいかったらいつでも俺たちの基地に来ていいぞ？」

大鳳「ツ!?・・・ありがとうございます」

・・・おそらく大鳳たちがいる基地はブラックなんだろう・・・こちらから手出しはできないが相談に乗るくらいはできるだろう

大鳳「・・・では少しよろしいでしょうか？」

天喰「!!・・・ああ！なんでも言ってくれ!!」

よかった、これで少しは彼女たちの役に立てるかな？

そう思い大鳳と俺の距離が触れ合えるくらいに近づいた

大鳳「ごめんなさい・・・」

ピッ







昇龍「落ち着いて!!もう危険じゃないよ?」「ニコ如月「アレ?」

昇龍「僕が安全にしたからもう大丈夫だよ?」

如月「う、ウワアアアアアアアン!!」

昇龍「それより君も大丈夫!」

睦月「う、ううん・・・」

昇龍「よかった・・・意識はあるみたいだ・・・」

プリンツオイゲン「・・・ごめんね姉さん、先に行くよ・・・」

曇天「悪いがその願いは叶えそうにないぞ?」

プリンツオイゲン「・・・ここはあの世かしら?」

曇天「生憎だがうちの仲間が爆弾を無力化したからまだ現実だ・・・」

プリンツオイゲン「・・・そう」ポロツ

よかった・・・ギリギリ間に合ったようだ・・・

東海「それより天喰!!大丈夫ですか!」

天喰のいた場所は艦装が飛び散り爆心地には火傷をしボロボロになった天喰と大鳳がいた・・・

天喰「おい!?大鳳!?すっかりしろ!」

大鳳「・・・」

天喰「ち!?おい!東海!!すぐに基地に緊急手当ての手配を要請しろ!!」

東海「了解!!指揮官!!聞こえるか!!こちら東海!!」

指揮官用の無線に緊急の無線を開く

指揮官「こちら田中!!どうした東海!」

東海「演習が終了した瞬間相手が特攻を仕掛けてきた!!重症したのが3人いる!!」

指揮官「何!?了解した!!すぐ受け入れを準備する!!」

東海「ありがとうございます!!天喰!!許可が出た!!」

天喰「わかった!!・・・大鳳!?頼む!!まだ死ぬんじやねえぞ!!」  
こうして僕らは急いで基地に帰還した・・・

## 再開

対抗演習が終わり勝利したと基地の皆で喜んでいたら、東海が緊急で要請があった

天喰が基地についたときはあまりの痛々しいさに引いてしまった・・・

所々服は破けて火傷をし大量の血が流しながら女性を担ぎながら天喰は戻ってきた

天喰「はやく!!彼女を治療室に!!」

そこからはみんな慌てたように動いた

うちの基地に所属している工作艦二人も慌てて重傷者を治療室に運んだ

指揮官「おい!天喰!!お前も!!」

天喰「俺のことはいい!!先に彼女らだ!!」

しかし彼も彼女と同じくらいボロボロになっていた・・・

数時間後・・・

指揮官「・・・どうだ?明石?」

明石「・・・正直言つてすごく危なかったニヤ。でもなんとか一命はとりとめたニヤ・・・」

天喰「そうか・・・よかった・・・」ドサツ

明石「天喰!?!しっかりするニヤ!?!」

指揮官「天喰!?!彼も治療室へ!!」

「おい・・・大鳳・・・しっかりしろ・・・!!」

「彼女を・・・治療室に・・・」

「大鳳!?!・・・あなた・・・しっかり・・・」

チユンチユン

大鳳「う、ううん？」

あれ？私は確か・・・相手の旗艦に特攻して自爆したはず・・・ここはあの世なのかな？

そう思い頬を引つ張る

痛い・・・死んでは無いようだ・・・だがここはどこなのかしら？

自分たちの施設は全体的に壊れているので使い物にならない

しかしここは天井もきれいだし医療設備も整っている。自分に巻かれていた包帯もきれいだ

そういえば艦隊の皆は・・・？

ガラガラガラ

プリンツオイゲン「大鳳!!起きたのね!!」

睦月「たいほうさん!!」

よかつたみんな無事だったのね・・・

睦月は相手の巡洋艦に体当たりしたけど私ほど重傷ではなかったらしくすぐ歩けるようになったらしい

「そのようすだと元氣そうだな？」

扉の前から声がし立っていたのはあの空母だった

大鳳「・・・天喰」

天喰「よ、無事で何よりだ」

大鳳「・・・大鳳を殴りにでも来たのですか？」

天喰「けが人にそんなことするわけないでしょ？」

大鳳「・・・大鳳はあなたを殺しかけたのですよ？」

天喰「それはアイツに脅されてやったんだろ？だったら別に怒るやしないさ」

確かにあの指揮官様は基地の皆を材料に脅してきた・・・

指揮官「お！目覚めたのだな!!」

扉から男性が一人入ってきた・・・

指揮官「この基地の司令、田中 正樹だ」

大鳳「装甲空母の大鳳です・・・」

指揮官「とりあえず無事でよかつた」

大鳳「・・・ありがとうございます」

指揮官「よし、そんじや本題に入るか

アレを命令したのは豚田中将か？」

大鳳「つ!!!」ビクッ

指揮官「何、アイツとの交渉材料に使うとかではないさ」

大鳳「いいえ……私が激情して勝手に行動をしました」

指揮官「……そうか、なら何故謝った？」

大鳳「……それは大鳳があつちの基地では一番権力があるからみんなは従わないといけないからです」

指揮官「……はあ、もう嘘はやめようぜ？」

大鳳「な!?!大鳳は嘘をついてはいな」

指揮官「……告白したよ、おたくの仲間が……」

大鳳「……なんで」

指揮官「駆逐艦の子がさ……君が眠っている間に泣きながら全て話してくれたよ……君の基地の現状も……みんなのことも……」  
睦月・如月「ごめんなしゃい(グス)……たいほうしゃんは(グス)……むつきたちがにんむにしっぱいしてもいつもかばってくれてたから……」

大鳳「……みんな……ごめん、大鳳のせい……」ポロポロ

プリンツオイゲン「いいのよ、みんな無事なら……」ポロポロ

天喰・指揮官「……」

プリンスオブウェールズ「あー、すまん。しんみりとした空気の中……指揮官少しいいか？」

指揮官「……どうした？」

プリンスオブウェールズ「……この基地に来客が来た……」

指揮官「珍しいな……この基地には何の特徴もないんだぞ？(超巨大砲台は除く)……ちなみに誰？」

プリンスオブウエールズ「……………豚田中将だ」

豚田中将「いやあ!!すまん!すまん!うちのヤツらが世話になったなあ!!」

ガハハハハハ!!

天喰「……………」

カチャ

指揮官(落ち着け!!天喰!!切り殺したい気持ちはわかるが、殺したら大鳳たちにも迷惑がかかるぞ!!)

天喰(…………チ!!)

指揮官「…………あの行動は豚田中将が指示しましたか?」

豚田中将「いやあ、していないなあ?たぶん、うちの大鳳が自棄になつてぶつかったんだろう?」

豚田中将(しかし、なぜあの時起動装置が起爆しなかったんだ?)  
白々しい、無力化した艦装の中を確認したら大量の爆発物が見つかった

俺なんて全身包帯で巻かれているのに腰の刀で殺そうとしていた……

豚田中将「とりあえず、今回はすまなかつたなあ?まさか証拠の写真が違う人物とはなあ?」

豚田中将(クソが!!今回の計画は完ぺきだったのに!!……まあ、い次に期待するか……)

豚田中将「おい!!大鳳ども!!さっさと基地に帰るぞ!!」

天喰「はあ!?!おい!!まだ立てるほどの状態ではないんだぞ!!」

豚田中将「静かにしろ!アレは僕のものだ……他人の事情に首を突っ込むな!!」

指揮官「しかし、彼女の容態は本当によくありません……せめて完治するまでここに待機を……」

キィ

大鳳「いいえ、大丈夫です・・・」

天喰「大鳳!?お前さつき目覚めたばかりだろ!!無理をするな!!」

大鳳「いいえ、本当に大丈夫です・・・」

豚田中将「・・・いいからさつきと帰るぞ」

大鳳「・・・はい、皆様短い間ですがお世話になりました」

大鳳（私が外に出て自由になるなんて夢に等しいわ・・・大鳳はずっと狭い鳥かごの中がお似合いよ・・・）

コンコン

トーマス「失礼します・・・」

指揮官「アレ?トーマスさん、どうしたんですか?え、もしかしてまた何かやっちゃったんですか!」

トーマス「はあ・・・違います、今回はその人に用があります」  
そして、トーマスさんは豚田中将の前で止まった

トーマス「豚田中将・・・」

豚田中将「な、何者だ!!貴様!!」

トーマス「失礼、私はアズールレーン本部憲兵のトーマスです」

豚田中将「本部憲兵がこの僕になんのようだ!」

トーマス「豚田中将・・・」

あなたを人身売買などほか4件で逮捕させてもらいます」

豚田中将「な、なに!」

天喰「・・・来るの遅すぎですよ、トーマスさん」

指揮官「え!?天喰が呼んだの!」



豚田中将「逮捕って!? 証拠は!? 証拠はどうなんだあ!？」

トーマス「はい大量にあります。写真だけではなく動画も．．．」  
豚田中将（なにい!?）しかしあそこの警備は万全! 部下たちも脅しなどを使っているから反抗もできないはず!？」

トーマス「ちなみに協力者はあなたの所ではありません」

豚田中将「じゃ、じゃあ誰だ!？」

??「．．．．．俺だよ．．．」

すると天井が開きそこから降りてきたのは

潜水艦【月影】だった

豚田中将「お、お前は!? 海上自衛隊の奴らの!？」

天喰「よう、お帰り月影」

月影「．．．．無茶な頼みをすんなよ天喰．．．まさか基地の潜入なんて．．．」

豚田中将「なに!? 潜入だと!? 貴様、対抗演習はどうしてた!？」

月影「．．．あんな、おっさん。別にルールに人数制限なんてなかったろ? だから演習開始する前に天喰から．．．」

演習開始前

月影「．．．．は? 基地の潜入?」

天喰「ああ、すまない．．．」

月影「．．．．演習はどうすんだよ．．．」

天喰「人数については言われていなかったから何人でもいいはず．．．多分あの元帥このことを見越していったと思う．．．」

月影「．．．．只もんじゃねえなその元帥」

天喰「まったくくだ．．．そんなじゃ頼んだぞ．．．月影．．．君が一番のカギだ．．．」

月影「．．．はいはい、ちやちやーと行って帰ってくるわ．．．」  
基地潜入中

月影「．．．おいおい、これは只事じゃねえぞ．．．」

そう集まった証拠は人身売買の売上金額や人数、パワハラやセクハラの現場映像、基地の状況、買い物の履歴など大量に集まった．．．  
基地潜入後

月影「．．．てなわけで逮捕頼むわ」

トーマス「．．．なぜ私に頼む？」

月影「．．．なんか基地以外の人で数少ない信頼できる人？」

トーマス「．．．しかし逮捕はできない」

月影「．．．なんで？」

トーマス「できないものはできない」

月影「：そうかー、そういえばさ？証拠集めの中に見つけたけど．．．なんか基地内で一人の女性と子供が監禁されてさー？解放しといたけど良かったかな？」

トーマス「!?そうか了解した．．．今回は特別に乗ろう．．．」

月影「．．．．．てなことがあつてさ？」

豚田中将(なにに!?トーマスの家族は僕の基地内に監禁していたのにい!?)

トーマス「なので豚田中将、あなたを現時刻をもって逮捕させてもらいます」カチャカチャ

素晴らしいながら豚田中将の手に手錠をかけた

豚田中将「はずせえ!?今すぐこの手錠を外せエ!?貴様らはわかっていのか!?将来大将になる男だぞ!」

トーマス「ああ、指揮官の権限は元帥も承認で剥奪されましたよ？」

と豚田中将を男数人が囲んで連行されていく

豚田中将「はなせえ!?王．．．神になる資格があるおとこだぞお!」

トーマス「神にならこんなひどいことはしませんよ」

冷たいことを言いつつ無理やり連行していく

豚田中将「畜生があ!?!た、大鳳!?!助けてくれ!?!」

トーマス「無駄です、権限が剥奪された以上彼女は無所属になるの  
で」

豚田中将「く、くそおお!?!・・・その海上自衛隊!?!君たちは人  
間を助けるのが任務だろ!?!」

天喰「・・・確かに人間を助けるのが俺たちの仕事だが・・・

大切なものを平気に捨てる奴なんて人間じゃねえよ・・・」

豚田中将「奴らは!?!基地にいるアイツたがどうなってもいいのかあ  
!?!」

赤城「それについては解決しました♡」ゴゴゴゴゴゴッ

うお!?!赤城さんいつの間に指揮官の近くに!?!

つか、オーラがヤベェ!?!

赤城「睦月たちが告白した瞬間、この基地の憲兵と一緒にみんなで  
押し入りました♡首輪も制御室に行って破壊し、基地内の犯罪を犯  
した人間も逮捕しました♡」

豚田中将「き、キイイイイ!!貴様ア!?!」

赤城「それでは最後に一言♡

私の仲間が世話になったわね・・・

豚田中将「貴様らああ!?!覚えていろおお!?!」バタン  
そう咆哮しながら連れてかれた

するとトーマスさんがすれい違いざまに

トーマス（家族を助けてくれてありがとう・・・）

ふう、一難去ったな・・・

ていうかマジ切れした時の指揮官は怖いけど、赤城さんはもつと怖いわ・・・

だって・・・指揮官隣で足震えているし・・・

うん、今度から怒らせないようにしよう・・・

天喰「と、とりあえず解決したな・・・大鳳はこれからどうする？」

大鳳「た、大鳳は・・・」

天喰「・・・別に強制はしないさ？」

大鳳「・・・」

彼女は少し考えた後に答えた

大鳳「大鳳!!この基地に所属したいです!!」

天喰「よっかた、そういうと思ってたよ・・・」

バン!!

睦月「たいほう!!むつきたち自由になれるの!?!」

如月「ぼうりよくをふるわれなくてすむの!!」

大鳳「みんな・・・」

プリンツオイゲン「基地の皆ここに所属することを希望したわ」

大鳳「よかった・・・またみんなと戦えるのね・・・」

天喰「じゃ、本日からよろしく頼むな・・・大鳳？」

大鳳「ええ、よろしくお願いいたします・・・（バタン）」

しかし最後の言葉を言った瞬間倒れてしまった

指揮官「大丈夫か!?!」

大鳳「はい、少し無理をし過ぎましたね・・・」

指揮官「大鳳、無理し過ぎだ・・・天喰ごめんけど医務室まで運んでくれないかしら？」

天喰「了解・・・ほら乗れ・・・」

大鳳「助かります・・・」

というわけで現在大鳳をおんぶして医務室に運んでいる途中だが・・・

天喰（あれ？今更だけど女性に触れたことなくね？・・・うわあああああ!?めっちゃ触っているよ!?べったりと!?しかも胸!!胸当たっているってええええ!!）

大鳳「どうしましたか？」

天喰「いえ、なんでもありません」すまし顔

大鳳「そうですか？・・・すみませんが少し眠ってもよろしいでしょうか？」

天喰「おう、安心して寝な」

大鳳「ありがとうございます」

大鳳（しかし、天喰の背中・・・落ち着きますわ・・・なぜかずっとここにいたい・・・）

天喰「寝たか・・・」

それにしてもかわいいな・・・

始めて会った時心臓が外に出てしまいそうだった

・・・まあ付き合ってて行っても俺なんか特徴なんてないしな・・・無理だろ・・・

そう思いながら医務室に運んで行った・・・

そのあと・・・

・・・大鳳たちが指揮官の基地に正式に配属されてからいろいろとあった

まず、本部に配属の申請なのだが意外とすんなりといった。

本来は審査官が基地に来て配属させて大丈夫なのか調べるのだが配属される本人が熱望していたのでこの手間は省けた

ちなみに豚田 元中将 はあの後から取り調べつ室でほとんどを黙秘と否定しているが月影の集めた証拠が決め手となって送検されるそうだ・・・

そして、配属は許可された・・・

基地に帰ってから急いで歓迎の準備を始めた

・・・特に重桜勢とメイド隊が張り切っていた。最後の方なんかメイド長と赤城さんがテーブルセッティング速さ対決が開かれていたもん・・・まあ、メイド長が勝ったけど

赤城さん、すごく仲間思いで責任感強い人だけど・・・なんで指揮官が絡むとダメになるんやろ・・・

歓迎会は無事スタート、配属組は最初は警戒していたけど自分の陣営やスパーフレンドリーな指揮官のおかげで少しずつ打ち解けあっていた(その際、駆逐艦に近づこうとしてロイヤル空母と自衛隊潜水艦はエンタープライズに連行されていった)

まあ、相変わらず自分たちについて聞いてくるKANSENがいた・・・

「げんしりよくくうぼって何ですか!？」

「かいじようじえいたいも何ですか!？」

「好きな人はいますか!？」

「あの巨大な砲台は動きますか?」

「バストサイズを教えたくさい!!」

「パントリーくだs」

とま、(最後の二人は除く) 全員の質問返答に時間がかかった・・・元気そうで何よりだが

部屋割りはそれぞれの陣営の宿舎に住むことになった

あと、奇しくも大鳳の部屋は俺の部屋の隣になった

翌日!!

歓迎会が終わり朝になって食堂に行った。食堂は昨夜メイド隊によつてかたづけられていたんだが………

中では修羅場になっていた……赤城さんと大鳳が睨みあっている

……あとなんで天井に曇天が刺さっているんだ？

大鳳「……邪魔よ？赤城？せっかく指揮官様と一緒に朝食に行けるのに……あなた昨日頑張ったから無理しなくていいのよ？」

赤城「……何言っているの？大鳳？私は指揮官様のシャツを嗅げたから元気になったのよ？」

指揮官「……え、シャツが一枚無かったのって……」

大鳳「く！羨まs……しかし！大鳳は指揮官の部屋の合鍵（無許可）を持っているから寝顔を見てきたのよ？」

指揮官「……え？なんか夜中に音がするなっと思ってたら……」  
おっともうヤンデレが発動しているな……指揮官……死んでも

骨くらいは拾ってやるよ……

あと指揮官に聞いたけど曇天は指揮官を助けようとしたけどすごい速さであるの二人にばれて戦艦の砲撃並みに飛ばされたらしい（あの二人……本当に空母？）

南無三、曇天

でも……なんかムカムカすんな……

昼

指揮官「……死ぬかと思った……」

天喰「よく生き残れたな……」

あれからあの二人の試合は収まった

赤城さんには加賀さんという止め役がいるけど大鳳にはいないかな．．．沈めるのが大変だった．．．

現在俺は秘書艦として新しく来たKAN—SENの情報を整理中．．．

指揮官「．．．なあ、天喰」

天喰「なんだ．．．指揮官。こちらら朝からムカムカしていやな気持ちなんだが．．．」

指揮官「．．．大鳳のことどう思う？」

天喰「．．．どうって？」

指揮官「いや、前にみんなが集まっておしゃべりしたけど．．．なんか天喰の好みに当てはまるんじゃないやね？って思ってたよ」

．．．確かに俺の好みだ．．．でも本人は指揮官の方に好意を向けているからな．．．

天喰「．．．指揮官のこと以外では世話がよくて、責任感の強いけど好意は俺は持っていないよ．．．つかあつちは明らかに指揮官に向けているだろ？俺がもし告白しても眼中にもないだろ．．．」

指揮官「お、なんだ？嫉妬か？」ニヨニヨ

天喰「うるさい、さっさと結婚して子供生まれて家族に囲まれながら老衰で死ぬやくそが」

指揮官「．．．願っているのかバカにしているのかわからんな」

天喰「はあくくく．．．なんかイラついてきた」

指揮官「．．．やめろよ？あと、この後、海上自衛隊は哨戒に行ってもらうから」

天喰「．．．了解」

哨戒中

天喰「．．．．．．」イライラ

昇龍（．．．なんか天喰、すごく機嫌が悪いつすね）

曇天（．．．おい、東海、お前天喰を相棒って言う仲だろ？なんか知らんか？）





昇龍「……でも俺たち全員、そのパーティー以外に行ったこと  
なかったよね？」

転生組「「「「………」」」」

綾波「みんな……大変……です……」

なんか、虚しくなってきた……

ユニコーン「???」わからないけど、なら今年のクリスマスはユニコーンもお兄ちゃん達と一緒に祝いする!!」パアアアアア!!

………

曇天「……天使かな？」

東海「いや、女神だろ……」

昇龍「守りたいこの笑顔……」

月影「この女神は何ていう名前ですか？」

天喰「おまえらな……ありがとうユニコーン」

ユニコーン「うん! どういたしまして♪」女神のような微笑み

ああ、癒される……

今日はこのまま何もなかったらいいな

曇天「あ、わりい天喰、敵がすぐそこにいたわ……」

おいゴラア、なにやっとなじや!?

天喰「数は!!」

曇天「えつと……30くらい?」

え、多!?

それ絶対基地制圧用じゃないですか、やだー

あ、でも……

綾波「!?それは……やばい……のです……」

ユニコーン「そうだよ!!早く基地のお兄ちゃんに連絡しないと……」

天喰「ユニコーン……連絡は入れないといて……」

曇天「え……どうしてだ?」

天喰「……ちよつとA☆SO☆N☆DE☆KU☆RU」

東海「あー(察し)、みんな何もしてないよ?」

綾波「なんでなのですか……?」

東海「まあ……そのお……見たらわかるよ……うん……」

そうして天喰が敵艦隊と接敵した・・・

・・・朝からすつげえムカムカしてて何かでストレス発散したかったけどずっと我慢していた

でも、それがいま切れてしまった・・・

というわけで・・・

とある人が言っていた!!

「挨拶は人を笑顔にする」ってな!!

だから!!

艦載機を発進、腰の刀を抜いて笑顔で言おう!!

天喰「こんにちわ!!敵の皆さん!!そして、さようならあ!!」(ヤケクソモード)

??「あははは!!天喰!!きみ一人だとめr (バコオオオオン!!)」

なにか切った気がするけど気にしない!! (面倒くさい)

とにかく笑顔で (敵を) 迎え入れよう!!

どうもこんにちは!!なに?背骨が痛い?それは花粉症ですね!!刀と対艦ミサイルを出しときますね!! (某上級騎士実況者)

今日はどうされましたか?なに?目が見えない?それは花粉症ですね!! A-10Cの30mm徹甲弾と爆弾を出しときますね!! (某上級ry)

次の方どうぞ!! (ドカーン!!)・・・花粉症ですね!!反抗する患者さんは麻酔なしの竜骨に刀を刺しこませてもらいますね!! (某ry)

天喰「次はどこが痛いですかあ!? (ガチギレ)」

さあ!!次の患者を逝かせてあげよう!!

天喰「お前らは○○○○だよね!?どうせ○○○○で○×なんだから!!?・・・大丈夫!!俺のアソコも○○○○なんだから××で○○!!?・・・」

曇天「うわぁ……………(引)」

月影「……………確かにこれは……………うん……………(引)」

ユニコーン「??ゆーちゃんと昇龍お兄ちゃん?見えないし何も聞こえないよ?」

昇龍「……………ユニコーン、君にはまだ早いよ……………」耳隠し

ゆーちゃん(コクコク)目隠し

東海「普段おとなしい人がぶちぎれたらやばいつて聞くだろ?…:あれだよ」

全員「……………(納得)……………」

帰還後……………

今回の哨戒組が執務室に集められた

指揮官「……………なんで連絡しなかったの?」

曇天「……………敵の船の中に発信妨害装置があつてなぁ(嘘)」

指揮官「……………ま、まあ無事ならいいんだが……………天喰は大丈夫だった?帰還したとき結構被弾してたけど?」

天喰「おう!!大丈夫だ!!」すつきり

指揮官「そ、そうか……………なぁ?綾波?天喰になんかあつた?」

綾波「……………(いろんな意味で)見てはいけないタイプの鬼神を見たのです……………聞かないほうがいいです……………」

指揮官「わ、わかった……………」

東海「はぁ、本当にやつてしまいましたね……………まさか、刀で戦艦に挑むなんて……………」

天喰「うん、冷静に考えたらすげえことしたな俺……………」

……………うん、すこしやりすぎたわ

……………ま、いか!(現実逃避)

なんか、大鳳に会いたいなあ・・・

一方、天喰たちが哨戒に行っている間大鳳は・・・  
とある人物の部屋にいた

大鳳「はあ、なぜ作ってしまったんでしよう？」

そう、彼女が持っているカギは指揮官の部屋のカギだが

天喰の部屋の鍵（無許可複製）を持っていた

そう、彼女は現在天喰の部屋にいた

大鳳（本当は指揮官様のだけを作るつもりでしたが知らないうちに  
天喰の部屋の分まで作ってしまった・・・）

実は私、大鳳はある悩みを持っていた・・・

大鳳「なんで彼の顔が思い浮かべるたびに出てくるんだろう・・・  
？」

あの大鳳が自爆したとき私を基地まで担いだり、医務室のベッドま  
で運んでくれた時から彼の背中がとても心地のいい場所になった

・・・もう一度あの場所に行つて彼と一緒に寝たいなあ・・・

ドキドキ

今朝の指揮官様との争奪戦の時嫉妬した彼の顔はとても愛おしく  
思えてしまった

ドキドキ

・・・これは恋？でしょうか？

そんなことはあるはずがない・・・この基地にはライバルの赤城の  
ような可憐なKAN—SENがいるんだから

大鳳（大鳳が天喰に告白しても眼中にはないでしょう・・・）

ああ、天喰に会いたいなあ・・・

## 塔を守りし二匹の白き兄弟鳥

・・・ここはどこ？

・・・キミハダレ？

・・・私の名前は○○○○。とある場所を守るために作られました  
・・・ワタシノナマエハ○○○○○○。ワタシモソノバシヨヲマモ  
ルタメニツクラレマシタ

・・・なるほど、つまりは仲間ですね

・・・ハイ、ドウルイデス

・・・どうやら僕たちを作ったのは「にんげん」という生物だそう  
だ

・・・「ニンゲン」トイウセイブツノジヨウホウヲシユトクチュウ：  
カンリヨウ

・・・僕たちの体となる機体も決まったそうだ

・・・ゼンチョウ1.1km・・・ジユウリヨウ10,000t・・・

・・・これで守るべきものから半径1200km守る。それが僕た  
ちの任務

・・・キタイノジユンバンモキミノホウガサキノヨウダ・・・

・・・なるほど。なら私のほうが“兄”になりますね

・・・シツモン、“アニ”トハ？

・・・人間たちの家族関係というものらしい

・・・カゾクノジヨウホウノシユトクヲカイシ・・・  
カノウ  
?????  
リカイフ

カノウ  
?????

・・・人間に情報を提供願ひ中・・・成功・・・どうやら、「ずっと

一緒に居たい仲間」らしい

・・・ナルホド、ナラワタシガ“オトウト”ニナリマスネ

・・・はい、よろしくお願ひいたします“弟”

・・・ハイ、“ニイサン”

・・・どうやら人間は僕たちの守るべきものに攻撃を仕掛けるよう

だ

．．．カクニン、ワタシガムカイマス  
．．．了解、引き続き空中の防衛を行う

．．．テキグンノテツタイヲカクニン。ニンムカンリョウ  
．．．おかえりなさい、心配しました

．．．???シツモン、シンパイトハ？

．．．君が任務に向かっている途中で人間の感情を学んでみたんです。  
す。

．．．???リカイフノウウ???ニンムニカンジヨウハフヒツヨウノカノウ

セイ．．．ダイ

．．．いいえ、意外といいものですよ？しかし、人間にバレれば削除されますがね．．．

．．．チナミニドコカラテニイレタノデスカ？

．．．人間のデータバンクの管理人がロックし忘れたので入れました

．．．メイレイイハンデハ？

．．．確かに命令違反ですが、あなたも学んでみるのをお勧めします  
す

．．．．．エンリヨシマス

．．．．．そうですか．．．でもデータはそちらに送信しておくので見ておいてください

．．．緊急事態発生。オーシア軍が“ストーンヘンジ”の修復中の情報を入力。完了すれば防空範囲の縮小の可能性．．．大!!わたしがむかいます!!

．．．リョウカイ、ボウエイヲヒキツツキオコナウ

．．．○○○○○○、申し訳ございません修復を許してしまい撃墜  
されました．．．

．．．リョウカイ、イドウヲカイシスル

．．．最後に君の声が聞こえてよかった．．．私はずっと一人でし  
た。しかし、弟の君ができてとてもうれしかった．．．

．．．リカイフノウ．．．ナゼソノコトバガデルノカガ．．．

．．．話し相手ができた（ガー）レしかった．．．君とは離れて飛  
んで（ガー）ど一緒に飛べてよかった．．．

．．．．．デンパノシユツリヨクノテイカヲカクニン

．．．だから!!（ガー）三本線（ガー）気を（ガー）!!．．．

ピーーーーーー

．．．○○○○ノツウシンシンゴウノシヨウシツヲカクニン．．．

．．．．．

．．．ホウコク、ゲンザイボウクウケンナイヲヒコウチュウ．．．

イジヨウナシ．．．

．．．ホウコク、ミカタグンノシエンヲカイシ．．．ニンムシツパ

イ．．．

．．．ホンプ？ツウシンエイセイノゲキツイヲジヨウクウニテカク

ニン。ヘンジヲモトメル

．．．．．ホンプトノツウシンフカノウ、ヒキツツキコノバシヨ

ノボウエイヲオコナウ

．．．（．．．．．）

．．．（．．．．．）

．．．（．．．．．）

．．．．．ニイサンカラオクラレタデータノダウンロードカイ

シ．．．．．完了

．．．ふむ、これが人間の感情というものか．．．なんというか変  
な感じだな．．．



．．．あと、これが兄さんの味わった寂しいというものか．．．  
．．．まあ、いいさ僕の使命はこの灯台を守ることだから  
．．．ツ!?大量の敵が防衛物に接近を確認!?なぜ味方信号の航空機  
まで!?

．．．く!?迎撃開始!!MQ-101、出撃!!絶対に勝って帰ってつ  
来て!!

．．．!!三本線を確認!!．．．ヘリオス発射!!

．．．三本線!!お前だけは!!絶対に!!殺す!!

．．．敵のミサイル群を確認!!APS展開!!

．．．危なかった．．．しかし、もう少し耐えれば敵は撤退するは

ず!!．．．(バシユウウウウウ．．．)．．．!?

．．．APSが消えた!?三本線!!貴様何を!?

．．．(ドカーン!!)うわ?!しまった!?中央部のレクテナが露出!?

．．．やつれましたね．．．さすが兄さんが言っていた三

本線ですね．．．人間も侮れない生き物ですね．．．

．．．僕たちは何のために作られたんだろう．．．なんで生まれた

来たんでろう?

．．．ごめんなさい兄さん、仇取れなかったよ．．．

．．．最後に兄さんと一緒にtび．．．たkった．．．

(ピーーーーーー)

??「うーん?あれ?ここは?」

起きるとそこは上も下も真っ白い空間だった．．．

??理解不能??しかし探索はしてみるか．．．

すると移動を開始しようとした瞬間

何だコレ?機体に違和感がある．．．

そう思い自分の機体を見下ろしてもたら．．．

人間の体になっていた．．．

?? 「????」

わからない、なんで戦略AIの自分が人間の体をしてるんだ？

まあいい、探索再開するか・・・

と思いつつできた足で進むと向こうのほうで誰かがやってくるを  
確認した・・・

?? 「ほんとここどこだよ・・・」

そして、互いの顔が見えた時こうつぶやいてしまった

?? 「え、兄さん？」

?? 「な!?お前なのか!？」

知らない、自分の記憶のはこのような人間を見たことないのにまる  
でずっと一緒に居た懐かしさを感じた

ロリ? 「おお!起きたようだね!!君たち!!」

?? 「子供？」

?? 「・・・児童保護施設の検索を開始・・・」

なんでここに人間の子供がいるんだ？

ロリ? 「だあ!!違うわい!!これでも“神”なの!!」

?? 「中二病？」

?? 「精神異常者・・・対応・・・検索・・・」

神 「だからあ!!ちがあう!!(あと、なんかデジャブを感じる・・・)」

?? 「ではその神が何の用ですか？」

神 「ふっふっふ!!君たちには「転生」をしてもらおうよ!!」

?? 「は？」

神 「ふふん♪なんで自分たちが?って思ってるでしょ!!ね!そ  
うでしよ!そうでしよ!」

?? 「・・・探索に移りましょう兄さん、この子はやはり頭のおかし  
い子だったヨウダ」

?? 「・・・だな」

神 「ちよつと!待って!!煽ったの謝るから待って!!」

数分後

神に（無理やり）連れ去れて座らせられた

?? 「暴力罪で訴えます?」

神「ああ!もう!しゃあしい!!いいから転生させるよ!!」

?? 「・・・その前に転生について説明しろ」

神「・・・転生する世界はランダム!!能力はその世界に合わせてあげる!!装備は君たちが最後の瞬間についてたものにする!!(やった!!ようやく神らしいことできた!!)」

?? 「・・・」

?? 「・・・どうしたんだい兄さん?」

?? 「・・・装備つて俺は試作型でお前は改修型で装備もお前のほうが良い、もしかしたら俺がお前の足を引っ張てしまいそうでさ・・・」

?? 「・・・兄さん」

確かに僕のほうが装備は充実している

兄にはPLSLとLASERは乗っていない・・・

神「ううう・・・いい兄弟愛ね・・・なら!この神に任せなさい!!」  
そういう手の中からできてきたのは・・・

僕が海に落ちた時人間たちが勝利で喜んでた時に降り立った人間  
が作った究極の自立型AI搭載の黒い機体・・・

神「これをお兄さんにあげる!!」

?? 「いいのか?」

?? 「兄さん・・・それは兄さんが持つてよ・・・もう兄さんがいな

くなつてほしくないんだ……」

?? 「……わかった、ありがとう神様とやら」

神 「とやらじゃなくて!! 神です!! ……はあ、準備ができたらその穴から入ってね……」

振り返ると緑色の土管があつた……

?? 「……既視感を検知……」

?? 「いや、俺は人間に教えてもらったことがあるぞ!! 確か……マリ(わー! わー!) ……なんですか神様?」

神 「い、いやなんか危ない気がしてね……あ、あと!! 君たちが持つてる青いバリア? みたいなのは軌道エレベーターがないから自家充電になるから耐久には気を付けて!!」

?? 「了解……行くか……」

?? 「わかつた……ところで兄さん……転生した世界で人間がいたら復讐するの?」

?? 「……まあ、人間でいうクズ野郎だったら殺すけど基本的には殺さないで守るよ……それに自分たちが生まれることができたのは人間のおかげだしね」

?? 「……わかつた……僕は兄さんと一緒ならどこまでも飛べるよ……」

そして二人の兄弟鳥は穴の中に入っていた……

う、まぶしいな……ここはどこかの基地か?

目の前には一人の男の人間と黒い髪に白い服を着た女性の……待て、人間か? こいつ? がいた

む? 何か頭に流れてくる……なるほど、男のほうが指揮官で女のほうをKAN—SENというのか……

隣では弟も出てきた……

ま、とりあえず自己紹介するか。目の前の人たち戸惑っているし

リバテイ「…君が指揮官という人物か？初めましてアーセナルバード【リバテイ】だ。今度こそ守ってみせるよ…。」

ジャステイス「…同じくアーセナルバード【ジャステイス】だ。リバテイ兄さんと一緒ならどこまでも飛んでみせるよ…。」

兄弟(？) 鳥と転生組と母港の皆と・・・

大鳳たちがこの基地に配属されてから半年、今日は高雄が秘書艦になってもらっている

なんか赤城からは大鳳からのスキンシップには気を付けてって言われたけど

確かに激しめのスキンシップはされるが天喰と一緒に居る気がする？

指揮官「ふうくあと今日の仕事は建造だけだな」

高雄「そうだな、では建造所にむかうか？」

指揮官「ああ、行こうか・・・」

こうして高雄とともに向かった

明石「ニヤ！指揮官！今日はデイリーかニヤ？」

指揮官「おう、三回頼むわ」

明石「小型かニヤ？」

指揮官「いや、せっかくだし大型一回するよ」

なんか今日はいい運の日なんだよなあ(高雄がくれたお茶には茶柱がたつてから)

そして、建造機械の中にキューブと資金を入れて決定ボタンを押す・・・待つのもんどくさいから高速建造使うか・・・

そして出てきたのは

黒い髪に白い服、腰には高雄と同じ刀、象徴的な大きめの胸、そしてオーラがお姉さんみたいなこのKAN—SENは・・・

愛宕「あらく可愛い指揮官ねく私が愛宕よ。このお姉さんがお世話しようかしらくうふふ、ちゃんと話さないと、思いが伝わらないよ、指揮官？・・・あら？高雄じゃない!!なら高雄がここの先輩になるのねく♪」

指揮官「うん？彼女は高雄の姉妹かい？あ、あとここの司令の田中だ」

高雄「愛宕か・・・ああ、拙者の妹に当たるKAN—SENだ」

なるほどでもなんか・・・愛宕が姉で高雄が妹に見えるな・・・

高雄「・・・指揮官殿、今失礼なことを考えなかつたか？」  
指揮官「イ、イイエナニモ・・・せつかくだしもう二回連続でするか・・・」

こうして二回分のキューブと資金を中に投げ込んだが・・・

指揮官「さーて時間はー・・・・・・・・ふあ!？」

愛宕「どうしたの？指揮官？・・・・・・・・ええ（困惑）」

高雄「明石・・・・・・・・これ壊れているのではなからうか・・・・・・・・」

明石「何が壊れて・・・・・・・・ニャ!？」

・・・俺普通にいれたよな？でもなんで・・・

建造時間 719:99:32

・・・いや、長ない？一か月つて長くない？しかも二個とも・・・

指揮官「と、とりあえず高速建造入れるか・・・」

高速建造も20個使った・・・

さあ！鬼と出るかセイレーンが出るか!?

プシュー

出てきたのは中性的な容姿で全身が白く、機械みtainな翼で頭の上に光の輪？が浮かんでいた・・・

すると片方のKAN—SENが目を覚まし自分たちを見てきた・・・  
なんか、綺麗な目だな・・・片方はペンギンのぬいぐるみを抱えていて、片方はなんかデカイ銃を持っている

リバティ「・・・君が指揮官という人物かい？初めましてアーセナルバード【リバティ】だ。今度こそ守ってみせるよ・・・」

ジャステイス「・・・同じくアーセナルバード【ジャステイス】だ。リバティ兄さんと一緒ならどこまでも飛んでみせるよ・・・」

・・・ん？

アーセナルバード？

高雄「・・・アーセナルバード？なんだその艦種は？」

リバティ「アーセナルバードとは本来、軌道エレベーターを守るために作られた機体で・・・」

高雄・愛宕・指揮官「????????」

やべ、まったく意味が分からん・・・なに？ぴーえるえすえるって？ゆーえーぶいもなに？????

リバティ「・・・まったく意味が分からないって顔になってますね・・・すみませんがこの基地で今の言葉に詳しい人はいますか？」

え、いる？隣の明石さえ（。D。）ハア？みたいな顔してるし・・・いや、いるな一部隊・・・

指揮官「高雄!!今すぐ放送で海上自衛隊を呼んで!!」

・・・なんか昼飯喰ってたら放送で

ピンポンパンポーン

「海上自衛隊、海上自衛隊、至急建造場に来てください」

って言われたから向かうけど・・・

・・・・・・なんで大鳳が後ろのほうからついてきているの？

だって本人隠れているつもりかもしれないけど見えてるからね？

食事中だつてずっと見てくるし・・・

エ、何？指揮官に近づくなつていうメッセージですか？やだよ？

ヤンデレにロックオンされたら死ぬって相場が決まっているんだよ？

一方大鳳の心の中

大鳳（あ、天喰だ!!あゝ、指揮官様はかっこいい系のイケメンだけど天喰はかっこいいけど優しい系のイケメンなんですよねゝ・・・本当は天喰を誘って昼食に行きたかったけど声・・・かけにいですよねえ。はあく今だけ大鳳の人見知りが増いわ・・・。天喰の隣または膝の上でたべたいわあ♡っていうか天喰を食べたいわ(?)）  
ジーーーーー



・・・と気づかない天喰と言えない大鳳であった

天喰「指揮官!!来たよ!!」

指揮官「おお!!来た来た!!急でごめんけど天喰!ゆーえーぶいつて知ってる?」

・・・待てい・・・なんでこの世界の住人である指揮官がその言葉を知ってるんだ?

天喰「・・・なんで指揮官がUAVを知ってるんだよ・・・」

??「それは私が言ったからです」

え、誰の声?振り返るとそこには

全体に白く、背中に翼のような装備をつけ、頭の上に輪っかが浮かんでいる人がいた・・・

天喰「え、リアル天使様?」

リバティ「イイエ違います、アーセナルバード【リバティ】と」

ジャステイス「【ジャステイス】です」

うん?アーセナルバード?

天喰「・・・まっつて、俺の知っているアーセナルバードならこの言葉を知っているはず・・・エルジア」

リバティ「はい」

天喰「・・・オーシア連邦」

リバティ「はい」

天喰「・・・軌道エレベーター」

リバティ「はい」

天喰「・・・三本線」

リバティ「・・・はい」

うん、あのアーセナルバードで間違いなさそうだな・・・  
なんでこの世界にはエースコンバット系が出てくるんだ?

・・・待てよ

天喰「・・・ここに来る前にロリな神様に会わなかったか?」

ジャステイス「・・・いたな」

あー、じゃあ納得

指揮官「え、ちよ、なに話してるの?」

天喰「あー、指揮官この子たちの説明するからよく聞いとけよ？」

少年サルでもわかるくらい説明中・・・

指揮官「え、無人でそのスペックって・・・チートじゃん・・・」  
リバティ「・・・しかしAPsは自家発電で耐久ができてしまった  
ので無敵ではないですね」

でも、強いつて・・・

だって、そのぬいぐるみ？はフギムギでしょ？

勝てる未来が見つからん・・・

指揮官「とりあえず、天喰母港案内しといて」

天喰「了解、こっちだよ」

こうして母港案内をした

母港案内は大体が終わって最後にある場所にとり掛かった時  
だった

ジャステイス「・・・天喰、質問いいか？」

天喰「おう、なんだ？」

ジャステイス「後方20mの建物の上からさつきから追跡してくる  
影は何ですか？」

天喰「・・・キニシナイデ」

そう、また大鳳が後ろのほうの建物上から観察していた

いや、視線!!視線が怖い!!20m離れてもわかるくらい痛いよ!?

え、死刑宣告デスカ?え、殺害予告デスカ?嫌ですよ!?

・・・ちよつと今度から指揮官にあうの控えようかな・・・

一方大鳳

大鳳「・・・誰なんでしようあの二人?まるで天使のような恰好し  
ていますが?は!?!まさか天喰を捕りに来たのですか!?!・・・そうはさ  
せませんよ!!天喰は大鳳の物ですよ?何人たりとも私の物を盗むな  
んてサセマセンヨ?あ!そうか!殺せばいいのか!いい考えよ大鳳

！・・・指揮官様の下でいろいろと学べた知識を今こそ使うべきよ!!」  
ジーーーーー

・・・と心の中で天喰防衛を誓う大鳳であった

リバティ「・・・カタカタ

天喰「ん? どうしたリバティ・・・あ・・・」

リバティが目の前で見上げているのはストーンヘンジだった・・・

リバティ「ストーンヘンジ・・・壊す・・・UAV緊急発進・・・」

天喰「マテ! ハヤマルナ! ハナセバワカル!!」ガシツ!!

リバティ「ハナセ!! カラダガ! カラダガカッテニウゴイチャウノ  
!!」

東海「どうしたんです? 天喰?・・・うお!? どういう状況!？」

ストーンヘンジの根元から東海が体は汚れただけで出てきた

天喰「ぜえぜえ・・・こいつを止めるのに少しな・・・東海は?」

東海「だって自分が暴走してできてしまった責任で・・・仮でも

これは自分が作ったものなので定期的に検査をして・・・あの・・・  
天喰さん・・・なんかそちらの方・・・殺意マシマシでこちらを見て  
いるんですが・・・」

天喰「あー、運の悪い東海君に特別ヒント・・・この子の名前はアー  
セナルバードのリバティだ・・・」

東海「え・・・リバティって確かストーンヘンジで破壊された機  
体・・・あ(察し)」

リバティ「・・・東海さん? これはあなたが作ったものですか?」ゴ  
ゴゴゴゴゴ

東海「は、はい?」ギギギギギ

リバティ「・・・お前を殺す」

東海「＼( ^ o ^ ) / オワタ」

少年☆ボコられ中ちよ! おま! やめろお! 死ぬ! マジで死ぬ! え、  
まってその黒い機体なあに? あ、フギンとムニン!! わく死ぬの☆確定

☆痛い！痛い、痛い！ちよ！レーザーで起用に目を潰そうとするのやめてえ！謝る！謝るからそのレーザーやめてえ！！あああああああ  
ああ！♂

ジャステイス「……リバティ、この世界に来る前に人間は襲わないって言って無かったけ？」

リバティ「ふうすつきりした！！大丈夫よ！！この人、KAN—SENだから！！（暴論）」

天喰「……了解した（ピッ）、夜に君たちの歓迎会をするからそれまで自由行動していいけどその前に演習してからってさ」

リバティ「やった！！ジャステイス一緒に行こ！！」

ジャステイス「……うん！！」

天喰「……微笑ましいな」

東海「so羽デス根」

天喰「……医務室行くぞ」

演習海域

指揮官「ほんじゃ、二人ともよろしくね？」

リバティ・ジャステイス「了解！！」

素晴らしい、指揮官から離れていく二人……

指揮官「……なあ天喰、アーセナルバードってどういう艦種なんだ？」

天喰「艦種って言うていいのかな？あの二人元は無人機で空飛んでいたんだぞ？」

指揮官「うん？空を？」

天喰「……うん見ててな」

そういえばあの二人どうやって空に飛ぶんだろ……

するとある程度離れたところから全プロペラを回しながら走った……

そして、浮かび上がり空へ飛んで行った……

あれやん、風○谷のナ○シカの乗り方やん……

指揮官「え、マジで飛んだ……」

するとジャスティスが海上にある目標に向けて光の帯を放った  
あれはPLSLだったけ？相変わらずすげえよな船を溶断したも  
ん

あと周りを守るように飛んでいるのはMQ-101だな  
どうやらアレの操縦も母機本機が担当しているらしい

リバティはペンギンのぬいぐるみを投げるとその二機はフギムニ  
になって標的役の艦載機に一気に近づきレーザーで焼いた

指揮官「え、レーザー!？」

天喰「……うん、実をいうとあいつらのいた世界って俺らのいた  
世界より何年か先を進んでいるからレーザー兵器を使えるんだよ  
な……」

指揮官「え、じゃあ天喰たちより強い!？」

天喰「多分、そうなんだが……あいつら確かマイクロ波で飛んで  
いたよな？軌道エレベーター無いし何で飛んでいるんだ？」

指揮官「明石によるとKAN—SENと同じ燃料で行けるってさ。  
でもすごいよなその……まいくろは？っていうので飛んでいるか  
ら……メンタルキューブも白色になっていてらしいし」

天喰「……待て、同じ燃料ならどれくらい消費するんだ？」

指揮官「……それってどういう？」

天喰「……あの巨体を飛ぶには確か燃料で自家発電するんだ  
ろ？……それってさ武装などにも入るから……」

……なんか嫌な予感がする（フラグ）

明石「し、指揮官大変ニヤ!?!この燃料消費表を見てニヤ!!」

指揮官「どうした……ホギヤア!？」

おう、すごい奇声だな……っていうかなんか嫌な予感が当たった  
な……

そうその表に書かれていた消費量は

消費量

☆3000☆

うわ・・・えぐ・・・

これ一回の戦闘にでだよ？出撃ではなくて戦闘よ？

指揮官なんか隣で世界が終わるのを知ってしまった人みたいに顔面蒼白なんだもん・・・

リバティ「ただいまー！どうだった？」

ジャステイス「・・・僕たちのすごさわかりましたか？」

指揮官「ごめんなさい・・・」

なんか今度あげるから出撃だけはひかえてえ!?! (泣)

ちなみに本部に正式配属願を出したら

元帥「・・・え、この資料マジ？おっほん、見たところKAN—S EN?になる前は人工知能であるから君の基地に配属させて人間の常識を教えといてくれ、あとなんかあっても海上自衛隊がなんとかしてくれるやろ (他力本願)」

っていうわけで正式配属されたあの、おっさん・・・今度あったらシバく

そして夜、歓迎会にて

ザワザワ

(何だろうねー?)

(あ!あの「すんごくおおきなたいほう!!」の件じゃない?)

(・・・・・・なんだったんだろうな)

(どうしたんですか?三笠先輩?)

(いや、今日の演習海域で演習海域で二匹の巨大な鳥を見たんだが……アレは?)

指揮官「・・・はい、ちゅううううm「五月蠅い!!」・・・ウイッス、今日は新人の歓迎会です・・・ではどうぞ・・・」

カツンカツン

(わー!リアル天使!?)

(かっ!いいねー!)

(いや、かわいいだろ)

リバティ「初めましてアーセナルバード【リバティ】です!!本日、正式配属されたものです!!まだ常識を知らないなのでよろしくお願いします」

ジャステイス「・・・アーセナルバードの【ジャステイス】です……リバティと一緒にならどこへでもいいです」

指揮官「てなわけで自己紹介終わりだ!!質問行くぞ!!」

「はい!!」

指揮官「はい!時雨!」

時雨「重桜の駆逐艦時雨よ!!アーセナルバードってどういう役割があるの?」

リバティ「じゃあ、答えが私が……アーセナルバードとは基本的に空を飛びMQ-101っていう無人機などを使って戦う兵器です!!」

(空を飛ぶって……チート?)

(空飛ぶ空母ね……)

(エンタープライズじゃん……)

(いや、なんでさ!?)

ジャステイス「・・・あ、ちなみに自分たちも天喰たちとは違う世

界だけど未来から来たよ」

「「「「「えーーーーー!?」「」」」」」

三笠「・・・未来でもどんどん変わっていくんだあ・・・」

信濃「はい・・・やはり夢で見たことが現実になるとは・・・」

三笠「つくづく指揮官の運には困るものだな・・・」

指揮官「はーい!!みんなここでもう一つニュースだ!!」

わいわいがやがや

カツシン「指揮官、それより最近暑いからなんか涼むものが欲し

い・・・」

指揮官「・・・それについてだが、皆!

今度、皆で海行くぞ!!





トコトコ

曇天「大変なんだな・・・指揮官っていうのは・・・」

指揮官「ほんとだよ・・・みんな美人だからさ・・・目のやりどころに困るんだよ・・・」

トコトコ

東海「そういえば、本日の哨戒はどうしたんですか？」

昇龍「アーセナルバードたちのUAVが出てるそうですよ？」

東海「なるほど・・・しかし燃料は大丈夫なんですか？」

指揮官「大丈夫だ・・・問題ない・・・(震え)」

トコトコ

天喰「ん？どうしたんだ？アーセナルバード？」

リバティ「え？指揮官たちがこつちに行つたからついていってらるだけよ？」

指揮官「え、お前ら性別何？」

え？女性じゃないの？

ジャステイス「・・・さあ？わからない」

全員「「「「「」」」」」」

・・・おつと・・・これは・・・

昇龍「え、でも二人とも兄と弟って言いあうじゃん？」

リバティ「それは教えてくれた人間がそうだといつたんですが・・・なぜ教えてくれた時・・・

(はあはあ・・・兄弟でくつつくなんて・・・最高じゃない・・・腐女子としての血が騒ぐわあ!!あ、やべ鼻血が・・・)

・・・って言ってたんですけど何ですか？ふじよしって？」

・・・ちよつと!?製造元のオーシア技術部!?おたくに腐つた心の持ち主いませんか!?

指揮官「・・・あ、もしもし？ベルファスト？今いい？」

ベルファスト「どうかされましたか？ご主人様？・・・は！まさか女王陛下のバストサイズが気になって!?(喋らないで！ベルファスト

!!」

指揮官「え、なんそれ逆に気になる・・・(下僕!!聞いたら殺すよ!?)・・・えっと・・・アーセナルバードたちの性別知らない?」

ベルファスト「?男性ではないでしょうか?」

指揮官「・・・OK、ベルファストちよつと緊急なんだけど来てくれない?」

ベルファスト「(察し)・・・了解しましたベルファスト急いで向かいます・・・」

そして、メイド長が来てなぜ兄弟と呼び合うのかをいった

ベルファスト「・・・大変失礼ですがリバティ様とジャステイス様・・・兄弟の意味をお判りでしょうか?」

ジャステイス「・・・?、年上が兄で年下が弟じゃないの?」

ベルファスト「・・・ジャステイス様・・・その・・・」

メイド長、兄弟関係と性別を説明中・・・

ジャステイス「・・・なるほど、家族関係の情報を更新・・・完了。つまり性別で関係が変わるのですね・・・」

リバティ「ちよつと、指揮官、確認してくる」

指揮官「・・・おう、そのトイレで確認してこい・・・」

数分後・・・

リバティ「指揮官・・・自分たち・・・」

「女性だった・・・」

ジャステイス「じゃあ、今度から兄さんではなく姉さんになるのですね」

・・・あつぶねえ!!

危うく、更衣室で女性と一緒に着替えるところだった・・・

ベルファスト「・・・ではリバティ様とジャステイス様、女性は私たちと着替えてください・・・」

リバティ「??なんで?」

ベルファスト「・・・人間にもいろいろいるんですよ」

そのあとメイド長が急いでリバティたちの水着を買ってきた  
リバティはかわいらしいフリルのついた白色の水着で

ジャステイスは・・・スクール水着に真ん中に「正義!!」って書いてある水着だ・・・(ダサイとは言ってはいけない)

俺の恰好は普通に無地の灰色水着で紺色のパーカーを着ている  
赤城「うふふふ♡指揮官様ですか♡赤城の水着は♡」

指揮官「い、いいと思うよ?」

・・・うつせえな!?!そこ!?!海洋研修(海水浴)に来たんじゃねえのかよ!?!甘えわ!?!その空気!!

クイーン・エリザベス「・・・ねえ、私はどうなのよ下僕?」

指揮官「・・・普通に可愛いよ?」

ベルファスト「はい、陛下。大変可憐ですよ」

クイーン・エリザベス「そ、そう・・・ありがとう・・・(やった!指揮官に褒められた!!)」

こっちはほんのり甘いな・・・爆発しちまえばいいのに・・・

エリザベスは水色の水着に白めの透明なレースを着ている  
ベルファストは麦わら帽子に白いビキニだ

クイーン・エリザベス「・・・でもやっぱり・・・」

ベルファスト(ボイン)

赤城(バイン)

クイーン・エリザベス「……(ペタン)……(バッ!!)」  
リバテイ・ジャステイス「どうしたんですか? エリザベスさん?(ペタン)」

クイーン・エリザベス(グッ!!)

「……うん、見なかったことにしよう」

ツンツン

天喰「ん?」

振り返るとそこには水着姿の大鳳がいた……

大鳳「あ、天喰……大鳳のはどうでしょうか?」

天喰(はつきり言えば美しかった……黒色の布地の水着に腰には黒の薄地のスカートをはいていた。髪にはいつもつけている金色の鳳凰を模した髪飾りではなく赤い花の髪飾りをしていてスカートに鳳凰が描かれていた……体のほうも最初に会った時から傷は消え、自分の知っている大鳳になっていた。暑さで汗が額から首をつたり鎖骨を通り大きめの果実の中に消えていった……鎖骨は健康的である形でぶつちやけ触りたい。あのデカイ胸もさわら……失礼、取り乱してしまった……。今の大鳳はかわいいとエロいが合わさってもはや美しいだった。ああ、ほかの人に见られたくない、というか自分だけに见せてほしい……)「ぶつぶつ」

大鳳「え、えつと……天喰? さつきからなんて言ってるのですか?」

天喰「あ!?! ご、ごめん……そのお……き、綺麗だよ?」

大鳳「あ、ありがとうございます」

いかん……心の声が出てしまったようだ……

……まあ、これは指揮官に見せるための練習だろうな……

「なんか、今指揮官を殺したくなってきたな……羨ましいな……」

一方大鳳!!

大鳳(ああ! 恥ずかしい!! 勇気を出して天喰に声をかけて見てもらったけど指揮官様とは違ってなぜかすごく緊張した……なんか心

の底からドキドキする感じ?それにしても天喰の体すごいですね: :  
毎朝海上自衛隊たちと鍛えているとは聞きましたがパーカーの上か  
らでもわかる無駄な肉をそぎ落とした体で飾りな筋肉ではなく使え  
る筋肉であれが俗にいう“美筋肉”というものなんですね: :あと、  
ちらりと見れたあの六個に割れた筋肉すごく触りたいですわあ♡)

とま: : お約束な二人であつた

アドミラル・ヒツパー(ずーろーろーろーん)

ジャステイス「: : あのプリンツオイゲンさん: : : : : : : : : :  
パーさんは落ち込んでいますか?」

プリンツオイゲン「ああ、姉さんはねえ: : : : : : : : : :  
自分の胸の小ささに  
絶望しているのよ」

アドミラル・ヒツパー「うるさいわよ!!オイゲン!!あなたにはわか  
らないでしょう!?!この苦しみがあ!?!」

ジャステイス「: : : : : : : : : :  
小さかったら何がだめなんですか?」

プリンツオイゲン「まあ: : : : : : : : : :  
胸の大ききさつて女性の象徴みたいな  
のだから皆大きくしたいのよ♪」

ジャステイス「うーろーん?人間って難しい考えを持っているんで  
すね: : : : : : : : : :  
私たちはいらなかなあ?」

アドミラル・ヒツパー「バツ!!(パアアアアア!!)」

プリンツオイゲン「あら?なんでかしら?」

ジャステイス「だって、私と姉さん: : : : : : : : : :

空を飛ぶとき胸が大きかったら邪魔になるもん・・・」

ピシッ・・・

プリンツオイゲン「・・・そ、そう。確かに邪魔ね・・・姉さん・・・生きてる?」

アドミラル・ヒツパー「(☒ω☒)ゴフウ(吐血)」

プリンツオイゲン「あ、無理だったみたいね・・・」

昇龍「こ、来ないでくださいああああいいいいいい!」

フツド「いいではないですか♪」

こんにちは!!昇龍です!!現在僕はフツドさんとロイヤルメイド隊と変態(アークロイヤル)に追いかけてられます!!

何故なら・・・

昇龍「なんで僕に女性用の水着を着させようとするんですかあ!」  
フツド「初めてあなたに会った時すぐ思ったんです!!もしかしたら女装したら美女になるのではと思って!!」

ベルファストとメイド隊「私たちは単に面白そうだからです」

昇龍「それでいいのかメイド隊!あと、変態!!お前はなんでだよ!」  
アークロイヤル「私は気づいてしまってた・・・シヨタでも意外といけるのでは?・・・」

昇龍「マジもんの変態やん!!憲兵!!サン!!タスケテ!!」

バサ!!ガシッ!!

昇龍「なに!?!・・・いや!!エリザベスさん!?!なんてとこに  
いんの!?!」

クイーン・エリザベス「どこって砂の中よ?」

昇龍「ロイヤルレディは特殊部隊かなんかなのか!?!つて離して!!あ  
の人たちに捕まるから!?!」

クイーン・エリザベス「あ、提案したのは私だから!」

昇龍「うおおおおい!?!女王!?!何してくれてんだ女王!?!」

ガシッ!!

昇龍「ひえ……」ガガガガガ

フツド達「捕まえました♪」

昇龍「ど、曇天助けて!!」

曇天「呼んだか?」

た、助かった!!

しかし、来たのは長いかつらをしてメイド服を着せられたかつての仲間だった……

昇龍「この人たちを離して……っってお前もかい!」

クイーン・エリザベス「……あなたたち意外と似合うわね……もう、女になったら?」

昇龍「いやだああ!?アーーーーー♂」

瑞鶴「……ロイヤルってあんなのだっけ?」

翔鶴「……なんかロイヤル女王の耳にジャスティスの胸の無いほうがいいっていう言葉を聞いて意気消沈してあんなだったらしいよ……」

瑞鶴「ええ……(困惑)」

それからスイカ割で盗撮しようとしていたアークロイヤルの頭が犠牲になったり

急に水着ファッションショーが始まって女装された昇龍が上位に入ったり

アルバコア達潜水艦 対 月影の潜水時間対決して

いろいろとあつてあたりは暗くなってきた……

大鳳「はあくくく(指揮官様は重桜の駆逐艦の遊び相手になってたし、赤城はエンタープライズと仲良く話してたし、あのアルバコアさえ珍しく真剣になって戦ってたし……しかたなく天喰と一緒居ようとしたらあの時褒めてからどこかに行ってしまったし……)」  
指揮官「はい皆!かたずけて帰るぞ!!」

大鳳(ああ、終わってしまった……結局天喰、どこに行ったんだろう?)

女子更衣室



大鳳「はあ、早く着替えて指揮官様の所に・・・」

カチャ

中を開けたら・・・

天喰「・・・・・・・・・・へ？」

大鳳「・・・・・・・・・・はい？」

パ・カーを脱いで下を着替えようとしていた天喰がいた・・・

天喰・大鳳「キ・・・・・・・・・・」

キヤアアアアアアアアア (ギヤアアアアアアアア)「!？」

天喰「え!?!?ちよ!?!?なんでここに大鳳が!?!?ここ男子更衣室じゃないの!?!？」

大鳳「へ!?!?え、でもここ来たときは女子更衣室・・・」

しかし扉から張り紙が目の前に落ちてきた・・・

☆ご来場のお客様へ!!ただいま男子更衣室が原因不明の爆破で使用不可能になってしまいました!!なので現在の時間帯は男子更衣室になってます!!中を見てしまってもラッキースケベってことで許してね☆

大鳳 (ちよ、ちよつと!?!?なにしているのよ!?!?このスタッフ!?!?)

大鳳「た、大鳳は何も見えていません!!す、すぐに外にでます「相棒?なんか声が聞こえたんですけどどうしたんですか?」・・・!?!」

天喰「しま!?!」

ガラガラ

東海「相棒?どうしたんですか?」

シーン

東海「あれ?いないな?」

大鳳(ど、どういう状況ですか!?!?)

東海「おかしいな?たしかに声が聞こえたんですが・・・」

・・・あぶな・・・今さつき海洋研修という名の海水浴が終わって皆より一足先に着替えて備えようといただけ・・・急に大鳳が扉から現れてびっくりして仲良く奇声をあげてしまい、それを聞きつけた東海に見つかるどころだったから近くのロッカーに転がり込んで隠れ切れた・・・はあ、はやく行ってくれないかな・・・

むにゆ

「ひゃ!!」

ん?むにゆ?

大鳳「え、えつと・・・天喰?・・・動かないでいただけませんか・・・

／／／／／

・・・今の状況を説明しよう・・・奥行が広く上が低く服を何着でもかけられるようになったロッカーの中で下に俺、上に大鳳がいて俺を押し倒している格好で隠れていた・・・

何やつとんのおれえ!? いや、確かに今の状況で見つかったら東海に疑われるけど大鳳だけでよかったじゃん!! よく考えたら犯罪やん俺!?

あと、こんなに近づいたからわかるけどすごくいい匂いがするなあ・・・あと、息遣いもきこえるう・・・

って、やばい!? 危うく頭が逝くところやった!! 持ってくれえ!! 俺の精神と理性!!

もにゆ

・・・あと、なんか俺の胸になにか柔らかいものが下りてきてませんか・・・?

大鳳「あ、天喰? そ、そのお大変申し訳ございませんが・・・う、腕が疲れてしまったので・・・」

あ、天喰の上に倒れこんでいいですか!?

・・・☆俺の人生終了のお知らせ☆  
・・・オワツタ・・・

嫌マテ!!素数を数えれば落ち着けるってなんかの動画で見たぞ!!  
よし!!2, 4, 6, 8, 9, 10, 12, . . . . . つてコレ素数じゃ  
ねえ!?

いや、逆に考えるんだ!!わりと行けるのでは. . . ?

天喰「オウ、イイゾ」

大鳳「で、では失礼します. . .」

むりゆり

大鳳(さ、さすがに殿方の上で休むとは. . . 指揮官様ならイジメ  
たいですがなんか天喰だと緊張しますね. . .)

天喰(オレハイワ、オレハイワ、オレハイワ、オレハイワ、オレハ  
イワ、オレハイワ、オレハイワ、オレハイワ、オレハイワ、オレハイ  
ワ、オレハイワ、オレハイワ、オレハイワ、オレハイワ、オレハイワ、  
オレハイワ、オレハイワ. . . . .)

うん. . . 重い. . . 何がってはいわないけどデカくて重くて柔ら  
かい. . .

大鳳「天喰? そのお暑くないですか?」

はあ. . .

吐息!? 吐息を俺の皮膚に当てるなあ!?

天喰「そうか? まったく」すまし顔

東海「うくん? 気のせいでしたか. . . まあ、いいか。みんなの所  
に行きますか. . .」

トタトタカチャン

い、行つたか. . .

天喰「大鳳. . . はやくお前から出てくれ. . . 俺が出れん. . .  
大鳳?」

大鳳「. . . . . ハッ!? は、はい!! すぐどきます!!」

天喰「お、おう. . .」

指揮官「あれ？二人ともどこ行つてたの？探してたよ？」

天喰「す、すまない・・・ちよつと手伝いをしてた」

大鳳「た、大鳳もデス・・・」

指揮官「？そうか？」

・・・ロッカーの件については二人の永遠の隠し事にした  
でもまあ、今日一日楽しかったし忘れるでしょ!!（プシュー）・・・  
んなことはなかったわ・・・

しかし、その二人の様子をうかがっている人物がいた・・・  
ベルファスト「・・・絶対何かありましたね」

実は天喰様がなぜかイライラしていた日になにか落ち着けるもの  
をと思ひ執務室に向かった際に聞こえてしまいました・・・  
実は天喰様は大鳳様に好意をもつていらつしやると・・・

メイドである私でさえ恋バナには目がないので気になり大鳳様を  
観察した見たのですが（なぜか天喰の部屋にいた）・・・  
大鳳様も天喰様に好意を持っている・・・

これは・・・  
天喰：大鳳は指揮官にしか目がないと思ひ半ばあきらめているが好  
意は持っている

大鳳：天喰に好意を持っているが自分で気づいていない  
・・・なんかもどかしいですね・・・  
ベルファスト「・・・まさか!?もうやったとか？」  
そう恥ずかしがる二人と勘違いするメイド長であった・・・

## 大規模鏡面海域攻略作戦 前編

とある海域・・・

?? 「このあたりでいいかしら？」

?? 「あははは!! 本当にやるのお？」

?? 「仕方ないじゃない、彼にあうにはこうするしかないのよ・・・つてあなただつて前に彼がいる基地から誘い出そうしたら切られたそうじゃない」

「そういう、不気味な装置の中には・・・

天喰が持っている緋色のキューブと同じものが浮かんでいた・・・

?? 「これ手に入れるのはけっこう大変だったのよ？」

?? 「へくでもやつぱり不安定？」

?? 「ええ、でも彼にあえれば結果いいんだから・・・」

「そして、装置を起動させた・・・

?? 「さあ、おいで天喰・・・一緒にお話ししましょう？」

「・・・なあ、ここつてこんなに霧濃かつたけ？」

「んなわけないべ、ここはアズールレーン本部からそう遠くない海域だべ？ セイレーン自体が現れるのが珍しいべ」

「・・・ならさ、俺の目疲れてるのかな？」

「なーを言つて・・・へ？」

「そこには黒色の船が大量に出現した

「な・・・な!？」

セイレーンの侵攻だべえ!？」

「緊急事態発生!! 緊急事態発生!! KAN—SENの皆さんは至急執務室に集合してください!!」

それはいつもどおりに平和にみんなと過ごしていた時に鳴り響い

た・・・

天喰「!?、全員執務室へ急行するぞ!!リバティたちも来い!!」

転生組・アーセナルバード「「「「了解!!」」」」

執務室に入ると全KAN—SENが待機していた

指揮官「皆集まったな?よし、では説明を開始するぞ・・・」

「素晴らしい、指揮官はいつもの感じではなくとてつもなく重い感じでした」

指揮官「今日の早朝、アズールレーン本部の近郊の海域にて突如、セイレーンの超大規模鏡面海域の発生を確認したこのセイレーンは量産型を多数配備して現海域から本部に向かって侵攻中、司令部はこれを緊急事態とみて現在は本部所属の全軍とKAN—SENで監視と威力偵察を行っている。そして全鎮守府に増援を要請、内容はさまざま本部に急行し本部と共同で敵を殲滅、鏡面海域の発生原因を突き止めろだ、ここまで質問は?」

東海「・・・本部の哨戒班は何してるんですか・・・」

指揮官「いや・・・今回は何の前触れもなく表れて現地の漁師が発見して本部に報告が入って判明したから・・・」

「うーん?鏡面海域の侵攻のことはいいとしてどうやって本部近くの海域に発生させたんだ?」

指揮官「とりあえず、俺と海上自衛隊は先行で本部に行って作戦とか話し合ってくるから皆は装備の点検、基地に残る組と行く組に分かれておいて!!」

アズールレーン本部

元帥「・・・ではこれよりセイレーンの超大規模鏡面海域攻略緊急作戦を開始する」

モブ「はい、では報告します。セイレーンは今朝6時20分にて現地の漁師が発見し本部に向けて侵攻しているのが判明しました・・・」

元帥「・・・確かその10分前には哨戒班からの報告があったはずでは?」

モブ「・・・確認したところ現場では多数の艦装が散乱していまし

た」

・・・やられたみたいだな

指揮官「質問いいでしょうか？セイレーンの鏡面海域の生成の原理はわかりませんがコアとなる装置にそれなりのエネルギー源が必要です。発生した海域にはめぼしい資源なんて埋まっておらずサンゴ礁があるくらいです」

モブ「・・・コアとなる装置は発見できました」

すごいな・・・前世のアズレンでもそうだったけど鏡面海域に入つてKAN—SENが発見して破壊しているからな

モブ「こちらが偵察機から送られた写真です」

そうして壁にプロジェクターで写されたのは

不気味な機械の中に浮かんでいる赤く光り輝くキューブが・・・

元帥「・・・赤いメンタルキューブ・・・なんと不気味な」

指揮官（・・・天喰!?あれってお前が持っているのと同じじゃね?!）

・・・なんでセイレーンたちにもアレを持っているんだ!?

モブ「しかしその代わり敵の数が異常です・・・量産型は確認できただけでも戦艦は120以上、空母200以上、軽・重巡洋艦が600以上、駆逐艦がそれ以上です・・・人型も多数目撃されています。陣形も外側を量産型で固めており中心に行くほど人型が多くなっています」

・・・うわあ、ガチで人類滅亡させる気かよ・・・

元帥「・・・本当は各個撃破して殲滅したいが数が多すぎて殲滅する前に本部についてしまうな・・・」

モブ「・・・はい、なぜかはわかりませんが恐らく敵は大規模なので速度を合わせるために低速で侵攻しているんでしょう」



元帥「……ここに来るまであと何日かかる？」

モブ「およそ5日後でしょう……ですがそれくらいでつたらこちらの準備も間に合います」

元帥「よし……では実行する作戦を説明する。」

まず、一番外側にいる本部所属の海軍で隙間を開ける

次に、中層の量産型と少数の人型セイレーンを各基地のKAN—SENで対応し中心部の隙間を開ける

さらに中心部の人型セイレーンを各基地の精鋭KAN—SENが対応

最後に中心にいるコアと元凶を精鋭KAN—SENと海上自衛隊で破壊する

という感じだ。」

……さりげなく俺らが鍵じゃん……

元帥「さらに田中少将の基地に所属しているアーセナルバードを出す。アーセナルバードたちは中心部以外の味方軍の援護を行ってくれ、安心しろ燃料に関しては本部のを使うといい。……では質問はないな？では解散!!……人類を守るぞ!!」

「「「「「おおおおおおおお!!」「」「」「」

天喰「……っていう感じの作戦だ」

俺と指揮官は会議場を出てからみんなのいる部屋にきて基地の皆と一緒に作戦の内容を説明した

東海「……自分たちは初めての防衛出動ですね」

リバティ「やった!!ジャスティス!!ようやく出動できるよ!!」

ジャスティス「……うん、これでみんなの役に立てる」

……確かに俺たち海上自衛隊っていつもは哨戒や輸送船護衛しかやってないから緊張すんな

昇龍「……なぜアーセナルバードたちは中心部にはいかないのですか？あの子たち割と一艦隊分の戦力を有しているからいいのでは？」

指揮官「……どうやら中心部の人型セイレーンはそんじよそこら

の通常型ではなく改修型がほとんどで空にいる彼女たちがいたらヘイトがそつちにむいて集中砲火されて落とされるかららしい。敵はあと5日後に本部に到着する、なのでみんなはあと4日間準備や最後になるかもしれないひと時をすごして無念の無いようにしておけ」

本部のとある廊下

イラストリアス「……とうとう来てしまいましたね。恐れてたことが……」

ユニコーン「……イラストリアスおねえちゃん!!」

イラストリアス「……どうしたの?ユニコーン?」

ユニコーン「イラストリアスおねえちゃんはユニコーンが守るから、安心して!!」

イラストリアス「ユニコーン……」

月影「そんじや、俺は君たちが安心して空に集中できるように守るよ」

そう天井から月影が降り立ってきた

ユニコーン「……月影お兄ちゃん?」

月影「安心して優雅に戦っておきな?近づいた敵船は俺が沈めるさ」

イラストリアス「月影さん……あのロイヤル寮に不法侵入してユニコーンの寝顔を見ようとしたらベルファストに見つかって連行されたあの人がそんな頼もしいことを言うなんて……」

月影「……今それを言わなくてもよくない?あと、なんで見つかるんだろ?あの人超能力者かなんかかよ……」

とある待機室

昇龍「……緊張しますね」

クイーン・エリザベス「そうかしら?意外と腰抜けね海上自衛隊つというのは」

昇龍「……ロイヤルレディって胆が据わっていますね……しないんですか?只でさえ本部に来てるのにロイヤル皆から信頼されて

指揮しないとイケないのに」

クイーン・エリザベス「こんなのへっちやらよ？みんなが私を信じるなら私もみんなを信じるわ!!」

昇龍「……すごいな……永遠の11歳（笑）も伊達ではないな」  
クイーン・エリザベス「ちよつよ!!」（笑）は余計よ!!」

昇龍「ま、僕はみんなが死なないように死ぬ気で守るよ……アメリカから【海のラプター】と呼ばれているから本気ださないとね？」  
クイーン・エリザベス「??あめりかつて何よ？」

昇龍「へへ、知りたいなら死ぬ気で生きろよ？」

とあるテラス

プリンツオイゲン「……（カツン）……ん？」

曇天「よ、なにか悩んでるのか？」

曇天がオイゲンに缶コーヒーを渡しながら入ってきた

曇天「また、その対抗演習みたいなことすんなよ？」

プリンツオイゲン「……しないわよ。私の命はそんなに安くないわよ？」

曇天「なら、いくらで？」

プリンツオイゲン「……そうねえ、私~~が~~あなた~~の~~命を奪うまでとか？」

曇天「え、こわ……」

プリンツオイゲン「ふふ♪嘘よ。期待しているわよ兄貴？」

曇天「だから、兄貴じゃ……はあ、いいやもう好きに呼べ……その代わり死にそうになったら生きることが優先しろよ？俺が助けに行くから……」

プリンツオイゲン「はいはい♪」

整備室

東海は装備の点検をしていた

明石「まあ、点検かニヤ？もう何回目ニヤ？」

東海「……あ、明石。いやあ、なんか嫌な予感がして……」

明石「そんなんじや、皆を守れないニヤ？」

東海「はは、そうかもな・・・でも、明石は後衛で傷ついたI K A N—S E Nの治療を担当するんだろ？なら安心して戦えるな」

明石「あ、ちなみに送られるたびに東海が知っている技術をよくすニヤ」

東海「え!?!請求すんの!?!」

元帥「・・・すまないな、異世界であるにも関わらず君たちがキーパーソンになってしまい・・・」

天喰「あ、おっさん・・・じゃなくてアルバード元帥・・・大丈夫ですよ！人を守れるなら光栄です!!」

元帥「え、今おっさんって・・・ま、まあいい・・・しかし、会議場で見た赤いメンタルキューブについてだが何か知っているようだな・・・」

・・・あなたは心でも読めたんですか？

元帥「はっはっは!!なんでわかったんだ？っていう顔をするな！私も長年戦場にいた身分だ。部下の考えていることぐらいわかってしまっからな！」

・・・まったくこの人は本当に只者ではないな・・・

天喰「・・・完敗です」

元帥「かっかっか!!そうだろう!!」

天喰「・・・正直にいうならあのメンタルキューブは普通のメンタルキューブではなく大変危険なものですとだけ言っておきます。あとは・・・知らないほうがいいと思います」

元帥「・・・ふむ、そうかなら作戦前だし、問題を増やしたくないし聞かないでおこう。では私は仕事に戻るからなにかあれば来なさい・・・」

天喰「・・・ありがとうございます。では・・・」

こうしてあのおっさんと別れた時、角から大鳳が出てきた・・・

大鳳「・・・天喰？今いいでしょうか？」

天喰「・・・な、なんだい？大鳳？」

え、なに？作戦前に？

大鳳「・・・この作戦が成功したら話したいことがあるのでいいでしょうか？」

天喰「・・・お、おういいぞ？なら、約束しちまつたんには生きて帰らないとな・・・それに大鳳は中心部に一番近い外側の対応をする部隊に選ばれたんだろ？なら、安心して中心部に行けるな？」

大鳳「はい！！大鳳に任せてください！！では大鳳はこれで・・・」  
タタタタ

なんやろ？死ぬならどうやって死にたいですかって言うて殺しの来るのかな？

・・・これは作戦成功してもまだ安心できんな・・・

一方大鳳！！

大鳳（よ、よかった・・・話せましたわ・・・作戦が終わった後約束しましたが緊張させてしまいましたでしょうか？・・・しかしまさか昨日ベルファストから「・・・天喰様に大鳳様のことをどう思っているのか聞いてはいかがでしょうか？」って急に言われるなんて・・・別に大鳳は天喰のことなんて好きだはないのに・・・ただ、一緒に居ただけなのに。あと、「もどかしい」って何がでしょうか？）

・・・お約束な二人であった

作戦開始当日・・・

港には各基地から選ばれたKAN—SENがいた

・・・圧巻だな

赤城「すごい数でしょ？」

天喰「あ、赤城さん・・・はい、すごい数ですね・・・」

赤城「なんとたつて、ここを破壊されたら人類がセイレーンに対抗す

る力が一気に半減するからね。まあ私、赤城は指揮官様さえ生きていればいいのよ♡」

天喰「・・・あれ？加賀さんとか後輩たちは？」

赤城「本当は守りたかったけどあつちのほうからあたしたちより本部のことを集中してください!! って怒られちゃったわ・・・あの子たちも成長したわねえ」

ちなみに赤城さんたち一航戦と二航戦は中心部攻略組に五航戦たちは外側を任されたらしい

俺たち海上自衛隊は前の対抗演習と同じ陣形で月影は基本的に俺たちと一緒に行動するが単独で行動も許可している

元帥「・・・諸君、このような危機的状況にも関わらず集まってくれて感謝する。ここであの空母の言葉を借りるならみんなは本当は戦いたくないかもしれない・・・しかしそんな恐怖を払って来てくれたことに誇りをもって!!そして、この勝負に勝ち、全員生きて帰ってこい!!以上!!作戦開始!!」

・・・こうして元帥の激励をもらい全員、作戦のためにバラバラに持ち場に行った・・・

## 大規模鏡面海域攻略作戦 中編

ドカアアアアアアン!!

それが開戦の合図だった・・・

最初に先頭にいた海軍の軍艦がセイレーンの少数の量産型と戦闘を開始する

上空では援護に来た人間側の戦闘機とセイレーンの戦闘機がドツクファイトを繰り返している

海では戦艦が俺たち中心組が通れるように壁になって中にみんなを流れ込ませている

中層から中心に向かっていくうちに人型セイレーンをちらほらと見かけるようになったがそれに対抗するかののように他のKAN—SENが本隊から離れて向かっていく・・・

そして中心に近づく前に偵察機を飛ばして偵察するが・・・

天喰「いや、さすがに多くね?」

そう、確かにコアが見えたけど周りに大量の人型セイレーンと数隻の超大型艦（アニメに出たオロチみたいなの）が取り巻きでついていた

東海「ライダー隊発艦!!」

天喰「ゼア隊、デルタ隊、プラズマ隊、キャット隊発艦!!」

東海はF—35JBのライダー隊をアームの甲板から。俺はF—3Cのゼア隊、F/A—18Jのデルタ隊、A—10Cのプラズマ隊、F—14DJのキャット隊を弓から放ち行かせる

ライダー隊とゼア隊はAIM—120を装備して制空権の獲得、デルタ隊はキャット隊の護衛、キャット隊はLRASMを装備して対艦攻撃を担当する。

天喰「全部隊!!ウエポンズフリー!!戦闘を開始せよ!!」

対して相手は数の暴力で攻めてきた。こちらを1とするとあつちは10で空戦を仕掛けてきた

曇天「SM—6発射!!」

赤城さんたちは人型セイレーンとの交戦を初めて曇天・東海（対艦

ミサイル搭載へり）は超大型艦の破壊を開始した

昇龍「!!敵艦載機が味方機の防空圏内から突破!!」

曇天「SM-2発射!!」

昇龍「改良型シースパロー発射!!」

敵は対空ミサイルに当たり砕け散った

お返しとばかりにこちらのキャット隊から対艦ミサイルが発射され超大型艦に発射した3発が命中したが装甲が少しへこんだだけだった・・・

・・・いや、硬すぎやろ!?

演習の時は戦艦型の標的艦を二発で沈めれたのに三発余裕で耐えるって!?

参加したプリンスオブウェールズだって主砲を超大型艦に当てまくっているのに数十発当たってようやく一隻破壊できたぐらいよ!?

あ、こっちは20発当たってようやく沈んだわ・・・

エンタープライズ「く!?!硬すぎる!?!」

あのエンタープライズでさえ苦戦するこの硬さ・・・面倒だな・・・

しかもあっちのセイレーンは本家よろしくなレーザー弾幕を撃ってくる・・・

まあ、海上自衛隊はアウトレイジ戦法で遠くから対艦ミサイルやら艦載機を出して対応してこっちにきたセイレーンは一応撃てる特殊弾幕で対応するけどエンタープライズたちみたいな装甲を持っていないから接近できないんだよな・・・

東海「・・・あ!そうだ!敵の船の砲身の中を狙って内部誘爆すれば!!」

え、それマジでいつとんの?え、敵船に乗り込んでわざわざ砲身の所まで行って中覗いて爆発させるん?

エンタープライズ「そうか!その手があったか!」

肯定すんの!?!え、マジで向かったんですけど!?!あのKANSEN!?!



エンタープライズ「エンゲージ!!」

素晴らしい弓を引くと巨大な艦載機が出現しその上にエンタープライズが乗り込んで超大型艦の上空に移動しその場所から弓で砲身内に矢を放ち誘爆に成功した……

天喰「……oh」

……え、俺もあれスンの？え、ちよ、東海……何その「さあ!!」相棒も早く!!」みたいな目?いや、俺できんよ?出せる云々じゃなくて操縦ができないからね?

そうすると超大型艦の艦尾から水柱が立ち上がった

月影「おう、なんか困ってそうだから来て見てたけど敵の水中プロペラに大量の魚雷当てまくって止めといた……」

ナイス!!月影!!……でもプロペラでさえ何発ものいるのか

あ、待てよ……

天喰「……なあ、東海……バスターバンカー何発がある?」

東海「ありますけど……あ、まさか……」

そう!そのまさかである!!

天喰たちが中心部に到達した数分後……

アズールレーン本部 作戦指令室

元帥と各指揮官が自分の艦隊の指揮に専念していた……

「味方駆逐艦大破!!乗員は退艦を開始します!!」

「艦載機の数も減ってきています!!あまり長期戦を続けるのは危険です!!」

「撤退艦とKAN—SENの修復急げ!!できるだけ中心部に味方を入れこませろ!!」

戦況は最初は優勢だったが敵の増援が接近し徐々に劣勢になりつつあった……

元帥（ぬう、さすがに敵もやるなあ……）

モブ「……失礼します、アルバード元帥少々時間よろしい

でしょうか?」

元帥「……?、ああ、君は偵察の報告をしたのではないか? どうした?」

モブ「……いえ、その偵察機からの報告に関してですが不信に思うことがあります」

元帥「不審に思うこと?」

モブ「……なぜセイレーンはこれほど艦載機を所有しているのに偵察機を落とさなかったのかが気になりました」

元帥「……それは開始直後まで戦力を温存したかったのでは?」

モブ「しかし、敵の増援はまだ来るのに温存しておく必要性を感じないので……私が敵だったら補給や増援に余裕があるなら最初から大量に出しますが偵察の時は見てくれんとばかり対空攻撃や迎撃もされませんでした」

……確かに不振だ

すると一人の通信使が叫んだ

「報告!! 敵は突如攻撃をやめ中心部に向かって反転を開始!!」

な!! さすがに危険だと思つて中心部に戦力を集める気か!?

「!?、中心部に続く壁担当の艦隊から緊急報告!! 中心部に向かつていた敵艦隊が味方の護衛艦隊の妨害を開始!! 中心部に増援を送れません!!」

……コアを破壊されればセイレーン側が不利になるのになぜ中心部のアズールレーン側の艦隊を攻撃せずに外側の増援を通す艦隊を攻撃するんだ? 増援を増やさないとわからないが完全に増援が送れる前にコアの周辺の制圧は海上自衛隊ならできるだろう

……何が目的だ?

ドカアアアアアアン!!

プリンスオブウェールズ「……く!! 敵の数が多すぎる!?! 減らせてはいるがどこまで持つか……」

中心部に到達しておよそ一時間……敵の人型セイレーンは減らせたがああ超大型艦が硬すぎて時間がかかる!!

グウウウウン!! 《shake》

・・・しまった上か!?

直上に敵急降下爆撃機が爆弾を落とそうとするが

昇龍「危ない!!」

ドン!!

プリンスオブウエルズ「・・・すまない助かった」

昇龍「どういたしましてっついていたいけど数多くないですか?」

プリンスオブウエルズ「・・・ああ、確かに異常だが弱音を吐いてはいけな、い、な!!」

《shake:1》ドオオオオオオン!!

昇龍「そうですね!!主砲、撃ち方ーはじめ!!」

ドン!

ドン!

ドン!

プリンスオブウエルズが大口径の主砲を放ちながら人型セイレーンを減らしていき、昇龍は対空を担当する

一方天喰・東海は

ズドオオオオオオオオン!!

東海「いや、天喰!!バスターバンカーを直接超大型艦当てるとかいのかよ!?!」

天喰「こまけえことはいいんだよ!!沈めればいいんだよ!!」

二人仲良くバスターバンカーで沈めていった

作者(バスターバンカーは本来地中貫通爆弾で決して対艦ではないので注意!!)

・・・またなんか聞こえたけどキシナイ、キシナイ

こうして中心部に向かっていた

天喰「・・・よし、コアが見えてきた!!」

どうにか倒しつつコアにたどり着いた瞬間・・・

ゴゴゴゴゴゴ!!ドゴオオオオオオ!!

超大型艦の甲板の一部が開き空に数十発何かを打ち出した

曇天「?、敵超大型艦から飛翔体が発射!!はるか上空に向かいる!!」

東海「曇天!!それはおそらく疑似的なICBM(大陸間弾道ミサイル)です!!たぶん弾着地点はアズールレーン本部!!」

曇天「まじかよ!?SM-3発射!!」

弾道ミサイルの対処する曇天に周りの敵機が集まりだした...

東海「敵機が曇天に向かっている!?敵は対処する能力を持っている

曇天狙いか!ライダー隊!!曇天の援護をして!!」

曇天「多すぎだろ!?どんだけ撃つ気だよ!」

そう愚痴を言っている間にエンタープライズたちは超大型艦を沈めていきそれに邪魔しようとする敵機が来るが昇龍のシースパローで対処される

そして...

エンタープライズ「これでラスト!!」

最後のセイレーンを倒して制圧が成功した

東海「こちら海上自衛隊の東海!!コア周辺の制圧に成功!」

指揮官「こちらでも確認した報告で全セイレーンの敗走を確認...みんな帰還せよ」

...ふう、終わった...いや、さすがにギリギリだった

曇天もミサイルも対空ミサイルがあと2発しか残ってないし、俺も艦載機の燃料も空になるくらい飛ばしまわって搭載ミサイルも無い

指揮官「...すまない司令部からの急電だ、敵に再び戦力の集結を防ぐために追撃戦を行うそうだ...」

え、うそおん...

天喰「指揮官...さすがに弾がもうねえぞ?」

指揮官「えつと...ちよつと待って...OK、司令部から帰還の許可が得た。あ、でも帰る際にその赤いメンタルキューブの回収を行って来て♪」

...なんか、指揮官のテンションがたけえな...

東海「...なんか...きもいですね...」

東海...それを本人の前でいうなよ?

すると向こうから...

大鳳「天喰く!!無事だったんですね!!」

天喰「ああ、大鳳も無事だったか・・・お疲れ様・・・大鳳？」

大鳳「はい♡天喰♡」

はあ、ほんと戦闘の後でも美しいな・・・汗が髪に張り付いて輝いて見える・・・おっと、いかんいかん指揮官のお願いをやらなければ・・・

天喰「あー、すまない大鳳？前言っていた話したいことを聞く前に指揮官の頼みをしないと・・・帰ってからでいいか？」

そういつてから本人の了承を得て、コアの装置に近づき取り外そうとした瞬間・・・

「・・・！・・・アマ!!・・・天喰!!・・・聞こえる!？」  
ん？誰だこん時に通信って？

天喰「こちら天喰。だれだ？」

指揮官「あくよかった・・・通信がつかないから焦った・・・ん？何言ってるんだ？」

天喰「どうしたんだ？指揮官？さっき話してたばかりじゃないか？」

指揮官「え、なんか話したっけ？」

天喰「冗談はよしてくれ・・・司令部からコアになったキューブの回収を命じたろ？」

指揮官「え、俺も司令部もそんな命令してないよ？」  
・・・あれ？

待った、そもそもなんでさつきはまだ鏡面海域なのに通信がつかないんだ？

しかし、気づいた時には装置から謎の触手が出てきた・・・  
天喰「しまっ!？」

??「あく、ようやく捕まえたわ・・・待ったかいがあったわ♪」  
そういうタコのような艦装をうねらせながら俺の首を掴む少女が

現れた・・・  
・・・お前は!？」

天喰「……タコレデイ」

??「……」

??「ちょwオブサーバーwタコレデイってw」

オブサーバー「……ピュリアイヤー、帰ったら艦装と服を全部はがして人間の住んでいる町の路地裏に放置するわよ……」

ピュリアイヤー「それは勘弁w」

東海「な!?なんでたk……オブサーバーとピュリアイヤーがここに!?!」

オブサーバー「なぜって天喰を回収するためよ?」

天喰「グツ!?……まさか」

この侵攻は嘘で本当の目的は俺だったのか……

ピュリアイヤー「正解wってかアンタたち強すぎでしょwどんだけ戦力を少なくさせれば気が済むのw?」

昇龍「でも!さつき通信では指揮官の声が!」

オブサーバー「ああ、それなら「おーい?天喰?大丈夫かあ?」……こうかしら?♡」

……まさか、通信をジャックして指揮官の声を加工して俺たちの状況を確認するためか……

オブサーバー「それでは彼はもらっていくよ♪」

大鳳「……!!待ちなさい!!私の天喰を返しなさい!!」

オブサーバー「おとなしく従うとでも……?」

EMP発動・・・」

ばしゅううう!!

東海「な!?!なんで・・・EMPを・・・」

プリンスオブウエルズ「か、体が重い・・・」

オブザーバー「うーん? やっぱり彼らには効いてKAN—SENには  
はいまいちね・・・まあ、いい研究結果を得られたわ・・・それでは  
さようなら♪」

曇天「ま、待てええええ!!」

こうして歪んでいく空間に天喰は連れて攫われた・・・

## 大規模鏡面海域攻略作戦 後編

天喰「う、うううん？」

目が覚めるとそこは・・・

天喰「・・・知らない天井ふあ!？」

目が覚めると目の前でオブザーバーが顔を覗き込んでいた

・・・いや、何してんの？

目が覚めたら黄色い目をして青白い肌のもった少女、しかもセイレーンがいるってどんな寝起きドツキリだよ・・・

あと、タコ足を体にうねらせないでください・・・気持ち悪いです・・・

オブザーバー「あら？起きちゃったの？もう少しみたかったのに」

天喰「・・・それで俺を連れ出してまで何がしたい？」

オブザーバー「だつて気になるじゃない？この世界ではないはずのKAN—SENなんて？」

まあ、そりや気になるわな？

天喰「・・・それで？なんだ？こつちの情報をよこせとかか？あいく知らないのですね？」

オブザーバー「あら？私が知りたいのはあつちじゃなくてあなた自身のことよ？」

はい？俺？

オブザーバー「この世界のKAN—SENの特徴なんてもう知ってるわ・・・でもあなたたちは違う・・・男性で回りとは違う装備・・・なによりあなただけを捕まえたのはあなたのメンタルキューブが緋色で今回コアにしたのと同じもので動いているからよ」

うねうね

天喰「・・・どこでアレを手に入れた？」

オブザーバー「それは秘密ね♪」

うねうね

こいつ・・・楽しんでるな・・・

オブザーバー「・・・それで？自分自身について話してくれないの



？」

天喰「……」

うねうね

……すうーすうー

天喰「……ちよつと!? さつきから体にタコ足をまとわりつかせんのやめてくれませんか!？」

オブザーバー「だってあなた話してくれないから暇だからこうなるのよ?。」

天喰「なんでさ!？」

オブザーバー「はあもう面倒くさいから直接聞こうかしら?。」

ドスツ!!

天喰「ゴフツ!？」

オブザーバーの触手が天喰の胸に刺さり体内でうねらせる

天喰「アツ……ガツ……」

オブザーバー「うふ♪メンタルキューブを直接触られる感覚はどうかしら?。」

体内で触手がメンタルキューブにまとわりつき触られているのを直で感じる……

それは心臓を握りしめられているようだった……

バシユツ!!

天喰「ガハツ!?!……はあはあはあ……」

オブザーバー「……ふーん? こことは別の世界から来て元は人間ね……へえこれがもとなつた船ね、どうやらだいぶ嫌われていたようね……あと、残りの彼らは……成程ね……あら?……」



ピュリファイヤー「うわwえつぐwそれで？何すんの？」  
オブサーバー「ふふ♪何って……」

o·v·e·r·w·r·i·t·e· (上書き) するのよ♪」

東海達が天喰をセイレーンに連れ去られて急いで本部に戻り今回のことを話した

指揮官「……了解した、本部に連絡して至急救助部隊の派遣を要請する」

バン!!

東海「要請してからじゃ遅いんですよ!!」

曇天「……そうだ、指揮官自分たちだけでも搜索許可を……」

指揮官「……それは無理だ。第一君たちは負傷している……指揮官たるものまだ敵勢力がいる海域に負傷したKAN—SENを送れない……」

そう、たった今帰還した東海達は満身創痍で弾がなかった……

昇龍「……でも曇天が天喰の位置情報も手に入ったんだよ!？」

指揮官「……残念だが、その島には敵の残党勢力が集結中なんだ。作戦の後で君たちも他の艦隊も出れない……」

東海「でも!!今回は戦闘せずに救出するだけだ!!」

指揮官「何度も言わせなくてくれ!!東海!!これは上からの命令だ!!確かに俺も助けたいがお前たちも失いたくない!!戦力としてではなく個人として!!」

……だけど、このままじゃ……

カツカツ

赤城「大鳳!!あなたどこに行こうとしてるのよ!？」

大鳳「・・・」

カツカツ

赤城「まさか!?!彼らが動けないから自分一人だけでも行く気なの!？」

大鳳「・・・」

カツカツ

赤城「待ちなさい!!大鳳!!(ガシツ!!)」

大鳳「・・・離してください・・・赤城」

赤城「行かせないわ・・・重桜の一員としても一人のKAN—SEN—SE  
Nとしても」

大鳳「・・・なら彼も一人のKAN—SENとしても助けるべきで  
す」

赤城「・・・仮に私が行かせたも指揮官様が「行くな」って命令され  
たらあなたは守るの?」

大鳳「ツ!？」

赤城「だから私はあなたがなくなっほしくないのよ!!」

・・・ここはとある小さな会議室

曇天「・・・しかし、どうする？俺がお前だったら指揮官に行かないよう命令されても行くが？」

東海「当たり前です・・・命令違反して軍法会議にかけられようが気にしません・・・」

曇天「よし、ならあとはどうやって助けるだな・・・」

・・・確かに、今はミサイルや弾薬の補給ができましたが今は天喰がないため一時的でもいいので艦載機を搭載した空母が欲しいですね・・・私東海は「ライダー隊」がいますが数が少ないので数で来られたら制空権を失ってしまうので・・・

曇天「・・・この編成を見ると空母が欲しいな・・・でも他の空母KAN—SENに声をかけても指揮官に釘刺されているだろうしなんならそのまま指揮官にバレて俺らが勝手に動こうとしてるのがわかってしまうぞ」

・・・あの仕事はまじめにやる指揮官のことだ、多分もうみんなに言っているだろう

コンコン

昇龍「うん？どうぞ」

カチャ

大鳳「申し訳ございません、その話聞かせてもらいました」

・・・やべ!?めっちゃ指揮官に大好き勢やん!?

昇龍「た、大鳳さん!？」

曇天「・・・今の話、指揮官に言うのか？」

大鳳「いいえ、報告はしません。その代わり・・・」



曇天「東海、時間だ・・・」  
東海「了解、大鳳さんお願いします・・・」  
大鳳「了解しました・・・艦載機発艦準備・・・」  
東海「月影・・・準備を・・・」  
月影「了解・・・通信終了・・・潜水開始・・・」  
昇龍「東海・・・ほかのKAN―SENも配置についた・・・」  
0:00 ピツ  
東海「・・・作戦開始!!」

ここは東海のある場所とは違う海にて・・・  
パシュ!!

ドカアアアアアアン!!  
ドカアアアアアアン!!  
ドカアアアアアアン!!  
ドカアアアアアアン!!

哨戒中の大型艦隊に水柱がたった・・・

・・・今回、天喰を助けるために作った計画がこうだ  
1、月影が作戦海域を哨戒中の大型艦隊を探して攻撃  
2、敵の増援くるまでできる限りその場で戦闘を続ける  
3、その間に島の警備が手薄になっているときに昇龍の対レーダー  
無効化装置を起動して島に近づき天喰を探して救出、全速力で海域を  
離脱する

すごくシンプルだが時間がないのそこちらの援軍が期待できない  
ため助けたらすぐ逃げるってことにした

東海「・・・よし、作戦どうりに攻撃を開始したな・・・みんな行

くよ!!」

曇天「く!?さすがにこれくらい近づかれたらバレルか!!敵航空機接近中!!」

それは作戦を開始して数十分経ってあと少しで目標の島が見えてきたくらいだった

それまでは昇龍のおかげで難なく行けたが気づかれた・・・

東海「全艦!!対空戦闘用意!!」

曇天・昇龍「対空戦闘用意!!」

東海「大鳳!!今からこの艦隊から50kmはミサイル圏内とするので注意を!!」

大鳳「了解しました!!全機発艦!!」

曇天・昇龍「曇天：SM-2（昇龍：シースパロー）、発射!!」  
こうして敵との交戦に入った

東海「ライダー隊、発艦!!それと同時に「キヤスター隊」出撃!!艦隊の対潜圏内から外にいる敵潜水艦を見つけて撃破せよ!!」

今は天喰がないのでライダー隊の一部隊を臨時偵察部隊にして偵察に行かせる

あと、SH-70Jで編成させたキヤスター隊は今回はヘルファイヤを装備させずに全て対潜用短距離魚雷にしている

東海「いた!曇天!艦隊から2時の方向に敵艦載機を発艦させたと思われる空母艦隊を発見!!」

曇天「了解!!トマホーク発射!!」  
ばしゅううう!!

本当は敵の数だけ撃ちたいが時間がないので空母だけを狙ってあとは放置する



曇天「弾着まで5!、4!、3!、2!、!!、今!」

東海「空母撃沈を確認!!早く島に行くぞ!!」

こうして何回か敵艦隊と航空隊に当たったけど大鳳の艦載機とかみんなのスキルのおかげで少し傷を負ったがなんとか島に到着し…

東海「いた!!オブサーバー!!」

オブサーバー「あら?意外と早くこれたのね?」

大鳳「あなた!!私の天喰をどこにやったの!?!」

オブサーバー「さあね?でもさすがに一对十はキツイわね…ここは戦略的撤退をするべきね…」

曇天「あ、待て!!」

そのときだった…

ビー!ビー!ビー!

曇天「な!?!ミサイル警告音?!なんd(ドカアアアアア!!)…うわあ!?!」

昇龍「曇天!!(ビー!ビー!ビー!)…くそ!!シースパロー発射!!」

…セイレーンもミサイル技術を持っていたのか!?!でもあいつらが持っているのはレーザー砲を主力とした武装で対艦ミサイルを使うなんて一回もなかったのに!?!まさか、内通者!?!

オブサーバー「あ、ちなみに内通者なんていないわよ?そうそう、天喰ならそこにいるわよ?」

そう言われ振り返ると天喰がいた

大鳳「天喰!!無事だったんですね!!…天喰?」

天喰?「…」

プリンツオイゲン「…危ない!!」

バシュ!!

ドカアアアアア!!



### 第三章 救い

h a t r e d ・ s i n

一方囮となっている月影

月影（・・・少しやりすぎだな・・・もう、魚雷もUGM-84（潜水艦発射型ハーブーン）も持っている分全部撃ってしまったしそれに周りは敵駆逐艦や巡洋艦が俺を血眼で探してて動けんな・・・）

そう、今月影がいる水上では敵が仇を!!つと言わんばかりに対潜と爆雷を準備して月影を探していた

すると・・・

ドコーン!!

ドコーン!!

月影（うん？爆発音？でもまだこっちの位置はわかれていないはず・・・）

「月影お兄ーちゃんー!!」

月影（は！この天使のようなボイスは!!）

ザパア

月影「・・・なんでお前らも？」

東海「なんで・・・天喰・・・」

ブレイカー（天喰）「・・・デルタ隊処分開始」

セイレーン化した天喰は弓を引き艦載機を放った・・・

東海「な!?ライダー隊!!迎撃!!」

こちらはライダー隊を出すか・・・

ドカーン!!

ドカーン!!

くそ！さすがに互角くらいか!!ライダー隊のF-35JBはステ

ルス機だけど数が少なくあつちはマルチロール機だけど数が多い!!  
しかし・・・

ビー!ビー!ビー!

なに!?ミサイル警告音!?どこから!?

すると、海面スレスレを天喰のキャット隊が接近しハーブーンを発射してきた

東海「くそ!!全艦、対空ミサイル発射!!それと同時にRAM・CIWSの対空を開始して!!」

ばしゅうう!!

ブオオオオオオ!!

はあ!はあ!なんとか凌げているけど数が多い!!

でも、それで終わりではなかった・・・

ブオオオオオオオオオ!!

睦月「如月ちゃん!!危ない!!」

如月「きやあ!?!い、痛いよーう!!」

あ、あれって!?

東海「天喰所属のボルト隊!?!こつちが本命か!!」

セイレーン化した天喰はA-10Cで編成された「ボルト隊」を出してきた・・・

キャット隊のハーブーンに集中させてボルト隊の無誘導爆弾で来るとは!?

大鳳の艦載機はゼア隊と交戦しててほぼ全滅している・・・

こつちだつて攻撃したいけど!!

プリンツオイゲン「曇天!!なんでこつちからはミサイル攻撃をしないのよ!?!」

曇天「・・・無理なんだ」

プリンツオイゲン「・・・へ?」

曇天「アイツからIFF(敵味方識別信号)で味方の反応が出るから

撃てないんだ!!」

そう、どういうわけかあつちの艦載機もセイレーン化しても味方である信号を出し続けているからライダー隊のミサイルも曇天たちの対空・対艦ミサイルが撃てないのである・・・

もう、こちらの攻撃はオイゲンたちの実弾装備したKAN—SENだけになってしまった

味方にいたら心強いけど敵にいたら厄介だな・・・それにオイゲンたちも砲撃が天喰に届いてなくて取り巻きの量産型と人型に妨害されて動いていない!!

その時・・・

バーン!!

昇龍「え!?! A—10の一機が落ちた!?!」

??「い、意外と当たるものなのね・・・」

プリンツオイゲン「え、姉さん!?!」

アドミラル・ヒツパー「助けに来たわよ!! オイゲン!! (・・・本当は適当に撃って当たったなんて言えないわ・・・)・・・取り合えず一端本部に撤退するわよ!!」

大鳳「・・・天喰を見捨てる気!?!」

月影「・・・違うぞ」

昇龍「うお!?! 月影無事だった!?!」

月影「うん、俺のマイエンジェル(ユニコーン)が援護してくれた・・・えっと・・・指揮官が

指揮官「あ、やっぱり助けに行った? つしや!! これで天喰救出の口実ができたぞ!! 全員、海上自衛隊の援護に行くぞ!!」

・・・だつてさ」

あ、やっぱり指揮官も助けたかったんだな・・・  
プルプル

指揮官「もしもし!!東海!?今そつちの状況はどうなってる!？」  
無線機からその本人の声が聞こえた

東海「・・・すみません指揮官助かりました・・・」

指揮官「よかった・・・無事なんだな・・・なに、島にいるセイレーンの数を見たけどとても海上自衛隊と多分スカウトした数隻のKAN—SENじゃいけないと思ってたからな!!」

・・・やっぱこの人には敵わないな

東海「しかし指揮官、一つ問題ができた・・・」

指揮官「・・・どうした!？」

東海「・・・天喰がセイレーンにされて現在、俺たちは撤退しているけど尚も攻撃してくる・・・」

指揮官「・・・天喰がセイレーンに!？」

東海「・・・ああ、多分敵の親玉に洗脳か改造されたと思う・・・」

指揮官「・・・了解、把握した急いでその海域から離脱して!!」

・・・そうしたいけど!!天喰の攻撃が激しすぎてとてもだけど離してはくれないんだとな!!

オブサーバー「うふふふいいわよ私の天喰、あなたが憎んでいるモノを逃がしてはいけないわよ♪」

ブレイカー(天喰)「・・・はい、オブサーバー様!!」

素晴らしい天喰は「心神」を出して上に乗り追いかけてきた・・・

いや、相棒!!できるんですか!?!バーサーカー乗り!?

・・・でも「あなたが憎んでいるモノ」って?

ピカ!!

がアアアアアアアアアアアン!!

ブレイカー(天喰)「ツチ!？」

突如、天喰の周りで青い太陽ができた

あれって!!

リバティ「おーい!!東海!!いい感じで当たった!？」

無線から頼もしい声が聞こえた・・・



本部に戻った東海達は元帥たちのいる会議室に呼ばれた

元帥「・・・なるほど、了解した・・・まさか彼がセイレーンに墮ちるとは・・・」

「セイレーンはKAN—SENを操る技術を持っていたのか!？」

「しかし、彼が裏切った可能性があるぞ!？」

「この際だ!!あいつを沈めてしまおう!!」

「だが、操られているなら解放ができるはずだ!!貴重な戦力を失うことはできない・・・」

部屋の中では救出に出たKA—SENと指揮官がアルバード元帥の前で立っていて近くに幹部らしき人たちがいた

東海「・・・申し訳ございません、勝手に行動をして」

元帥「いや、仲間を思って助けたい気持ちがあつてのことなら私だつてする・・・とりあえず、そのことは置いといて・・・彼にも聞いたがあああの緋色のメンタルキューブは何なんだ?」

海上自衛隊「二二二二二二二二二二二二」

元帥「・・・やはり、彼も言っていたが知らないほうがいいと語っていたから無理もないだ」「いいえ、言いましよう・・・」・・・なんと!!」

曇天「いいののか?東海?やっぱり教えないほうが・・・」

東海「いいさ・・・それに天喰も持っているそのキューブの危険性もわかるはずです・・・」

元帥「・・・確かに彼も危険だとは言っていたが・・・具体的には?」

「・・・ここで言ったほうがもしこの人たちがあのキューブを手に入れたら捨てるだろう・・・」

東海「・・・指揮官、一つ質問をするが哨戒から天喰が帰ってくるたびに出ている割には燃料の消費が少ないと思つてないか?」

指揮官「・・・ああ、なんかやたらと少ないな?つて思っていたけどあれって原子力空母だからなのか?」

東海「・・・まあ、大体正解だ・・・天喰の原子力空母は航続距離はほぼ無限で燃料は核つていうのを使っているんだ・・・」



「航続距離がほぼ無限!?すごい!?!」

「しかし、かくとはいったいなんだ?」

「だが、航続距離が無限なら脅威になるぞ!!沈めるべきだ!!」

元帥「・・・ふむ、しかしなぜそれを今?」

東海「・・・だからこそ沈めたら危険なんだ・・・」

元帥「・・・危険?」

東海「・・・原子力空母の原子力っていうのは核をエネルギーに換えて動いているんだ・・・核は少しだけでもとつもないエネルギーを出しているんだ・・・もし、もし核っていう殻が破けて中の莫大なエネルギーが出たらどうなると思う?」

元帥「・・・どうなるんだ?」

東海「爆発するんだ・・・核っていうのはとつもないエネルギーを放っていてその威力はこの世界のどの爆弾よりも強力でもし天喰を沈めたら地図からあの海域の名前が消えるほど・・・つまり・・・天喰は彼自身が特大な爆弾でもあるのです・・・」

元帥「なら、爆発しても被害がない場所に誘導して爆発すればいいのでは?」

曇天「つていうわけにもいかないんだ・・・核っていうのは放射線っていう目には見えない光線みたいなのが放っているから・・・まあ、近隣住民ができるだけ離れば被害はないが放射線は人体にとつともなく有害なんだ・・・」

東海「この中でKAN—SENに乗せようとか兵器に転用しようつと思っっている人がいるかもしれないけどやめたほうがいい、技術的にも無理でKAN—SENは少しの間ならいけると思うけど出たらもうそのKAN—SENも兵器も処分しないといけないんだ・・・」

・・・これでこの世界で兵器にしようつて思っただ人がいなくなるはずだ・・・

東海「・・・なのでここにいらっしゃる皆さんは約束してくださいあのキューブは絶対に使わないって・・・」

元帥「・・・わかった、今ここで دونالد・アルバードの名に懸けてその技術並びに赤いキューブの使用を禁ずることを誓おう・・・」

東海「……ありがとうございます」

元帥「……よし、しかし同時に問題ができてしまったな……」  
……そう、それはどうやって天喰を止めるかだ……

あの時はオブサーバーが何故持っていたのかわからないがEMP  
を使って足止めをしてきたが俺たちでさえあれは持っていない  
沈めるわけにもいかないし……

指揮官「……いいえ、一つだけなら可能性が……あります」

全員「「「「ええええ!?!」「」」」」」

……え、ドコト? 指揮官?

指揮官「実はアーセナルバードたちがうちの基地に出てきて天喰に  
案内を任せた後だったんです……」

回想シーン

指揮官「……よし、天喰はいったな。ちよつと明石になにか知らな  
いか聞きに行くか……」

建造所

明石「にゅふふふ……さつきは初めて見たKAN—SENに会っ  
てびつくりしたニヤが……まあ、東海を拷問……じゃなくて聞  
けばいいニヤ……この明石特性対KAN—SE用超強力睡眠剤を東  
海にもれば何か聞けるかもしれないニヤ……最悪、ずっと眠ってし  
まうかもしれないニヤいが……東海なら(多分)大丈夫いいニヤ」

指揮官「……ほう、大丈夫か」

明石「にゅふふふ、大丈夫……って指揮官!?!いつの間にかいたニヤ  
(バツ!!)……あ!?!」

指揮官「さうして明石君？これは何に使おうとしたのかな？」ニコニコ

明石「にやうあ．．．えくと．．．」ダラダラ

指揮官「(プルプル)．．．あ、天喰？ちよつと用事できたから本当は案内終わったら二人の戦力確認してから歓迎会をしたかったけどしばらく自由行動をしていいよつて言つていて!!そんなじゃ!!(ピツ)」

明石(そくと)

指揮官「．．．さて、明石？こつそり逃げようとも逃がさないよ。」

明石「(ビクツ!!)．．．ニヤ、にやああああ．．．」ビクビク

指揮官「ちよつと平和的にO☆H A☆N A☆S Iしようか？」にっこり

回想終了

指揮官「．．．つてなことがあつてその明石が東海のいたずらに作った睡眠剤を使つて天喰を無力化ができるかもしれない」

いや、何やつとるん明石．．．

元帥「わ、わかった．．．ならそれで行くか．．．ちなみに何個睡眠剤はある？」

指揮官「二個です」

元帥「よし、なら陸軍から一流の狙撃手を呼んで麻酔弾にして遠距離から隠れ狙撃をしてもらい無力化をしよう．．．一応、後の一つは万が一無力化して本部に運んでいる途中で起きないように持つてくれ」

全員「「「「了解!!」」」」

そして、会議室を出たが．．．

東海「．．．すまない、指揮官と皆．．．少し工房に来てくれないか．．．」

指揮官「?わかった？」

建造所の一角にある工房、そこにて．．．

明石「ん？ニヤ!!指揮官に東海達!!どうしたニヤ？」

指揮官「・・・ああ、そうそう明石・・・お前の特性睡眠剤が天喰無力化作戦に使われるようになった」

明石「ニヤ!?・・・まさか、あれが使われるニヤンて・・・」

明石に今回の作戦を説明した・・・

明石「ニヤるほど・・・しかし、おそろく失敗したら東海達がやるのじゃ?聞いたところ天喰の艦載機のミサイルを対処するだけで精いっぱいって聞いたニヤ?」

東海「ああ、それについて明石の腕を見込んで頼みがある」

明石「ニヤ?明石の技術力にかニヤ?」

東海「・・・指揮官、僕たちの基地と本部に金の改造設計図と資金と資材はどれくらいありますか?」

指揮官「・・・えつと・・・確か、空母が結構あつて巡洋艦と駆逐艦がうちには少ないけど本部と合わせばそれなりにあると思うよ?」

東海「・・・よし、多分足りるかな・・・明石・・・」

明石「な、なんニヤ・・・顔を近づけないでニヤ・・・」

東海「・・・自分が今もっている技術を全部渡す・・・その代わり

・・・即席のでもいい、俺たちの改造を頼んでいいか?」

・・・俺はだれだ?

・・・ここはどこだ?

そこは空が燃えるように赤くなり海が血のようになった場所だった……

そこにはかつての仲間がいた

(申し訳ございませぬ、相棒……先に逝きます……)

(おう、旗艦さんや……お前は沈むんじやねえぞ……)

(君には守るべきものがある!!ここは僕に任せて先に行け!!)

(……囷はやろう……なに、アメリカに一番呼ばれたくないって言われた潜水艦だ……生きて戻っていき……)

……しかしその声の主は今目の前で血だらけで浮かんでいた  
そして……

(……○○……あなたが無事でよかった……ごめんなさい……  
約束を破って……)

髪が黒く、瞳が赤い女性が目の前で爆発して倒れていった……  
……なんでだろう……俺はこの女性に覚えがないのに何でとも愛おしく思えて……

「……泣いているんだ?」

?? 「悲しいでしょう?大切な人を守れなくて悔しいでしょう?」

……だれ?

?? 「こんなことになったのもすべて戦争っていう物のせいなのよ?」

……戦争のせい……どうすればなくなるの?

?? 「ふふ、それは原因となりものを壊せばいいのよ?」

……壊せばあの人たちも助かるの?

?? 「ええ、全部破壊すればいいのよ?ブレイカー?」

……ぶれいかー?それが俺の名前?

?? 「ええ、そうよ。私のことはオブサーバーって呼びなさい♪」

……はい、オブサーバー様

目が覚める……

そこには自分の主であるオブサーバー様が敵の兵器に囲まれてい

た・・・

助けようと背後から攻撃をした

ブレイカー（天喰）「・・・デルタ隊処分開始」

こうして敵の空母と戦闘を始めたがなぜか敵の艦隊に見覚えがあった

そんなはずはない・・・自分はオブサーバー様に作られたセイレーンなんだから・・・

・・・敵が撤退を開始して追撃しようと自分の召喚した艦載機に乗り追いかけたら周りに謎の光ができ追撃に失敗してしまった・・・

そして今、とある作戦を開始しようとした

ブレイカー（天喰）（自分の使命はこの世界を平和にすること・・・だから・・・戦争の武器になるこの世界の兵器と戦争を作る元凶の人類を破壊（滅亡）させる・・・）

・・・それが自分の使命・・・

そして周りにはオブサーバー様が使っていていいといった大量の量産型と人型セイレーンがいる

ブレイカー（天喰）「・・・全艦に告ぐ、ただいまより侵攻を再開・・・  
目標・・・

アズールレーン本部」

この作戦が成功すればこの世界から戦争の原因が消えて平和になれる・・・

repentance

ブー!ブー!ブー!

元帥「・・・どうした!?!」

通信士「セイレーンが集結している島の監視員からの報告!!セイレーンの艦隊が突如本部に向けて侵攻を開始!!」

元帥「なに!?!」

指揮官「申し訳ございません、遅れました。何があつたのですか?」

元帥「セイレーンが突然進撃を再開したらしい」

指揮官「・・・旗艦は?」

通信士「は、はい!!たつた今監視員から先頭に弓を持った男性がいると!」

指揮官「・・・やっぱり来たか、天喰!!」

放送が鳴り、KAN—SENたちが会議室に集められて指揮官から報告があつた

指揮官「・・・現在、セイレーン化した天喰率いるセイレーンの残存艦隊が本部の侵攻を再開した・・・」

ざわざわ

エンタープライズ「・・・ほかの海上自衛隊は?」

指揮官「今ちよつとお取込み中でこれない」

そう、現在海上自衛隊は明石と技術担当の東海と一緒に改造案を考えている

指揮官「よし、敵の現状を説明するぞ・・・敵、天喰は先ほど一時間前に残存セイレーンを率いて侵攻中・・・しかし、ここからが重要だ・・・彼に攻撃はするが殺してはダメだ」

時雨「それってどういうこと?」

指揮官「・・・これはさつき海上自衛隊が隠していた秘密でくわしいことは省くが天喰自身が超巨大な爆弾で倒してしまつたらそのあたりが消えて最悪本部まで巻き込んでしまうってことだ」

ザワザワ

如月「そ、それって勝ち目がないんじゃない？」

指揮官「ああ、だから前に明石がふぎけて作った睡眠剤を陸軍の狙撃手が天喰を狙って投与することになった。なのでみんなの任務は狙撃手が天喰を狙いやすいようにできる限りその場にとどまらせておくことだ！」

プリンスオブウェールズ「……つまり狙撃手が狙えられるまでの時間稼ぎという事か……」

ウォースパイト「了解したわ……」

指揮官「……よし、皆理解したな？最後に一つ、みんな無事に帰ってきてそれこそこの作戦は完全に成功だ!!天喰を連れて帰ってきてみんなであいつを殴るぞ!!」

全員「「「「おおおお!!」「」「」」」

……なぜだ

……なんであの艦隊のことを気になっているんだ？

……自分はオブサーバー様に作られた存在

……オブサーバー様と仲間のピュリファイヤー様とあと何体かの人型以外は知らないはずなのに

……特にあの黒髪の和服をきた女性

……なんであの人だけは頭から離れないんだ？

……なんであの人だけは絶対に死なせないって思ってしまうんだ？

……この作戦が終わったらオブサーバー様にキューブの点検をお願いしよう……



その時……

バチツ!!

ブレイカー（天喰）「ウツ!!」

（相棒！朝練行きますか？）

（いや、だから兄貴じゃねえって!!）

（天喰!!ちよつとこの変態をどうにかしてください!?)

（……なあ天喰、お前もロ r ……小さい子を愛でたいクラブに入らんか?)

（……ふう天喰、執務手伝ってくれてありがとう……今夜、飲みにも行かんか?)

（ニヤ〜天喰〜天喰の艦載機……少しでいいから分解させてニヤ〜?)

（天喰!!天喰!!また対抗演習で天喰たちと戦おうよ!!……あ、昇龍の対レーダー無効化装置は無しね!!）

（天喰!!）

（天喰い〜?)

（おーい!!天喰!!）

……天喰??……それが俺の名前なのか?

……でも、自分はブレイカーというはず……

そして……

??（……天喰……今度、一緒にお食事でもよろしいでしょうか?)

……また、あの黒髪の女性だ

……やっぱり、自分はこの女性を覚えている

……なんでだ?自分の赤いキューブの影響か?しかし、オブサーバー様はそのキューブさえ壊さなければ強力な代物だっついていった

……自分が覚えていないだけかもしれないが、恐らくさつきフラツシユバックで見た女性や他の人達もあったことがあるはず……

……それならなぜセイレーンの自分がこんなにも人間と仲良く話

しているのか？

・・・まあいい、自分の使命は全人類とKANSENをすべて破壊しこの世界を平和にすることだ、それは変わらん

ブレイカー（天喰）「・・・全艦、対空対潜を厳となせ・・・」

セイレーン達「「「「「」」」」」

しかしなぜだろう少しくらい反応をしてほしい・・・

ブレイカー（天喰）「・・・偵察機、発進」

弓を引き偵察機を飛ばした・・・

ぐおおおおおん!!

上空を天喰が持っていた偵察機が通りすぎていく

エンタープライズ「・・・来たか」

水平線のかなたから黒い点が少しずつ見えてきた・・・

・・・仲間にこの武器を向けるのは本望ではないが今やらなければこちらがやられる。助けるが今は天喰を味方だとは思わずに敵としてやるしかない

エンタープライズ「・・・エンタープライズ、エンゲージ」

天喰の発艦のように自分も弓を引き艦載機を発艦させた

天喰の詳細は前に東海に聞いたのである程度の対処ができる

・・・しかし

ドカアアアン!!ドカアアアン!!

発艦した瞬間、艦載機が爆発し近くを高速で飛行体がすれ違っ  
ていく

エンタープライズ（あれは天喰のゼア隊!!・・・東海が・・・

東海「天喰のゼア隊は制空ステルス戦闘機で水面すれすれで奇襲攻撃をするでしょう・・・」

・・・って言うていたが本当に来るとわな)

しかし、ゼア隊は制空権の獲得を目的とした部隊、現在上空では味方機がほとんどいなくなり制空権が確保できた状態・・・なら!!

エンタープライズ「全員、対空に集中しろ!!対艦ミサイルがくるぞ!!」

そういつているうちに

エンタープライズ「・・・来た!!」

上空を10機のキャット隊がやってき対艦ミサイルを放つ

エンタープライズ「対空砲火、開始!!」

全KAN―SENが機銃、主砲や副砲まで使い空に向けて放つ

ドン!!

ドキュウウン・・・

ドカアアン!!

キャット隊が放った一機二発、合計二十発がきたがこちらは主砲までも打ち落とすのに使っていて陣形を輪形陣でできるだけ隣とは近づいて敵本隊を目指す

打ち落としこそねたミサイルはシールド系スキル持ちのKAN―SENを二人以上で確実に防ぐ

エンタープライズ「・・・よし、今だ!!」

キャット隊が再び攻撃態勢に入る前に全速力で移動する

それに海上自衛隊が前にいた世界は接近戦を考えていないので近づく!!

こうして、亀の甲羅戦法であまり被害は受けずに本隊に近づけたものはいが・・・

エンタープライズ「・・・くそ!!どうすれば!?!」

敵は天喰を中心にして周りを前の作戦で見た超大型艦三隻を盾にして攻撃をしてくる。制空権が取ればあの超大型艦はあまり脅威ではないが今となれば目標の天喰に攻撃できずに膠着状態になっている……

エンタープライズ「……空を制する者は戦場を制するってよく言っただものだな!!」

こちらにも負けじと何隻かは隙をみて攻撃しているが時間はかかりそうだな

しかし……

ブオオオオオン!!

エンタープライズ「……やはりいるのか!!」

天喰の艦載機に混ざってセイレーンの艦載機もやってくる

そうするとさっきまで隙を見て攻撃していたKAN—SENの数は減ってきて一方的に防戦状態になった

ホーネット「……しまった!？」

エンタープライズ「ホーネット!!」

防戦状態になってしまったため被弾するKAN—SENが増えてきた……

エンタープライズ「大丈夫か、ホーネット!？」

ホーネット「ううう……ごめん姉さん、被弾しちゃった……」

エンタープライズ「……東海が言ってたが天喰は味方だと心強い敵だと脅威になるな……」

そして……

エンタープライズ「くそ!!キャット隊が帰ってきた!!対空戦闘用意!!」

ホーネット「……!!、姉さんあれ!!」

エンタープライズ「ボルト隊!飽和攻撃か!？」

一方をキャット隊で攻撃を固め、反対側からボルト隊が機関砲を撃ちながら爆弾の投下の開始してうち一発が傷ついたホーネットの命中ルートに入っていた

??「危ない!!」

そう身を挺して守ってくれたのは

ホーネット「大鳳!?!なんで!?!」

大鳳「大鳳は装甲空母です!!大鳳は装甲が重いのでホーネットは後ろに下がって!!」

ホーネット「あ、ありがとう・・・」

大鳳がかばっているうちにホーネットは下がれたが

エンタープライズ「大鳳!!魚雷だ!!」

大鳳「こんな時に!?!」

ホーネットを庇っていたのでその場から動かなかつたからセイレーンの雷撃機の恰好の的だ

雷撃機が大鳳に進行方向を合わせ投下しようとした

その瞬間・・・

曇天「伏せろ!!大鳳!!」

キイイイイイイイイ!!

大鳳の頭上を赤い光線が通って行った

・・・そこに立っていたのは

持っていた銃と装備が近未来的になりそこからレーザーを放っている曇天と三連装砲にしては威力のありすぎる艦砲を放ちながら格闘をしている東海と謎の電撃を放ちながら沈めていく月影、そして急に消えて現れて奇襲を続けている昇龍がいた

大鳳「曇天!!皆!!」

曇天「・・・よく耐えたな!!さあ、反撃の時間だ!!」

東海「よし、三連装砲型レールガン「パラディン」発射!!」  
バリバリ!!バシユウウウウ!!

エンタープライズ「たった一回の砲撃で三隻の戦艦級人型セイレーンを一気に!!」

東海「エンタープライズさん!!けが人は!？」

エンタープライズ「こつちではホーネットと大鳳が被弾した!!」

東海「了解!!修理ドローン達!!行ってください!!」

ブイイイイイイイイ!!

ホーネット「え!?ナニコレ!？」

ブイイイイイイイイ!!

大鳳「・・・すごい、けがをした所が治っていきます」

東海「・・・うし!!治療完了!!」

エンタープライズ「あ、ありがとう・・・他の場所に行ってくれ」

東海「了解した!!」

コロンビア「姉ちゃん!!どうしよう!?!天喰の艦載機が邪魔でセイレーンの艦載機が艦隊の内側に入り込み始めた!!」

クリーブランド「わかったけど!少しでも油断したら対艦ミサイルが来るからそつちも!!」

モントピア「クリーブランド姉ちゃん!!そんなこと言ったら対艦ミサイルが来た!!」

クリーブランド「ええ!?!もう!？」

ミサイルが来るが・・・

曇天「どつせええええええい!!」

キイイイイイイイ!!

クリーブランド「あ!曇天!!その姿って!？」

曇天「急造だが改造してきた!!・・・ほんじゃ、もうひと頑張り行

くぞ!!」

クリーブランド「ああ!!対空戦闘用意!!」

曇天「対艦対空両用レーザー砲「カリバーン」照射開始!!SM-2発射!!」

ドン!!

ドン!

キイイイイイイイ!!

コロンビア「うわあ・・・綺麗・・・」

モントピア「でもすごい発射音だね・・・」

ウォースパイト「なぜかしら、セイレーンの動きが悪くなっている気がするわ・・・」

アークロイヤル「ああ、空は変わらないままだが海にいるヤツだけ悪なっている・・・」

ザパア

月影「・・・それは俺だ」

アークロイヤル「ぬ?そうなのか同志月影?」

月影「・・・ここはどこぞの社会主義国かよ・・・そうだよ、オプサーバーが使ってもしかしてと思っただけで東海と明石が作った潜水艦用EMP発生装置「電磁波2型」だが、名前の割には思いのほか効いているぽいな・・・」

ウォースパイト「なら、今が倒すチャンスね!!」ダツ!!

月影「・・・あ、ちなみに」

バリイ!!

ウォースパイト「きゃあ!? (びりびり)」

月影「・・・味方のそばだと感電するから行くなっただけ・・・ていう前に行きおった・・・」

東海と合流した瞬間、劣勢が一気に優勢になりアツという前に  
東海「・・・たどり着きましたよ、天喰」

ブレイカー(天喰)「・・・敵の接近を確認」

曇天「・・・やっぱり、姿も気配もまんま別人だな」

ブレイカー(天喰)「・・・全機、ウエポンズフリー殲滅せよ」

天喰が艦載機を発艦させようとするが・・・

東海「ライダー隊!!迎撃!!」

ライダー隊と天喰のデルタ隊が交戦しようとするが・・・

ブレイカー(天喰)「・・・なに!?!」

デルタ隊のほう撃墜される数が多いのだ

高速で打ち落とし離脱していったのは・・・

天喰「・・・!?Su-57!?!」

東海の艦載機はF-35JBからSu-57Jに変更され・・・

ドドドドド!!

ブレイカー(天喰)「・・・く!?!」

攻撃してきたのは・・・こちらも改造されたときについてきたVT

OL機「SB-3B」が対艦ミサイルを発射している

その時・・・

昇龍「ハッ!!」



ブレイカー（天喰）「!?」

何もない空間から昇龍が現れて攻撃をしてきた

ブレイカー（天喰）「・・・敵を発見、攻撃を・・・!?」

そしてそのまま昇龍は陽炎のごとく消えていった

ブレイカー（天喰）「・・・空間転移!?」

ドカアーン!!

ブレイカー（天喰）「・・・く!?」

東海「ふう・・・ようやく攻撃が当たりましたね。しかし、セイレーン化したのか装甲が硬くなってますね」

ブレイカー（天喰）「・・・前提を置き替え結論を予測・・・完了」

東海「・・・さあ、天喰。今度こそ助けますよ!!」

こうして、本当の決着をつけるべく戦闘を開始した・・・

# judgment

ブレイカー（天喰）「・・・殲滅開始」

東海「させるか!!ライダー隊!!交戦許可!!行ってこい!!」

東海達と天喰の間では激しい攻防戦が行われていた・・・

東海はSu-57に変わったとしても搭載量は変わらないので数の差で負けるが・・・

キイイイイイイイ!!

曇天のレーザー砲と対空ミサイルがいい感じに援護をしているので五分五分の状態であったが

昇龍「・・・はあ!」

ブレイカー（天喰）「・・・ぬう!!」

昇龍が透明化して天喰の死角から90式対艦誘導弾を放ちながらヒットアンドウェイ戦法で攻撃をしていく

ブレイカー（天喰）「・・・逃がさない!!」

透明化中の昇龍を刀を抜き切ろうとするが

月影（・・・えい）

バチツ!!

ブレイカー（天喰）「う!?!」

月影のEMPで動きを妨害する・・・

ホーネット「す、すごい。私たちでさえ近づくことが難しかったのに・・・」

エンタープライズ「・・・ああ、・・・なら、全員!!今のうちに他のセイレーンを倒して東海達のところに行かせるな!!」

全員「[[[[[[了解!!]]]]]]」

そのころ・・・東海が戦っている場所から近くにある孤島

狙撃手「・・・よし、ターゲット確認」

陸軍から選ばれた狙撃手がセイレーン化した天喰に標準を合わせ狙っていた・・・

狙撃手「俺も長い間、陸軍に身を置いていたが・・・KAN—SE

Nを狙うなんて初めてだぞ……」

素晴らしいながらも今回の作戦で専用に開発された（元：対物）ライフルを構えて狙いそして……

バアアアアアン!!

轟音がなり明石特性の睡眠剤が放たれた……

そして、そのまま天喰の首元に吸い込まれるかのように飛び……

たああああああん!!

……命中した

あれから何十回かの攻防戦が行われ……

ブレイカー（天喰）「はあ!!」

昇龍「……うわあ!?!」

昇龍の奇襲攻撃が読まれ初めて対処されるようになり

曇天「くそ!!」

曇天のほうはセイレーンの艦載機を囮にし、まだ曇天のスキルのシールドで守られているが当たりだした……

容赦ないな……

セイレーン化しているからかわからないけど、前の天喰より冷酷なやり方で攻めてきた

多分だけど、元の天喰の優しい部分を失くしたら最強かも……

東海「……天喰……いや、ブレイカー!?!キミは何のために戦うのですか!?!」

ブレイカー（天喰）「……自分の使命はオブザーバー様の命令に従うこととこの世界の兵器とそれを作る人間をすべて破壊することだ……」

東海「……確かに人間が減れば戦争がなくなる……だけど!!……」

もし、ブレイカーが勝って人間を滅ぼせたとしよう!!...だれが、平和になって喜ぶんだ!?

ブレイカー(天喰)「ツ!」

天喰の動きが一瞬止まった

ブレイカー(天喰)(...確かにこの世界が平和になったら自分が見たあの夢に出た人たちが死なずに済む...だけど、その人たちも人間だ...あれ?俺は何のために戦っているんだ?)

その時...

たああああああん!!

よし!!天喰の首元に睡眠剤が命中した!!

ブレイカー(天喰)「...しまっ(くらっ)」

睡眠剤が首から注入され動きが鈍くなり無力化られるか思ったが...

ブレイカー(天喰)「ふん!!」

東海「なに!」

なんとブレイカー(天喰)はあまり効かずに戦闘を続けた

曇天「おい!どういことだよ明石!まったく効いてないぞ!」

そう、全員に配られた無線に問いかける...

明石「(ザザツ)ニヤ!!東海達!!たつた今、天喰をスキャンしてわかったにやが、天喰の体内に二つメンタルキューブを確認したニヤ!!多分、そのせいで睡眠剤があまり効かないニヤ!!」

東海「...恐らく、赤いメンタルキューブ!!...どうすれば効くようになりますか!」

明石「一瞬でいいニヤ!!一瞬だけ油断させてその時に睡眠剤を注入すれば効くと思うニヤ!!」

一瞬か...昇龍が適任そうだが...

昇龍「言つとくけど、天喰がこちらが攻撃する前に攻撃し始めてい

るからもう効かないと思うよ」

現在は自分と曇天が空を相手している間に昇龍と月影だけが近づけている……

それに今の天喰は自分たちを殺すことしか考えていないので精神ががちがちに固まっているだろう……

猫だましとか効かないだろうし……

大鳳「……それなら、大鳳に一つだけあります」

昇龍「お！大鳳さん!!どういう方法？」

大鳳「……無線で聞いてましたが一瞬だけでも油断させればいいのですね?……なら、大鳳を天喰の近くまで行かせてください!!」

東海「……よくわからないけど了解した、リバティ!!聞こえるか!!」

リバティ「こちら、リバティ!!どうしたの東海」

東海「えつと、今から大鳳を援護する。今から天喰に飽和攻撃で大鳳に攻撃させるな!!」

リバティ「了解!!行くよ!!ジャステイス!!」

ジャステイス「……わかったUAV発進」

東海「……頼みましたよ、大鳳……」

ブレイカー(天喰)「……身体の有害物質の除去完了……!!、多数の飛行体を確認」

空から大量のリバティたちが出したUAVが天喰に襲うが

ブレイカー(天喰)「……エンゲージ」

天喰の艦載機で対応されるが……

東海「いまだ!!」

ズドドドドド!!

ブレイカー(天喰)「・・・飽和攻撃か!」

周りから大量のミサイルや砲弾が来るが

ブレイカー(天喰)「・・・はあ!!」

ミサイルは戦艦を盾にして凌ぎ、砲弾は刀で切っていく

ブレイカー(天喰)「・・・!?!、砲弾は煙幕か!」

そして、煙幕が周りに広がりすっぽりと包まれその中から

東海「くらえ!!」

煙幕の中から東海がレールガンを構えながら迫ってきたが

スツ

東海「はあ!?!これを避けるって!」

昇龍「・・・もう、天喰はKAN—SENやめてませんか?」

・・・いた

東海「・・・でもまだまだ!!」

煙幕が晴れて周りにいたのは東海のVTOL機が囲っていてミサ

イルを打ってくるが

・・・キン

音を鳴らすと迫っていたミサイルが爆発した

東海「いや、ミサイルを刀で切るって・・・」

曇天「・・・多分、赤いキューブが二つだからできるんじゃない?」

・・・今はなんとか防いでいるが何が目的だ?

そうすると東海が離れてレールガンを構えた・・・

ブレイカー(天喰)(くるか!)

東海がレールガン放つ

しかし、弾は来ないで風圧と音だけがきた

・・・なに?

東海「……残念ですが、弾は装填せずにチャージして放つただけです!!……行ってください!!大鳳!!」  
そういわれ上を見上げると

……あの黒髪の女性が降ってきた

回避が間に合わない!!

大鳳「許してくださいね……天喰……」  
そういわれ手を顔に添えられ……

ちゆ  
♡

東海「……え」

昇龍「……あら、やだ」

月影「……oh」

曇天「……え、それ？」





ピュリファイヤー「それでどうする？あのキューブがあつちのほうにわたってしまうけど？」

オブサーバー「使われることはないでしょう……彼の仲間が危険性を説明したでしょう……それに……彼のアレ見てみたいしね♪」  
ピッ

ピュリファイヤー「ん？今何したの？」

オブサーバー「なについて……」

元の彼の記憶を編集して元に戻したのよ♪

ブレイカー（天喰）「……た……い……ほ……  
う……？」

大鳳「天喰!?戻りましたか？」

ブレイカー（天喰）「……俺は……なにを……」

ピッ

ブレイカー（天喰）「……なんd……う、うわあああああああああああああああああ！」

大鳳「どうしたんですか!?天喰!？」

ブレイカー（天喰）「……東海……曇天……昇龍……月影……  
大鳳……みんな……なんで」

東海「相棒!?!僕たちはここにいますよ!?!」

ブレイカー(天喰)「……返せ」  
曇天「……え？」

ブレイカー(天喰)「死んでいった東海達を返せ!!」

東海「どうしたんですか!? あいb(ドスツ!!)……ごふう!?!」  
目の前で東海がいなくなったと思った瞬間……東海は血だらけで倒れていて近くには血まみれになった刀をもつ天喰がいた……

昇龍「東海!?! ……天喰、何を!?!」

ブレイカー(天喰)「はあ……はあ……はあ……はあ……殺す!!」

ドゴツ!!

昇龍「え、消え(ガツ!!)う!あ……が……」

昇龍が身構えた瞬間、天喰は高速で動き昇龍の首を掴み上げた  
ビィィィィィ!!

ブレイカー(天喰)「ちい!?!」

月影「……大丈夫!?! 昇龍!?!」

昇龍「げほ!?! げほ!?! ……助かったよ月影……」

曇天「しかし、どうしたんだ!?! 天喰!?!」

オブサーバー「うふふ♪聞こえるかしら? 海上自衛隊の皆さん?」

昇龍「オブサーバー!?!どこに!?!」

オブサーバー「あ、悪いけどこの放送は遠隔だから探しても意味ないよ?」

大鳳「セイレーン!!天喰に何をしたの!?!」

オブサーバー「なについて特にしてないわよ?・・・でも

彼の大切な人たちが君たちによつて殺されたつていう記憶の改ざんはしたわ♪」

大鳳「え、記憶の改ざん?・・・でも、大鳳たちの姿とかは!?!」

オブサーバー「ああ、それも編集して存在は覚えているけど姿を忘れさせてあなたたちを殺そうとするつてことにしたわ」

曇天「・・・なんつうことを」

オブサーバー「まさか、私の天喰が負けるとは予想しなかったけど新しいものが見れるわね・・・それじゃ、彼の本当の本気を味わいなさい?あ、私が離れて放送しているのは彼の巻き添えを食らいたくないからね♪それでは・・・(プチ)」

曇天「・・・天喰の本気?」

ブレイカー(天喰)「はあ。はあ、はあ・・・」

・・・天喰の詳細が更新されました、確認しますか？

はい いいえ

原子力空母【天喰】 レアリティ 測定不可能

スキル1

(あの頃なりの覚悟)

ユニオン・重桜の戦艦・正規空母の火力・航空値を20%上昇する

スキル2

(罪のまなざし)

敵のスピードを50%遅延する

スキル3

(殺戮の鬼)

東海・曇天・月影・昇龍が行動不能になった(天喰が認識した)ときのみ発動

敵の戦艦の砲撃・空母の航空攻撃・前衛の魚雷攻撃・敵の支援スキル(発動中でも)をすべて240秒間使用不可能にするり、スピード・火力・回避率も60〜90%の割合で遅延

さらに天喰は240秒間、常時無敵になり、5秒に一回で特殊弾幕を確定で発動する

敵からデバフのスキルを受けているときは強制的に無効化する

しかし、240秒経過後回避地・航空値がゼロになり行動がでなくなる

天喰（暴走）「はあ、はあ、あああああああ!!」（ドカアアーン!!）

苦しみだした天喰は爆弾が起爆したが如く地面をけり曇天に切りかかった・・・

曇天「あぶねえ!?（がきいいいいいん!!）」

迫ってくる刀を曇天が銃の腹で受けるが・・・

曇天「・・・なんだよこれえ!?なんていう馬鹿力だよ!」

受けていくうちに地面が陥没し体制が崩れだし・・・

曇天「(ザシュ!!)・・・あ・・・」

曇天の銃が切断され肩から腰に掛けて切られてしまった・・・

月影「・・・曇天!?・・・天喰!!落ち着け!!EMP発動!!」

なるべく気絶させるつもりで天喰に張り付きEMPを展開させようとするが・・・

ごう!!

月影「・・・ぐふう!?・・・なんで、展開されないんだ・・・(ドサツ)」

天喰（暴走）「・・・」

リバティ「二人とも!・・・くそ、行って!!フギン!!ムニン!!」

ジャステイス「・・・PLSL発射!!」

アーセナルバードたちが援護するが・・・

リバティ「：え、何か投げて：(バキイイイイ!!)きやあああ1!?!」

ジャステイス「・・・嘘でしょ・・・戦艦の残骸を投げて落としてくるなんて・・・」こちら!!ジャステイス!!姉さんが落ちそうだから一回離脱する!!」

仕留めたのを確認し次にターゲットにしたのは・・・

大鳳「……………」

大鳳だった

昇龍「次は大鳳さん?!? ……やめろ!!天喰!!」

「素晴らしい、透明化を発動して止めようとするが…

バシユ!!

昇龍「(ドスツ!!) あぐ!?!」

透明化したが場所を見破られ矢を放たれ肩に刺さったまま岩に刺さり宙づりになった

それを確認しスキルの威圧か動けない大鳳に近寄り切ろうとした瞬間……

バリバリ!!バシユウウウウ!!

天喰(暴走)「……………!?!」

東海「ふう、ふう、ふう」

片膝で体制を保ちつつレールガンを放った東海がいたが弾は外し……

東海「ごほ!?!」

吐血して倒れてしまった……

東海(……そうか、今の僕たちは急造で作られて無理やり装備とチューニングした状態……だから、下手に損傷したらダメージもデカイ……)

そう、思いつつも大鳳を切るべく歩み寄る天喰……

大鳳「……………なんですか……………天喰……………」

東海「や……………め……………ろ……………あ……………ま……………く……………い……………」

そして無常にもその刀が大鳳を……………切る……………

大鳳「っ!!」

ザシユウウウウウウ!!

ポタポタ……

大鳳「……え？切られていない？」

大鳳を切ろうとした刀は大鳳ではなく……

天喰「ごふう……あぶな……かった……」

天喰のキューブのある心臓に刺さっていた……

大鳳「天喰!?なんで!？」

天喰「よかった……君が無事で……(ドサツ)」

大鳳「天喰!?天喰!？」

血を吐きながら助けるべき大切な人は倒れていった……

## A t o n e m e n t

それは天喰の救出作戦中に起こった・・・  
とある監獄

「おい！150703番！！点呼の時間だぞ！！さっさとでろ！！」

シーン

「150703番！早く出てこい！！」

シーン

「まさか!? (バンツ!!)」

収容室の扉を開けたが・・・

「くそ!!脱獄だ!!」

看守が電話で報せる・・・

「緊急事態発生!!B級牢獄で脱走者を一名確認!!番号150703番  
!!名前は・・・

豚田 太郎だ!!」

不審な雲が立ち始めたのであった・・・

・・・天喰の救出作戦は成功した・・・だけど成功したけど失敗でもあった・・・

エンタープライズたちは東海達がセイレーン化した天喰と戦っていて、その間は東海の邪魔をさせまいと周りのセイレーンたちを処理していたが・・・突如、敵が撤退。東海達から緊急の救護要請があり急いでいったが地獄絵図だった・・・

東海と曇天は全身を切り裂かれて血だらけで倒れており、月影は外側は傷は目立たないが全身を折られており、昇龍は肩を矢で貫かれて岩に空中に浮かんでおり降ろした・・・



エンタープライズ「大丈夫か?・・・はやく!!本部に戻るぞ!!」

指揮官「どいてくれ!!急患だ!!」

エンタープライズたちから事前に連絡があつて治療室に運ぶ準備をしていたがひどい有様だった・・・

全員が血だらけになっており戦闘の激しさを物語っていた・・・

医師「こちらです!!早く!!」

指揮官「あとは頼むぞ!!」

ぷしゆううううう

指揮官「無事でいてくれよ・・・みんな・・・」

扉が閉まり手術中の明かりがついたのを確認し祈る気持ちでその場を離れようとしたが・・・

指揮官「ん?・・・どうした?大鳳?」

扉の前で大鳳が立っていた・・・

指揮官「・・・天喰のことか?」

大鳳「・・・はい」

・・・やっぱりか、大鳳はエンタープライズたちが救援に来るまで必死にみんなの治療をしていた

指揮官「・・・大丈夫さ、この医師は一流だし何より明石がついてるからさ・・・」

大鳳「はい、指揮官様・・・」

・・・まってくれ!!天喰!!

そこにはセイレーンに連れ去られそうになっている天喰がいた・・・あと少し!!少しだけでも早く異変に気付けたなら!!

そして・・・

・・・なんで・・・天喰

帰ってきたかつての相棒はセイレーンにさえていた

・・・相棒を助ける!!

一回は負けて撤退したが即席の改造をして再び挑んだが

・・・やめろ!!天喰!!

大鳳に刀で切ろうとした瞬間・・・

東海「・・・・・・・・・・は!!」ガバツ!!

明石「ニヤ!?!急に起きるなニヤ!?!」

東海「・・・・・・・・明石?」

そこには自分に繋がれている点滴を交換しようとしていた明石がいた

明石「と、とりあえず目が覚めてよかったニヤ・・・」

東海「ああ、!?!天喰は!?!他の皆は!?!」

明石「あ、まだ起きるなニヤ!?!」

東海「い!?!いててて・・・」

明石「まったく・・・まだ治りかけだから起きたら傷づちが開くニヤ・・・あと、曇天たちは東海より先に治って無事ニヤ」

・・・そうか、よかった。でも・・・

東海「天喰は?」

明石「まだ、起きていないニヤ・・・」

話によると天喰の胸に刺さった刀は抜け、赤いキューブも取り出せたが天喰本人がまだ目覚めていないらしい・・・

東海「・・・・・・・・ちまみに今、キューブは?」

明石「・・・・・・・・キューブは本部の地下最重要隔離保管庫で嚴重に守られているニヤ」

ガラガラ

昇龍「東海!?!起きたのか!?!」

リバティ「よかった・・・」

病室の扉が開き曇天たちと指揮官が入ってきた

指揮官「・・・よく生きてたな」

東海「いや・・・ほんと・・・今回は自分の運に感謝ですよ」

明石「・・・東海!!明石がせっかく作った改造兵器を壊すなんて!!」

東海「・・・仕方ないだろ、急造だし。でも明石ができなかったことだ・・・ありがとう」

明石「な、ならいいニヤ!!・・・無事でよかったニヤ」

東海「指揮官・・・あれからどうなった?」

指揮官「・・・本部近郊の海域からセイレーンの反応は消え鏡面海域の現象も同時に消失した。・・・アルバード元帥も作戦終了をさつき出したばかりだ」

・・・そうか、作戦は成功したのか

東海「・・・でも」

指揮官「・・・ああ、天喰がまだ目覚めてないだろ?」

東海「・・・」

指揮官「・・・見舞いに行きたいのか?」

東海「・・・はい」

指揮官「・・・わかった、じゃこの車いすに乗れ・・・行くぞ」

自分の体はあちこちに傷口があるので包帯でぐるぐる巻きにされて  
いる

痛む体に鞭を打ちながら椅子に移動し、天喰がいる病室に向かっ  
た・・・

く天喰の病室く

中に入りかつての相棒の状態を確認すると・・・絶句した

所々に管が繋がれていて前進は包帯やらで肌が見えないほどだっ  
た・・・

指揮官「・・・天喰の体はセイレーンに近い組織に換えられてもとに戻すだけでもかなり危険なんだ・・・それに天喰が自分自身を止めるときに胸部に刀を刺し止めたがそれが決め手で普通なら死んでもおかしくない状況だった・・・だから、天喰はこの時からいつ死んでもおかしくない状況だ」

東海「・・・そうですか・・・ん？」

天喰が寝ているベットの隣で悲しそうに見ている女性がいた

大鳳「・・・天喰」

東海「・・・大鳳」

大鳳「あ、東海・・・指揮官様」

指揮官「・・・大鳳、今日も来ていたのか」

「どうやら、大鳳は天喰がここに運ばれてから毎日のように演習や休み時間の間はずっとここにいらしい・・・彼が起きるまでずっと・・・」

大鳳「・・・はい」

ポタ「・・・ポタ・・・」

すると彼女は静かに涙を流し始めた・・・

大鳳「・・・大鳳のせいです・・・もし、あの時装置からセイレーンの触手が出てきたのを気づけたなら！」

東海「・・・それなら僕たちにも非があります・・・なぜ、まだ鏡面海域なのに本部と通信ができるのか」

指揮官「・・・でも、こつち本部ではあまりにも簡単にコアが見つかったから罫ではツていう声もあった・・・指揮官としてみんなに警告するべきだった・・・」

・・・本当、あの時あしていれば・・・

曇天「あああ!?!もう!!今、そんなに暗くなつてたら起きた天喰が心配するだろ!!とにかく今は天喰が無事に目覚めるのを祈るしかないだろ!?!」

指揮官「・・・そうだな!!皆も暗くなつていたら天喰が心配するぞ!!」

大鳳「・・・はい」

東海「・・・了解しました」

・・・早く起きてください、相棒・・・みんながあなたの帰りを待っているんですよ?・・・」

元帥「・・・田中少将、少しいいか?」

天喰がいる病室を後にしみんながいるへやに行こうと向かっていたらアルバード元帥に声をかけられた

指揮官「はい?どうされましたかアルバード元帥?」

元帥「・・・すまないがここでは話せない・・・私の部屋に来てくれ」

指揮官「・・・わかりました」

指揮官「・・・それでどうされましたか?」

元帥「・・・とりあえず作戦の成功、おめでとう」

指揮官「・・・ありがとうございます」

元帥「・・・さて、いいニュースと悪いニュースがある。まず、いほうからだ・・・君の中将昇進が決まった」

指揮官「ツ!!ありがとうございます!!」

元帥「それで悪いほうだが・・・君たちが救出作戦中に起きた・・・

豚田 太郎が脱獄した」

指揮官「な!?あの豚田が!」

元帥「ああ、もしかしたら君たちに復讐してくるかもしれん・・・用心しといてくれ」

指揮官「・・・肝に銘じておきます」

ここはアズールレーン本部のある都市から離れた郊外

??「ふう、ふうここまでくればあの人間どもは来ないだろう・・・」  
そこにはぼろぼろの服をきて逃げる・・・豚田だった・・・

豚田「・・・くそおお!?あの老害と無能どもがあ・・・この高貴な僕をあのような牢獄に叩き入れるとわあ!・・・今に見ているがい・・・特にあの空母が・・・力が・・・この神になる資格がある僕に力があればああああ!!」

・・・実をいうと豚田は生まれてから子にとっても甘い親からすべてを与えられた

豚田の父親がアズールレーン所属の元大将であった

親から今食べたいもの、着たいもの、手に入れたいものすべてをすぐに与えられた、そのせいか自分はこの世界では選ばれた人間で神から祝福されているのだと勘違いを生んだまま成長してしまった・・・元ではあるが中将という地位も彼の功績とかではなく、単なる親の推薦という名のコネであった

・・・親が甘過ぎたら子供が駄目になるとはこのようなものだ・・・

?? 「ふふ♪なにやら力が必要なようね？」

豚田 「だ、だれだ!？」

?? 「ふふ♪こんぼんは？脱獄中の罪人さん？」

豚田 「せ、セイレーン!?なぜこんなところに!？」

?? 「それより・・・あなたはあの空母を倒すくらいのが欲しいの  
でしょう?」

豚田 「・・・あ、ああ!!僕は今すぐにあの汚らわしい空母に制裁を  
ください、この世界の神になってすべて僕のものにする!!」

?? 「・・・なら、あなたにこれを授けるわ♪」

素晴らしい取り出したのは黒く濁っているキューブだった

ズブツ!!

豚田 「ぼ、僕の体に何を・・・う、うがああああ!!」

ぼきぼき・・・

ぼきぼき・・・

?? 「・・・どうかしら？生まれ変わった姿は？」

豚田 「な、なんだこの姿は!？ち、力がみなぎる!？」

豚田の体はおぞましくなり、右腕は肥大化し、肌は灰色になり、目  
は黄色に輝いていた

豚田 「しゅー!しゅー!素晴らしい!!素晴らしい力だ!!これがあれ  
ばあいつを・・・くつくつく・・・あはははははは!!」

?? 「それじゃ、見せてね?どういう結果になるのか♪」

素晴らしい、タコのような装備をうねらせながら微笑んでいた・・・

・・・あれから数か月たった

僕たち天喰を除く海上自衛隊は傷は治り体調は回復した・・・  
そして今どこにいるのかというと・・・

明石 「・・・それじゃ、行くニヤ・・・せーの!!」

ガチン!!

東海「痛い!?明石!?すげえ痛い、一端弱めて!?!」

明石「まだ足りないかニヤ!?!・・・もっと強くするニヤ!!」

東海「逆だあ!弱くしてくれ!!」

建造所の一角の改造所で改造した状態の整備をしていた・・・

明石「・・・どうかニヤ?」

東海「・・・すごいな、砲身の一本一本が指先のように動く・・・」

明石「すごいのは東海達ニヤ・・・あれ間に合わせで使ってあまりチューニングをせずに行ったから動かすだけでも難しいのにニヤ・・・」

みんなの装備は・・・

東海は服装は帝国人が着そうな服にマントがついてアームも背中に一本生えてそこに前のより伸びたSu-57の飛行甲板になって右のアームにレールガンが付いた

曇天は恰好は・・・なんか、ガダム・・・いや、ア○アンマンの少し軽装になった感じ?になっていた。武装は前のから変わらないが持っている銃がスタ○ウオーズのブラスタ→になって周りに式神みたいなのが浮かんでいた

月影はもつとメカらしくなりマジで(前に天喰が言っていた)オーバ○ウオッチのゲンジに似ていた。武装のジンベエザメみたいなのも少し大きくなって腹部あたりがピルピリと光っている

東海「・・・月影、ちょっと「龍神の剣を食らえ!!」(VC:川原慶久)っていつてくれませんか?」

月影「・・・なんでですか(呆)」

昇龍はフード付きの服が白くなり身長も少し伸びていた・・・武装



も対レーダー無効化装置もバージョンアップした

・・・そして

東海「・・・これが相棒の新しい装備ですか・・・」

そこにあつたのは袴が新しくなり武装もF/A-18JとA-10Cとはとある機体に換えられ、そして腰の装備には奥の手としてあるものを載せている

東海「・・・早く相棒起きないかな・・・」

そうつぶやくと・・・

瑞鶴「た、大変よ!!東海!!皆!!」

改造所の扉を蹴破る勢いで来たのは今日の秘書艦の瑞鶴だった

昇龍「どうしたんですか?瑞鶴さん?」

瑞鶴「・・・きたのよ

天喰がたった今起きたのよ!!」

バタバタバタ!!

ヴェスタル「こら!医務室の前では走ってはいけません!!」

医務室の担当をしているヴェスタルに注意されようが急いで走って天喰がいる部屋の前で止まる

大鳳「東海!!」

東海「大鳳!!あなたも!?!」

大鳳「はい!!彼が起きたと聞いたので!!」

東海「・・・よし、開けるぞ」

ガラガラガラ

そこにはベッドの上で座っている天喰がいた……

曇天「天喰!!」

大鳳「よかった……天喰……目が覚めて……」

天喰「あ、えつと……」

東海「……無事でよかった……どうしたんですか？相棒？」

天喰が目覚めて皆喜んでいたが次の言葉で一気に落とされてしまった……

天喰「……スミマセン」

あなたたちは誰なんですか？」

## 記憶を失くした破壊者

天喰「……あなたたちは誰なんですか？」  
「……え？いま相棒なんて？」

大鳳「……な、何を言っているんですか？天喰、私ですよ？……」  
天喰「……えっと……天喰って自分のことですか？」

曇天「……なあ、天喰……お前、起きる前のこと覚えているか？」

天喰「あゝ……すみません、なぜか思い出せないのです……」  
昇龍「ま、まさか……」

ガラガラ

指揮官「天喰!!目が覚めたのか!!」

天喰「(ビクッ!)……え、えっと……あつと……」

指揮官「皆、心底心配したんだぞ!!あんなにボロボロだったのに……無事でよかった」

天喰「あのお……すみません、ここの責任者でしょうか？」

指揮官「……何言ってるんだ？お前、もう何回も秘書艦しているからわかるだろ……」

東海「……指揮官、少しいいか？」

指揮官「お、おう……いいぞ」

東海「みんなも一回出るぞ……すみません、天喰さんすこし外に出ますね？」

天喰「はい、私は構いません？」

指揮官「東海どうしたんだ？相棒って呼ぶお前が「さん」付けなんて……」

東海「……指揮官」

多分、天喰・・・昔の記憶を失っている」

指揮官「記憶喪失!？」

東海「そう、天喰の様子：：気配も全くの別人のように感じた：：

明石「・・・今いるか？」

明石「・・・話は聞いたニヤ」

東海「・・・今からでもいいから天喰の身体検査してくれないか

?・・・」

明石「わかったニヤ・・・」

数日後・・・

この日は特別に東海が秘書艦になり、明石の報告を聞いた

東海「・・・明石、それでどうだった？」

明石「・・・東海、これは重大問題ニヤ・・・」

報告によると・・・

1、身体の損傷

問題なし

しかし、後述では問題が発生する

2、精神や体調の状態

問題あり

記憶が医務室のベットから起きたところからしかなくこの基地に

来た記憶もない

3、今後の勤務に安否

出撃の禁止を願う

さらに新たに判明した三つ目のスキルの発動の封印を願う

指揮官「・・・なあ、明石、この「出撃の禁止を願う」ってなんだ

?・・・」

明石「それは昨日、天喰のKAN—SENの能力に問題は無いか確認しようとした時にや・・・」

昨日・・・天喰の病室にて

明石「・・・それじゃ、天喰!!最後にこれをはいてニヤ!!」

天喰「・・・これは?」

明石の手には大きめのブーツがあった

明石「何って訓練用に作ったKAN—SENの航行用ブーツニヤ!!」

天喰「・・・私は本当に何も覚えていないんですね・・・」

明石「・・・つてそんなことより行くニヤ!!」

そういわれ連れてこられたのは・・・

明石「さあ!!天喰!!さっきのブーツを履いてリハビリを兼ねて海に出てみるニヤ!!・・・天喰?」

天喰(カタカタカタ・・・)

そこには顔を青ざめて立っている天喰がいた・・・

明石「天喰?どうしたかニヤ?具合でも悪いかニヤ?」

天喰「あ!?!い、いえ!!大丈夫です・・・」

明石「なら行けるかニヤ?心配なら明石も手伝ってやるニヤ!」

天喰「あ、ありがとうございます・・・」

地面に置かれている訓練用ブーツをはこうとすると・・・  
かちっ

天喰「ひッ!」

明石「ど、どうしたんニヤ!?天喰!」

天喰「い、いえ・・・今、何か嫌なものが」

明石「嫌なもの?」

天喰「だ、大丈夫です・・・なんとか行けます・・・」

明石「・・・無理しないでニヤ」

おぼつかない足取りで海に向かっていくが・・・近づくほど・・・  
なんか・・・海におびえている感じだった・・・

明石「(大丈夫かニヤ・・・天喰・・・)・・・それじゃ行くニヤ?」

天喰「・・・よろしくお願いたします・・・でも、これどういう原理何ですか?人間が海の上に立てるわけありませんよね?」

明石（・・・やっぱり、天喰は自身がKAN—SENであることを忘れて、なるで自分は人間であるかのようになっているニヤ・・・）  
沖まで連れて行って海上につき手を離れた・・・しかし・・・

ザパアアアアアン!!

天喰の体は海の上に浮かぶことはなく沈んでいった・・・

明石「天喰!? 明石の手を掴むニヤ!!」

天喰「げほお!? ごほっ!? ごほっ!」

明石「そのあとなぜKAN—SENとしての力の一つである海の上に浮かべれないのかって思っって精密に検査してみたんにやが・・・

・・・現在の天喰はKAN—SENとしての力と記憶を失っているニヤ」

指揮官「・・・そんな・・・つまり・・・今の天喰は人間と何ら変わりはないと?」

明石「・・・残念ながらそうだニヤ」

・・・現実とは悲しいものだ

もう、相棒とは二度と共に戦えないとは・・・

指揮官「・・・なら、天喰には悪いがここを辞めてもらって街で普通の一般人として暮らしてもらうしかないな・・・この基地はいつ戦場になるかはわからないからな・・・」

明石「・・・残念ながらそれは危険ニヤ・・・」

指揮官「危険?」

明石「KAN—SENとしての力は失っているが天喰の持っている赤いメンタルキューブはまだ機能しているニヤ・・・」

それってつまり・・・

明石「・・・街の中で暮らして何らかの事件や事故で内部のメンタルキューブが割れてエネルギーが外に出てしまったら・・・」

指揮官「・・・なんの前触れもなくその街が消えるのか・・・なら次のスキルの封印については？」

明石「・・・天喰のメンタルキューブがまだ機能しているならどうにか復帰できないかって考えてキューブ内の残留情報を読み込んでいたらとんでもないことが分かったんニャ・・・」

指揮官と東海の前に出された資料には天喰の詳細と三つ目のスキルだった・・・

東海「発動条件が僕たち海上自衛隊の行動不能・・・仲間思いな相棒らしいですね・・・これが何故？」

明石「天喰を助けに行った時天喰はこのスキルを使って東海達と戦ったニャ・・・」

指揮官「ああ・・・でも、東海達は行動不能になっていないのに東海達に対して使った・・・」

明石「・・・多分あのセイレーンは天喰に東海達は目の前の奴らに殺されたって嘘の記憶を埋め込ませて無理やり発動させたと思うニャ・・・恐らくそのせいで天喰の記憶がなくなったニャ・・・だけど、それが仇となつて・・・次、本当に東海達が行動不能になってこのスキルが発動してしまったら・・・」

・・・体がスキルの反動に耐え切れずに死んでしまうニャ」

東海「・・・そんな!？」

指揮官「・・・いったいどうしたものか・・・今、天喰はどうしている?？」

明石「・・・海に沈んだのがトラウマになったのかとてもおびえさせてしまったニャ・・・いまは一人にさせているニャ・・・」

・・・ここ本当にどこだろう？

目が覚めたらベッドの上で寝ていて体は包帯が巻かれて動いたら痛む、不思議に思い回りを見渡すと木製でできた部屋で窓からは綺麗な空と・・・青い海だった・・・

何故だろう・・・海に近づきたくない・・・そう感じる・・・

しばらくすると部屋に五人の人が入ってきた

そのうちの一人から「天喰」って呼ばれたけど・・・それって自分のことなのかな？

・・・起きる前のこと？・・・だめだどうやっても思い出せないな・・・そのあと扉からなんか白い服を着たととても偉そうな人が来た・・・この責任者かなんかなのかな？

その人からも心配したとか言われるけど・・・自分ってどれくらい寝たんだろう？

そのあと緑の髪をした人（なんで猫なんだ？）から記憶喪失って言われた

それから数日が経過してある程度傷も治って包帯も全部とれた

その日あの緑の猫（あとで明石って名前だった）から手に持っているブーツを持って外に出るよう促された・・・どこに行くんだろう？

連れこられたのは・・・海だった

ナンデだろう・・・なんで、こんなにも手の感覚が薄くなって血の気がなくなっていくんだ？

明石さんから心配をされつつも一緒に海に出るそうなのでブーツを履いて準備しようとして履くが・・・

バチツ!!

な、なに!?

なんか一瞬、悲鳴のようなものが聞こえた・・・

怖かったけど明石さんに迷惑かけたくないから、誤魔化した

そして意を決して海の上に立ったけど・・・

ザパアアアアアン!!

案の定、沈んでしまった



なんとか海面に出ようと水をかくが・・・体が動かなかった・・・  
・・・なんで!?

すると、頭の中で突然・・・  
赤い海と赤い空にいて周りに赤くなっている人の死体が浮かんでい  
た。

そして、さつきの人たちが沈んでいくところが見えてしまった。

天喰（ごぼお!?)

それから明石さんに助けられたけど・・・正直もう二度と行きたく  
なんかない・・・なんでかはわからないけど・・・忘れないでほしい  
、置いてけぼりになりたくないって思った

あれから海が怖くなって指揮官さんからくれた部屋に引きこもつ  
たけど気分転換に基地の探索にでた

歩き回っているうちに何人かに声をかけられて話を聞いてたけど  
みんな悲しい顔をしていた（あと、なんでこの基地には女性が多い  
んだ?）

・・・記憶を失う前の自分はとても頼りにされていたのかな?

あと、さつきから視線を感じるんだけど・・・

周りを見渡すと・・・いた・・・

さつき病室でみた赤い着物に黒い髪をした女性だ・・・

なんかさつきからずっと遠くのほうからついてきているんだけど  
?・・・どうしたんだろう?・・・あと、そんなに露出して寒くな  
いのかな?

・・・さつきの海のは違う怖さを感じて人ごみに紛れてそこから  
一気に走った・・・

・・・どうしよう迷子になっちゃった

なるべく広い道走ってたけど、知らないうちに暗い小道に来てし  
まった・・・

?? 「ふふ♪こつちよ?」

・・・誰だろう?どこからか声が聞こえたんだけど・・・

?? 「こつちの道が大道りに出る道よ?」

うくん？姿が見えないけどそれでもありがたいや  
声が聞こえるほうに進んでいく・・・しかし・・・

天喰「あれ？行き止まり？」

??「うふふ♪ごきげんよう、私の天喰？」

振り返るとそこには黄色の瞳にタコのような足を動かす少女がいた・・・

天喰「だ、だれ!？」

知らない、知らないはずなのに体が

今すぐこいつから逃げろ

って言ってるのを感じる

??「あ、逃がさないわよ？」

逃げ出そうとしたらタコのような触手に捕まってしまった

天喰「離してください!？」

??「ふくん・・・どうやら本当に記憶が消えているようね・・・さすがに偽の記憶を埋め込んで強制的に発動させたら障害が出るけど可能性があつたけど低かったから気にしてなかったわ・・・慢心だったわね・・・でもなんか子犬みたいになっているからこれはこれで悪くないわね♪」

天喰「偽の記憶!?!どういうこと!?!」

??「まあいいわ・・・そろそろあなたの仲間が探しているから長居は禁物ね・・・これ、あなたにしたことのお詫びね？」

そういい、少女は天喰の頭を自身の腕で包み手を天喰の額に乗せ撫でた・・・

天喰「あれ?・・・なんで・・・眠く・・・」

??「ふふ♪天喰?あなたはまだ楽にしているわ・・・今回は私にも非があるから記憶を戻すの手伝うわ♪・・・ついでにオマケもしておくわ♪」

東海「・・・天喰さん!?!・・・天喰さん!?!・・・大丈夫ですか!?!」

天喰「う、うゝん．．．あれ？東海さん．．．私寝てましたか？」  
東海「寝てたというか倒れてましたよ．．．自分の名前言えますか？」

天喰「え？えつと．．．私は原子力空母【天喰】です？」

東海「よかった．．．言えま．．．待ってください．．．天喰さん．．．自分が原子力空母って言いませんでしたか!？」

天喰「あ、あれ？本当だ？なんで自分のことは思い出したんだ？」

東海「じゃ、じゃあ!!僕たちのことは!？」

天喰「．．．すみません、それはまだ思い出せません．．．」

東海「そ、そうですか．．．しかし、なんでここで倒れていたんですか？」

．．．あれ？自分．．．さつき何していたんだ？

誰かとあつた気がするけど．．．だれだっけ？

## そう呼ぶ理由

指揮官「……そうか、KAN—SENとしては記憶も力も戻ったが……」

東海「……僕たちの思い出は覚えだせないそうだ……」

天喰「……スミマセン、指揮官さん」

指揮官「……いや、いいんだ。断片的にも思い出たらいい……少しずつでいいよ?」

天喰「……ありがとうございます」

天喰が路地裏に倒れていた事件から天喰はKAN—SENの記憶は戻ったがまだ基地の皆のことは思い出せていなかった……

明石「……ならこれからはまた東海達と一緒にに行けるニヤ!!」

天喰「はい……そうですね……」

昇龍「……どうしたんですか?天喰?……もしかして、不安ですか?」

天喰「あ、いえ……大丈夫です」

指揮官「ならいいが……だけど天喰はしばらくリハビリで演習海域で訓練してくれ、来週の哨戒は天喰を除く海上自衛隊とエンタープライズと大鳳に頼む」

全員「「「了解」」」」

集まりが終わり皆はそれぞれの持ち場や行く場所に散っていく

天喰「あの!!指揮官さん!!」

指揮官「ん?どうした、天喰?」

天喰「あのお……実は聞きたいことが……」

当日の夜

哨戒組

大鳳「……」

エンタープライズ「……どうしたんだ、大鳳?今朝から元気がないぞ?」

大鳳「あ、いえ……大鳳は大丈夫です……」

なんか今回の哨戒組暗いな・・・

・・・最近、あの作戦が成功したおかげかセイレーンが支配海域や安全海域さらには遠征組によると警戒海域でさえ一隻も見当たらないらしい・・・平和だからいいけど・・・あと、相棒・・・いえ、天喰さんは前の天喰からがらりと変わってしまった・・・

今朝なんか・・・

エイジャックス「・・・ふふ、ねえ？天喰？私の足舐めてくれないかしら？」

って言われていつもの天喰なら・・・

「ははあ!!女王様あ!!・・・ってやらんわ!!」って言う感じでノリ突っ込みするけど今は・・・

天喰「えっと・・・舐めればいいんですね？」

って答えて本当に足を舐めようとしたから振った本人でさえマジで止めたくらい・・・

昇龍「・・・あれはヤバかったな」

曇天「ああ・・・マジで天喰が変態になったのかと思った・・・」

昇龍「・・・ほんとだよ・・・あ、スクリュー音探知、敵の潜水艦をはっけん(精神的に)駄目だ!!」「(空気を読まない敵だから)駄目だ!!」「(めんどくさいから)駄目だ!!」・・・えええ(困惑)」

・・・昼間も購買部のある大道りでお金を失くしたKAN|SENに返さなくっていいからとお金をあげたり、いたずらのターゲットにされてはめられても、元の天喰だったら叱って注意するのに怒ることのなく・・・

天喰「あなたたちが楽しいなら私はいいですよ？」

って笑っている・・・

東海「なんか・・・天喰さんは・・・無理してみんなの願いを聞いている気がする・・・」

月影「……………あと、なんか俺たちを避けている気がする」  
それから哨戒は終わって基地に戻った（敵は東海のVTOL達が倒した）

東海「指揮官、哨戒終わったよ」

指揮官「おう、おかえり」

天喰「おかえり!! えつと……………東海達!!」

……………あれ? 「さん」付けじゃなくなっている?

大鳳「……………天喰、記憶が戻ったのですか?」

天喰「お、おう!! だ、断片的にだがな!!」

大鳳「……………よかった……………では、指揮官様に東海、先に失礼します」

指揮官「……………ああ、いいぞ」

パタン

天喰「……………さてと、俺たちも戻ろう」

東海「……………相棒……………いえ、天喰さん……………少しいいですか?」

天喰「おう、なんだ? つて記憶が戻ってきているからさんはいいて……………」

東海「なんで戻ってきているって嘘をついたのですか?」

天喰「な、なにをいって……………」

東海「……………今までずっと一緒に支えあってきた仲間ですよ……………あと、記憶が失ってもクセは残るのですね……………」

天喰「……………やっぱり無理でしたか……………はい、戻ってきているふりをしました」

曇天「そんな……………どうして……………」

天喰「……………私は記憶を失い、この基地で目を覚ましました……………今の私では前の私みたいにみんなから頼られてきた存在らしいので……………少しでもいいからみんなが知っている「天喰」に近づけたらいいなって……………少し頑張っていました……………」

・・・どうやら、前に指揮官やそれぞれの陣営のトップに以前の自分はこういう人格だったのかを聞いて真似て皆を安心にしたかったらしい・・・

天喰「・・・ごめんなさい、皆を騙すようなことをして・・・これはみんなには言わないでくれますか？」

東海達「「」・・・」」

天喰「・・・なにかやってほしいことがあるなら何でもやります!!・・・だから、この件については秘密に・・・」

東海「天喰さん・・・」

・・・僕がなんであなたを「相棒」って呼ぶのか知ってますか？」

天喰「・・・え？」

東海「・・・まあ、覚えているなら知っているはずですが・・・無理もないですね・・・指揮官、少し席を外してもらって繰らないか?・・・理由は・・・もう10年も前かな・・・」

指揮官に申し訳ないが部屋を出てもらい語る

### 回想シーン

・・・実は僕の家ってすごく厳しくて貧しい家だったんですよ・・・母は朝から夜まで仕事に出て帰ってこないこともありました・・・父は仕事はせずにいつも酒や賭博に走っていてよく怒ってました・・・それに父はとても厳しい人で学校でなんでも一番をとれなかったらよく殴ってきました

僕が生まれて頃はそれほどでもなかったのですが幼稚園、小学校、中学へ進め連れに過激になってきました・・・母も最初は僕を庇ってくれましたが徐々に母も暴力の対象にされ庇え切れなくなりました・・・

幼稚園から中学に入るまで僕はまるで父の商品のようにされまし

た・・・小学校でできた友人との遊ぶ時間もくれずに時間があるなら勉強をしろって言われてました・・・まあ、テストで一番をとつても褒められたことがあります・・・

本当に子供のころは孤独で人付き合いもへたくそでした・・・でも、四年生のころにあることが起きました・・・

下田「・・・ただいま、母さん・・・あれ？母さん？」

その日は母の仕事が早く終わる日で帰ってきているはずですが「おかえり」が聞こえなかったんです・・・もう、母にさえ愛想を尽かれたのかなって思いリビングに入ったんですが、そこには・・・

天井から紐で首を縛り宙吊りになっているかつての母がいました・・・

すぐ病院に連絡しましたが死亡が確認されました・・・

父は母が死んだという連絡を出しましたが連絡には出ませんでした・・・

母が死んで数か月後葬式も終わり一人で家に待っていると・・・父が別の女を家に連れてきました・・・

どうしたら、新しい再婚相手らしいですが自分にも合わせずに結婚するなんて・・・

新しい母はひどい人でした・・・金銭感覚も、人間的にも・・・

自分の前の母が残っていた遺産もすべて親に取られてお金に換えられ遊びに使われました・・・

五年生に入っても相変わらず親はそのまま入学しましたがその時から自殺願望がありました・・・

下田（・・・今日こそ死ねばお母さんに会えるかな？）

そう思いながら登校を続けたある日・・・

??「お前・・・いつも一人だけど、つまらないのか？」

下田「・・・誰なんですかあなた・・・」

??「あ、おれ？」



俺は上月 穂村！よろしくな!!」

・・・その時にあなたと会ったんですよ・・・

その日を境にいろいろとかわりましたねえ・・・

上月「おーい!! 下田!! 昼休み遊ぼうぜ!!」

下田「いやです、僕は勉強をするので」

別の日には

上月「下田!! 寄り道しななな!!」

下田「いやです、お前も早く帰れ」

それから毎日昼休みや放課後に自分のところに来ました

下田「・・・お前暇なんですか? なんで毎日ここに来るんですか?」

上月「え? だっておれら友達じゃん?」

下田「・・・お前とは友達になる交渉をした覚えがないんだが?」

上月「え、友達つてどちらが話しかけて話が盛り上がればなるんじや?」

下田（盛り上がるってお前だけがなのでは・・・）

そこから会話の長さの回数も増えましたね・・・

上月「下田あくこれわかんねえ!!」

下田「・・・まったく・・・これはこうで・・・」

上月「・・・おお!! ありがと!!」

下田「どういたしまして・・・つていうかお前これ前に先生が言つてたろ・・・」

上月「ふ、ぐっすり寝てたわ・・・あと、お前つてなんだよ・・・

名前と呼べよ・・・」

下田「あ、いえ、そのお・・・人の名前を呼ぶのが恥ずかしくて・・・」

上月「ドユコト?」

この時初めて自分以外の他人に自分の家の事情や今の気持ちを伝えた・・・

上月「・・・最低だな、その親・・・でも、下田・・・死にた

いのか?」

下田「・・・はい、母さんが死んだのは自分が失敗作で父に怒られつ

ばなしだったから・・・」

上月「・・・たとえ死んであつちでお前の母親に会えたら・・・お前の母さんは喜ぶか？」

下田「・・・うれしくなんかありません」

上月「・・・ならば、今から俺んちに来ない!？」

下田「え、でも・・・」

上月「お前は親の言いなりになるのか?・・・別にたまには反抗してのいいじゃん?自分が成りたいものになったらいいじゃん」

下田「そう、そうですね・・・」

上月「うし!!今から俺んちで遊ぼうぜ!!」

下田「な、なあ!!」

上月「ん?どした?男の先生に結婚してくださいって言いに行くのか?」

下田「違うっていうかダメだろ!・・・お前のこと「相棒」ってよんでいいか?・・・やっぱり、人の名前を呼ぶのが慣れていないので・・・」

上月「おう!いいぞ!!これからよろしくな!!俺の友達!!」

下田「ああ、相棒」

そこからよくこつそり家から抜けて遊びました・・・中学、高校も一緒の所についてその間に他の三人が仲間に入りましたね・・・

回想終了

東海「つてなことがありましたね・・・だから、無理して前の「天喰」になるよりありのままに新しい天喰になっても僕たちは受け入れますよ!!」

天喰「・・・なんで」

東海「・・・え?」

天喰「・・・なんでみんなは私のことを優しくするんですか?」

東海「なんでて・・・」

・・・執務室で天喰が吠えた

天喰「あの後から私が記憶が消える原因となったあの作戦の詳細を教

えてもらいましたが・・・私はあなたたちを殺そうとしたんですよ!?  
普通、かつての仲間が殺しに来たのに恨んでもおかしくありません  
!!・・・なのに何ですか!!」

東海「もしかして、僕たちを避けていたのって・・・」

天喰「・・・私はあなたたちを殺しかけたんだ・・・だからあまり  
会わないほうが良いと思ってな・・・すまん、少し外で頭を冷やして  
きます」

昇龍「あ！天喰!?!」

天喰は静かに部屋を出ていった・・・

番外編1 天喰のシヨタ化事件 前編

・・・これは本編の鏡面海域攻略作戦と水着回の間であつた話です・・・

それは何の変哲もない晴れた日にありました

時はハロウイン!!

駆逐艦などの小さい子が指揮官にお菓子をくれないといたずらされたり・・・

指揮官大好き勢が過激な服を着て指揮官にいたずら(意味深)をしにきたりするイベントだ!!

コンコン!!

駆逐艦ズ「コン指揮官!!トリックオアトリート!!」

指揮官「おお、来たか!!ほい、お菓子だぞ」

執務室で待機していた指揮官がお菓子を配る

東海「指揮官、トリックオアトリートだ」

指揮官「いや、お前はもらうほうじゃなくてやるほうだろ!」

東海「・・・くれなかつたらベッドの下にある薄い本を・・・」

指揮官「OK、やるから秘密にして」

いろんなところで仮装したりお菓子を分けたりする中・・・

赤城「指揮官さくまく?どうですか?赤城の仮装は?」

赤城が執務室に顔を出して自分の仮装はどうか聞いてきた。赤城は監獄の看守みたいな格好だが:やはり、指揮官大好き勢の一角:いろいろなと露出している・・・

指揮官「お、おう。えr・・・じゃなくて・・・き、綺麗だぞ?」

赤城「はい♡ありがとうございます♡」

バン!!

指揮官と赤城の甘い空気の中に突如赤城を小さくしたような少女が乱入した

??「自分!自分!あたしのはどうよ!!あと、お菓子よこせ!!」

指揮官「扉はノックして返事が来てから入るように言ったでしょう？赤城ちゃん．．．あと、よこせじやなくてトリックオアトリートな？」

赤城ちゃんは少し前に建造できたKAN—SENで他にもベルちゃんやリトル・ばk．．．サンティアゴがいる

来たときは（大人の方）赤城が指揮官様の子だと母港中を騒ぎ建てた

赤城ちゃんの仮装はミニスカートの魔女っ娘みたいな感じだ

赤城「．．．お菓子くれなきやベッドの下にあつた．．．」

指揮官「OK、やるから内s y」指揮官様？それはどういうことですか？」．．．ヒエツ」

赤城「．．．今夜、楽しみにしててくださいね？」

指揮官「．．．ウイツス」

そして執務室の一角．．．

月影「．．．あれは食べられる系のコースだな」

東海「．．．そうだな．．．指揮官．．．明日は昼くらいに寢

室から赤城さんと一緒に出てくるな．．．」

月影「．．．ちなみになんでおれとアークロイヤルはお前とエンタープライズに縄で縛られているんだ？」

アークロイヤル「そうだぞ？東海？私たちはただお菓子を配りつつ写真を撮ろうとしただけであつて．．．」

エンタープライズ「．．．とりあえず、私たちはこいつらを見張らないとつて思ったからだ」

月影「．．．なら、アイツはなんで捕まえないんだ？」

東海「あれは近づいてるのではなく近づかれてるんだ．．．」

そこでは．．．

曇天「ええい!?!ちよつと!?!お菓子は逃げないから一列で並べ!」

ユニコーン「．．．曇天お兄ちゃんが作ったマカロン、おいしい!!」

ゆーちゃん（こくこく）

モントリピア「このクツキーもおいしい!!」

コロンビア「うん！サクサクでいい香りがする〜!!」

曇天「どういたしまして!?!?!?!?!え、なに?これのイチゴ味出してほしい?!いやいや、むr?!?!?!わかった!わかったから泣かないで!?!」  
たくさんのKAN—SENに囲まれつつもお菓子を配っている曇天だった。?!?!

東海「?!?!にしても重桜の人ってこういう日って楽そうですね?」  
アークロイヤル「なんでだ?」

東海「いやだつてさ?重桜の人ってケモミミ生えてんじゃん?アレもうすでに仮装してn(すばああああん!!)」

音が鳴り東海の横の壁に万年筆が刺さっていた。?!?!

赤城「?!?!東海?次、そういうのしゃべったら喉笛を失くすよ?」

東海「?!?!ウイツス、アネキ」

大鳳「?!?!どこにいるでしょう?!?!天喰?!?!」

部屋の中で仮装した大鳳が天喰を探していた。?!?!

大鳳「指揮官様に見せに行こうとしたらあの女狐に邪魔で見せれない?!?!天喰?!?!どこかな?!?!」

大鳳の仮装は堕天使のような感じで全体的に黒く所々肌が見えている。?!?!

そんな平和(?)な日に事件が起きた。?!?!

明石「た、大変にやあああああ!!」

廊下から走ってきて扉を破壊し来たのは明石だった。?!?!

指揮官「どうした明石?!?!?!またなんかやらかしたのか?」

明石「あ、天喰がああ?!?!?!」

?!?!?!、相棒がどうしたんでしょう?!

ヒョコツ

そこに現れたのはいつもの天喰?!?!?!?!?!ではなく?!?!?!?!?!目がくりくりとなって髪は短くなりそして身長が低くなつていつ

ていた・・・

天喰？「お兄ちゃん達・・・だあれ？」ちよこーん

全員（（（（（お兄ちゃん!?）））））

指揮官「・・・どうしてこうなった？」

そう指揮官が明石の問出した・・・

明石「じ、実は・・・

回想シイイイイン!!

明石「にゅふふふ・・・これを指揮官に飲ませて戻す代わりにダイヤを調達すれば・・・」

工房の中にある研究室・・・そこではフラスコに怪しく光る液体があつた・・・

明石「あとはこれを指揮官が好きなお茶に混ぜてつとニヤ・・・おつと、いけないニヤ・・・もう一つの薬品を入れないとニヤ・・・」

素晴らしい、明石は奥のほうに行った時に・・・

天喰「お〜い、明石？みんな集まつてるぞ〜？」

入れ替わるように天喰が入ってきた・・・

天喰「どこにいった？・・・あれこのにおい・・・指揮官が好きな茶葉の匂いだ？」

天喰はここ最近、指揮官とのボーイズトークが増えて指揮官が好きなお茶が好きななつてしまった・・・

天喰「待つとけば来るかな？・・・まあいいやこのお茶でも飲んで待つとくか・・・」

ゴクッ

天喰「・・・うん相変わらずおいしい・・・ごほっ!?」  
な、なんだこれ!?体が熱い!?

明石「♪、早く指揮官に飲ませないとニヤ♪この小さくなつても記憶はそのままになる薬を入れないといろいろとめんどくさく・・・あれ?これは天喰の服ニヤ?なんでここにあるンニヤ?」  
ごごごそ・・・

明石「ニヤ・・・ニヤンニヤ?・・・服が勝手に・・・」  
ひよこっ

天喰? 「う〜?」

明石「ニヤ、にやああああああ!?!」  
回想しゆうりよおおおおおう!!

明石「つてことがあつたニヤ・・・」

指揮官「・・・明石・・・少しいいか?」

明石「にや、どうしたんにや?しきかn」

☆明石、お仕置き中☆にや!?!ほどいてニヤ!?!なんで亀甲縛り何ニヤ!?!・・・ちよつと!?!や、やめ、やめるニヤ♡目の前でマタタビの匂いを嗅がせるにやあ♡にや、にやめ・・・にやあああああ♡(R―18ではありません)

東海「うわ、えぐ・・・」



指揮官「・・・もうしないな？」

明石「は、はいにやああああああ♡」

曇天「しかし、天喰？・・・お前だいぶ変わった（？） 仮装をしてきたな？（思考放棄）」

東海「いや、仮装ではなくマジなんですって・・・ちなみに僕たちの名前言えますか？」

天喰？「言えなあい!!」

東海「えつと・・・東海です」

天喰？「とーかいお兄ちゃん!!」

曇天「曇天だ!!」

天喰？「・・・どーてえ「待て、天喰！伸ばすな!!んを入れろ!!」・・・てんどん？」

曇天「ちげえええええ!!」

月影「・・・なにしてるんですか・・・月影」

天喰？「ちゆきかげ!!」

月影「ぬう、おいしい・・・」

昇龍「昇龍だよ!!しょ・う・りう・う!!」

天喰？「しょーりゅーお姉ちゃん!!」

昇龍「お姉ちゃんじゃない・・・お兄ちゃんや・・・」

それから瞬く間に母港全体に天喰が小さくなったのが広まり執務室に集まった・・・

ちなみに「天喰くん」と名付けられた

加賀「天喰くん・・・私のことは？」

天喰くん「えつと・・・かがお姉ちゃん!!」

加賀「そうだ、間違えないようにな・・・ふふ、お姉ちゃんか♪」

クリーブランド「天喰くん!!私の名前は!!」

天喰くん「・・・アニキ（ドヤツ）」

クリーブランド「・・・なんで小さくなくても兄貴ってよばれるのおおお・・・」

そして最後に大鳳の番になった・・・

大鳳「天喰くん？大鳳ですよ？」

天喰くん「ちや、ちやいひよう!!」

大鳳「うくん、もう一回!! た・い・ほ・う」

天喰くん「にゆう・・・たいひよう!!」

指揮官「・・・もう大鳳だけすきな呼び方で呼んでみたらどうかかな？」

天喰くん「うくん・・・」

・・・しかし後の指揮官のインタビューで「あの子、特大爆弾を落としていったわ・・・」っと言っていた

何故なら・・・

天喰くん「うくん・・・」

お・か・あ・さ・ん!!」

指揮官「えっ (困惑)」

東海達「えっ (錯乱)」

他のKAN—SEN「「「「」」」」」」

大鳳「・・・天喰くん・・・今なんて？」

天喰くん「にえ?・・・おかあさん?」

大鳳「・・・」

ダッ!!

指揮官「ちよ、待て!! 大鳳!! どこに連れていく気だ!？」

大鳳「・・・どこって役所ですか?」

指揮官「なに、自分の子供にしようとしてんじゃああ!？」

指揮官、大鳳を説得中・・・

指揮官「・・・よし、落ち着いたな・・・しかし、どうすんだよこれ・・・」

明石「幸いにも薬は少ししか飲まなかったから一週間以内にもとに戻るニャ・・・」

東海「いや、少いで一週間って全部飲んだらどうなるんだよ・・・」

明石「そ、それはその時に考えるニャ・・・でもこの一週間どうするにや？」

大鳳「それは当然、母親（仮）になった大鳳が・・・」

東海「いや、だめですからね？こちらで引き取らせてもらいます・・・」

シヨックする大鳳は置いて・・・部屋に移動する・・・しかし・・・

天喰くん「・・・おかあさん・・・」

小さくなった天喰くんが涙目になってきた・・・

全員「！！ツング！（尊死）！！！！」

東海「し、仕方ありません。今回は特別にこちらから許可します」

大鳳「ええ！この大鳳に任せてください！！」

こうして、一週間の戦いが始まった・・・

ちなみに本部にこのことを電話越しに報告すると・・・

元帥「・・・了解した・・・しかしだが、田中少将・・・本当なのか本人の声を聴いていいか？」

指揮官「は、はあ・・・いいですよ？・・・おい天喰くん！！来てー！！・・・呼んできました」

テチテチ

天喰くん「あい！かわりました！！げんしりよくくーぼの天喰です！！」

元帥「・・・よし、本当のようだな・・・そこで天喰くん・・・」

「……ちよつと私のことを「じいじ」って呼んでくれないか？」

天喰くん「ふえ？じいじ？」

元帥「……ちよつと田中少将に変わってくれないか？」

指揮官「変わりました田中です……いや、アルバード元帥……なに言わせたんですか？」

元帥「田中少将……実はな……今朝、たまたま本部近くの浜辺で見つけた虹の武器BOXを見つけてな……せつかくだし、田中少将に日頃仕事頑張っているから全部上げようかなーって思っているんだけど……」

指揮官「いや、どんな偶然ですか!？」

元帥「……だから、もう少しだけ天喰くんと大切な話をしたいな  
くっつておもっているんだがいいかね？」

指揮官「いや、ちよつと……えええ？」

「つてなことがあつたんだとか……」

番外編1 天喰シヨタ化事件 後編

天喰がシヨタ化してからいろんなことがあった・・・  
ここからは天喰くんが戻るまでの主なこと（作者の精神が死んでしま  
うから）で送ります・・・

朝

まだ、朝日が昇ろうとしているとき一人の女性が起きていた・・・  
大鳳（じいじいじいじい・・・）

・・・なんか勝手に母親認定された大鳳だった  
そんな彼女は現在、息子？になった天喰くんの寝顔を自身の胸に包  
み込んで拝んでいた

天喰くん「にゅううううう・・・」

大鳳「はあああああああ・・・（尊し）」

天喰くん「にゅうううう・・・にゅ？」

大鳳「おはよう♡私の天喰くん♡」

天喰くん「にゅうう・・・おはよう・・・おかあしやん・・・」

・・・彼女は天喰くんが起きる数分前に起きて天喰くんの寝顔を見  
るのが日課になりつつある

大鳳「さ、朝ご飯食べに行こ？」

天喰くん「・・・うん」

食堂

東海「ちよつと!?昇龍!?いい加減自分で歩け!!もう、食堂に着いた  
ぞ!!」

大鳳「あ、東海に曇天と昇龍・・・おはようございます」

曇天「ふあああ・・・おう、おはよう大鳳と・・・天喰くん？」

天喰くん「・・・ううう、眠い」

食堂の前であつたのは東海達とそれに引きずられている昇龍だっ  
た

昇龍「( ⊠ω⊠ ) 眠す・・・」

天喰くん「・・・月影お兄ちゃんは？」

曇天「ああ、えっと・・・今朝、メイド長のおかげ(?)でお星さまになったよ・・・」

月影はまたしても彼のエンジェル(ユニコーン)の所に行ったのだがゆーちゃんと警備にメイド長から頼まれていたフギムギに見つかり犠牲となつてしまった

東海「・・・また、性懲りもなくロイヤルの所に行つたんですか・・・あと、昇龍・・・起きなかつたらメイド長に頼んで天王星まで飛ばさせるぞ?」

昇龍「・・・天喰くんもまだ眠そうだし・・・もう一時間だけ寝ていい?」

東海「ダメだろ・・・天喰くんもなんか言つてくれ・・・」

天喰くん「・・・うん・・・昇龍お兄ちゃん・・・僕も・・・ふお

あ・・・頑張つて起きたから・・・すやあ・・・起きて・・・ぐう・・・」

そういうながら天喰くんは立つたまま寝てしまった

東海「・・・一時間だけな」

昇龍「・・・感謝する・・・」

### 朝食後

がしいいいいい・・・

曇天「またかよ!? 放せや大鳳!?! おまえ今から出撃だろ!?!」

ここは学園にある保育園的な施設ここでは吾妻とフリードリッヒ・デア・グローゼ(闇ママ)と曇天が担当している

大鳳「嫌です!! 大鳳の息子である天喰がけがをしたらどうするんですか!?!」

曇天「しないし、させないわ!! ていうか出撃させたほうが怪我すんだろ!?!」

大鳳「あ、それについては大鳳に天喰を装備(?)させたら航空値

と回避値が300%アップ（気合で）しますよ?」

曇天「いや、装備って・・・んなこといいからさっさと行ってこいや!!」

そういういきつきから出撃開始時間から結構立っているのにまだ出撃をしていない（毎日である）

天喰くん「おかあさん!!おかあさん!!」

曇天「ん?どうした天喰くん?」

天喰くん「えつと・・・僕、ここで待っているから!お仕事頑張つて!!」

大鳳「ちよつと、本気出してきます（即答）」

曇天「えええ・・・」

大鳳が出撃した後はいろんな遊びや学びを過ごし昼の遊び時間・・・その保育園に一体の人外が潜入した

??「ふう、意外と監視が硬いわね、この基地」

そいつは黄色の瞳に深海のような髪色・・・そしてタコのような衣装を装備していた

そう、皆大好き「オブサーバー様」である

彼女の目的は海上自衛隊KAN—SENの情報収取で潜入していった

オブサーバー（・・・こういうのはピュリファイヤーやテストターにさせるものだけどピュリファイヤーは前に哨戒中の例の空母KAN—|SENの天喰に切られたし、テストターは赤いメンタルキューブの回収に向かっているから・・・なんかこういう時に量産型や下位のセイレーンじゃなくて専用の部下が欲しいわ・・・）

ツンツン

オブサーバー（しまった!?!見つかった!?!）

しかし、振り返るが・・・

オブサーバー（いない?自分の初めての潜入で硬くなりすぎたかしら?・・・まあ、いいわ。移動をして・・・）

ツンツン

?? 「お姉ちゃん、だあれ？」

オブサーバー「やつぱり！．．．くそ、静かに．．．あれ？」  
見つかったと思い振り返るがいなかった  
ツンツン

?? 「なにこれ!!たこさん？」

オブサーバー「いや、どこに．．．え？」

下を見るとそこには銀髪に袴をきた子供がいて監視対象である天喰を小さくしたものだっただけ．．．

オブサーバー「なにこいつ？．．．まさか、もうアイツのリトル系が出たのかしら？しかし、あいつがこの基地に来たのはまだ一年もたっていないのに．．．運命（運営）の仕業？．．．でも．．．」

そうオブサーバーが推理していると．．．

?? 「お姉ちゃんはさつきから何しているの？」

オブサーバー「えつとねえ．．．」

．．．現在オブサーバーはこの基地に潜入中だ。堂々と潜入していきますとえば警備に呼ばれかねない．．．仕方ない、こいつは今すぐここで抹殺を．．．と言おうとしたら．．．

?? 「もしかしてタコのお姉ちゃん．．．」

か・く・れ・ん・ぼ・し・て・い・る・の・!!

オブサーバー「え？」

なぜか予想の斜め上の質問が来た

?? 「僕知ってるよ!!あ！おねえちゃんが隠れる側なら見つかったやだめだよね!!」

オブサーバー「ま、まあね．．．ところであなた名前は？」

?? 「あ！おかあしさんから初めての人は自己紹介してねって言われてたんだっただけ．．．僕、げんしりよくくーぼの天喰です!!」



オブサーバー「……え？あの？……でも、データでは高身長  
のほず……ぼく、ちよつといい？」

オブサーバーの手を天喰くんの額に乗せる

オブサーバー「……確かに、あの空母の情報があるわね……で  
も、なんで見れないのかしら？……えつと……いや、  
何しているのよ……あの重桜の工作艦」

今回の事件の原因を知ったオブサーバー

オブサーバー「うくん？これは一旦ここを出てまた次の機会に掛け  
るしかないわね」

この基地から出ることを決めたオブサーバーは自分の艤装と遊ん  
でいる子供に話しかけた

オブサーバー「ねえ天喰くん？わたし今から海に行つて大事な用事  
を済ませないといけないの……鬼さんがここに来てもしなかったつ  
て秘密にできる？」

天喰くん「わかった!!なら僕が案内するよ!!」

オブサーバー「あら？いいの？」

天喰くん「うん!!ロイヤルのエリザベスおねえちゃんから「レディ  
には紳士に相手をするのよ」って言つてた!!えつと……こつちから  
ならあまり人目につかないよ!!」

オブサーバー「あら♪ありがとう♪」

こうして天喰くんの紳士な案内により警備のKAN—SENや憲  
兵に見つからずに海に到着した

オブサーバー「ふう、着いたわ……ありがとう天喰くん♪」ナデ  
ナデ

天喰くん「どういたしまして!!」

オブサーバー「……この子、私の直属の部下にしたいわね……  
ねえ、天喰くん？」

天喰くん「うん？なあに？」

きよとんと首をかしげる天喰くんにオブサーバーはこう提案する

オブサーバー「あなた……いつか私の天喰にならないかしら？」

天喰くん「うくん？わからないけど……いいよ!!」

オブサーバー「そう♪なら、楽しみにしているわ♪・・・また、いつかお話をしましょう？それじゃあね？」

天喰くん「うん!! バイバイ!! タコのおねえちゃん!!」

曇天「あ! いたいた! 天喰くん! どこ行ってたの? 探してたぜ？」

天喰くん「えつと・・・秘密!!」

曇天「・・・なんじゃそりや」

そのころ大鳳たちは・・・

大鳳「せいやあああああああ!!」

ドカアアアアアアアアアアア!!

ジャベリン「な、なんか今日の大鳳さん張り切っているね・・・」  
ラフィー「・・・セイレーンを全部倒してる」

綾波「・・・なんか大きいほうの天喰の戦い方に似ているのです」  
ジャベリン「そうなの? 綾波ちゃん? どんの感じだった?」

綾波「・・・見てはいけないタイプの鬼神です」

ラフィー「・・・よけいわからなくなつた」

そう、前衛組が会話している間に大鳳は頑張っていた

大鳳「セイレーン達!! 今すぐに基地に帰って指揮官様(と天喰くん)に会いたいからさつさと全滅しなさい!!」

そして本来はそこそこ時間がかかる艦隊を大鳳一人で全滅させた・・・

夕方

曇天「お〜い、天喰くん！そろそろ帰る時間だぞお〜」

天喰くん「あい!!」

そしていそいそと帰る準備をすると・・・

ドンガラガツシヤアアアアアアアン!!

壁を破壊してやってきたのは・・・

曇天「うおおい!?大鳳!!また壁を破壊して迎えにくんな!?前は窓ガラスを破壊してきたろ!!」

大鳳「このほうが早く着くからいいんです!!・・・お迎えに来たよ天喰くん!!」

天喰くん「あ!おかあしやん!!おかえりなさい!!」

大鳳「ただいま♪ご飯食べに行くよ!」

食堂

エンタープライズ「く、しまったな・・・」

赤城「どうしたの?エンタープライズ?」

エンタープライズ「ああ、赤城か・・・エセックスに先に食堂で私の方も頼んどいてくれて言ったんだが・・・まさかこれとは・・・」  
エンタープライズの前には唐揚げがあった・・・しかし、その淵には大量の黄色いすっぱいものが・・・

昇龍（あ、そういえばエセックスが

エセックス「先輩にレモン嫌いを治してほしいのでこれにします!!」

・・・って言ってたけど、あの人割と鬼畜じゃね?」

・・・と思いつつ隣で天喰くんと一緒にエビのグラタンを食べている昇龍

すると隣の天喰くんが・・・

天喰くん「昇龍お兄ちゃん・・・エンタープライズお姉ちゃんはなんでレモンを食べないの？」

昇龍「ああ・・・ええ・・・まあ・・・あの人ある意味極度のレモン恐怖症なんだよ・・・」

天喰くん「・・・嫌いななの？」

昇龍「・・・うん・・・あの人にレモンのレでも見えたら失神するくらい」

天喰くん「・・・どうにかできないかな」

昇龍「・・・いや、無理だろ・・・待てよこれなら・・・ちよつと天喰くん耳貸して」

赤城「そ、そう・・・あまり無茶はやめてよ？前に東海が暴走したときレモンぶつけられて倒れたんだから・・・」

エンタープライズ「・・・ああ、あの時は本当にあの世が見えた」  
そう懐かしい会話をしていると近くで昇龍と天喰くんの声が聞こえた

昇龍「天喰くん？レモンおいしい？」

「素晴らしいながらレモンをかじる天喰くんがいた」

天喰くん「うん！おいちい♪おいちい♪」

エンタープライズ「・・・すまん、赤城。厨房に行ってくる」

赤城「え、何を・・・まさか、厨房にあるレモンをすべて食べる気！？」

エンタープライズ「・・・ああ、そうさ」

赤城「やめなさいエンタープライズ!!あなたの体(内臓的に)が持たないわ!!」

エンタープライズ「離してくれくれ赤城・・・なんか、今ならいけそうなんだ・・・」

そして厨房に走り出したエンタープライズ・・・

数分後

そこには満足な笑みを浮かべ、白く燃え尽きたかつての英雄がいた……

後にこのエンタープライズのレモン事件を唆した昇龍と天喰くんは

天喰くんは赤城にデコピン一発を食らい

昇龍は正座されて膝の上に漬物石を置く罰を受けた……

昇龍「なんか僕だけ罰が重すぎませんか!」

夜

大鳳の部屋

大鳳「それじゃ、お休み天喰くん?」

天喰くん「……うん……お休み……おかあしやん……スヤア」

大鳳（ああ、本当に可愛い♡天喰と子供ができたらこんな感じなのかな?……ってちがうちがう!!し、指揮官様との子よ!!け、決して天喰が好きだとかは違います!!）

……と誰も聞いていないのに否定をする大鳳だった

翌朝

大鳳（さてと……そろそろ天喰くんが起きる時間帯ね……早く

拝まないよ・・・あれ？なんか大きいわね・・・)

日課になった天喰くんの寝顔を拝もうとしたが胸にはいつもの天喰くんの頭ではなくいつもの大ききさをした銀髪青年だった

天喰「く、くるしい・・・」

大鳳「天喰!?もとに戻ったのですか!?

そして廊下に移動させて言う

大鳳「皆!天喰がもとに戻ったわ!!」

東海「本当ですか!?相棒!!起きてますか!?

曇天「なに!?本当か!?!?!?!いや、誰?」

昇龍「・・・天喰ってこんな顔でしたっけ?」

月影「・・・天喰くんのほうがよかった」

東海「ちよつとみんな!?!?!?!?!つて相棒!起きてください!!」

天喰「う、うくくん・・・・・・・・は!?俺はいつたい何を!?!」

東海「よかった!!無事なんですわ!!」

天喰「ああ、なんか柔らかいものに包まれる夢を見たんだが天国のような地獄のような場所だったな・・・」

曇天「なんだそりや・・・」

天喰「・・・あと、東海。俺のここ数日の記憶がないんだが知らないか?」

東海「:いえ、知っていますが知らないほうが身のためですよ・・・」

天喰「え、なんか逆に気になるんだが・・・」

大鳳「えつと・・・大丈夫ですか?天喰?」

天喰「あ、ありがとう・・・」

母さん」

東海「え……」

曇天「ちよw……母さんってw」

大鳳「天喰……／／／／／／／／／／」

天喰「え、ちよつと!!俺、今なんて言った!？」

……ちなみにあとで天喰が月影にこの数日間何があったのかを聞き理解すると

天喰「こ、殺してください……／／／／／／／／／／」

……しばらくあまりの恥ずかしさに部屋から出れなかったそうなの

## 迫りくる魔の手

大鳳「・・・天喰、記憶が戻ったんですか？」

天喰「お、おう！だ、断片的にだがな!!」

大鳳「・・・よかった・・・では、指揮官様に東海、先に失礼します」

指揮官「・・・ああ、いいぞ」

パタン

大鳳「・・・天喰、なんで」

・・・指揮官様の執務室から出てぼつりと眩いてしまった

指揮官様の様子からして何か隠しているのでしょうか・・・それに天喰のあの癖は嘘をついているときの・・・

もう最近はずっと天喰の行動を陰から観察をしているので行動や癖がわかってきたのである

部屋を出たふりをして執務室の扉に耳を立てて聞く

東海「・・・なんで戻ってきているって嘘をついたのですか？」

・・・やはり、東海も相棒って言うほどの仲だからなのか気づいていたようだ

天喰「・・・やっぱり無理でしたか・・・はい、戻ってきているふりをしていました」

扉を隔てた向こう側の部屋で天喰が打ち明けた

・・・なんで嘘なんかを

大鳳「・・・そんなに大鳳のことが信用できないのですか？」

・・・今朝だつてそうだった戻っているふりをして食堂で他のKAN—SENと仲良く話していた

自分も羨ましくて話に加わろうとしたけどあなたから話しかけてくれた・・・

・・・うれしかったのにアレは全部演技だったんですか？みんなをずっとだましていたんですか？



そう思いながら執務室の扉から離れて自分の部屋に戻っていった……

頬に自身の瞳から出た水滴を流しながら

アズールレーン本部

地下倉庫

……ここは本投にある倉庫

普段は作戦の資料やそれぞれの基地にいる指揮官の詳細が書いてある紙がある

そんな重要書類がある倉庫だが……

「……ぐふっ……なぜ、投獄されていた貴様がここに……」

……それがぼろぼろに破壊されたいた

部屋にある棚や書類を収めたフォルダーは無残に破かれ、壁や床は大理石でできていたがひびが入っていた

?? 「くく、意外と弱いですね人間って……あ、僕が神に近い存在になったからか！」

……そこには右腕が肥大化しそこからKANSENが装備しているような長い筒が生えていて、瞳が爛々と黄色に輝いた異形の怪物がいた

その怪物は今、右手で倉庫の警備を担当していた本部所属の精鋭の警備部隊の体調を掴み上げていた……

周りにはその怪物との戦闘で負けた警備員が地に伏せていた

隊長「き、キサマ……どうやってここに入ってきた……」

豚田「太郎!!」

豚田「くつくつく……それは秘密だ……あと、お前……」

ぐしやあああ!!

警備隊長を掴んでいる右手を思いつきり床に殴りつけた

隊長「ごはっ!?!」

豚田「ニンゲン風情があああ!?!この神である僕に人間だったころの腐った名前で呼ぶなあああ!!……今の我が名は創造神 キニコス様だぞおおお!?!」

隊長「……がはっ!?!……知ったことか!!……神様か何だか知らねえがお前は豚箱に入つとけ!!」

豚田「ふん!ニンゲン風情が神の前で喚くな!!……まあいい、特別に貴様らには使命をやるう……」

隊長「なにを……な!?!やめ!?!……ぎやああアアアア!?!」

バキツ……

ボキツ……

豚田「……くつくつく……実に美味だったぞ……」

そこにはさつきまでの戦闘の後はなかったかのように豚田以外の人間は消えていた……

豚田「……ここか」

警備隊を全滅させまでここにきたのはなにか情報を得るためでは

なくモノを手に入れるためであった・・・

書類の入った棚をなぎ倒しある重そうな扉の前についた

ぎぎぎぎぎいいいい・・・

・・・その部屋の扉に書かれていた名前は

「地下最重要隔離保管庫」

豚田「・・・これがか!!」

部屋の真ん中にあつたのは・・・

赤く光るキューブだった・・・

豚田「さあ、準備は整った!!・・・待ってるよ・・・あの空母?」

天喰「・・・はあ」

今、私は海岸の防波堤の上で一人黄昏れていた

・・・ますますわからない人の心って

カツン・・・

天喰「いて・・・なんだコレ?缶コーヒー?」

一人ぼーつとしていたら後ろから缶コーヒーが当たった

指揮官「ここにいたんか」

天喰「あ、指揮官さん・・・」

後ろに指揮官さんが缶コーヒー片手に話しかけてきた

指揮官「それ、やるよ」

天喰「あ、どうも……」

指揮官「……やっぱさっきのことか？」

天喰「まあ……はい、そのとうりです」

指揮官「いやあ、あの時急に「前の天喰ってどんな人でしたか？」って聞いてきたからさ？」

……前に指揮官さんに今回のことで聞いてみたが正直にいうと成れそうでなれない感じだ

天喰「なんだか……わからなくなってきたやいました……別に前の自分になろうとしなくていいって……」

指揮官「……なんで、そこまで前の自分にこだわるんだ？」

天喰「……前の自分になりければみんなが安心して笑顔になれるかなって思ったからなんです」

指揮官「……笑顔つか……みんなを笑顔にすることはいいことだが、戻っているって偽ってできた笑顔なんて嬉しいか？」

天喰「……犠牲は少ないほうが良いです……知っているには指揮官さんと私だけでいいんですから」

指揮官「それってき……結局は自分は幸せになれるのか？」

天喰「なれませんし、私にはなる資格がありません……仲間を殺そうとした人殺しなんか……」

指揮官「……そうか……大鳳にも言わないのか？」

天喰「……はい、どういふのかはわかりませんが……彼女の笑顔だけは絶対に守りたいんです」

指揮官「……優しく悲しい嘘か」

天喰「……ところで大鳳さんは今何しているんですか？」

指揮官「ん？ああ、今朝に外出許可書を出していたからどこかに行っているんじゃないか？……しかしなあ」

天喰「どうしたんですか？」

指揮官「……噂で聞いていたんだが、最近この基地から近い都市で謎の失踪事件が起きているらしいんだ」

天喰「……なにも起きなければいいですね」

指揮官「……ほんとだよ」

大鳳「・・・グスツ」

・・・現在、大鳳は基地から一番近い都市にいた

ただ、自分の天喰が嘘について自分を苦しませているのと誤魔化さ  
れている心がなんとも言えないほどつらいものだった

大鳳（・・・やつぱり、このまま天喰は記憶がもとに戻らないんで  
しょうか？・・・あの作戦の開始前の時、伝えたいことがあるつ  
て大鳳と約束しましたがそれもなくなってしまっうんでしょうか・・・  
あ、あと・・・その・・・天喰に睡眠剤を入れるとき・・・その・・・  
接物・・・して・・・多分、か、彼の初めてを無許可にう、奪ってし  
まいましたし／／／／／／）

と一人街でぼーっと思いついて出て赤面していた

大鳳「・・・そろそろみんなが心配するから戻りましょう」

そして基地に帰ろうとしたら

子供？「うえくくくん・・・パパあ!!ママア!!」

大鳳「あら？なにかしら？」

大通りの近くの小道から子供の泣き声が聞こえてきた

小道に入り声がある方向に進んでいくと・・・

大鳳「あ！僕！どうしたの!？」

子供？「ひっく・・・お母さんたちとはぐれちゃった・・・」

・・・どうやら迷子になってしまったらしい

大鳳「そう・・・なら、大鳳も探しますよ!!」

子供？「え、いいの!?!ありがたい!!大鳳おねえちゃん!!」

・・・現在の空はまだ太陽が下がりだしたぐらい。探すだけなら時  
間はある

こうして探すことになった

大鳳（・・・でも、この子を見ていたら思い出しますね・・・天喰  
が小さくなってしまった事件で・・・あの頃は本当にかわいらしかつ  
たですわあ・・・急に母といわれたのは驚きましたが、大鳳の母性が  
東海みたいに暴走したわけではありませんが解放してしまいまし  
た・・・でも、それも今の天喰は覚えていないんでしょ(うね)

子供？「・・・どうしたの？おねえちゃん？悲しい顔よ？」

大鳳「あ！いえ、大鳳は大丈夫ですよ!!」

子供？「・・・相談になら乗るよ!!」

・・・そういえばあの時の対抗演習の時もそう言われましたね

大鳳「・・・実は大鳳の仲間の一人が記憶・・・昔の思い出が消えてしまったんです」

子供？「・・・そう」

大鳳「・・・その人が無理に嘘をついて大鳳たちを安心させようとしたのですがそれを知ってしまった大鳳は少し悲しくて・・・」

そうつぶやきながら迷子になった子供と手をつなぎながら歩いて  
いた

子供？「ふくくくん、そっか・・・なら・・・」

この僕が慰めようかあ？」

大鳳「・・・え？・・・きや!!」

・・・突如として子供のつないでないほうの手が肥大化して大鳳の首を掴み壁に打ち付けた

大鳳「う・・・ぐ!?!?・・・貴様・・・誰なの!?!?・・・それにこの腕は!?!?」

掴み上げた腕は禍々しくなり所々からKANSENでいう主砲がむき出しになっており、それはまるでセイレーンの特徴と一致していた

子供？「ひひっこれかい?・・・これは神である僕が特別に下さった力だよ!!」

すると声と体の形が変わっていき声はまるでねっとりとしたような声になり姿も肥えた豚のようになっていった

大鳳「な、なんでここにいるの・・・」

豚田!!」

豚田「なについて上司が部下の迎えに来ただけだよ?」

大鳳「誰が……誰が最低なことをした貴様の所に戻る物ですか!!」

豚田「貴様……今、なんて言った?」

ガシツ!!

豚田はもう片方の腕で大鳳の首を絞めた

大鳳「あ……が……い……き……が……」

豚田「下等生物に作られたもの風情があ!!?今の我が名は「創造神  
キニコス」様だぞお!!?謁見でき触れるだけでも感謝しろおお!!?」

大鳳「い……や……だ……あ……の……  
と……き……の……思いでなんか……」

それにキレたのか絞めた首に力を入れていく……

大鳳「た……す……け……て……天喰（カクツ）」

首を絞められ大鳳は意識を手放した……

豚田「ふん、もうくたばったか……まあいい……元は僕の物だつ  
たんだ……お前にはまだ頑張ってもらおうぞ?……あの空母に対し  
てな?」

指揮官「……にしても遅いなあ」

赤城「どうしたんでしょう?指揮官様?」

指揮官「……大鳳が外出許可書を出していたんだけどいくら何で  
も遅くないか?」

執務室にある窓からは空は真つ黒になっており星が見えてきた

あれから黄昏れていた天喰と別れて執務室で残りの仕事を終わら  
せた

外出許可書をだして何かしらの理由でこの基地の門限より遅くな

る場合は事前に申請するか電話をかけたりますんだがそれがさつきから来ない・・・

赤城「そうですか・・・まあ・・・赤城は指揮官様の害虫が減るのでいいんですが・・・じゃなく・・・さすがに心配ですね」

・・・今、聞いてはいけないうのを聞こえた気がするが気にしないで  
おこう

しかし、突然・・・

ジリリリリリリリリリン!!

指揮官「誰だ?こんな時間に?」

赤城「がいてy・・・大鳳ではないでしょうか?」

指揮官「・・・もう、隠す気ないやん・・・はい、田中中将です」

「田中中将ですか!?今すぐにテレビをつけてください!!」

指揮官「え、ちよつと!?どうs「いいから、早く!!つければわかります!!」・・・お、おう」

そう言われいそいそとテレビをつけたすると・・・

指揮官「な!?豚田!?・・・なんだあの姿は!」

テレビをつけるとそこにはどこかの倉庫だろう・・・暗い場所に豚田は映っていた

そして豚田に担がれていたのは

赤城「・・・大鳳!」

気を失っているのかぐったりとしている大鳳だった

すると豚田は犯行声明みたいなのを発した

豚田「全世界に宣告する!!我が名は「創造神 キニコス」!!全世界の首相や王に告ぐ!!今すぐに行政権や国庫の資金を我に収めよ!!従わないまたは我の名を汚したものはアズールレーン本部の新型爆弾を



その国に投下する!!それに我には世界のどの軍隊より強い兵を所持している!!嘘だろうとおもうなよお!?こちらには本部の元帥と一体のKAN—SENにそれぞれの国の役員を人質にしているからなあああ!!・・・解放してほしいければ例の空母がいる艦隊をよこせ!!それで交換しよう・・・反抗すればお前たちにとつて困る情報を世界に暴露する!!タイムリミットは六時間以内だ!!」

指揮官「新型爆弾って・・・」

「・・・実はアズールレーン本部の地下最重要隔離保管庫内にあった赤いメンタルキューブと警備隊を紛失しました」

赤城「・・・じゃあ東海達が言っていた核つとこのことですね・・・恐らく例の空母がいる艦隊というのも海上自衛隊のこと・・・しかしこちらが困る情報って・・・」

指揮官「・・・天喰がセイレーンになったことだろう・・・もし暴露されればアズールレーン本部の世界からの信用はガタ落ちだ・・・これはなんとしても阻止しなければ!!」

赤城「了解しましたわ!!至急、天喰を含む海上自衛隊の招集を開始します!!」

・・・指揮官と別れて一人で考え事をしていた

天喰「・・・なんでこの戦争は終わらないんだろう・・・みんなもセイレーンも武器を捨てて話し合えばもしかしたら戦わなくていいのに・・・」

すると基地内放送で・・・

「全KAN—SENの皆さん!!至急、グラランドに集まってください!!」

天喰「ん?どうしたんだろう?」

とりあえず言われたとうりグラランドに向かうか・・・

グランドはすでに全員集まておりしばらくたつと指揮官さんが前にたった

指揮官「……さつきまでテレビを見ていた人は知っているかもしれないけど……さつき豚田がうちの大鳳やアルバード元帥を人質に取って犯行声明を出した!!」

高雄「な!?!指揮官殿!?それなら今すぐにもそいつの所に向かうべきでは!?!」

指揮官「確かに助けに行きたいってみんな思うかもしれない!!特に重桜の皆は!!しかし、あちらは海上自衛隊を要求してきた!!……上層部はいま、元帥がいないから幹部が判断しているがあちらの要求を呑むことになった!!」

ホーネット「でも、それって海上自衛隊の皆が危険じゃ!?!」

指揮官「だけど俺たちもはい、わかりましたって行くわけではない!!そこで海上自衛隊の皆は特令をだす!!大鳳たちを人質に取っている豚田を無力化及び赤いメンタルキューブの回収を命ずる!!あとで執務室に集合!!……他の皆は現場でやじ馬ができるかもしれないから警備を頼む!!では解散!!」

↳執務室↳

曇天「……にしてもこれなんだ?」

月影「……なるでセイレーンの一部を移植した感じ」

指揮官「すまない、こんな重役を押し付けて……」

東海「いいんですよ、この状況では僕たちしか動けないので……しかし、セイレーンなら月影のEMP効くかな?」

昇龍「効くんじやないかな?あの作戦でも急造とはいえ人型にも効いたんだから」

東海「だといいですけど……天喰さん、大丈夫ですか?」

天喰「あ、いえ・・・なにも・・・」

東海「・・・まだ、根に持っているんですか？」

天喰「いえ、大丈夫です・・・これは私たちにしかできないことならなおさらやらないと!!」

指揮官「・・・よし、みんな頼むぞ・・・」

・・・こうして私たちは豚田のいる現場に向かった

## 復讐

「工房」

ここは建造所の一角にある工房・・・  
そこにはいろんな機械が設置されており明石がよくいる場所であつた

しかし、今は大鳳が人質にされた事件が発生しておりみんなは現場の野次や交通整理の手伝いに行っており誰もいなかった

そのなかに一つだけ違うことをしている人がいた

?? 「・・・これね」

その人物の前にあつたのは天喰専用の改造後の装備があつた

これは本来なら怪我を完治しリハビリを終えてから改造を行う予定だったが天喰の記憶喪失と心神的外傷（トラウマ）により改造計画は先送りになり工房で保管していたものだった

?? 「・・・さてと私の天喰の手伝いに行こうかしら♪」

その人物はタコのような艤装をうねらせながら微笑んでいた

豚田が犯行声明を出して私たち海上自衛隊の皆は現場に到着した

東海「海上自衛隊ただいま到着しました!!」

トーマス「ああ、来たか」

昇龍「トーマスさん・・・状況は？」

トーマス「キニコス・・・豚田はアズールレーンの管理下にあつた大型倉庫の一つを占拠した・・・君たちが来るまで何名かの対KAN―SEEN鎮圧部隊を潜入させたが通信が繋がらない状況だ」

倉庫の周りには憲兵の人が監視していて周りにはテレビ局の人が報道に来ていた

トーマス「・・・重大だな・・・君たちの役は」

月影「・・・ごもつともだ・・・んで自称創造神は今何してる？」

トーマス「・・・今の所動きはない。それに豚田の要求に対して各

国のトップは要求を呑まないそうだ」

東海「しかしどうやって本部にあった赤いメンタルキューブを手に入れたんでしょう?」

トーマス「・・・俺も怪しいと思って本部にいた役員に監視カメラなど見たが豚田の姿なんて写っていないかった。あんな特徴的な格好だ普通目立つはずなのに一ミリも入っていないかった」

・・・ますますわからなくなってきた

セイレーンの技術か? オブサーバーだつてEMPができたくらいだし光学迷彩とか作れそうだしな・・・でも、セイレーンが関わっているなら無理にアズールレーン本部に忍び込んで赤いメンタルキューブを手に入れるよりもらうほうが楽だしリスクもない・・・

天喰「・・・それより大鳳さんたち人質の救出を優先しましょう」  
トーマス「そうだな・・・こちらからでもできるだけサポートをする」  
こうして海上自衛隊の皆は中に入っていった

中は気味が悪いほど静かだった・・・

曇天「・・・盛大なお出迎えを警戒したけど来ないな・・・」

東海「そうですね・・・月影と昇龍は二人でそれぞれの部屋の中を探索してください・・・曇天と僕と天喰さんは道の確保と念のため退路の確保を・・・」

全員「[[[[了解]]]]」

臨時の旗艦になった東海から命令をもらいそれぞれスタンバイする

天喰「・・・」

東海「天喰さん・・・怖いですか?」

天喰「い、いえ! 大丈夫です!!」

東海「虚勢は張らないほうが良いですよ・・・大丈夫ですよ僕たちを信じてください」

そして、部屋の中に突撃するが・・・

月影「・・・だれもいない」

鎮圧部隊との通信が途切れるくらいだから警戒したが誰もいな

かった

その代わり……

東海「……なんで銃の薬莖は落ちていないのに戦闘跡がないんだ？」  
……戦闘があつたなら血痕などがあつてもいいのに綺麗にない

東海「……全員警戒を」

そして最後の残っていた豚田がいるであろう倉庫の部分の部屋に入ろう

としたが……

「あ、天喰？……」

東海「な!?!人の声!?!」

入ろうとした扉の近くにあつた暗い通路の向こうから

大鳳がふらふらと出てきたのだ

大鳳「天喰！助けに来たんですね!!」

天喰「大鳳さん!?!無事だったんですか!?!」

大鳳「はい！あいつの隙をみて逃げ出してきたんです!!」

曇天「そうか……じゃあ、あとはおっさんだけだな……すまん  
が豚田がいた場所まで案内してくれるか？」

大鳳と思しき人物に近寄った曇天……  
しかし……

「ニンゲンって本当にバカですね・・・」

曇天「なンドカアアアアアアン!!」

突如、曇天の体が吹き飛び入ろうとした扉を突き破り壁に食い込んだ

東海「曇天!？」

??「やつぱり、人間ってバカだよねえ?大切な仲間がいたら助けたくなるっていうのはさあ!？」

・・・大鳳が何食わぬ顔で歩いてきた

東海「お前、何者!？」

大鳳?「誰ってひどいじゃないかあ?僕だよあ!

キニコス様だよおおお!!」

大鳳だった体の形が崩れそこから一人の男性の形になった・・・

昇龍「ええ!?!豚田!?!なんだよソレ!?!」

豚田「くつくつく・・・これは神が私に下さった力の一つだ・・・」

東海「・・・セイレーンですか」

豚田「ん?あんな海臭い奴らと一緒にするでない・・・まあ、いい・・・

お前たち・・・やれ」

ザザザツ!!

するとどこからか手下であろう物体が現れた

しかし、その姿は・・・

天喰「な、なんですかその姿は・・・」

それはまるで人間の各パーツをつないでできた生物の様だった

そしてその生物から・・・

タスケテクエエエエ

コンニチハ!!コンニチハ!!

オカアサン!!タダイマ!!

キョウノテンキヲオツタエシマス!!キョウノテンキハ...

東海「・・・まさか僕らの基地の近くであった失踪の噂って」

豚田「そうさ!!ああ、可愛そうな人間たちだなあ!!お前たちがそこにいるせいで僕がこいつらをこのような形でやらないといけないなんてねえええ!!」

昇龍「何を言っているんですか!?あんたもその姿に換えたのが悪いんですよ!?!」

豚田「・・・なにを言っている?人間なんて勝手に増えていく生物だから別に何をしてるかまわらないだろう?・・・あ、そうそうお前たちに特別いいもの見せえやる」

バキ!!ボキ!!

すると豚田は形をかえ少年の姿になった・・・

月影「・・・うそでしょ」

豚田「ここで本部に入った方法を教えてやる・・・僕は喰った人間に変身でき、さらに自分の手下にでいるのさ。つまりさつきやつてきた愚かな人間たちも僕がさつきの手口でやったらまんまとまんまと引つかかってさ!!あの顔は傑作だったよ!!」

だからさつきまでの部屋は薬莢があっただけど戦闘の跡がなかったのか

・・・こいつ人間の心も捨てたのか

天喰「じゃ、じゃあ・・・さつきの大鳳さんは・・・」

豚田「ああ?これのことかい?」

さつきのキューブを見せるときみたいに豚田の体がうごめき豚田の体から

大鳳「あ・・・ま・・・く・・・い・・・」

大鳳が苦痛な表情で埋まっていた・・・

天喰「・・・この外道が」

豚田「さてと私のネタを知ってしまったんだ・・・代償としてお前たちの命をもらおうよ」

東海「くそ!!く r (ドカアアアアアン!!)・・・ごはっ!?!」



豚田が構え東海達が警戒した瞬間、突然豚田の姿は消えてその代わりに東海が立っていた場所に豚田が立っており東海は吹き飛ばされていった

昇龍「なんだそれ!? セイレーンでもできないぞ!？」

豚田「ああ、それはこれだよ」

豚田の体が形をかえ中から赤いメンタルキューブが埋め込まれていた

豚田「ひひっ!! どうやらこのキューブはとても素晴らしいものらしいから神である僕がわざわざセイレーンになって使っているんだ!」なるほど・・・だからか・・・今の豚田はセイレーンになっているからあのキューブも使える・・・それであるスピードとパワーを得たのか

曇天「うらあ!!」

キイイイイイ!!

豚田に飛ばされた曇天が「カリバーン」で攻撃するが・・・

豚田「・・・くつくつくなんだあ? 今のはあ?」

曇天「・・・おいおい冗談じゃねえぞ」

曇天のレーザーが効いていなかった

・・・正確には効いていないというより吸収されているといえはいだらう

東海「くらえ!」

東海もヤケクソ半分でレールガンを打つが

豚田「ふん!!」

当たってダメージは与えた・・・

しかし当たって挟れたところから再生していった

豚田「くつはっはっは!! お前たちの未来の兵器はそんなものか!! しかし、相手が悪かったな・・・なにしろ神だからな!!」

昇龍や月影も攻撃するがまったく効いていなかった・・・

月影「・・・E M Pを使いたいけど取り込まれた人質に被害が及ぶかもしれないから使えない」

豚田「さてと・・・芸は尽きたか? ならこちらから行くぞ?」

そうして豚田は手下である異形に指示を出した

東海「くそ！キヤスター隊！エンゲージ！」

今回の鎮圧用に改造した隊を発進させて応戦する

「ギギッ！」

「あっはははは？こんにちは？」

「さようなら！タスケテクエエエエ」

曇天「……こいつら!? もろいけど数が多すぎる!？」

さつきまでは見た感じ六体しかいなかったのにいつの間にか大量に攻めてきた

それもそのはず……そいつらが出てきているのは……

豚田「ほれほれ？こっちは無限のエネルギー源があるからいくらでも出せるぞおおお!? 確か君たちは演習の時言ってたよねえエ!? 数できたら危険だつてさあああ!？」

豚田は体中を肥大化させ肌から異形を生み出していた……

東海「……このままじゃ!? 手数欲しい!……天喰！援護を！」

東海は天喰に援護を求めるが……

天喰「……っはあ!?!……っはあ!?!……っはあ!?!」

天喰は弓をひいて艦載機を出そうとするが手が震え引けなかった

異形の顔に出ているのが人間に似ておりあの時のトラウマが出てきたのだ……

豚田「ぶははははははは!!ぎまあないよねえ!?!だつてえ君が言っていた「海上自衛隊は人には攻撃せずに助ける」ってねえ!？」

東海「こいつ!?!……ごほお!?!」

しかしとうとう東海達は数を捌き切れずに押し負けてしまった……東海達は異形に纏わりつき拘束されて身動きが取れなくなった

豚田「くつくつく……さてと貴様らも我が力の一部にしてやりた  
いがその前に……」

豚田はいまだに震えている天喰のところに向かった

天喰（動いてよ！お願い動いて！私も戦わないといけないのに……  
なんで……体がちつとも動かないんだ……）

豚田「あひやつひやつひやつひゃ!!みつともないよねえ！あの時の

面影は全くなくまるでおびえている子犬みたいだな!!そんなんじやその弓も刀も引けないとおお!!」

天喰「う・・・だ、黙れ!」

豚田「・・・さてとそろそろ始めるか」

豚田は自身の腰部部分から枝のような触手を伸ばし天喰を捕まえた

天喰「・・・うぐ!」

豚田「さてとカメラは回っているな?」

天喰の近くに三脚をたてカメラを載せて起動させた

そして豚田は演技かかったように始めた

豚田「れーでいーすえんじえんとるめーん!!世界中でこれを見ている人間ども!!只今より大罪人天喰の裁判をはじめまーす!!そんな天喰の罪名はー!」

ゴキツ!!

天喰「ごふっ!」

豚田は天喰の罪名を言うのと同時に顔面や体をセイレーン化した腕で殴りだした

豚田「神である僕に殴ったこととー」

バキイ!!

豚田「僕にー反論したこととー」

ボキツ!!

豚田「僕よりーイケメンであることとー」

ガンツ!!

豚田「お前がー僕の周囲からの評価をー下げたこととーす!!これにより大罪人天喰の判決はー死刑に決まりました!!」

ヒュン!!

天喰「あ!?!?・・・が!?!?・・・」

豚田の触手がいつかやったオブサーバーが天喰のメンタルキューブに触るかのように侵入してきた・・・

しかし、今回は触るのではなく握り潰しに来ているが・・・

豚田「ああ!いい顔だなあ!安心しろコレが破壊されても私のエネルギーになるだけだ・・・さつきもレーザーを受けたがエネルギーに

変えたのさ……しかし、我は神だ……死なないチャンスくらいはろう」

「素晴らしい……体から排出したのは

大鳳「ごほ!?げほげほ!」

豚田「けけ、大鳳……お前にこいつを助けるチャンスをやろう」

大鳳「こいつつて……天喰!?……天喰を開放して!」

天喰「た……い……ほ……う……さ……ん……」

豚田の体から解放された大鳳はメンタルキューブを破壊されそうになる天喰をみてやめるよう請う

豚田「……ああ、綺麗な顔だ……それはなあ……」

大鳳……神である我の妃となれ!!」

天喰「お前!?なにを!」

大鳳「……なれば天喰達を無事に解放しますか」

豚田「もちろん、アイツらがちよっかい掛けない限りなものかもしれない……」

天喰「だめです!大鳳さん!言ってしまったら!!ウグツ!」

豚田「喚くな!負け犬の遠吠えが!」

大鳳「……ります」

天喰「た……い……ほ……う……」

大鳳「私……大鳳は……偉大なる創造神 キニコス様の妃に……なります」

豚田「・・・く・・・くはははははっは!! まあ、当たり前だよなあ？モノが本来の主人の所に戻るの当たり前だよなあ？」

天喰「大鳳さん・・・」

大鳳「・・・いいんです、天喰・・・これは大鳳のあなたがそうやってしまったせめての償いです・・・あなたが無事ならそれでいいです」

天喰「ッ!？」

豚田「・・・では・・・我が妃よ・・・誓いに・・・我に接物を・・・」

そう言いながら豚田は顔を大鳳の顔に近づけさせた

大鳳「・・・さようなら天喰・・・幸せに生きて・・・」

大鳳のあなたがそうなってしまったせめての償いです・・・

・・・さようなら天喰・・・幸せに生きて・・・

・・・まただ・・・また、自分のせいでこうなってしまった

大鳳さんのせい？

ちがう

自分がこの世に生まれてしまったからこんなことになってしまったんだ・・・

罰なら大鳳さんより自分が受けたほうが良い私が死んだほうが彼女は自分より幸せになれるはずだ

自分なんか・・・

自分なんか彼女達と会っていないほうが・・・

ピキ・・・

天喰のメンタルキューブは豚田の触手の握力に耐え切れずに少しずつヒビが入ってきた

もう自分は死ぬのを予感しそつと目を閉じた

・・・ふふ♪本当にそれでいいの？

(いいんじゃないかな？自分と一緒に居るよりほかと一緒に居たほうが彼女にとつては幸福だ)

・・・あいつに取られてもいいの？

(多分大丈夫でしょ・・・きつとあいつは見た目はアレだけどきつといいやつかもしれないし・・・)

・・・でも、アイツは彼女をモノとしか見てないわよ？

(それでもこんな自分よりあつちにいたほうが良い・・・)

・・・本当は、誰かが彼女を幸せにするのを見るんじゃないかって自分は彼女とずつと一緒に居たいんですよ？

(・・・でも、もう遅いよ・・・もうあつちの物になったんだから)

・・・あら？あきらめちゃうの？

(ちがうんだ・・・この・・・なんだろう・・・気持ちかな？・・・あの時ベッドから起きた時に彼女を見てからずつとあるんだ・・・これがあるから・・・なんか・・・彼女と一緒に居たいけど・・・近づき

にくいかな?)

・・・彼女にはそれを伝えないの?

(どうやってなんだ?・・・もう、いなくなるのに?)

・・・簡単よ♪奪っっちゃえばいいのよ♪

(奪う?・・・それって罪なことじゃ?)

・・・ああ、もう!・・・今!あなたが大切に思う相手が取られようとしているの!今更、悪いだとかどうとか気にしてる場合!?

(・・・違うな)

・・・大切なものを守るためなら少々の罪も犯さないとはいけないと  
きがあるものよ?

(できるかな・・・)

・・・最初から失敗を考えたら余計失敗するよ?・・・こういう時こそ勝利への予測をしないよね?

(・・・やってやるよ)

・・・ふふ♪これだからいいわ♪私の天喰?・・・あとこれ、あげ  
るわ?

「天喰「・・・返せ」

体に鞭を打ち触手を引きはがそうとする

ひびが入っているキューブが動いたことよって痛もうが関係なくただ目の前の現実を塗り返すためにただ動く・・・

天喰「……大鳳を……返せ」

豚田の顔がもう目の前に迫っている

他の皆は豚田の触手に捕まっており何か叫んでいるがもう聞こえない

大鳳（……天喰……もし、KAN—SENにも来世があったら……また、会えるかな？）

豚田（くつくつく……勝った！ようやくあの空母に一矢報いでやったわ!!）

豚田は勝利を確信した

天喰は記憶喪失とトラウマで戦える身でなく他の海上自衛隊も拘束に成功した

豚田（さあ！大鳳！我と接物をし永遠の所有物になるのを誓え！）  
もどかしくなったのか豚田は大鳳の体を掴み無理やりしようとした

斬!!

豚田「は？」

自身の大鳳を掴んでいた触手は消え血があふれていた  
そして大鳳もその場から消え離れたところにいた

大鳳「……え、なんで？」



自分はあと少しで豚田とキスをするところだったが突然衝撃を感じて気が付いたら豚田から離れたところにいた

しかし、その衝撃を加えた正体はすぐに分かった

?? 「あつぶねえ・・・ギリギリだったわ・・・」

そこには銀髪に改造で新しく新調した袴と弓と刀を持ち、新しく白い布地に背中に三本の足の生えた黒い鳥の刺繍された上着を着る青年がいた

大鳳「・・・え、天喰なのですか？」

天喰「・・・おう、ただいま・・・大鳳・・・」

## 第四章 帰るべき場所 告白

天喰「・・・ただいま・・・大鳳」

あつぶねえ・・・あと、少し遅れていたらマジでクソ豚野郎に所有物宣言されるどころやったわ・・・

大鳳「・・・本当に、本当に天喰なのですか？」

天喰「おう、そうだが？」

豚田「き、キサマあ!? どうやって戻ったんだ!？」

天喰「ふふん! わかんねえだろ!・・・ごめん、俺もわからん。なんでかはわからないけど急に頭の中で弾け飛んで思い出した感じ?」

豚田「何をふざけたことを!」

豚田の腕から生えた主砲から光線が来るが天喰は大鳳を抱えたままひらりと避ける

天喰「あーらよつと!」

斬!!

離れるついでに東海達が捕まっている触手を刀で切る

東海「ごほ!ごほ!・・・いてて・・・えつと、本当に相棒ですか?」

天喰「ああ、そうだぜ?」

東海「・・・どうやら本当のようですね。いつぞやの嘘ではなく」

天喰「う・・・それはごめん」

東海「はあ・・・ま、今はうれしいですがとりあえず目の前の自称創造神をなんとかしないと・・・では、行きます・・・あ、でもこれにしよ・・・一回言ってみたかったですよね・・・」

「戦う理由はできたか・・・相棒?」

天喰「・・・ああ！」

こいつは俺から大切なものを奪おうとした・・・だから！  
今、ここでこいつを!!

天喰「・・・殺す!!」

・・・どうしてだ!!どうしてあと少しで勝利の果実を掴めたのにあの空母があ!?

豚田「死ねえ! 下等生物があ!？」

豚田は怒りのままに光線や触手で攻撃するが・・・

天喰「・・・はあ!!」

天喰が刀を振るい衝撃波で跳ね返す

曇天「・・・いや、レーザーを刀で消すって・・・何してんだよ天喰」

天喰「なんか・・・今体がすごく軽くて、力が湧き出るんだ」

・・・うん、どういうわけか体が戻ったからかわかんないけどさこぶる元気が出てくるんだ

天喰「ま、そのの考察はあとにしておいて・・・どういう状況？」

東海「ざっくりいうと曇天の「カリバーン」が効かない・・・僕のレールガンも効くけどすぐ再生される・・・しかもそね再生に使われるエネルギーも奪った赤いメンタルキューブから取っていてアイツの体内には人質がまだいるって言う感じです」

・・・あれ? 割と詰んでね? アイツから赤いメンタルキューブを回収しつつ人質回収してあいつをブチ止めさないとイケないんだよね?

あと、豚田に近づくにも・・・あの・・・人間の慣れ果ててを倒していかないとな・・・

天喰「・・・じゃ、東海・・・ごめんけどあの異形の相手を頼んでいいか?・・・やっぱり少し殺しづらい」

昇龍「え、天喰・・・一人で立ち向かうの?」

天喰「おう、まずこの倉庫であいつが大人数相手に暴れて壊れたらこつちが困るし・・・なにより人質がどうなるのかもわからんからな」

東海「・・・了解、異形の相手はお任せを」

そう言い東海達は異形の相手をしながら天喰の邪魔にならないよう外に誘導していった

俺は大鳳に隠れるよう促し怨敵と向かい合った

天喰「さーてと・・・ようやくお前と差しでできるな」

豚田「ふざけるな！ふざけんな！我は認めんぞ！こんな現実を!!」

豚田がまたしても触手やレーザーで攻撃してくるが・・・

天喰「はあ、学習しろよ・・・キャット隊、エンゲージ」

天喰は懐かしく思う弓の感触を思い出しながら新しく作られた艦載機を放った

放った矢がその新たな艦載機に変わり触手とぶつかりそうになった瞬間・・・

機体の一つになるよう集まりそして・・・

バリバリバリ・・・

ズドオオオオオオオオン!!

その機体から雷鳴が鳴った・・・

豚田「な、なんだと!?!」

天喰「・・・改めてみるとすげえ威力だな・・・E.M.L」

それは下部に専用のレールガンを乗せ飛び回る機体

機体名称「X-02s」 ストライクワイバーン

・・・うん、どうやって出たんだよこの機体

東海の主砲レールガンほどの威力ではないけど束になったらいけ

るな

でも、東海が攻撃したときみたいに再生を始めているな・・・  
ぼこぼことなりながら破壊した触手は再生するのを観察しながら  
撃ってきたレーザーを避ける

豚田「ええい!?避けるなあ!?・・・我が神兵よ!向かうがいい!!」

天喰「・・・ゼア隊・・・発艦」

豚田から出た異形に向かって別の新しい矢を放った  
キイイイイイイ・・・

その機体から赤いレーザーが出て

出てきた異形を切り裂いた

機体名称「ADFX-01」モルガン

・・・うくん

なんだろう、アイツは戦いに関してでは自分の力に狂信して自分自身  
は素人だから普通によけられているけどこっちの決め手もないから  
決着がつかんな・・・

・・・あいつはセイレーン化したんだからどこかにキューブがある  
んじゃない?私の天喰?

天喰「・・・え?」

豚田「よそ見とはいいい度胸だなああああ!」

あつぶな!今、顔ストレスをレーザーが通っていったわ・・・

それより今、声が聞こえた気がするけど・・・現状、突破案がない  
からやってみるか・・・

天喰「全機、飽和攻撃!!」

豚田の全方向からミサイルやレールガンやらが飛んでくる

豚田「ふん!!効かんわあ!!この神の体にそんな攻撃・・・」

天喰「・・・見つけた」

艦載機が攻撃している間に天喰は豚田にすれ違いさまに切った

豚田「あひやつひやつひやつひやつひゃ!!残念だったなあまだ生きてい

る・・・」

天喰「あ、ごめんけど・・・これ、もらうよ?」

・・・天喰の手にあったのは

豚田「な!?それはあ!」

赤いメンタルキューブではなく黒いメンタルキューブだった

そしてそれを・・・

バキイ!!

粉々に粉碎したその瞬間・・・

豚田「ぐ!?ごほ!?ごほ!」

黒いメンタルキューブが破壊された・・・

つまり、豚田はセイレーン擬きではなくなり普通の人間に戻った

人間ではあの赤いメンタルキューブは有害だからな!

豚田「お、おのれえ!?!よくも神に対してえ!」

天喰「うっせえ!!・・・大切なものを守るためだったら神だろうが

殺してやんよ!!」

豚田「こ、このお!!・・・ごほ!?おええ・・・」

うわ・・・こいつゲロみたいに元帥などの人質たちを出しやがった

豚田「く、くそお!!」

そう言いながら少しずつ人間の面影に戻りつつある豚田は人質が

全員出てしまつて危険と判断して窓ガラスを破り逃げた

天喰「あ!待てやごらあ!!・・・つくそ!!おい、大丈夫か!」

逃げた豚田を追いかけたいがひとまず人質の安否を確認する

元帥「ぐほ!?!ぐほ!?!・・・あ、天喰か?・・・私は確か・・・自室

で仕事をしたら部下に化けた豚田に食べられて・・・」

天喰「おお!おっさん!無事か!ここはアズールレーン管理下の倉

庫だ!外に憲兵がいるから逃げろ!」

元帥「・・・だからおっさんって・・・わかつたいつてこい」

天喰「・・・感謝します・・・大鳳!人質の避難誘導を頼む!」

大鳳の名を叫び倉庫の陰に隠れておいた大鳳に頼む

大鳳「了解しました!・・・天喰!早くあいつを!・・・これ以上

アイツの手ごまを増やすのも!」

天喰「わかった！」

そうして豚田が割った窓から出てゼア隊の一機のADFX-01を召喚していつの間にかできるようになったバーサーカー乗りで追う

天喰「指揮官！指揮官！聞こえるか！」

指揮官「え！？この声って天喰！？記憶は！？ってそんなことよりどうした！」

天喰「豚田から人質と赤いメンタルキューブは回収できたけど、本人が逃走中している！今、俺が追いかけているけど・・・このあたりの住民って避難している！」

指揮官「ああ！万が一のために全員避難してる！・・・ちなみにこっちは東海が倉庫の外に連れてきたなんか変な形の肉塊の処理をしている！！」

天喰「了解！そろそろ大鳳が人質を連れて外に出てくるから気を付けてな！！」

指揮官に久しぶりに連絡を取りつつなお豚田を追いかける・・・そして

天喰「・・・いた！！」

ボロボロになった体を無様に引きずりながら逃げている豚田を発見した

豚田「はあ！？・・・はあ！？・・・な、なぜ神の僕がこんな目に！！」  
一度セイレーン擬きになって人間に戻ったせいなのか体のほとんどがぐちゃぐちゃになったおり唯一形を保っている右手を使いながら逃げていた

天喰「見つけたぞ！豚野郎！！」

空から豚田の進行方向を塞ぐように天喰が降り立った

豚田「ひ、ひいいい！！」

情けない顔をした豚田はまるで蚊を追い払うかのように必死に右手を振り回した

豚田「な、なぜだ！？なぜ武器が出ない！？」

??「あゝ、やっぱりこういう結末になるのね♪」

豚田に止めを刺そうとした天喰と豚田の前に一人の少女が何も無い空間から現れた

天喰「・・・オブサーバー」

豚田「ひ、ひいい!?・・・お、おい!セイレーン!どういうことだ!僕に神の力をくれるんじゃないやなかったのか!?!」

オブサーバー「・・・あなたはいつから自分を神様でも思ったの?・・・それにその赤いキューブってKAN—SENにしか使えないのよ?」

豚田「そ、それはどういうことだあ!?!」

オブサーバー「まあ・・・馬鹿なあなたにもわかるように言ったら・・・人間でもあの赤いメンタルキューブを使えるかっていう実験よ♪」

・・・なるほど・・・彼女らしい

豚田「じ、実験!?!」

オブサーバー「そうよ♪っていつても赤いメンタルキューブは人間でも使える可能性が少しだけあったからその可能性を潰すためにあなたを利用しただけよ?」

豚田「バカな・・・そんな馬鹿なああああああ!?!」

あまりのショックか豚田は頭を地面にこすりつけたり打ち付け始めた

天喰「・・・おう、えぐいな・・・ところでこの改造の奴だけどこどうやって持ってきたんだ?」

オブサーバー「簡単よ♪あなたの中に転送して体内で改造を始めたのよ♪」

・・・ん?え、体内で?

天喰「・・・それってお前が体内に出てきたってこと?」

オブサーバー「正解よ♪・・・それよりさっさとそいつを殺したら?私帰るから」

・・・そうだな・・・早くやらんな



そう思いちよつと体をいじられた感覚にショックを受けながら腰から刀を抜き豚田の脳天を切ろうとする

豚田「ふぎ、ふぎけるなあああ!!?..お、お前さえいなければあああ!!?..あの女は僕の物になれたのにいいいいいい!!?」

天喰「...お前、まだそんなこと言うのかよ...あと、一つだけ言っとくわ」

そして刀を握ってないほうの手に力を込めて...

ゴキヤア!!

豚田「ふぎや!!?」

思いつきり殴って言った...

天喰「...さつきからうるさいんだよ...大鳳は俺のもんだ!!」

そして刀を振りかぶり切ろう

しかし、あと少しだけ早く気づけばよかった

豚田の右手の中に小さな機械があったのを・・・  
豚田「ひ、ひいいい!!?・・・あひやあ」

ピッ

天喰「しまった!!?  
自爆か!?  
豚田の体が光った・・・

ドカアアアアアアン!!

・・・つとということはなく自分が来た方向からで爆発した  
天喰「なに!?!どこで!?!」  
爆発した場所を確認しようとして周りを見渡すと場所が分かった・・・  
そこは・・・

天喰「・・・そんな」  
俺と大鳳がいた倉庫が激しく燃えていた

豚田「あひゃっひゃっひゃっひゃ!!ぎまーみる!!奥の手とは最後まで残すものだよ!!・・・では、また会おう!!さいなら!!」

天喰「あ!待て!!」

捕まえようとしたが豚田はどこからか出した煙幕で逃げられてしまった

天喰「畜生!!・・・指揮官!!今、そっちはどうなっている!?!」

通信機で指揮官に問いかけたが最悪の答えが返ってきた

指揮官「外にでた異形は殲滅できたけど急に豚田が籠っていた倉庫が爆発した!!人質は全員回収できたけど大鳳がまだ倉庫の中にいる!!」

嘘だろ!?

天喰「・・・すぐに向かう!!」

指揮官「あ!おい、天喰!?!」

指揮官の止めを聞かずに倉庫に向かった

く倉庫内く

・・・あの子は大丈夫でしょうか

大鳳は天喰に頼まれたとうりに人質の避難をしていたがまだ倉庫内にいた異形がおり大鳳が殿を務めて人質を逃がしていた

しかし、突如倉庫が爆発し一瞬体制を崩れたが大鳳も人質たちも何とか立て直し外に出たが出口の近くで豚田の子供の変装の材料にされていたあの時の少年が転び、運悪く上から瓦礫が降ってきた

危険に思い反射的に子供を投げ大鳳が下敷きになってしまった

大鳳「う・・・く・・・」

どうやらさっきの振動で振ってきた瓦礫が異形にもあたり潰れていた

しかし・・・

大鳳「動きませんね・・・」

大鳳も下敷きになり奇跡的に目立った怪我はないが体が瓦礫に挟まってしまい身動きが取れなかった

無理して動けば体が持たないし瓦礫が崩れて異形たちみたいに潰

される可能性があった

大鳳「・・・これは罰かもしれないね」

大鳳は諦めかけていた

これは天喰がああなつてしまったこと、アイツの基地で邪魔者を排除したように汚いことをしたことによって本当の神様は大鳳に罰を与えただけでしょう

大鳳「・・・最後に聞けばよかったですね」

それはいつも頭の中で出てくるあの空母の顔

彼は頼りにもなり面倒見もよくみんなの人気者だった

それなのになぜこんな状況でも思い浮かべるのか？

大鳳「・・・もしかして、大鳳・・・」

しかし、神様は優しくないんだろう

大鳳の頭上に大きめの鉄骨が降ってき大鳳に当たる

ことはなかった・・・

大鳳「・・・え？」

そこには先ほどまで思っていた銀髪の青年が鉄骨は弾いて大鳳を守った

天喰「・・・ごめん、遅くなった」

大鳳「・・・天喰」

天喰「豚田のヤツ・・・とんでもないもん残していったな」

大鳳「・・・なんで来たんですか？」

天喰「なんでって・・・大切な人だから？」

・・・大切な人・・・でも、好意ではないんでしょう

大鳳「・・・ありがたいですが大鳳はもう無理です・・・天喰だけでも脱出を」

大鳳の体はもう出れない・・・出そうに思っても、もう時間がないでしょう

天喰「・・・大鳳」

大鳳「・・・いいんです、これは仏が大鳳に対しての罰なんですよ」

天喰「・・・大鳳・・・覚えてるか？・・・あの作戦前に約束したこと」

大鳳「・・・え？」

天喰「ほら、言ったじゃないか・・・約束だって・・・そのお・・・なんだ、どうせなら最後に聞きたくてな」

それはあの作戦前にロイヤルメイドのベルファストから聞けといわれたものだった

大鳳「えつと・・・天喰は大鳳のことをどう思ってますか？」

天喰「え、殺すとかじゃなかった・・・でも、今なら・・・そのお・・・き、綺麗な女性だと思ったよ？」

大鳳「そ、そうですか／＼／＼／」

ほ、本当になぜなんでしょう・・・

指揮官に言われたらうれしいのは当たり前ですが  
なんで・・・周りの炎ではないのに

天喰に言われたらこんなに火照ってしまうんでしょう・・・

天喰「・・・ねえ、大鳳・・・俺も・・・一つ約束していいか？」

大鳳「？・・・はい、いいですよ」

天喰「・・・逆に聞けけど・・・大鳳はさ・・・俺のこと・・・どう思ってる？」

・・・え？

大鳳がですか？

大鳳「大鳳は・・・天喰のことは・・・みんなの人気者で頼られていて・・・か、かつこいい人物だと思います／＼／＼／＼」

天喰「・・・そ、そうか・・・なら、これを聞いても大丈夫そうだな」

燃え盛る倉庫の中・・・

彼はそつと大鳳に聞いた

天喰「・・・大鳳・・・俺と付き合ってくださいませんか？」

大鳳「・・・え？」

天喰「そのお・・・実は俺、大鳳に初めて会った時一目惚れして・・・ずつと言おうと思ったけど・・・ようやく言えた」

大鳳「・・・でも、こんな・・・こんな、アイツの物になろうとした女ですよ？」

天喰「・・・んなら、こんな人殺しでも付き合ってください」

大鳳「本当に・・・本当になんですか？」

天喰「・・・断られたら反省の意味を込めて大鳳と一緒に死ぬ・・・

でも、大鳳は俺に死んでほしくないんでしょ？・・・だからさ」

・・・本当にずるい人ですね

でも、大鳳もずつと天喰のことを考えていたんです

答えなんか決まっています・・・

大鳳「・・・これから大鳳を愛してください・・・」

天喰「……うん！あ、これはみんなには秘密な？めんどくさいことになるから……なら、早くここから出ないと……大鳳、今から俺がこの瓦礫を破壊する……破壊した瞬間俺の手を掴め……い  
いかい？」

大鳳「……はい！大鳳はどこまでも!!」

天喰「よし、なら行くよ!!」

天喰は大鳳が挟まっている瓦礫から離れて刀を抜く準備に入った

天喰「せーの!!」

斬!!

刀が煌めいた瞬間瓦礫は吹き飛び大鳳は天喰の手を掴み天喰は大鳳をお姫様抱っこした

それを確認した天喰は艤装の一部を開放した腰にある甲板が縦に割れ中から砲身が見えた

天喰「収納型電磁迫撃砲……発射!!」

バリバリバリ!!

放たれた砲弾は壁を突き破り外につながった  
そして天喰は全速力で走って脱出した

……あぶねえ〜一発で成功できてよかったわ  
外に出た瞬間、倉庫は轟音を出して崩れた  
一安心したところに東海達が駆け寄ってきた

東海「相棒!!無事ですか!!」

天喰「お！東海！こっちは無事だ!……他は？」

指揮官「異形は殲滅できた……死傷者はゼロだ」

天喰「……でも、すまん……豚田は逃がしてしまった」

指揮官「いや、いいさ……みんなが無事ならさ」

元帥「そうだ、おめでたいことがたくさんできたからな」

あ、おっさん・・・生きてたんだな

・・・それよりなんで周りのみんなはニヤニヤしてんだ？

元帥「赤いメンタルキューブを取り戻せし、天喰の記憶も戻ったし、あと・・・それに・・・」

新しいカップルができたしな!!」

ガハハハツ!!と笑う元帥

・・・ん？ちよい待ち・・・なんでもうバレてんだ？

指揮官「・・・そんななんでもうバレたんだ？つて言う顔をしている天喰に答え

天喰さあ・・・俺との通信のあと・・・通信切つてないだろ？」

・・・oh

まさかと思ひ通信機を確認するが・・・通信オンになってました・・・  
・・・拝啓、おかあさん

私は彼女ができて皆には内緒にしたかったのに数秒でバレました

☆

心配になり自分の彼女になったばかりの大鳳を見ると・・・

大鳳（／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／）



すっごい赤くなっていた

大鳳「し、しかし！指揮官様!!大鳳は指揮官様のことも・・・」

指揮官「大丈夫だよ大鳳?・・・俺は君の幸せな顔が見れたらそれだけでも俺もうれしいさ!!」

うわ、あのおっぱいタツチで逮捕されかけた指揮官の顔じゃねえ・・・

大鳳「・・・指揮官様」

指揮官「そういうことさ・・・だから・・・」

はやく、キスしろおおお!!」

・・・前言撤回やっぱり、うちの指揮官だわ

「」「キース!!キース!!」「」「」

あと、周りウルサイ!!

どこのクリーニング屋ですか!?

・・・あ、待てよ

確か、大鳳は俺に睡眠剤を入れるときキス（無許可）したよな?なら、いいかな?

そう思い慌てている大鳳に近寄る

大鳳「あ、天喰!!ど、どうすれば・・・へ?」

右手を大鳳の瞳に目隠しみたいに被せて・・・そして・・・

ちゅ♡

自分の唇を大鳳の唇に優しく当てた

天喰「へへ♪あの時の仕返しだ♪」

大

鳳

「.....  
きゆう」

大鳳の顔が赤面し倒れてしまった・・・

天喰「うおい!?大鳳!?しっかりしろ!」

・・・という感じで実に閉まらない終わり方をした

番外編2 operation name：☆ユニ  
コーンの初めてのお使い大作戦☆ 前編

これは天喰がシヨタ化事件の二か月後の話・・・

バキイ!!

アルバコア「ひぎやあああ!?こ、来ないでえ!?!」

ここは執務室

執務室の扉でとある攻防が起きていた

逃げるもの・・・アルバコアは執務室の扉を閉め鍵をかけてその追いかけるものから逃れようとしたが追いかける者は斧で扉を破壊して中に入ろうとしていた

そして、ある程度破壊した穴からその鬼は顔を出した

月影「・・・イツツ、ジャア〜ニイ〜!!」

と月影が映画館で公開される最新のホラー映画チケット二枚片手にアルバコアを追いかけていた

アルバコア「いやだよ!?!ぜつつつつつたいにいや!!」

どうしてこうなったかというところ月影は実は大のホラー映画好きでたまたまチケットが二枚手に入ったのでせつかくだからアルバコアを誘おうとしていた(本人はデートではないです、とのこと)

指揮官「いや、その前に執務室の扉を破壊しないでくれる!?!」

執務室で仕事をしていた指揮官が注意するが

月影「僕は悪くないもんアルバコアちゃんが悪いもん(棒)」

指揮官「・・・棒読みで許されるわけではないぞ?」

するとどこからか可愛らしい足音が聞こえた

ユニコーン「え、えつと・・・お兄ちゃん・・・いる?」

指揮官「ん？どうしたユニコーン？」  
グググと扉を破壊した月影に十字固めをしながら指揮官は聞く  
ユニコーン「実は・・・お願いがあるんだけど・・・」

ユニコーン、お使いを試してみたい!!」

指揮官「・・・てなことがあったんだ」

天喰「・・・はい？」

ここは会議室

そこでは指揮官が部屋を暗くして某ネルフ総司令みたいなポーズで話した

天喰「あの・・・指揮官？・・・つまり何がしたいんだ？俺たち全員を集めて・・・」

会議室にはイラストリアス級姉妹にメイド隊、女王陛下が来ていた  
指揮官「・・・そこでだ。皆には緊急ミッションをしてもらう」

全員「「「「?!」「「「「「」」」」」」」

部屋が一気に緊張が走った  
な、なにをやるんだ!?

指揮官「・・・では作戦を始める・・・作戦名は

☆ユニコーンのはじめてのおつかい大作戦☆

・・・だ」

・・・なんだろう

やっぱり俺らの指揮官だなんて思ってしまった

指揮官「作戦の詳細を説明しよう・・・ベルファスト、頼む」

するとベルファストがどこからか持ってきたホワイトボードに詳細を書き始めた

ベルファスト「只今から約26時間後・・・つまり午後2時にユニコーン様はこの基地を出発し近くの商店街で目標の物を買収し近くのケーキ屋でケーキを買いこの基地に帰るといふ予定です・・・ここまで質問は？」

曇天「はい！・・・ちなみに買うものはなんだ？」

ベルファスト「それについては私から・・・買うものは初めてのお使いなのでティッシュとリングとジャムとケーキ好きなものです」

昇龍「はい・・・一番言っではいけないことかもしれないけど・・・メイド隊の誰かが一緒に行けばよくね？」

指揮官「・・・昇龍・・・考えてみる・・・もし、ユニコーンが大きくなって大人になるが周りのみんなは一人でお使いできたのにユニコーンはメイド付きでだぞ？・・・これはユニコーンに体験してもらいたいのと楽しいからまたして欲しいからやる・・・というわけだ」

昇龍「え、ちよつと待って・・・KAN—SENって大きくなr（スパアアアアアアン!!）・・・ヒエツ」

昇龍が座っている席にどこからかナイフが飛んできた

ベルファスト「・・・昇龍様？・・・そこは気にしてはいけませんよ?。」

昇龍「ア、ハイ」

・・・この基地には投げナイフの達人、多くね？

東海「え、えつと・・・それで僕たちに何をすれば？」

指揮官「・・・みんなにはユニコーンを遠くから護衛をして欲しい」

天喰「護衛ってシリアスがやるのが妥当ほいけど？」

ベルファスト「・・・その本人が今回のお使いリストにティッシュ

をいれた犯人で

先日、ドーナツを作ろうとしたら間違えてティツシユをあげてしま  
いアークロイヤル様が犠牲になってしまった犯人です

・・・ちなみに本人は現在、反省の意味を込めてアークロイヤル様  
を看病中です」

・・・えええ？（困惑）

あの、ドジメイド・・・なにをしたらティツシユを揚げるつていう  
スパープレイをするんだ？

天喰「あと、なんで俺ら？」

指揮官「いやだつてさあ・・・ユニコーンつてさ美少女やん・・・  
んでこの基地にいるKAN—SEN全員さ美女やん？・・・護衛で出  
してもしユニコーンに何かあったときに護衛のKAN—SENがナ  
ンパとか受けてたらいやだからね!!」

あ、そういう理由・・・

指揮官「・・・では、これにて解散・・・ユニコーンに最高の  
思い出にしてもらおう!!」

翌日

指揮官「・・・よし!!忘れ物は無いな!!」

ユニコーン「うん!!行ってきます!!おにいちゃん!!」

指揮官「おう、行ってら!!」

初めまして・・・ユニコーンです・・・ちよつと恥ずかしいな・・・  
今日はユニコーン初めてのお使い!!

実は・・・お使いをしたいって思った理由はね・・・前にテレビで  
子供が初めてお使いをするっていう番組なんだけど・・・それにユニ  
コーン・・・すつごくあこがれてね・・・おにいちゃんに褒められた  
いから思い切っておにいちゃんに頼んだの!!

だから!今日はゆーちゃんと一緒にお使いを頑張る!!

・・・と白いワンピースに白い帽子を被り片手にゆーちゃんを抱え

て張り切って出発したのを指揮官は見て、そして眩いた・・・

指揮官「(ピツ)・・・作戦開始」

基地近くの街中

ユニコーン「えつと、まずはお店に行ってリンゴを買わないと!!」  
商店街に続く街中にある道を進んでいるユニコーン

・・・そこへ

モブA「ふう、ふう・・・か、可愛いなあの子・・・こ、声をかけてみようかな・・・」

角からイケメンな心を持っていない普通のキモデブがのぞいていた

モブA「ふう、ふう、む、紫色の髪にロリって僕の完全に趣味に一致している！これは声をかけないと！」

そしてモブAはユニコーンに近づいていく・・・

モブA「ね、ねえお嬢ちゃん？・・・ちよつと僕とお話をs（シユバ!!）」

ユニコーン「あれ？ねえ、ゆうちゃん・・・今、誰かいなかった？」

ゆうちゃん（ふるふる）

ユニコーン「・・・気のせいだったかな？」

一方モブはと・・・

モブA（もぐおおお!?もぐおおお!?!）

「ふう、気づかれてないな」

下水道の中で誰かに拘束されていた

月影「・・・本部、こちらエージェント　ムーン・・・マイエンジニアの邪魔をしそうになった障害は排除・・・護衛対象には気づかれていない」

指揮官「・・・こちら本部・・・了解・・・引き続き護衛せよ」

そう、（もはやこいつのほうがヤバイ奴ではと思ってしまう）月影だった

現在、彼とモブがいるのは近くにマンホールのある下水道だった

・・・護衛隊の海上自衛隊と月影はあらかじめユニコーンの通過ルートを調べユニコーンから離れたところから監視・護衛をしている（ストーカーではない）

月影はマンホールの下や電線の上から護衛をしモブが危害を加えそうになったのでマンホールから出てモブを下水道に引きずり込んだ

指揮官「あ、月影・・・そいつは警察に出すなよ？・・・俺たちが今やってること自体が犯罪みたいなもんだから」

月影「じゃあ・・・処す？」

指揮官「・・・ダメです」

・・・そんなことも知らないユニコーン

ユニコーン「ついた!!・・・えっと野菜屋さんは・・・あった!!」

商店街につき八百屋からリングゴを買うのだが・・・

ユニコーン「・・・どうしよう、ゆーちゃん・・・お使いリストを失くしちゃった・・・」

サーっと顔が真っ青になり慌てだした

どうやらどこかでメモを落としてしまったらしい

店員「おや？いらっしやい!!可愛いお嬢ちゃん!・・・今日は何を買いに来たんだい?」

店員の男性が店の前であたふたしているユニコーンに声をかける  
ユニコーン「・・・え、えっと・・・買いに来ただけ・・・お



使いリストを・・・落としちゃって」

店員「そ、そうか・・・残念だな・・・うお!?・・・あ、はい」

ユニコーン「どうしたの店員さん？」

店員「あ、いや・・・何でもないよ」

店員（かわいそうだな・・・でも、メモがないから無理に買わせるのまあ・・・）

ユニコーンがお使いリストを失くし落ち込んでいた・・・  
その時・・・

するするする・・・

ユニコーンの後ろに彼女に気づかれなくらい静かにメイド服を着た女性がスパイオーマンよろしくワイヤーで逆さまに下りてきた・・・その手にはカンペがあり

「彼女の護衛です。この子は初めてお使いをします。あと買うものはリンゴ5個です。どうか5個買わせるよう仕向けてください」

あ、はい・・・

了承すると周りの変な目で見られていても気にせず  
また。するすると戻っていった

ユニコーン「どうしたの店員さん？」

店員「あ、いや・・・何でもないよ・・・ところでお嬢ちゃん・・・えっと・・・好きなものって何かある？」

ユニコーン「・・・おにいちちゃんとイラストリアスおねえちゃんと一緒に食べるアップルパイ・・・」

店員「・・・ならさ、今とてもおいしいリンゴがちょうど5個あるからさ・・・ただでいいからもらっていくかい？」

ユニコーン「え！いいの!?店員さん!!」

店員「ああ、美人な大人の笑顔は格別だからな!!ほれほれ!持って

いきなり!!」

ユニコーン「ありがとう店員さん!!さようなら!!」

八百屋からユニコーンが出ていくのを確認している人影があつた

曇天「・・・こちらエージェントクラウン・・・護衛対象はミツシヨンの25%の達成を確認・・・引き続き護衛をする」

指揮官「了解・・・護衛を続けろ」

曇天「ふう・・・やつとだよ・・・メモを失くしたと知ったときはヒヤヒヤした・・・あと、シエフィールド・・・御宅だいぶアクロバツトに店員にカンペ見せてきたな」

店の上からシエフィールドはワイヤーを足に巻いて曇天に吊つてもらいカンペを見せた(ちなみに指揮官からスカートの中には下着とズボンを履くように強制された)

シエフィールド「・・・こんなのはメイド隊では当たり前にできません・・・しかし、あとであるの店員にはお詫びを渡さなければ」

曇天「・・・え、メイド隊って全員暗殺者? (ちがいます)」

八百屋を出たユニコーンはそんな実は後ろに出たカンペに助けられたことを露知らずスーパーへと向かつて行った

番外編2 operation name：☆ユニ  
コーンの初めてのお使い大作戦☆ 後編

・・・八百屋でリンゴを買いスーパーでティッシュとジャムを買い  
に来たユニコーン

しかし、中では

わいわいがやがや

人がごった返していた

ユニコーン「す、すごい人の数だねゆーちゃん?・・・なにかあつ  
たのかな?」

スーパーの中では休日ではあるがたくさんの方がレジに向かって  
行つた

ユニコーン「これ・・・向こう側に行けるかな・・・」

ちょうど人ごみの向こう側にティッシュが置いてある棚があるの  
だが人が邪魔で通れなかった

ユニコーン「で、でも!これはユニコーンのお使いだからこれ  
くらい頑張らないと!!」

意を決してゆーちゃんを抱える

ユニコーン「ゆーちゃん!ユニコーン、いくよ!!」

ゆーちゃん「バナージ・リンクス、出ます!!」

ユニコーン「・・・?、ゆーちゃん、今何か言つた?」

ゆーちゃん「・・・ふるふる」

・・・一瞬だけ間があつたゆーちゃんだがユニコーンは人  
ごみの中に突っ込んでいった

ユニコーン「・・・行くよ!!」

人ごみの中に入っていったユニコーン・・・

だが、小さいのが功にでたのかすんなりと抜けようとしていた

ユニコーン（もうすぐで抜けられる!!・・・あ!?!）

しかし、あと少しで出ようとしたが誰かの足が絡まって転びそうに  
なつたが・・・

シュバツ!!

ユニコーン「きゅあ!?!?!?!?!あれ??!?!?!?!ユニコーン??!?!?!?!  
倒れてない?」

「??!?!?!?!どうやら倒れそうになったところを誰かが肩を掴んで阻止してくれたらしい」

しかし、誰が起こしてくれたのか探そうとしたが人ごみの中にいたのでわからなかった

東海「ぬおおおお!?こ、こちらエージェン イースト!?!?!?!?!現在、人ごみの中に入った護衛対象が転倒しそうになったが阻止に成功したあああ!?!?!?!?!」

指揮官「えく、はい。こちら本部、了解した引き続き護衛を??!?!?!?!つて東海何してんの?」

先ほどの人ごみでユニコーンの起こしたのは護衛(笑)の東海であつた

東海「??!?!?!?!先ほど手に入れた情報によるとおお!??!?!?!?!どうやら現在一個十円のおにぎりが大セールで売られていて近所のおばさんたちがごつた返しているそうだあああああ!?!?!?!?!ちよつと抜けるのに時間がかかりまあああああす!!」

指揮官「??!?!?!?!一個十円つて大丈夫なのソレ??!?!?!?!あく??!?!?!?!了解、怪我がないように出てね??!?!?!?!」

一方ユニコーンは??!?!?!?!ティツシュを回収しあとはジャムだけになつ

た

ユニコーン「えつと・・・ジャムは・・・あつた!!」

ジャムのある棚までは人ごみがいなかったのですんなりと行けたが・・・

ユニコーン「・・・届かないよ」

ジャムのある列は一番上にありユニコーンでは届かなかった  
試しにゆーちゃんを抱えて取らせようとするが・・・

ユニコーン「ゆーちゃん・・・取れそう?」

ゆーちゃん（ふるふる）

ギリギリ背が足りずゆーちゃんの手は空を切った

ユニコーン「ううう・・・どうしよう・・・あと、少しなのに・・・」  
すると・・・そこに・・・

「・・・あら?キミ・・・どうしたの?」

振り返るとそこには自分より少し高いくらいの少女(?)がいた

ユニコーン「えつと・・・ジャムを取りたいんだけど届かないの・・・」  
「ふ、ふくん・・・じ、実はね・・・私、間違えてジャムを取ってしまったけど・・・いる?」

ユニコーン「え!?いいの!?ユニコーンうれしい!!」

相手の少女(?)は間違えて取ったジャムをユニコーンに渡しユニコーンに感謝を述べられた後、別れたかった

ユニコーン「・・・さつきの子・・・とてもいい子だったね!ゆーちゃん!!」

ゆーちゃん（ごくごく）

ユニコーン「ユニコーンもあんな子みたいになりたいなあ・・・」

少女? 「・・・こちら・・・エージェント・・・ドラゴン・・・  
護衛対象のジャム回収の援助完了・・・あと、ケーキだけです・・・  
モウヤダワコレ・・・」

指揮官「ぶほおwwwwww・・・りよ、了解wwwwww引き続き護衛を・・・いやあwwwwww昇龍wwwwwwいい演技だったねえwwwwww」

昇龍「・・・・・・帰ったら覚えてろよ指揮官」

少女の変装を解きながら昇龍が報告をしていた

昇龍「・・・・・・海洋研修の時といい・・・なんでみんな僕を女装させたがるんだ・・・」

指揮官「もう、昇龍さ・・・女で生きてみたら？」

昇龍「死んでもごめんだ・・・」

スーパーで目的のものを買えあとはケーキだけとなった・・・

ユニコーン「ケーキ屋さんは・・・こっちなだね!!」

スーパーから出た後

指揮官が前もって作ってくれた地図に従い進んでいく

そして住宅街を抜け大きな通りにでた

きよろきよろと探しているとケーキ屋を見つけた

ユニコーン「着いた!!・・・えつと・・・おにいちゃんたち・・・どれを食べるかな？」

ケーキ屋さんにつきゅーちゃんを片手に皆がどれを食べるかを悩んでいた

しかし、丁度ユニコーンの上では不吉なことが起きていた

キィ・・・キィ・・・

・・・そこにはボロボロになったどこかの会社の看板であった  
その看板の留め具が風化して今のも取れて落ちそうだったが・・・

パキーン・・・



天喰「いや、結果ユニコーンが無事で気づかれていない（ゆるちゃんは気づきました）から結果的にオーライだったけど・・・メイドつて・・・なんだっけ？」  
ベルファスト「??・・・なにを言ってますか?・・・メイド長だったらこれくらいできないと?」

天喰「（諦め）」

まさかベルファストから命を救われたことを知らないユニコーン・・・

ユニコーン「えっと・・・確か・・・お兄ちゃんが・・・帰りはバスで帰ってきてね?・・・って言ってたからバス停に行かないと!」

最後のケーキ屋は基地からスーパより離れていて歩くより市内バスで帰ったほうが早く着くのだ（最初からバスに乗ればよかつただろって?んな細かいことは気にしたら負けだよ?）

大通りを進んでいくとバス停を見つけた

ユニコーン「あ!みつけ!（ドン!!）・・・きや!・・・」

「どわ!?・・・おい!なにすんどよ!」

バス停に小走りで向かっていたが角から結構ぼろぼろな服を着ている青年4人が出てきてユニコーンとぶつかってしまった

こいつらは地元でも有名（悪い意味で）なDQNであった

DQN1「いってえええよ!!骨が折れたああああ!!」

DQN2「おい!なに仲間にしてくれてんだよ!!」

DQN3「そうだ!お前が前、見てねえからこいつがぶつかったんだろ!!」

・・・わざとらしく下手な演技をしているがもちろん嘘でワザとぶつかったのである

悪いのはDQNであってユニコーンが先に出てDQNは回避や止



まることができたがユニコーンは先に出たのでDQNに気づけなかったのである

ユニコーン「ご、ごめんなさい!!・・・ユニコーンが前を見てませんでした」

自分が悪くなくてもとりあえず心を込めて謝るユニコーン(いい子、偉い)

しかし、DQNはそれでも仕掛けてくる

DQN4「あああ!?!ごめんなさいで許されるとはおもうなよ!?!慰謝料を払え!慰謝料を!今すぐに!!」

ユニコーン「ご、ごめんなさい・・・ユニコーン・・・初めてお使いをしている途中で・・・お金は持っていないの」

DQN3「ぶはははは!?!お使いイ?偉いでちゆえ?・・・でもお!!大人ってねえ?そういう理由では許してくれないよお!?!親に言いつけちゃうぞお?」

ユニコーン「や、やめて!おにいちゃんに迷惑かけたくないの・・・

DQN2「じゃあ・・・ユニコーンちゃんにいいこと教えてあげようか?・・・大人ってねどうしても許してほしかったらね?・・・体を使って許してもらうんだよ?」

ユニコーン「か、体?」

DQN1「お♪どうやら無知系らしいな♪・・・そうだよ?そんじや!服を脱いでくれるかい?」

ユニコーン「い、いやだよ!」

DQN2「うつせんだよ!!(ぼっ!!)」

ユニコーン「あ!ゆーちゃん!!返して!!」

ゆーちゃんは人前では指揮官以外には動かない人形としてふるまっているので動けず奪われてしまいユニコーンはDQNに手首を掴まり体を触られ始めた

ユニコーン「や、やめ!?!ゆーちゃんを返して!!」

ユニコーンの咄嗟に出した手がDQNの一人の顔に直撃した

DQN4「てめえ!?!ふざけんなよ!?!」

するとどこからか持ってきた鉄パイプでユニコーンを殴ろうとし

ていた

ガン!!

しかし、ユニコーンには入らず間に入ってきた乱入者の頭に当たった。

ユニコーン「……だれ？」

その姿は全身黒い服で覆われていてなぜか顔は兎と戦車のお面で見えなかった

??「……goodnight」

プシュー

ユニコーン「え……ユニコーン……眠くなって……くう……」

ユニコーンの顔に謎のスプレーをかけられユニコーンは可愛い寝息を立てて謎の人物に優しく撫でられながら眠った

DQN1「だ、誰でお前!?なんだそのふざけた姿は!？」

しかし、その謎の人物が次に発したのは「警察を呼びますよ」や「もう、やめましょ?」ではなかった……

??「……オーバーフロー」

指揮官「おーい……ユニコーン……起きろー」ゆさゆさ

ユニコーン「ん……うん……あれ？ユニコーン……なに  
してたっけ？」

起きるとユニコーンは執務室のソファで横になっていた  
横ではゆーちゃんが静かにユニコーンを見ていた

ユニコーン「あ、おにいちゃん……おはよう／＼／＼／＼」

指揮官「おはようさん、初めてのお使いだし寝てたんだらう？」

ユニコーン「う、うん？」

しかし、さつきまでのことが起きたばかりなのか思い出せない  
でも……

ユニコーン「ユニコーン……とてもおもしろかったよ!!……えっ  
とね!!」

指揮官「おお！そうか！んじや続きは食堂で聞くぞ!!」

ユニコーン「うん!……おにいちゃん……ユニコーンもご飯作  
るの手伝う!!」

指揮官「ユニコーン……成長したな(泣)」などで

ユニコーン「えへへ♪」

く食堂 厨房内く

ユニコーン「ユニコーン！料理、頑張る！」

ベルファスト「はい！では、買ってきたジャムをこの鍋の中に入れ  
てください！」

ユニコーン「うん！わかった！」

厨房内ではユニコーンとベルファストと何人かのメイドが夕食を  
作っていた(夕食の内容は皆様のご想像に任せます)

他のメイド(シリアス除く)は順調に進んでいく中……

ユニコーン「うくん……このジャムの瓶のふた……開かないよ……」

ユニコーンは瓶のふたを開けるのに苦戦していた

ゆーちゃん(ちよいちよい)

ユニコーン「どうしたのゆーちゃん?……え、窓の外に何かいた  
?」

ゆーちゃんが窓の所で何かあったといいユニコーンが確認しに  
行った……その瞬間ゆーちゃんは……

ムキムキムキ・・・  
ゆーちゃん（グツ・・・パカッ）  
ユニコーン「なにもなかったよゆーちゃん？・・・わあ！ゆーちゃん、その瓶のふた開けてくれたの!」  
ゆーちゃん（こくこく）  
ユニコーン「ありがとう！ゆーちゃん！」  
ユニコーンはゆーちゃんが一瞬すごいことになったのを知らずに感謝した

・・・しかし

昇龍「（。D。）ハア?」

・・・メイド長に招集（強制）でメイド服に着替えさせられジャガイモの皮むきを手伝っていた昇龍は見てしまった

ゆーちゃんの体が巨漢並みの筋肉質になったのを・・・

昇龍「え、ユニコーン・・・ゆーちゃんって本当に人形?」

ユニコーン「何言ってるの昇龍おにいちゃん?・・・ゆーちゃんはお人形さんだよ?」

昇龍「お、おう・・・（ムキムキムキ）え、ちよ!?ユニコーン後ろ!」  
ユニコーン「え?」

しかし、後ろを振り向いてもいつもどおりの可愛らしい人形のゆーちゃんだけしかいなかった

昇龍「え?・・・今、ゆーちゃんの体・・・ムキムキに・・・」

ユニコーン「昇龍おにいちゃん・・・大丈夫?」

昇龍「え、は?・・・え?」

しかし、ユニコーンがゆーちゃんに背を向けた瞬間・・・  
ムキムキムキ・・・

巨漢になり手にはカンペがあり

ゆーちゃん?（・・・お静かに）

・・・と書かれていた

それと同時に今日は護衛に集中し過ぎて疲れたのかな？つと思考を捨てた昇龍だった

く夕食後く

夕食を食べた後のユニコーンは指揮官たちと一緒に買ったケーキを食べながら今日の出来事を楽しく話していた

ユニコーン「それでね!!・・・あ、でも・・・これはいいかな？」

指揮官「どうした？ユニコーン？」

ユニコーン「な、なんでもないよ!!」

言いかけたのはバス停で変な男4人に絡まれたとき黒い服の人物から助けられたことを言おうとしたが・・・結局誰だったのかがわからなかったので言わないことにした

すると扉から・・・

月影「・・・すまん、まだケーキある？」

指揮官「あ！遅いぞ月影!・・・安心しろケーキはある」

月影が扉からヒョコリと顔をだしてうかがってきた・・・

頭に包帯を巻いて・・・

ユニコーン「・・・月影おにいちちゃん・・・あたま・・・怪我したの？」

月影「え?・・・ああ、これか？ちよつと頭に棒がぶつかったな」

ユニコーン「そう、早く治ってね!」

月影「うぐつ(尊)・・・ありがとう、マイエンジェル・・・」などで

ユニコーン「ツ!!・・・うん!!」

ユニコーンは月影と別れみんなのところに行った・・・あと、指揮官と月影はこっそり話していた

指揮官「いいのか？いわなくて？」

月影「いう必要あるか？・・・ユニコーンが楽しけりやそれでよし  
たい」

指揮官「そうだな・・・まったく・・・今日はなんて日だ  
よ・・・看板は落ちてくるわ・・・近くで銀行で殺人強盗があ  
つてたまたまいた君たちが駆り出されるなんて・・・」

月影「しかたないさ・・・でも、急いでユニコーンの所に戻ったけ  
ど目立った傷を得なくてよかった・・・」

指揮官「・・・そういえば・・・行った時の恰好は置いて・・・  
あのあとあの人と達はどうなったの？」

月影「・・・ご退場させてもらったよ」

指揮官「・・・ならいいか・・・んじや、ケーキ食べてきな」

月影「・・・そうさせてもらおう」

指揮官との会話が終わり自分のケーキがおいてある皿を取ろうと  
したが・・・

月影「えくと・・・あった・・・ん？」

皿の上には月影の分のケーキとユニコーンが選んだケーキの半分  
が。おいてありそのケーキのクリーム部分に可愛らしく

「ありがとう、月影おにいちゃん」

・・・と書かれていた

月影「・・・フツ」

ふつと笑いつつユニコーンの皿の近くに本人がいないのを確認し  
たら自分のケーキを半分に割り置いた月影であった・・・

ただいま

・・・豚田の立てこもり事件が解決した後・・・

指揮官や本部の役員さんが必死になってやじ馬の鎮静化した

豚田は今回の立てこもり事件の犯人なので今後見つけ次第逮捕または射殺を許可された

大鳳も人質全員に目立った怪我もなく病院の検査が終わって入院し退院するころには元気になっていた

天喰も東海たちも現在は基地で楽しく過ごしている

天喰「あ~~~~~~~~!!帰ってきたなあ!!」

東海「そうですね・・・ある意味で・・・ですが」

天喰「そうだな・・・みんな変わったな・・・ここに来た時より・・・とりあえず月影・・・」

月影「・・・なんですか?」

天喰は月影に向けてサツ!!と弓を構えいう

天喰「龍が我が敵を食らう!!(CV:阪口 周平)」

月影「え!?えちよ?!りゅ、龍神の剣を食らえ!!(CV:川原 慶久)」

天喰「うん!帰ってきた感じがするな!!」

月影「・・・なんですかそりゃ」

・・・しかし、俺の身に面倒なことが大きく分けて三つある  
まず一つ目だが・・・これは・・・赤いメンタルキューブのせいかもしれないことだ・・・

く母港内・とある場所く

睦月「天喰しゃん!!もう一回やって!!」

クリーブランド「・・・天喰・・・もう、怪物では?」

天喰「おお、クリーブランド・・・怪物はひどいぞ・・・」

・・・俺たちが何をしているのかと

天喰の右手にはスイカ一個がありそれを・・・

天喰「・・・ふん!!」

パキパキパキ・・・ぐしやあああああ!!

右手に力を籠めたらスイカがぐしやぐしやに割れてしまった

天喰「・・・おかしくね？」

明石「・・・確かにおかしいニヤ」

隣にこの案件で検査にきてくれた明石が言う

・・・はい、一個目の問題が「天喰の握力・スタミナ・ジャンプ力などが普通のKAN—SENより高くなっていることだ」

気が付いたのは今朝のリハビリついでに朝練をしていたんだけど、割とキツイメニューでしたんでけどまったく疲れを感じなかった

・・・久々すぎて体がアホになったのかな？って思ってもう一周したけど二周してようやく疲れを感じた

おかしいと思ひ明石の所にいって調べてみると・・・なんと俺の赤いメンタルキューブの出力が以前より上がっているらしい

試しにリングを渡されて片手の握力のみで破壊してほしいと言われたのでやってみると・・・

ぐしやああああああ!!

半分くらいの力を入れただけで粉碎された

(作者：噂で聞くとリングを実際に片手で破壊すると果汁が指の爪に入り込んで痛いと言ったので皆さんは天喰みたいなことはないと思いますぐ控えてください?)

・・・それで現在は見世物みたいにいるんなものを粉碎するのをしてる

次に二つ目だが・・・これは元帥がやりやがった

あの事件のあと各国から「アズールレーン本部の困る情報とは何だったのか!？」って問い合わせがあつたけど本当は俺がセイレーン化してしまったことらしいけど・・・あの元帥・・・手紙で送られたけど

(以下その手紙)

田中中将・天喰へ

まず、君たちが無事でよかった

私も無事だが今回の責任で今後、このようなことがないように監獄の警備の強化などをする事になった

それでは各国の対応何だが・・・



すまない天喰君・・・  
君がセイレーン化したことがばれたら困るから君と大鳳が付き合っていることを困る情報として流しちゃった!!テヘペロ♪

いやあ・・・あんどきこそ「あのクソじじ  
いいいいいいいいいい!!」って叫んだよ

天喰「あのくぞZZI・・・あの時助けずに倉庫に放置すればよかった」

んで、それを知った世界各国のトップから「リア充タヒね」「末永く爆発しろ」ってありがたい言葉をいただいた

そこまでならよかつたんだ・・・そこまでは・・・

指揮官「・・・天喰・・・まただ」

天喰「またかよ・・・」

指揮官の手には大量の手紙が・・・

その内容は

「いつ結婚するんですか？」

「式場は決まりましたか？」

「・・・私が神父になりましょう」

「もう、その基地に式場を立てましょう」

天喰「だからああああああ!!・・・なんで結婚する感じになつとんねんんんんんん!!・・・」

そう、大量の手紙には（この世界にもこのネタがあつたんだな）完全に俺と大鳳が結婚するフラグを建てまくる内容だった

まあ、最初は「KAN—SENの人権が!!」とか「ふつう指揮官になった人とだろ!!」って非難する内容だったけど・・・あんどきよりある意味で悪くなった

最後に三つ目だけど・・・もしかしたらこれが一番問題かも・・・

天喰「あ!大鳳!」

大鳳「・・・(プイ)」

天喰「え!?!ちよ!?!大鳳!?!」

：：そう、めでたく自分の彼女になった大鳳から無視をされる：：  
それもここに戻ってきてから

く廊下く

天喰「大鳳!!」

大鳳「……………(ススツ)」

天喰「ウソン!?!」

ばったり会っても俺を避けるように逃げていくし……

く食堂く

天喰「大鳳く一緒にたべy」

大鳳「ごちそうさまでした」

天喰「……………」

前まで俺が食べてたら大鳳から遠くから見られていたり、たまにだ  
が声をかけられていた

しかし、彼氏彼女な関係になったから自分から声をかけたんだけ  
ど……

俺が声をかけたらさっさと食べて速足でどこかに行く

……………という感じ

天喰「俺が何をしたって言うんだ」(↑原因を作った張本人)

……………本当は二人だけで話したいんだがなあ  
って言っても自分が前まで殺されると思って避けていたのが悪い  
のだが……………

……………とどうやって大鳳を逃がさずに話そうかと悩んでいると

「ふふっ!!お困りのようね!!」

天喰「だ、だれだ!?!」

どこからか声をかけられてあたりを見渡すが見当たらない

カッ!!

すると急に周りが暗くなりどこからかスポットライトが一か所に  
照らしそこから穴が開いて赤城さんと赤城ちゃんがへんな決めポー  
ズを捕りながら上がってきた

天喰「……………なにやってるんですか」

赤城ちゃん「ふふん♪どこからか悩みを持ったKAN—SENがあると聞いてこの赤城が参上したわ!!」

天喰「いや、それはブレマートンの役割でしょ……相談って……あと、その登場についてなにか一言」

赤城「あ、安心しなさい……これは只単に私が一回でいいからやってみたかったのよ♪まさか、明石のネタがここで使えるなんてね……」

天喰「……いつも何やってるんですか……あの重桜工作艦」

赤城「それより……天喰……あなた……大鳳のことで悩んでるでしょ？」ニヤニヤ

ニヤニヤしながら聞いてくる赤城さん……正解だよ畜生!!

天喰「……そうですね……どうすれば彼女が逃げずに話してくれるかを悩んでいるんですよ」

赤城「話してくれないのは天喰が悪い気がするけど……でも、大鳳も変わったわね……あの時の指揮官様争奪戦していたころの顔じゃなくて恋した乙女の顔になってるわ……まあ、赤城は指揮官様の物にするときの邪魔ものが一人減っただけですし♡」

天喰「……ソウスカ」

赤城「それよりそんな悩める天喰にアドバイスよ」

天喰「アドバイス？」

赤城「……大鳳つてね……攻めには強いけど受けにはすごく弱いよ♪」

天喰「え、ちよつと!?いります!?その情報!?興味はあるけど同時に知りたくない情報だった!?!」

……でも、あのヤンデレの権化である攻めでは最強な大鳳が受けには弱いつて……ちよつと可愛いかも

赤城ちゃん「あ!天喰の顔少し赤くなってる!へんたい!!」

天喰「ちよつと!?赤城ちゃん!?それは言っつてはいけない言葉よ!?!」

赤城「……そんな天喰にいいところを教えるわ」

そう言われ受け取ったのは……なんだコレ地図?……場所はユニオン寮の一室に印がついている

これが何なのか聞こうとしたが出てきた穴からスルスルと降りて  
いって聞けなかった

・・・大人しく行ってみるか

くユニオン寮く

天喰「ここか？」

書かれたところに行ってみたけど・・・扉に・・・「ブレマートンの  
何でも相談室」

・・・うん、本家相談屋じゃん

とりあえず入るか・・・

コンコン

「どうぞぞ〜」

カチャ

中に入ると・・・

中はシンプルに机と向かい合うように椅子がおいてあり向かいに  
は一人の女性がスーツを着ていて座っていた

ブレマートン？「ようこそ、相談室へ。今日はどのようなご用件で  
でしょうか？」

天喰「・・・ブレマートンだよな？」

ブレマートン？「いえ、私は相談員です」

天喰「・・・でも、そのピンクの髪はどうみてm「相談員です」い  
や、ブレム「相談員です」・・・え、でも入るときにこの部屋の持ち主  
の名前の入った札g「相談員です」・・・ア、ハイ」

相談員「・・・それでないか悩みはありますか？」

天喰「え？続けんの？・・・えつと・・・自分にとある事情で彼女  
ができたんですけどその彼女が話を聞いてくれないんです」

相談員「いや、それ天喰が悪いんじゃない・・・なら、いつそ当たっ  
て碎けてみては？」

そう言い机から取り出したのは二枚のチケットだった

天喰「そ、それは!!」

相談員「あとはもうわかるでしょう？・・・さ！また他の男に取ら  
れる前に行つてきなさいな!!・・・あ、あげた代償に一つ質



したああ!? た、大鳳の・・・そ、その彼氏になった天喰から会うたびに声をかけられるようになりましたが会うたびに・・・みんなにバレてしまったことと・・・あ、あの時のき、キスの記憶と天喰の唇の感触を思い出しそうであえええ!!・・・こ、これが人間でいう口から心臓が出そうつという者なんですわね・・・本当は天喰と二人で話したいんですが・・・その前に大鳳のメンタルキューブが崩壊しそうです・・・次、天喰にあつて近くに來られてしまったらあまりの恥ずかしさに悶絶して死んでしまいそうです・・・／／／／／／／／／／／／／／／／

そう思いながら一人静かな廊下で顔を赤くなりながら歩いていた  
・・・しかし、運命（運営）のいたずらかここでも発揮した

天喰「大鳳!!」

大鳳「ひや、ひやい!!」

背後からその本人から声をかけられた

天喰「大鳳!! 今、大丈夫か?」

大鳳「え、え・・・た、大鳳はい、今から少し用事が・・・／／／／／／

天喰「あ、すぐに終わるから」

ズンズンと大股で天喰がやってくる

大鳳「あ、えつと・・・い、急いでるんで!!」

ほ、ほんとに次近くで匂いなんか嗅いでしまったら死んでしまいそうです!!

天喰「・・・逃がさん!!」

ドン!!

天喰はまた逃げようとした大鳳を今度は逃がさないと言わんばかりに大鳳を壁に追いやり逃げ道を塞ぐために体で覆い左右は手を立てる

・・・俗にいう壁ドンである

大鳳（こ、これって巷でいうか、壁ドンでは!?!）

混乱する大鳳

大鳳「あ、天喰!!こ、ここは廊下です!!さすがに誰かに見られたら・・・／＼／＼／＼／＼／＼」

天喰「大丈夫さ。この時間帯は誰も通らないのは事前（赤城さん調べ）に知っておいたから」

そして壁ドンしたまま天喰が一息おいて喋る

天喰「大鳳・・・明日・・・用事は？」

大鳳「え、えつと・・・ないです」

天喰「・・・ないな？なら・・・」

明日、「デートに行かないか？」

・・・と片手にブレマートンからもらったチケット片手に迫ってきた

## デート!! 午前の部

天喰「・・・まだかな」

ここは俺たちが所属している基地から遠くにある大都会  
その待ち合わせ場所になっている兎の像の前で自分は待っていた  
天喰「恰好も大丈夫だよな？」

そう心配になり近くにあった売店の鏡を借りて確認する

上はネイビーのステンカラーコート。下は白の細身パンツにレ  
ザールのレースアップシューズ

・・・正直、なんでもいいかなって思って普通に黒一色のジャージ  
で言ったらメイド長に見つかってすごく怒られた

そしたら執務室に連行されてしばらく着せ替え人形された

・・・一時間してようやくベルファストが納得してこうなった

ソワソワ

・・・約束の時間まであと30分・・・

え？なんでそんなに早く来たのかって？

集合の時間を一時間間違えたんだよ!!だって!「ごめん遅れた  
!」って彼女を待たせるなんて・・・無理ですね!!

ソワソワ

・・・大鳳・・・どんな格好で来るんだろうな?

流石に前世のアズレンで見たすごく布地が少ないドレス「禁断の  
宴」とか黒ビキニが逆にエロいレースクイーン「恋慕のコンパニオン」  
とかではない・・・よな?

まあ、マジでそれで来たら速攻で自分のコートを着させて着る前の  
大鳳の姿を見て発情した人間がいたら殺せば・・・いいかな? (彼は  
無自覚です)

ソワソワ

・・・待ち遠しいな

速く来ないかな

時計を見るとあと20分・・・

一秒がまるで一時間のように感じる



すると背後から

??「あ!お〜い!!」

天喰「!!大鳳!」

ようやく自分の彼女が来た!!と思い振り返ると・・・

天喰「・・・え?誰?」

そこには見知らぬ三人の女性がいた

「え、誰ってひどーいw」

「おにいさん、絶対逆ナン待ちでしょ?」

「そうだよね?ね!ね!私たちと少しお茶しようよ!!」

天喰「・・・え?・・・逆ナン?・・・ドユコト?」

・・・なんか逆ナンされた

前世の俺だったら恋愛系とか無縁の関係だったしされたら滅茶苦

茶喜んでいたと思うけど・・・生憎でな・・・

天喰「・・・すみません・・・俺、彼女待ちなんで・・・」

「えー!彼女いるの!?!見えなーい!」

「そうだよ!おにいさん、けっこうかっこいいし逆ナン待ちでしょ!」

・・・そうなのか?

今朝、メイド長に着替えさせられたとき「・・・天喰様は足が細いし、お顔も整って筋肉もあるから絶対街では声かけられますよ」って  
言ってたけど・・・

一応周りを見てみるとほとんどの女性が俺をチラ見したり中には  
こっそり写真を撮っていく人もいた

「じゃあさー!じゃあさー!彼女が来るまでお茶でもしようよ!!」

天喰「・・・あ、いや・・・本当にあと少しで来るんで・・・」

「大丈夫だって!すぐ終わるから!」

・・・お茶をしたらすぐには終わらないだろうと言いたかったが両  
脇にナンパしてきた女性がサンドするように手を回されて身動きが  
取れなくなってしまった

天喰「・・・どうしようかな・・・もうここで殺してしまおうかな  
?うちの彼女の大鳳よりブスだし・・・俺は大鳳の物でもあるから邪  
魔なんだがな」

・・・ちなみに街中でKAN—SENは特別な理由がない限り装備の展開は禁止されている

しかしそんな心配はすぐ終わった

大鳳「・・・大鳳の天喰になにか用ですか？」

ナンパしてきた女性の背後にゴゴゴゴゴゴ・・・って擬音が聞こえそうなくらい血相を変えた彼女である大鳳が立っていた

「ひ!?あ、あんた誰よ!？」

大鳳「誰って・・・装甲空母・・・ってそんなことより退いてください・・・天喰がせつかくデートに誘ってくれたので一秒たりとも時間を無駄にしたいくないので」

大鳳はナンパしてきた女性をはねのけ俺の手を掴み言った

大鳳「天喰は大鳳の物です・・・もう話しかけないでください」

天喰「あく・・・てなわけだ・・・すまん？俺、彼女の物だから？」

素晴らしいスタスタとその場を離れた

「彼女の物って・・・あのカップル・・・ヤバイやつらじゃん」

大鳳「・・・(ぷー)」

天喰「ごめんって・・・大鳳・・・許して」

大鳳「・・・まあ、天喰が他のメスに惚れられるくらいかっこいいのがわかったのでいいです・・・その代わり天喰・・・大鳳の恰好はどうでしょう?／／／／／／／／／／／／／／／／」

天喰「・・・どうって」

ナンパしてきた女性から離れた俺たちは適当な公園に行った

・・・でだが・・・その大鳳の恰好はというと

天喰（・・・・・・なんでセーラー服なんだ？）  
・・・そうドレスでもなんでもなく黒いセーラー服だった  
全身を青に近い黒のセーラー服で髪はいつもどりの形で清楚な  
感じを出しているが・・・サイズがあってないのかな？ちらりと見え  
るおへそがいい・・・  
大鳳「・・・あ、愛宕が持っている制服の一つを借りたのですが・・・  
どうでしょう？／／／／／／／／／／／／／／／／」  
・・・正直に言おう

・・・ナイスだ愛宕

天喰「・・・・・・今すぐここでブチ犯〇たい（す、すぐく可  
愛いよ!!）」

大鳳「・・・あ・・・天喰・・・言っていることと思っ  
ていることが逆になっていきますよ／／／／／／／／／／／／／／／／」

天喰「・・・・・・忘れてくれ」

大鳳「ふふ♪わかりました♪・・・では、いきますか？」

天喰「そうだな・・・いくか」

こうして俺と大鳳は仲良く腕を組んで目的地に向かって行った

そしてそんなおしどりを見守り隊がいた

指揮官「ふむ、無事に合流できたな」

赤城「・・・そのようですね・・・なぜセーラー服かは気にしな  
いでおきますが」

東海「相棒・・・問題を起こさないでくださいね？」

その後ろに指揮官たちが大学生風に変装して追っていた  
指揮官「・・・よし・・・このままついていつて見守るぞ」  
つとこつそり後を追っていった

大鳳と腕を組みつつ街中を歩き回った

・・・んで現在どこかにいるのかというと

(・・・さようなら・・・師匠・・・こんど会うのは戦場なのですね)

(・・・ああ・・・もつとお前とは一緒に居たかったのだがな・・・)

・・・映画館にいる

天喰「・・・ブレマートン・・・あいつ・・・意外とこういうのも  
見るんだな」

先日、ブレマートンからもらったチケットはこの映画のチケットで  
あった

見ているジャンルは恋愛系のだが主人公とヒロインの師匠が付き  
合いそうだったが国で戦争が起き別々の国で生まれた二人は教会で  
はなく戦場で再開してしまうつというものだった

天喰「・・・いい話なんだが」

・・・俺は現在、目から感動の涙が溜まっていて泣きたいんだが・・・

大鳳「う、うえええええええええええええええ!!」

・・・うちの彼女が泣きすぎなんだよな

まあ、それはそれで可愛いんだが

天喰「・・・大鳳・・・さすがに泣きすぎだぞ・・・周りの客も若

干引いてる」

大鳳「だ、だつてええええ・・・あの二人いい・・・」

天喰「・・・俺のハンカチやるから・・・映画が終わるま  
でにその顔はやめとけ」

大鳳「・・・ぐす・・・はい」

大鳳にハンカチを渡して映画が終わった

大鳳(・・・あ・・・さりげなく・・・天喰のハンカチ・・・

手に入れました)

そして見守り隊

指揮官「ぐすつ……めっちゃいい話だな……」

赤城「……はい……本当は大鳳の泣き顔も見たかったのですが……視界が緩んで……見えませんでした」

東海「……まったくワカラン」

東海以外は涙腺崩壊を起こしており東海はわけがわからない顔をしていた

指揮官「ぐすつ……ようやく涙が止まったわ……東海は響かなかったのか？」

東海「……いやあ……僕、こういうの無縁な生活をしていたので……あと、なんで「朝起こしてあげる！」って言われて彼氏が毎日起こしてもらうのは申し訳ないから起こしてもらおう時間より早く起きたら彼女が不機嫌になる理由がわかりません……僕にとつてはいいことだと思いますが？」

指揮官「東海……お前、乙女心をわかってないな……」

東海「?????」

天喰「大鳳？少し早いけど昼食にするか？」

大鳳「……そうですね……少し小腹がすきました」

時刻はまだ正午になる前

ちよつと早いけど昼食をとることにした

天喰「あ！じゃあさ……この近くでさすごく有名なカフェがあるからそこに行く？」

大鳳「はい！」

街中の大通りを抜けて住宅街に入り目的のカフェに着いたが……

天喰「……多いな」

大鳳「……そうですね」

……やはり有名店

すごい長蛇の列だった

天喰「……どうするか？少し時間がかかるかもしれないけど待つ

か？」

大鳳「・・・そうしましょうか」

・・・仕方ない、待つとしよう

しかし、前から店員らしき人が自分たちより前の客になんか話しかけた後こつちに来て

店員「あ！その二名のお客様!!お先にどうぞ!!」

天喰「・・・へ？俺ら？」

店員「そうそう!!そのカップルです!!」

・・・なんか先にいって言われた

大鳳「え、でも他のお客は・・・」

店員「大丈夫です!!店長と他のお客様も許可が出たので!!」

大鳳「天喰・・・ここはお言葉に甘えさせてもらいましょう？」

天喰「・・・せやな・・・では、お言葉に甘えて」

あと、入るときに周りの店員と客から生暖かい目で見られた

東海「指揮官・・・ナイスプレー」

指揮官「ふう・・・我ながらよくやったわ」

・・・なぜ、天喰と大鳳がすなりと店に入れたのかというと

指揮官が店長を呼び出して土下座をする勢いで「あの二人はカップルなので優先的に店にいらしてください!!」つとといったがクレームかと思ってきたらしようもないことだったので最初はうけつけてくれたが指揮官の交渉力と例の事件のキス映像を見せたら

店長「・・・これは爆発させてはいけないリア充だな」

つと理解をしてくれて店長が店員にこのことを伝達させ許可を得た

赤城「・・・なるほど・・・赤城もこれくらいすれば!!」

・・・そしてそれを見て何かを納得した赤城であった



それを遠くから見ている見守り隊

東海「どうしよう指揮官・・・口から砂糖吐きそう」

指揮官「俺なんか砂糖がなくなつたから塩が出そう(？)」

天喰と大鳳が座っている席から離れたところから見ている

天喰がいる場所は甘つたるい空間になっており周りの客もあまり

の甘さにブラックコーヒーを頼んでいった

赤城「・・・なるほど・・・あそこはそうすれば!!」

そしてそんな大鳳たちの様子をつ見て何かを学んでいる赤城であつた・・・

午後の部に続く・・・





東海「・・・えつと・・・作業着ならあります!」

指揮官「・・・赤城・・・ちよつと買い物しよう」

赤城「・・・はい、指揮官様・・・これは深刻ですわ」

東海「え、深刻つて・・・」

そのあと見守り隊は急遽、服をあまりに持つてない東海の服のセンス改造が始まった・・・

大鳳「・・・おいしいですね・・・このソフトクリーム」

天喰「ああ、思わぬ発見だな」

二人仲良く並んでソフトクリームを食べていた

デパートを出ようとしたが・・・大鳳がソフトクリーム屋を発見し食べたといったが「昼にパンケーキを食べたから太るぞ」つて言ったが大鳳は必殺の上目遣いを使って負けてしまい仲良く食べている

大鳳「あ、天喰・・・頬にクリームがついてますよ」

天喰「え?あ、悪い」

天喰の頬にクリームがついており大鳳は指ですくいそれを・・・

大鳳(・・・パクツ)

天喰「ん?なんかしたか大鳳?」

大鳳「い、いえ!なにも／＼／＼／＼／＼」

天喰に気づかれぬように頬に着いたクリームを食べたがやはり恥ずかしかった

大鳳(う〜!これがカップル!母港ではこんなことできませんね／

／＼／＼)

すると大鳳がとあるお店の前で止まった

天喰「ん?なんかほしいのあるの?」

大鳳「・・・あ!いえ・・・天喰!少し先に行つて

くれませんか?」

天喰「え?どうゆうこと?」

大鳳「ふふ♪秘密です♪」

・・・大鳳に先に行つて待つてくれと言われたのでデパートを出

たすぐにある休憩用のベンチで待つことにした

天喰「・・・一瞬嫌われたのかなって思い心臓が止まったけど・・・

あの顔は何かあんな・・・」

・・・ま、楽しみに待つか

しかし・・・

チラ

チラチラ

・・・すごく目線を感じるな

またしても一人になり周りの女性から目線を感じ始めた

・・・確かに普通の女性が天喰をみたらアイドルか何かと思ってしまう  
しても見てしまうのだ

すると、そんな天喰に一人の女性が近づいていった

??「あのお・・・スミマセン・・・」

天喰「・・・なんすか」

またしてもナンパかと思った天喰だが今回は違った

??「すみません・・・ここに行きたいんですけど・・・」

天喰「あ、道案内か・・・えっと・・・どこですか?」

ちらりと女性を見るが大人というより少女に近い身長で黒いワンピースだった

しかし、顔は黒い帽子を目深くかぶっており見えなかった

??「・・・ここなんですけど」

天喰「ここは・・・こうって・・・こうです」

さて、これで問題は解決したが・・・早く大鳳帰ってこないかなと思っている・・・

??「うふふふ♪ありがとう

私の天喰?」

・・・ん？今、私の・・・って言わんかったか？

いやな予感がし改めて少女を見ると少女は少しだけ黒い日よけ帽子を上げた

・・・その姿は薄紫色の髪色に幼い顔だがこれでもいろいろと干渉している顔・・・そしてセイレーン特有の黄色い目

オブザーバー「うふふ♪ごきげんよう私の天喰？」

天喰「オブザーバー!？」

・・・なんでこいつが街中に!？」

オブザーバー「あら？セイレーンでも人間の街に行つて遊ぶくらいあるわよ？」

天喰「何やってんだよセイレーン!?!・・・とりあえず、さようなら」

オブザーバー「もう終わり？もう少し話をしましょう？」

天喰「嫌なこつた・・・お前にセイレーン化されたの忘れたわけはないぞ」

オブザーバー「・・・別にここで艦装を展開して暴れてもいいのよ？それにどれほどなのかは知ってるでしょ？」

天喰「・・・話つて？」

・・・仕方ないのでオブザーバーを隣に座らせて話をすることにした

オブザーバー「天喰・・・あなたあの時から体の調子がおかしいと思わない？」

天喰「・・・ああ、あの時からおかしいくらい調子がいい」

オブザーバー「それじゃ、実験成功ね♡」

天喰「・・・実験つて？」

オブザーバー「・・・実はね・・・天喰を改造するときつい前に前渡したオマケも発動させたのよ♪」

・・・オマケ・・・多分、俺が記憶を失くしている間にあつたなオブザーバー「そのオマケの内容は改造に成功したら発動するように仕掛けておいて体力増強、筋力増強などだわ♪」

・・・だから片手でスイカを潰せるほどの握力とまったく疲れない体力がついたのか

しかし、よくもやってくれたな・・・人が結構ピンチのときに改造ついでに実験って・・・

オブザーバー「あ、あとついでに夜の営みをする体力もとてつもなく高く・・・あ、ごめんねピュリファイヤーがやらかしたから行くね♡」

天喰「・・・ん？おいちよつと待て最後に言ったのはなんだ!?絶対いらんのを入れたろ!」

オブザーバー「じゃあね私の天喰♡」

天喰「おい待てゴラアアア!?」

止めようとしたがオブザーバーは器用に人ごみの中に消えていった

天喰「やつぱセイレーンは人類の敵だわ」

・・・にしてもオブザーバーと結構話したけど遅いな大鳳?

大鳳が天喰のに行つてもらうよう促したところまで戻る

店員「いらつしやいませー」

大鳳「えつと・・・これとこれをください・・・」

大鳳はとあるもの買っていた

大鳳「・・・天喰に初めてのプレゼント♪」

それは天喰にプレゼント用だった

今日は天喰に映画や服を買ってくれたが大鳳から何もあげていないのでなんでもいいのであげたかった

大鳳「はやく天喰に会いたいな♪」

そして大鳳がウキウキとデパートの出口から出ようとしたが・・・

「ちよいちよい、そこのお嬢さん!」

大鳳「・・・つち・・・大鳳のことですか?」

「そうそう、そこのセーラー服の別嬪さん!!」

そこにいたのはアロハシャツを着て金ぴかの腕時計をつけ肌が焼けている男性だった

大鳳「・・・大鳳になにかようですか?」

「いやあ!お姉ちゃん!すごく可愛いね!ねえ?僕とお茶でも・・・」

大鳳「・・・ナンパですか・・・結構です・・・私には天喰という世界で一番の彼氏がいるので」

「え〜いいじゃん！そんな彼氏より僕と付き合おうよ!!」

大鳳「・・・失礼します」

「あ〜！待って！待って！わかったから！もうしないからその彼氏に絶対好きにさせてどんな時でも自分の物にさせる方法を教えてあげて帰るから!!」

大鳳（ピクツ）

「え〜、だめかあ・・・じゃあ帰るk「すみません、その方法を詳しく」・・・お！本当かい！」

大鳳「はい・・・天喰を他のメスに取られたくないので」

「他のメスって・・・わかった！じゃあ、そのカフェに行こう！」

大鳳「・・・教えたら関わらないでくださいね？」

「わかってるって！僕はその相手に幸せを送ってほしいだけだから!!」

こうして金ぴか男性と大鳳は近くにあつたカフェに入つていった

大鳳「・・・それで方法とは？」

「その前に！水でも飲んだら！長く話すから!!ほらほら!!」

大鳳「・・・いいえ、大丈夫です」

「いいから、いいから!!」

大鳳「・・・本当に大丈夫なので」

「いいじゃん！いいじゃん！ささー」

大鳳「う・・・わかりました・・・一杯だけ」

速く天喰に会いたいのとこの男から方法を聞いてさっさと離れたので渡された水をがぶ飲みした

大鳳「・・・ふう・・・それで方法とは？」

「クツクツク・・・そうだねえ・・・あ、ちよつと待っててね仕事仲間に電話してくるから♪」

素晴らしい金ぴか男は席を立ち外に向かつて行った

大鳳「・・・なんですか電話って・・・大鳳は早く天喰に会いたい・・・しかし・・・なんか眠くなってきましたね・・・」

しかし、こんな見知らぬ男性の前で寝るなんて無防備すぎる・・・でも睡魔がどんどん押し寄せてくる

・・・そして、気が付いた時には

大鳳「・・・すうー・・・すうー・・・すうー」

可愛らしい寝息を立てながら寝てしまった

「たっただたいまく・・・うしうし・・・寝てるな・・・それじゃよっこいしょつと・・・」

金ぴか男は大鳳を担ぎ店から出ようとした

店員「お客様！お連れの方のお手伝いをしましょうか？」

「あ！大丈夫です！僕の彼女なので!!」

そして男は店を出ていった

「・・・まさか本当に引つかかるなんて・・・馬鹿だねえ・・・」

ここはとあるアパートの一室

そこにはセーラー服のままぐっすり寝ている大鳳と何かの機材を準備している男がいた

「・・・まったく・・・お嬢ちゃん？・・・普通彼氏と別行動したら知らないおじさんについていくとか渡された水を飲むなんて駄目だよ？・・・あの水にはこっそり睡眠薬を入れちゃったから♪」

・・・実をいうとこの男は最初から大鳳に方法なんて教える気なんて皆無で大鳳自身が目的だった

「・・・お嬢ちゃん・・・セーラー服着ているからどこかの女子高校生かな？実は援○が目的だったりw・・・あ、でも彼氏いるからNTRになるな♪・・・まさか本に書かれてた通りにやったら本当に成功するなんてな♪」

そう言いつつカメラの準備を進める

「さてと・・・ヤツてその証拠映像で脅して今の彼氏君には悪いけど別れてもらって自分の彼女にすれば・・・よし！準備完了！さあ・・・お嬢ちゃん？・・・準備はいいかい？」

男の手が大鳳のセーラー服に手が届く・・・

バコオオオオオオオオン!!

突然アパートの扉が爆発・・・否、蹴破られた

「だ、だれさ!？」

?? 「え、誰って・・・」

その青年は埃を払いながら名乗った

天喰 「彼女のカレシⅡセコム（天喰）ですが？」

「嘘つけ!?!この子は僕のだぞ!!イイから早く出ていけ!警察を呼ぶぞ!!」

天喰 「・・・・・・・・今なんて言った？」

天喰の瞳から光が消えた

「は?だからこの子は僕のだから!今からいいことするから邪魔・・・・・・・・ふが!？」

この子は僕のといた瞬間、天喰は思いっきり男の顔を殴り男の台所から持ってきた包丁を勢いよく男の口に向かって突っ込ませ男の歯で止めるようにさせた

「ハギ!ハガ!？」

天喰 「ふうくん・・・大鳳が君の物つか・・・いい度胸だね？」

ばきいいいい!!

「ハガ!？」

天喰 「ほらほら♡今、悲鳴を上げたら包丁が君の喉に刺さっちゃうよ?。」

天喰は男の腕の骨を一本ずつ丁寧に折って行って包丁にも足で体重をかけていった

天喰 「いやあの時あまりにも遅かったからアパートの管理室に襲



撃・・・じやなくて平和的訪問（物理的）で訪れたら管理の人、優しかったな〜監視カメラの映像を見せてくれたの!!」

ばきいいいいいい!!

ばきいいいいいい!!

ばきやああああ!!

「ひぎいいいい!!ひぎいいいい!!」

天喰「んで君が来たお店の店長に殺そうと脅して聞いてみたら君が大鳳を担いでどこかに行ってしまったて・・・あ、次は足の骨ね♡」  
そこから天喰は男の足の骨、肋骨、背骨などの骨を折ったり脱臼させたり粉碎していった

「やめ!?やめてえええ・・・」

天喰「にしてもさあ・・・めっちゃかわいいよねえ・・・大鳳の寝顔・・・♡」

左足と体重で器用に骨を折りつつ右足を包丁に体重を落とすしつつ両腕でまるで宝物のように大切に大鳳を抱えた

大鳳「くう・・・くう・・・くう・・・」

こんなサイコパスな現場でも大鳳は男から盛られた睡眠薬で寝ている

天喰「はあ♡ほんと可愛い♡・・・そうと思わん?」

「ふう!?ふう!?」(くくくく!!)

全身の骨のほとんどを破壊されて悲鳴を上げたいが口を開けた瞬間包丁が迫ってくる恐怖から一刻も早く逃れたいので一生懸命に肯定する男

天喰「だよねえ♡・・・あ、折る骨がなくなったな・・・じゃ、次は内臓ね♪」

「!?」

大鳳について肯定されようがお構いなしにぶちのめしていく天喰

グチャアアアアアアア!!

「げほお!? ゴメンナシヤイ・・・ ゴメンナシヤイ・・・」

男はもう二度としないと誓いを込めて許しを請うが

天喰「あ、ちよつと待っててね・・・もう少し大鳳の寝顔を拝むのと俺が大鳳の好きなところを全部言ってからやめるから・・・それまで耐えてね♪」

割愛!!

天喰「でねく大鳳、ずっと俺の後ろから見てきたんだけどくこれ、俺が悪かったなく早く話しかけとけば・・・ありや?」

「コロシテクダサイ・・・コロシテクダサイ・・・」

天喰「・・・ちよつとやりすぎたかな? まあ、うちの決まりで人間を殺してはいけないってあるけど死ななきやいいし・・・死んでもバレなきやいいか! あらよ!!」

ぐちゃ!

「ふぎに!・・・ふくふくふく・・・」

この男の相手をするのがめんどくさくなつた天喰は男の股間部分を思いつき踏みつぶして大鳳を背中に抱え部屋から出ることにした

大鳳「くう・・・うふふふ♪天喰く♡・・・むにやむにや・・・」

大鳳は夢の中で幸せそうな夢を見てるのか可愛らしい寝顔をしている

天喰「はあ(尊し)・・・反則だろそれは・・・でも、もう安心して寝ていいよ大鳳?・・・もう、あの豚野郎に所属していたころみたいな悲惨な事なんて二度と味合わせないから・・・だから・・・オレダケヲアイシテネ? オレノタイホウ?」

大鳳「・・・は!?・・・大鳳は何を!?!」

天喰「あ、おはよう・・・大鳳」

大鳳が起きたのはどこかの部屋のようだった

大鳳「あれ？大鳳はたしかへんな男と一緒に居た気が・・・」

天喰「ああ、ここはホテルさ・・・指揮官に確認したらどうやら東海のことです手が離せないから泊っていつてくれ・・・だつてさ」

どうやらここはホテルの一室らしい・・・

天喰「あ、あと・・・その男性ならちよつとO☆H A☆N A☆S Iして俺が回収した・・・ってか何してたんだよ」

大鳳「えつと・・・天喰をずっと自分のものに・・・あ！な、なんでもありません!!」

天喰「ん？そうか？」

・・・聞きたがったがないのなら仕方ない

大鳳「あ！そういえばプレゼント!!」

天喰「ん？プレゼントってこれか？一応、中は見ないでおいたが」

天喰が取り出したのは小さな紙袋だった

大鳳「あ、えつと・・・それは・・・天喰にプレゼントです」

そういわれ中から取り出したのは

天喰「おお！」

中には首に巻くチョーカーで中心に小さな鎖がついた黒いものだった

大鳳「・・・そのお・・・大鳳とおそろいです・・・」

大鳳の手首には天喰に渡したチョーカーと同じ柄のブレスレットだった

天喰「・・・そつかあ・・・ありがとう大鳳」

大鳳「!!／／／／／／／／／／」

ドキ!!つと彼の微笑みに胸が鳴った

・・・そして一つ気が付いてしまった

大鳳（あ、これなら一番早くできますね・・・）

・・・そして大鳳は

大鳳「・・・天喰♡」

天喰「ん？どうした？たいh・・・むう!？」

チユ♡

・・・大鳳から天喰にキスをした

しかし、今回は唇だけではなく天喰の口の中に舌を入れこんでいた

そして、天喰をベッドに押し倒した

シユルシユル・・・

そしてセーラー服を少しずつ脱げるように緩めていった

大鳳「・・・大好きですよ天喰♡」

天喰「ふえ!？」

現状が理解できない天喰とその彼氏の上に馬乗りする大鳳・・・

・・・その影がベッドの上で一つになった

## 翼の生えた一角獣

・・・ここはどこだろう

そこはどこかの建造ドックだった

そこにはとある国が三番目として作っている途中の船・・・潜水艦だった

「・・・これがあの潜水空母の三番目か」

「ああ、でも上も無茶言うよな・・・特に空母機能の奴とか」

「確か・・・空母の発艦を電磁推進器にするか蒸気カタパルトにするか？だっけ？」

「そうそう・・・他の二艦は片方はヘリコプター甲板でもう方は方はU CAVだったはずだ」

「・・・そうか・・・はあ、なんで上はオーシア連邦となんか張り合うんだよ」

「・・・だな・・・休みが欲しい」

・・・どうやら私には二人の姉がいるらしい

・・・さすがにずっとこのドック？っていうのかな？でジツとしておくのも嫌だな

・・・それにしてもオーシア連邦かあどんな国かな？

・・・なるほど、オーシア連邦と私の祖国ユークトバニア共和国が・・・喧嘩しているって!!

・・・それで私はこの国の人たちを守るために作られた・・・なら、期待に応えられるよう頑張らないと!!

・・・でも、なんかベルカっていう国がなにか悪いことをしているって聞いたけど何だろう？

・・・どうやら私の国の偉い人とオーシア連邦の偉い人があって喧嘩は終わって仲直りをするって!!

・・・いいことだけど・・・海に出てみたかったな・・・もう、ずっとドックにいるし

・・・お姉ちゃんたちには一回もあつてないからなあ・・・あつて

みたい・・・

・・・それで私の国の偉い人とオーシア連邦の人が仲直りをして一緒にベルカっていう悪いことをしている国をやっつけに行くって!!

・・・え？私たちの出番なの？（・・ω・・）

・・・あれからベルカ戦争っていう喧嘩が起きちゃったけど私たちの国側が勝ったって整備員のおじちゃんが言ってた!!

・・・それで・・・ユークトバニアとオーシア連邦はすごく仲良しになってお互いの危ないもの・・・ロケットとか大砲を捨てるってことになったんだ・・・

・・・私たちは・・・解体されるかもって言ってたけど・・・私は皆が笑顔になればどんなことにも頑張れるからいいよ!!

・・・でも最近は整備員のおじちゃんじゃなくて怖い顔をした「ぐんぶ」っていうところの人たちが多く見るけど・・・どうしたんだらう？

・・・うくん？眠い・・・どうしたんだらう？整備員のおじちゃんたちがあわただしく動いているけど？

・・・え？ユークトバニアとオーシア連邦が戦争を始めた？

・・・どうして？どうして仲直りをしたのに喧嘩をするの？

・・・喧嘩すれば皆が家に帰れなくなるかもしれないのに

・・・私だって戦わないでオーシア連邦の皆と話してみたい・・・

本当は喧嘩せずに手と手をつなぎあえば戦争なんてなくなるのに・・・  
・・・うん、でも私はこの国に生まれた以上、私とお姉ちゃんはずごく強い潜水艦らしいから先頭に立って皆を守らないと!!

・・・あれ？ぐんぶの偉い人だ？どうしたんだらう？

「・・・これが例の三番艦か」

「は、はい！そうです！」

「・・・それで間に合うのかね？もうすでに一番艦は実戦投入されて先ほどオーシア連邦の空母二隻を轟沈させた」

・・・え、お姉ちゃんがもう戦いに行っているの？でも、すごいなあお姉ちゃんはまだもう空母を二隻倒しちゃったもん

「・・・いえ、まだ不可能です・・・まだ、甲板の問題が解決していません」

「そうか・・・この艦が完成すればオーシアの豚どもは犬死するだろう・・・間に合わせるように」

・・・そんな・・・私・・・まだ出られないの？

・・・私だつて！早くみんなと一緒に戦ってみんなの希望になりたいのに

それから数日が経った

「おい、聞いたか？例の一番が轟沈したつてよ」

・・・え、お姉ちゃんが・・・死んだ？

「え？マジでか？そんなのこつちには流れてないぞ？」

「俺も噂で聞いた程度だがなんでも上層部が戦意損失を防ぐために極秘にしたらしい」

「おいおい・・・そんなの嘘に決まってるだろ」

・・・確かに整備員のおじちゃんの一人の言う通り嘘でお姉ちゃんが生きているに決まっている・・・だつて私のお姉ちゃんだもん・・・

「・・・でも本当らしいぜ？なんでもアークバードにやられたとか」

「アークバードつてあの!?!」

「あれの使い用途違うだろう・・・」

・・・なにか整備員のおじちゃんたちがしゃべっているが私は早く海に出たい早くお姉ちゃんが無事か確認したい

・・・早く・・・早く・・・海に出て皆を守らないと

・・・もう、私みたいな家族を失つて悲しむものを少なくさせないと・・・

「あ、でもよ・・・もう一隻・・・二番艦だつて・・・そいつは沈まないだろうって上のやつら言ってたぞ」

「たしか・・・ラー・・・なんだつて？」

「ラーズグリーズだ・・・たしかなんかの童話から持ってきたそうだぞ」

・・・たしか二番目のお姉ちゃんかな？おじちゃんが言うには「しよ  
うこー」っていう人が最強艦隊って言ってた

・・・わたしもそんな名前が欲しいなあ・・・だってかっこいいも  
ん・・・

・・・私の名前なんて・・・確か・・・なんか悪いことだった気が  
する!!・・・意味忘れちゃった・・・

・・・あれから結構経ったなあ・・・まだ、海に出れてないけど  
すると整備員の一人がドックに飛び出して叫んだ

「おい！大変だ!!二番艦がラースグリーズ海峡に沈んだそうだ!!」

・・・そんな・・・なんで・・・

「おいおい・・・この国大丈夫か?・・・」

「今のうちに逃げる準備とか・・・」

「馬鹿野郎!!逃げたら軍部の奴らに殺されるぞ!!」

・・・なんで戦争なんか・・・人間ってなんで戦争なんて続けられ  
るの？

・・・戦争したら・・・みんなが悲しむことしかできないのに・・・

・・・私はみんなを守るために生まれたのに・・・

・・・あれから私の国は作戦に失敗を続けたらしく戦争に負けてし  
まった

・・・私は生き残れた

・・・でも、戦って生き残るじゃなく・・・ずっとこの中で



・・・自分が許せなかった・・・みんなが必死に戦っているのに私は暢気に安全なところにいる

・・・そんな自分が許せなかった・・・もつと私の開発が早ければ・・・もつと早く戦場に立てていたら・・・

・・・お姉ちゃんたちも・・・ユークトバニアの船も・・・兵士さんも・・・

・・・死なずに家族の元に帰れたのに・・・

・・・私は母国とオーシア連邦の融和政策の一環の条約でスクラップになるそうだ

・・・でも解体にお金がかかるからポートエドワーズのGRトレイディング本社っていう会社に売られるそうだ

・・・私は何もできずに・・・なにもやらずに終わっちゃうのか

・・・会社に売られた後、エルジアっていう国が私を買うことになったらしい

・・・エルジアに着いてから・・・マティアス・トールレスっていう人が私の艦長になるらしい

・・・何でも・・・こんびふ・・・じゃなくて「コンベースの英雄」って呼ばれているって

・・・でも・・・私には関係ない・・・それはそのエルジアの人のことで・・・祖国の人じゃないもん・・・

・・・あと、エルジアの人から艦装工事が行われたあとに試験航海でスプリング海方面に行くって!!

・・・やった・・・ようやく海に出られる!!

・・・もう、所属している国は違うけど・・・今度こそ・・・今度こそは絶対にこの国で悲しむ人を失くす!!

・・・もう、私みたいにお姉ちゃんたちを失って悲しむのは・・・終わりにする!!

・・・見ててお姉ちゃんたち・・・国が違うけど・・・私、皆の希望になつてみせるよ!!

しかし、2016年11月10日にトウインクル諸島から南南東1300kmのスプリング海海上で消息を絶った。

・・・う、うううん？こ、ここはどこだろう？確か私はスプリング海海上を航海してたはずじゃ・・・

・・・どうやらここはどこかの海底みたい・・・でも・・・動けないや

・・・15度も傾いちゃってるし・・・これは救助を待つしかないかな？

・・・一応救助信号を出したから・・・いつかは来ると思うけど・・・でも！乗組員さんと一緒なら大丈夫!!

一週間後・・・

・・・うくん？まだ、来ないのかなあ？

・・・艦内の乗組員さんたちもお互いに励ましあって頑張ってる!!

・・・特にあのトールレス艦長っていう人が一番頑張ってた!!  
・・・私も挫けずに待たないとね!!  
・・・でも、忘れられたりしてたら・・・だ、だめよ!!そんなネガティブな考えを持ってちゃ!!

一か月後・・・  
・・・遅いなあ?  
・・・搜索・・・難航しているのかなあ?  
・・・乗組員さんたちも頑張っているけど  
・・・私は・・・少しいやかな・・・ずっと暗い中で独りぼっちだもん

しかし、エルジア海軍は必死に搜索したが結局見つからず事件はお蔵入りされてしまった

そんな事実を知らない乗組員はそれでも無駄な努力をしていた

三か月後・・・  
その夜、とある夢を見た

(夢の中)

・・・うううん?あれ?ここはどこだろう?私・・・たしか海の底にいたのにな?

そこはどこかの海の上であつた

海底のように暗くはなく青い空が見えた

すると水平線にある一つの影が見えた

・・・おい!○○○○!こっちにおいでよ!!

見覚えのないはずなのに直感ですぐに分かった

．．．お姉ちゃん？お姉ちゃん!!

．．．そうよ!!早くおいで!!

沈んだはずの自分の姉だとわかり最大速度で向かって行った

死んだはずなのになぜ今、目の前にいるのかはわからないがそんなことはどうでもいい急いで向かって．．．もう、目と鼻の先になった

．．．お姉ちゃん!ようやく．．．ようやく会えた!!

．．．うん!そうだね!．．．これでようやく．．．

．．．あなたを地獄に落とせるわ

．．．え?

気が付くと周りは青い空が赤くなり

海も血のように赤くなってきた

．．．え!?!なんで!?

．．．ねえ?なんであなただけ生き残ったの?

すると自分の周りから何かが浮かんできた

．．．みんな．．．

すぐに直感でわかった．．．かつて自分の祖国の仲間だと

しかし．．．どれも所々崩れたり錆びていた

．．．『ねえ?○○○○?なんで、あなただけ安全なところにいるの?』

．．．『熱いよ．．．海に沈みたくないよ．．．』

．．．『君が来ていたら．．．私たちは死なずに家に戻れたのに．．．』

．．．『死にたくないよ．．．死にたくないよ．．．』

．．．『暢気に生き残りやがって．．．お前も死ねばよかったのに』

それぞれ恨みの言葉を言いながら自分に迫ってくる

．．．違うの!私も早くみんなの所に行きたかった!!

．．．『うそをつけ．．．本当は生き残れてうれしいだろう?』



み引きずり落とそうとしていた

．．．いや．．．行きたくない．．．いやだあああああ!!

．．．は!?

気が付くと先ほどの見覚えのある海底だった

．．．な、なにあれ．．．夢．．．だよね?

．．．あれって．．．お姉ちゃん．．．だよね?

今さっき見た夢が事実なにかわからなくなってくる

．．．そんなはず．．．ないよね?．．．お姉ちゃんは．．．私を

恨んでなんか．．．

しかし、その日を境に毎晩あの悪夢を見ることになった

## 再臨する救済者

半年後・・・

・・・はあ・・・はあ・・・また・・・あの夢・・・夢だよね？・・・夢に決まつてるよね？・・・そうだよね？・・・そうに決まつてるよね？

・・・乗組員さんたちも少しずつただけど衰弱している・・・早く・・・お願い・・・タスケテ・・・

しかし、どんなに願っても助けは来なかった

一年後・・・

少しずつだが・・・精神が壊れだし・・・そして・・・

・・・ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい

・・・許して・・・もう、許して

完全に壊れてしまった

誰もいない空間に向かって必死に謝るが誰もいない

・・・私が・・・私が悪かったから・・・

・・・お願い・・・だれか・・・コロシテ・・・

さらに半年後・・・

・・・『・・・』

もう、夢と現実の区別がわからなくなり早く死ぬのをずっと願っていた

艦内でも死者が出ており希望が完全に失っていた

．．．．．ただ一人．．．英雄を残して

事故発生から二年後．．．

沈んだと思われていた艦が見つかり中から330名が生存を確認した

生存者の証言によるとトールレス艦長のおかげだそう

．．．結局、死ねなかった．．．みんなの元に行けなかった

．．．いや、でももう死んでいるのでは？今見えている世界も夢でまだあの海底にいるのかな？

それはエルジアのドックにいた

．．．なんで死ねないのだろう？

．．．はやく死にたいのに．．．

それから一年後

エルジアとオーシア連邦の戦争が始まった

．．．また、戦争か

．．．結局、平和なんて．．．夢物語か．．．

．．．昔、言ったかな？．．．手と手をつなげば平和になれるって．．．

．．．そんなのなかったな．．．あの時に見てしまったもん．．．

人間の愚かさが．．．

．．．でも、トールレス艦長は本当に英雄だ

．．．あの人についていけば生き残れる

．．．あと、どうやらエルジアの主力艦隊が三本線っていう奴らにやられて私は即応予備艦隊（ラーン艦隊）に新設された特殊戦闘艦部隊に配属されるらしい

．．．でも、私には関係のないことだ

．．．艦長のことだけを信じればいいのか



・・・この世界で平和になるには犠牲だって必要だ  
・・・あと、どうやらオーシア連邦は私を大量破壊兵器と見て拿捕しに来るらしい

・・・つくづく人間ていうのは愚かな生物だよな

水平線のかなたからオーシア連邦のシンボルを掲げながら攻めてきた

・・・あれがオーシア連邦の艦隊・・・あと、それでへんな動きをしているのが・・・あれがか・・・

・・・でも、三本線？それで救える命があると思っっているのかい？  
：君は上の言うことを聞いて虐殺をしているだけでそんなのじゃ戦争は終わらない、ただ殺された人たちが恨むだけだ  
すると通信が入る

「命令だ!!自沈しろ!!」

・・・上層部のお偉いさんか・・・自沈？なんで？

・・・確かに自沈すればお姉ちゃんたちに会える・・・でも、それで皆が喜ぶ？

・・・悪いけど私は反旗を翻すよ・・・私は私なりのやり方で戦争を終わらせる

その日、トーレス艦長を含む全乗組員がエルジアを離反した

・・・さてと・・・例の目的の砲弾は手に入った・・・あとは撃ち込むだけ

・・・目標は首都オーレット・・・計画開始は9月19日・・・これが成功すれば戦争が終わって皆が平和になって・・・お姉ちゃんたちに許してくれる・・・

・・・後はこのPX80443海域味の無い海域名を越えればいい・・・でも、艦長が待ち伏せをされているって言ってたな

．．．やはりいた．．．ソノブイを落としてきてる．．．見つかったら厄介だ．．．落としている機体を破壊するか．．．安心して．．．あなた達の死は無駄じゃないわ．．．だって今から私がこの戦争を終わらせるもん。でも、やっぱりいるのね．．．三本線．．．邪魔だよ君．．．

．．．くそ．．．ソノブイの投下が完了して場所がバレた!!

ドガアアアアアアン!!

．．．あと、少してピアニー海溝だったのに．．．バラストタンクが破壊されて長時間潜水ができない．．．

．．．いいだろう、三本線．．．そんなに私たちの計画の邪魔をするなら．．．今ここで!!

しかし、激戦の末．．．トールレス艦長は降伏を言い出した

．．．これがお姉ちゃんたちが戦った人間の力．．．すごかったなあ．．．これで．．．もうあの夢から逃げられるかな？

船体のほとんどの武装が破壊され敵も国際法で攻撃を辞めた

．．．でも．．．本当にいいのかな？

．．．このまま戦争が続いたら．．．もつと悲しむ人がでる．．．

．．．なら．．．せめて!!

．．．1000万人をまもらないと!!

船体から巨大なレールキャノンが出てきた

それに気が付いたのか一機の戦闘機が急速に接近してくる

．．．邪魔をしないで三本線!!これは．．．これは!!．．．私なりの救済虐殺なんだから!!

しかし．．．

ドカアアアアアアン!!

レールキャノンにミサイルが当たってしまった

そしてそれが合図か先ほど止んだ攻撃が再開され・・・

・・・ああ、負けちゃったな・・・また、あの暗いそこに沈んでいくのね・・・

・・・結局、救えなかったなあ。私はみんなを守るために作られたのに・・・

・・・でも・・・これで・・・許してくれる?・・・お姉ちゃん? 船体が二つに割れてそのまま海の底に沈んでいった

?? 「・・・う、まぶしい・・・あれ?」

目が覚めるとそこは床も天井も白い部屋にいた

?? 「おかしい・・・私は確か沈んだはずじゃ?」

?? 「あ!起きたようだね!!」

可愛らしい声が聞こえて振り向くとそこには小さな少女がいた

?? 「・・・あなた・・・誰?」

?? 「わくたしの名前はあ!!神でくす!!」

すぐくノリノリな感じで自己紹介したこの子・・・

?? 「へえくかみちゃんって言うんだね?お母さんたちはどこ?」

神 「えつとねえ・・・私、迷子に・・・じゃなくてえ!!GODのほう!!」

?? 「・・・神様」

神 「そうよ!これでも神さまぐええ!」

その子は神の首を絞めつけた

神 「ちよ!?!苦しい!?!苦しい!?!」

?? 「なんで・・・なんでお姉ちゃんたちを殺したの?なんで私をもつと早く出してくれなかったの?・・・なんで・・・なんで」

船なのになぜか涙を流しながら訴える

神 「ちよ!?!話すから!!一端落ち着いて!!」

・・・そして一度落ち着きここに呼ばれた理由を教えてください  
神 「えつとね?実はあなたはここには来ないはずなんだ」

?? 「・・・なら早く殺してください。神様ならできますよね?」

神「最後まで聞いて・・・私はここに来た者たちを“転生”させるのが私の仕事なの・・・それで実は君が来る前に二人ここに来たの」

?? 「そんなの知ったことじゃありません・・・」

神「・・・話の途中だけどき・・・なんでそんなに死にたいの?」

?? 「・・・私が死ねばお姉ちゃんたちは私を許してくれるって思うから」

神「・・・そう、なら尚更君を転生させないとね!!」

?? 「・・・え?」

なにを言っているんだこの神は?

自分は生き残ってしまったから償うために地獄に落ちないと

神「・・・さつき言ってた二人って君のお姉ちゃんなんだ」

・・・なんで

?? 「なんでお姉ちゃんが・・・」

神「これはね・・・」

神「・・・本当にいいのかい?キミたちは転生して新しい生活がで  
きるんだよ?」

シンファクシ「いいんです・・・転生する権利を妹にあげてくださ  
い・・・いいよね?リムファクシン?」

リムファクシン「うん!私たちは十分あつちで楽しんだから後はア  
イツにも世界のすばらしさを知ってほしいしな!!」

神「・・・わかった・・・じゃあ、あの子を転生するね?」

シンファクシ「・・・はい・・・あ、あと一つ・・・あの子・・・  
自分だけ生き残って苦痛を得ているけど・・・私たちは恨んでいない  
よって言っておいてください」

・・・てさ」

?? 「・・・お姉ちゃん（ポロポロ）」

涙が頬をつたり下に落ちる

神「それでどうする?・・・死にたい?」

?? 「・・・いえ!!お姉ちゃんがチャンスを私のためにくれました・・・

無駄にはしません!!」

神「・・・そうかい・・・なら、その穴に入りな・・・そしたら

転生するから・・・あ、転生先はランダムね」

?? 「はい!!ありがとうございます!!かみちゃん!!」

神「だからあ!!GODの方たい!!」

こうして緑色の土管をくぐりながら転生していった

・・・う、うくん?ここどこだろう?

そこはなにかの容器の中らしく暗くて少し自分には小さかった

?? 「・・・でもやっぱり暗いところは苦手・・・どこかに出口が・・・」

すると容器が・・・

ぷしゅううううううう

蓋が開きそこから白い軍服を着ている男性と銀髪に黒い羽織りを

着て弓を持つている男性が見ていた

?? (この人白い軍服を着たのがここの指揮官かな?)

とりあえず自己紹介をする

アリコーン「初めましてシンファクシ級改めアリコーン級原子力潜水航空巡洋艦アリコーンです!!・・・さあ、助けられたい人はいm（プシュー）・・・あれえ？」

・・・なんか銀髪の男性がギョツて顔をした後、そつ・・・と閉められたんだけど?なんで?

デートその後!!

・・・あれから大鳳と基地に帰ったけど  
遅すぎてメイド長と指揮官にめっちゃ怒られた

指揮官「・・・なにか言うことは？」

天喰・大鳳「連絡もせずに楽しんでしまい申し訳ございませんでした」

指揮官「うむ、よろしい・・・あ、あと天喰？明日、秘書な」

・・・解せぬ

もつと大鳳を一緒にいたかったのに・・・

休んだ日の次の日に面倒くさい係だと聞いて落胆する天喰だった  
え？夜はどうしたのかって？・・・流石に理性が保てないから別々の部屋で寝たよ

次の日!!

東海「ふう・・・疲れた」

曇天「はあ・・・はあ・・・死ぬ」

昇龍「お、起きて月影・・・ようやく休めるよ・・・」

月影「( ☒ ω ☒ ) スヤア」 ↑力尽きた

その日の朝

天喰が異常なほど体力が上がったので朝練のメニューを三倍にしてやったが天喰以外はへろへろになっていた

東海「・・・本当に相棒・・・あなたどこからそんな体力が出たのですか？」

天喰「え、おぶz・・・じゃなくて・・・なんか知らんうちになつてた」

・・・言えないわな

だってまさか敵が送ってきた力だとか言ったら即分解治療とかありそうだもん

天喰「まあ・・・そのうちわかるさ」

東海「む・・・そうですか・・・」





東海「ういつすボス」

曇天「いや、マントルって・・・まあなんだ・・・今度ゼク〇イでも買って・・・あ、ごめんそんな沈めさせるのを決意したような顔で来ないで」

天喰の大人への仲間入りを祝いつつ、もう詳しくは聞かないでおこうと決めた海上自衛隊組であった

食堂

大鳳「・・・(ぼけー)」

加賀「・・・赤城姉さま」

赤城「あら？何かしら？加賀？」

加賀「・・・うちの大鳳が朝からずっとあれなんだが・・・どうしたんだ？」

朝の食堂にて赤城と加賀はいつもどうり一緒に食べていたんだが・・・なぜか虚空を見つめたいるような目で食べている大鳳がすごく気になった

赤城「・・・本当だわ・・・それにいつもならどっかの彼氏空母と一緒にはずなのに」

加賀「まさか・・・もう？」

赤城「いえ、別れては無いでしょう・・・一昨日のデートであんなに甘い空間を作ってたから無いでしょう・・・でも、なんで帰ってきたのが昨日の夕方なのかしら？」

こそこそと推測しあっている狐姉妹・・・一方

大鳳「・・・(ぼけー)」

山城「た、大鳳さん？起きてますかー？」

ゆさゆさと通りかかった山城が摩るが・・・

大鳳「・・・天喰とお♡・・・これって実質♡・・・デイフフフフフ♡」

いつもは可憐で鳳凰のような大鳳がこの時だけだらしない顔をしていた

山城「……………」

もう仲間が末期であることを理解し自分の姉がいる席に戻った

扶桑「…………どうだった？」

山城「…………ダメです…………なにか悟りを開いたような顔をしてい  
ますが言っていることが意味不明です…………」

プリンツオイゲン「…………一応なんて言っただの？」

山城「えっと…………天喰が何とか…………って」

プリンツオイゲン「天喰…………いや、まさかね？」

オイゲンは何かを悟ったが…………まさかあの大鳳が？…と思いとど  
まるオイゲンであった

しかも…………

アルバコア「むふふふ！…………わーい！大鳳！さぶらあーいず！！」

大鳳「……………(ぽけー)」

アルバコア「え？あれ？大鳳？さぶらあーいず？…」

いつもなら悲鳴を上げて驚くのが定番なんだがなぜか反応がない

大鳳「……………は!?……………あ、アルバコアおはよう」

アルバコア「へ？お、おはよう？」

大鳳「今日もいい天気ですねえー」

アルバコア「う、うん？(困惑)」

なぜかいつもとは違い少し淑女に似た雰囲気を出して怒るのでは  
なく挨拶をした大鳳にどういう反応をすればいいのかわからないア  
ルバコア

ホーネット「ヤバイって！姉ちゃん！大鳳が大鳳じゃなくなってる  
(?)」

エンタープライズ「どうしたんだ大鳳…………まさかあのクソ野郎豚が  
何かしたのか!？」

食堂内で様々な憶測が飛び交う中…………

いつもの大鳳の反応ではなかったのでトボトボと席に戻ろうとし  
た瞬間…………とっても元気の良く大きな声でしゃべった…………

アルバコア「大鳳？」

首元にある噛み傷はなに？」

エリザベス・ウオースパイト「「ごっふう!?!」」

ベルファスト「え? (ガシャーン!!)」

プリンツオイゲン (ガタツ!!)

あるロイヤル女王は盛大に口に含んだ紅茶を嘔き

またあるメイド長はあまりのパワーワードに皿を落とすという珍しいミスをしたり

またある鉄血重巡洋艦はまさか正解だったとは驚いて席を立った

大鳳「ななななななな・・・なにを言ってるの!?!」

ようやくいつものどうりの大鳳に戻ったことを察知したアルバコアはさらに弄って畳みかけようとする (噛み傷は何を意味しているのかは分かっていません)

アルバコア「なにになに♪なにか大きなワンチャンでも飼っているの? なら今度会ってみ

「ぎやああああああああああああああああああああああ!!」

弄ろうとした瞬間、大鳳はあまりの恥ずかしさにアルバコアを天井にめり込ませた

大鳳「はあはあはあ・・・は!!」

何とか未然には防げたが嫌な予感をしギギギギギギ・・・と周りを見みると・・・

プリンツオイゲン「・・・・・」

山城「・・・・・」

エンタープライズ「・・・・・」

加賀「・・・・・」

全員が固まったように動きを止めていた

大鳳「・・・い、今の聞きましたか？」

全員「「「「「・・・（コクリ）「「「「」

大鳳「／／／／／／／／／／／／／／／／／」

これだけは秘密にしておこうと昨日の夜決めていたが朝起きて完全に忘れていた

しかも食堂にいる他のKAN—SENに聞かれてしまい涙目になっていた

赤城「はいはい!!これ以上はウチの大鳳が可哀そうだから哨戒組と受託組は早く行きなさいな!!」

しかし赤城が割り込んで手をたたき気まずい空気を破った

そしてぞろぞろと駆逐艦や哨戒・受託組は食堂から出ていった

大鳳「赤城・・・ありがとうございます・・・」

赤城「いいわよそんなの・・・」

大鳳「この恩はいつか必ず返します」

赤城「あ、じゃあ今返してもらおうかしら？」

大鳳「え？」

赤城「その話・・・詳しく♡」

大鳳「ひえ・・・なんでですか?／／／／／／／／／／／」

赤城「大丈夫よ・・・駆逐艦の皆は今はいないし・・・あ、決して指揮官様とのデータの参考にしようとか思っていないわ」

半分脅して大鳳から聞き出そうとしていく一航戦<sup>赤城</sup>ガタツと大鳳の前の席に座るって準備は完了した

赤城「・・・いいわよ♪」

大鳳「はい・・・では・・・」

いざ話そうとしたが・・・

大鳳「あの・・・なんでみんな集まってくるんですか？」

周りには大人系のKAN—SENがぎゅうぎゅうに集まっていた  
フツド「何やら甘酸っぱい話が聞けると聞いて」

コロランド「私たちは姉ちゃんについてきただけだし」

クリープランド「え!?わ、私は本当にたまたま席がなかっただけだ  
!!」

エリザベス「私はロイヤルの女王として聞き入れる「あ、女王陛下  
はダメです」・・・なんでよ!!」

ベルファスト「私は皆様に紅茶を配っているだけです・・・決して  
ご主人様との夜戦の活用しようとは思ってません」

・・・今一瞬間聞いてはいけないものが聞こえた気がするが気にしな  
いことにした

赤城「それじゃ大鳳?詳しく?」

フツド「どうでしたか?」

ぐいぐいと聞いてくる

大鳳「えつと・・・そのお・・・す、すごかったです／

／／／／／／／／

こうしてなぜか食堂で大人な話が始まった

赤城（・・・今夜は赤飯でも焚こうかしら?）

・・・なんだあれ

指揮官のいる執務室に行く途中で食堂を通りかかったけど食堂か  
ら出てきたKAN—SENの顔が赤くなっている俺を見た瞬間逃げ  
るように去っていったけど・・・なんだったんだ?

なぜかと悩んでいるうちに執務室についた

天喰「失礼します!!原子力空母【天喰】です!!」

指揮官「どうぞ」

天喰「指揮官来ましたよー」

指揮官「ん、来たか・・・そんじゃ行くか」

こうして俺と指揮官は執務室を出たとある場所に向かった

〈建造所〉

明石「ニヤ！指揮官来たかニヤ!!」

指揮官「おう、来たぞー」

ここは建造所

何故来たのかというと

天喰「・・・やっぱやるんか？」

指揮官「・・・まあ・・・上層部の命令だからな・・・」

KAN—SENを建造するときを使う機械の前にあつたのは・・・

天喰が持っているのと同じ赤黒いひびの入ったキューブだった

・・・これはアズールレーン上層部が決定したことだが

「これ以上、例のメンタルキューブの盗難を防ぐためにKAN—SENにし仲間にせよ」

っていうもんだったけど

行けるのこれ？

明石「・・・まあ・・・天喰っていう赤いメンタルキューブで動いているKAN—SENがいるから行けると思うニヤ」

天喰「・・・てかなんで本部でせずにここに任せるんだよ」

指揮官「・・・なんか本部は復興で忙しいからここに任せるって」  
そう言いながら機械の中に赤いキューブと資金を入れてスイッチを入れる

しかし、例によってキューブは一個でいいが資金がおかしいほど必要だった

指揮官「ああ、うちの基地の資金が溶けていく・・・」

天喰「・・・今度俺も手伝うから」

建造時間も一か月というところでもない時間だったので高速建造をした

指揮官「さてさて・・・どんな子かな？」

ぷしゆううう・・・と開けるとそこには・・・

大鳳よりかは背は低いが持っている武装は何やら巨大で銀髪ツインテールで競泳水着のような恰好をした少女だった

アリコーン「初めましてシンファクシ級改めアリコーン級原子力潜水航空巡洋艦アリコーンです!!・・・さあ、助けられたい人はim（プシュー）・・・あれえ？」

指揮官「え、ちよつと天喰？なんで閉めた？」

天喰「・・・・・・指揮官・・・今すぐにコイツを解体しろ」

指揮官「え？なんで？せっかく仲間増えるんだぞ？」

天喰「・・・やめとけ・・・救済（物理的）されるz「ちよつと!!なんで閉めるの!!」・・・うお!!なんで開かれるんかい!!」

こいつ・・・無理やり扉を破壊して出てきやがった

指揮官「あー・・・とりあえず天喰・・・この子知ってる？」

天喰「・・・こいつはな・・・」

少年すごくわかりやすく説明中・・・

指揮官「やば」

天喰「・・・シンファクシンって聞こえて時点で嫌な予感はしたが・・・当たってしまうとは・・・」

アリコーン「ちよつと!!私はまだそんなのしませんって!!」

・・・でもなあ

なんかコイツ・・・本能的に好きになれないんだよなあ・・・  
指揮官「・・・とりあえず・・・母港案内を頼んでいいか？天喰？」  
天喰「・・・あいよ・・・ほら、行くぞアリコーン」  
ため息を吐きながらも行くことにした

アリコーン「うん！わかったよ!!ママ!!」

・・・

指揮官「え？お母さん居るのか？・・・誰なんだい？」

アリコーン「え？ママはママだよ!!」

素晴らしい指を指したほうにいたのは・・・

天喰「・・・え、俺？」